



大学の世界展開力強化事業

(キャンパス・アジア (CA) 事業の推進 (タイプA-1))

日中韓先進科学技術大学教育環高度化プログラム

Advanced TKT CAMPUS Asia Consortium

第2期事業報告書

令和3年3月

構想責任者

物質理工学院 教授 原 正彦

東京工業大学

【本編】

はじめに	1
1. 事業概要	2
1) 本事業の目的と概要	2
2) 第2期事業の目的としている以下の3点についての取り組み	3
3) 交流プログラムの概要	4
4) 質の保証を伴った大学間交流の枠組み形成に向けた取組	7
5) 外国人学生及び日本人学生派遣のための環境整備	7
6) 活動内容の紹介、成果の普及	9
2. 運営体制、予算	10
1) 日中韓三大学の担当者	10
2) 会議体、事務体制	10
3) 予算と実績（年度別）	11
3. 学生の受入	12
1) CAMPUS Asia Summer School [Course-Oriented Program] 「授業中心型教育」	12
2) CAMPUS Asia Summer School [Research-Oriented Program] 「研究重視型教育」	12
3) CAMPUS Asia Joint Educational Program / Winter Program	13
4) KAIST-東工大 Double Degree Program	13
4. 学生の派遣	14
1) KAIST	14
2) 清華大学	15
3) 韓国超短期派遣プログラム	15
5. コロナ禍でのオンライン交流プログラム	16
1) TKT CAMPUS Asia Online Summer Camp	16
2) TKT CAMPUS Asia Online Winter Camp	16
3) TKT CAMPUS Asia Online Research Symposium	16
6. 受入学生・派遣学生の交流	17
1) Summer School 研修旅行	17
2) 受入学生・派遣学生交流会	17
3) TKT CAMPUS Asia Online Alumni Assembly	17

7. 21世紀型スキル教育への取組	18
1) 学生・教職員対象の「21世紀型スキル教育セミナー」	18
2) "Global Competence Workshop"	18
8. 幹事校としての取り組み	19
1) 採択校連絡会の開催（2019年度・2020年度）	19
2) 「日中韓大学間交流・連携推進会議」委員 本学訪問時の対応	19
3) 採択校ウェブサイト制作	19
4) キャンパス・アジア紹介動画制作	19
5) キャンパス・アジア同窓会の設立	20
9. 評価	21
1) 中間評価（文科省）	21
2) 国際評価パネル	21

【資料編】

1. 事業概要

- 1 - 1 計画調書、Joint Application Form
- 1 - 2 取組概要（日本語版、英語版）
- 1 - 3 Implementation Guidelines
- 1 - 4 修学・研究計画書／報告書（Study and Research Plan/Record）、秘密保持契約
- 1 - 5 パンフレット
- 1 - 6 ウェブサイト、動画

2. 運営体制、予算

- 2 - 1 実績報告書

3. 学生の受入

- 3 - 1 受入学生一覧
- 3 - 2 募集要項
- 3 - 3 Summer School Calendar
- 3 - 4 Summer School サイトビジットレポート
- 3 - 5 Summer School 開催報告
- 3 - 6 留学体験談
- 3 - 7 参加学生アンケート結果まとめ
- 3 - 8 受入指導教員アンケート結果まとめ
- 3 - 9 修了証

4. 学生の派遣

- 4 - 1 派遣学生一覧
- 4 - 2 募集要項、ポスター
- 4 - 3 留学フェア
- 4 - 4 留学体験談
- 4 - 5 ブログ
- 4 - 6 近況報告書
- 4 - 7 留学報告会
- 4 - 8 超短期派遣プログラムと派遣学生の感想

5. コロナ禍でのオンライン交流プログラム

- 5 - 1 参加学生一覧
- 5 - 2 募集要項
- 5 - 3 パンフレット
- 5 - 4 開催報告
- 5 - 5 参加学生アンケート結果まとめ

6. 受入学生・派遣学生の交流

- 6 - 1 Summer School 研修旅行パンフレット
- 6 - 2 Joint Educational Program ランチ交流会 開催報告
- 6 - 3 TKT CAMPUS Asia Online Alumni Assembly ポスター、参加学生の声

7. 21世紀型スキル教育への取組

- 7 - 1 21世紀型スキル教育セミナー ポスター
- 7 - 2 21世紀型スキル教育セミナー 開催報告
- 7 - 3 Global Competence Workshop at Tsinghua University アジェンダ

8. 幹事校としての取り組み

- 8 - 1 採択校連絡会アジェンダ、席次表
- 8 - 2 「日中韓大学間交流・連携推進会議」委員 本学訪問時 アジェンダ、報告記事
- 8 - 3 採択校ウェブサイト
- 8 - 4 キャンパス・アジア紹介動画

9. 評価

- 9 - 1 中間評価調書（文科省）
- 9 - 2 国際評価パネル 評価項目

10. フォトギャラリー

はじめに

本プログラムは、本学、東京工業大学と、中国の清華大学、韓国の韓国科学技術院(KAIST)が、日中韓三カ国の政府省庁レベルで合意された「大学の世界展開力強化事業」キャンパス・アジア中核拠点形成支援（文部科学省）のもとで協力して実施する、国際的な環境における連携研究と質の保証を重視した人材育成教育プログラムである。

第1期は2011年度に、下記のように、タイプA「日中韓先進科学技術大学教育環プログラム」として採択され、5年間のパイロットプログラムを実施した。その後、2016年度に、それまでの実績によりさらに高度化した取組を実施する事業として第2期の公募があり、三大学で連携して申請書を準備し、タイプA-①「日中韓先進科学技術大学教育環高度化プログラム」として採択された。なお、第2期採択のタイプA-①の8プログラムの内、理工系大学は2プログラムで、また本「日中韓先進科学技術大学教育環高度化プログラム」は全学レベルで実施されるプログラムとなっている。

■第1期：2011年度～2015年度、タイプA：キャンパス・アジア中核拠点形成支援（日中韓の三か国における大学間で実施する事業）（採択全10件）

タイプA「日中韓先進科学技術大学教育環プログラム」TKT CAMPUS Asia Consortium

■第2期：2016年度～2020年度、タイプA-①：キャンパス・アジアパイロットプログラムでの実績によりさらに高度化した取組を実施する事業（採択全8件）（参考：タイプA-②：新たなキャンパス・アジアに取り組む事業（採択全9件））

タイプA-①「日中韓先進科学技術大学教育環高度化プログラム」Advanced TKT CAMPUS Asia Consortium

本報告書は、第2期事業開始の2016年11月から最終年度となる2020年度末までにってきた活動をまとめた報告書となる。

1. 事業概要

1) 本事業の目的と概要 『資料編 1-1、1-2』

【事業タイプ】

A-① キャンパス・アジア（CA）事業の推進

<CAパイロットプログラムでの実績をベースにさらに高度化した取組を行うもの>

【事業名】

和文：日中韓先進科学技術大学教育環高度化プログラム

英文：Advanced TKT CAMPUS Asia Consortium

【事業の養成する人材像】

卓越した最先端科学技術の素養とグローバルな視点を持つだけではなく、アジアや世界を問題解決型の科学技術で結び、社会に貢献するトップリーダーに向けたキャリアパスを自ら展開出来る人材を育成する。また、本事業で先進科学技術系「21世紀型スキル」教育をより強化することにより、科学技術の知識（Literacy）と同時に、社会性などの総合力（Competency）の重要性を理解し、それらを実践出来る人材を育成する。特に、コミュニケーション力、チームワーク力、創造的思考と問題解決力など、最先端の科学技術を基礎として、個の力を社会に活かせる総合力を身につけた人材を養成する。

本事業に参加した学生から、アカデミアのみならず、産業界や関係諸機関において、技術革新と国際連携を推進する人材が輩出されることが期待される。

【事業の目的および概要】

本学は「世界最高の理工系総合大学の実現」を長期的目標としている。このためには、世界の最高水準の理工系大学との連携協力が不可欠であり、2011年度から5年間、大学の世界展開力強化事業「日中韓先進科学技術大学教育環（TKT キャンパスアジア）」を通じて、東アジアの最高水準の理工系大学である中国の清華大学、韓国の韓国科学技術院（KAIST）との間で人材の育成を目的とした教育研究プログラムを実施してきた。本事業は、それらの経験と実績に基づき、下記の人材像を養成するために、以下の3点を目的として、2016年度から5年間でより高度化したプログラムへと展開する。

① 共同研究指導体制による「研究重視型教育」の強化

学部生を対象とした専門に応じて基礎から最先端までを修得する「授業中心型教育」と大学院生（又は学部4年生以上）を対象とした「研究重視型教育」の交流プログラムを強化し、異なる視点を横断する、より高度化した国際連携研究に基づく共同学位取得を目指す、目的

のより明確な枠組みを持つプログラムとする。特に派遣と受入の両教員の理解のもとで学位取得を目指す学生を共同指導し、その成果である科学技術の先導研究を世界に発信する。

② ダブルディグリーの拡充とジョイントディグリーに向けたプログラムの強化

TKT キャンパス・アジアで実現した、教育制度の異なる大学間におけるダブルディグリーをより広い分野へと拡充し、それらの最適化プロセスの中で、ジョイントディグリー(JD)の実施に向けた試行を行い、日中韓三カ国間の理工系大学の質の保証を伴う、より高度化したプログラムへと展開する。

③ 日中韓からアジアの先進科学技術系「21世紀型スキル」教育の強化

最先端の科学技術の修得を基礎として、さらにグローバルに社会貢献する問題解決型人材育成を目的として、先進科学技術系「21世紀型スキル」教育を強化し、アジアの科学技術教育において共通して求められるスキルとして広く発信する。また、産業界や関係諸機関との連携を深め、技術革新と国際連携の現場教育ならびにグローバル人材ネットワークの形成を推進する。

【本事業で計画している交流学生数】 各年度の派遣及び受入合計人数（交流期間、単位取得の有無は問わない）

平成 28 年度		平成 29 年度		平成 30 年度		2019 年度		2020 年度	
派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
5 人	5 人	10 人	10 人	10 人	10 人	10 人	10 人	10 人	10 人

2) 第 2 期事業の目的としている以下の 3 点についての取り組み

① 共同研究指導体制による「研究重視型教育」の強化

パイロットプログラム期には、夏季開催のサマープログラムにおいて、「授業中心型教育」と「研究重視型教育」を組み合わせた 1 プログラムのみを実施していた。第 2 期では、目的のより明確な枠組みを持つプログラムとするため、学部生を対象とし、専門に応じて基礎から最先端までを修得する「授業中心型教育(Course-Oriented)」プログラム(4 週間)と、大学院生(又は学部 4 年生以上)を対象とした研究室に所属して活動を行う「研究重視型教育(Research-Oriented)」プログラム(10 週間)の 2 つのプログラムを実施した。秋以降は、「研究重視型教育」プログラムを実施し、本学の第 3・4 クオーターにあたる 9 月～2 月の最長 6 か月間に渡り学生の受入を行った。

② ダブルディグリーの拡充とジョイントディグリーに向けたプログラムの強化

2016 年度には、三大学の関係教職員が会した合同運営委員会での可能性調査に加え、KAIST-東工大間で各分野の教員により、さらに具体的な可能性について協議を行った。2017 年度は、KAIST より経営工学系の教員を招聘し、共同指導と学生交流の可能性について議論した。また、東工大の生命系の教員が KAIST を訪問し、さらなる協働体制についてディスカッションを行った。2019 年度には、2015 年度に締結した KAIST-東工大ダブルディグリープログラムに初めて KAIST 生が参加したが、より学生の興味や需要に合わせたプログラムの形を模索する中、新たに「コチュアルプログラム」を目指した Joint Supervision プログラムの活用の可能性が見え、整備を進めている。

③ 日中韓からアジアの先進科学技術系「21 世紀型スキル」教育の強化

本事業では、Competency を涵養するための「21 世紀型スキル」教育に取り組んできた。本事業の「21 世紀型スキル」教育における Competency とは、最先端の科学技術を基礎として、コミュニケーション力、チームワーク（コラボレーション）力、創造的思考と問題解決力などを兼ね備え、個の力を社会に活かせる問題解決力と社会的総合力などを意味している。「21 世紀型スキル」教育を行う授業やワークショップでは、専門を乗り越えた課題を与え、その場で初めて構成されたグループで役割分担から問題解決の議論、報告までを実行する PBL (Project Based Learning)を実施している。また、社会に出た時の価値観の多様性、自身の価値観の基準を柔軟に持つことの重要性などを理解し、学術的な素養をどのように効果的に社会に活かしていくかを身に付けられるよう設計している。

例えば SDGs の中から目標を選択させ、問題を解決する方策と国際連携体制を提唱する。そのプレゼンテーションやレポートに基づいた学生の評価は、コミュニケーション (communication) 力、グループ連携 (collaboration) 力、批判的思考 (critical thinking) 力、そして創造ないし創発 (creativity) 力を基本とすることを共有している。成果の目標は、従来の R&D のみならず、同プログラムで修得したスキルが、国際的な問題解決に活かされているかを基軸に、それらがどの程度達成されている等をプログラムの評価の指針にしたいと考えている。

3) 交流プログラムの概要

本プログラムでは以下の通り学生の受入・派遣を行った。2020 年 3 月以降は、実渡航を伴う留学は中止となり、オンラインでの交流を行った。詳細なプログラム内容は『本編 3』『本編 4』『本編 5』で後述する。

なお、オンラインプログラムに関する学生交流数のカウント方法については、文科省より「双方向性の確保」「交流等について、大学間で事前に協議」「修了者に受講修了証等の証明書類が出される」場合に限り、学生交流数の実績としてカウントするという方針が示された。以下の交流学生数は、その方針に照らした数字となっている。

【学生の受入】 『本編 3』

2016 年度～2019 年度までの期間、下記のプログラムで計 88 人（KAIST 35 人、清華大学 33 人、その他大学 20 人）外国人留学生を受け入れた。また、2020 年度には、三大学合同で実施したオンライン交流プログラムに KAIST・清華大学より 32 名が参加した。この人数を合わせて、受入学生実績は計 120 名となった。

CAMPUS Asia Summer School [Course-Oriented Program] 「授業中心型教育」

CAMPUS Asia Summer School [Research-Oriented Program] 「研究重視型教育」

CAMPUS Asia Joint Educational Program / Winter Program

KAIST-東工大 Double Degree Program

TKT CAMPUS Asia Online Summer Camp

TKT CAMPUS Asia Online Winter Camp

年度	2016	2017	2018	2019	2020	(単位：人)
計画	5	10	10	10	10	45
実績	10	20	36	22	32	120
実績の内訳：KAIST	5	12	10	8	12	47
清華大学	5	8	12	8	20	53
その他大学	-	-	14	6	-	20
単位取得を伴うオンラインプログラムへの参加（KAIST・清華大）	-	-	-	-	0	0
単位取得を伴わないオンラインプログラムへの参加（KAIST・清華大）	-	-	-	-	32	32

【学生の派遣】 『本編 4』

2016 年度～2019 年度までの期間、下記のプログラムで計 39 人（KAIST 28 人、清華大学 5 人、韓国超短期派遣 6 人）の本学学生を派遣した。また、2020 年度には、オンラインでのプログラムに東工大より 16 名が参加した。この人数を合わせて、派遣学生実績は計 55 名となった。

○KAIST

KAIST International Summer School

KAIST CAMPUS Asia Summer Program

KAIST Fall Exchange Program （セメスター単位：授業、授業+研究、研究）

KAIST CAMPUS Asia Fall-Winter Program / KAIST CAMPUS Asia Spring Program (研究)

○清華大学

Tsinghua International Summer School

Tsinghua Fall Semester Program (9月～1月)

Tsinghua Fall Spring Program (2月～6月)

○韓国超短期派遣プログラム

○オンラインプログラム 『本編5』

TKT CAMPUS Asia Online Summer Camp

TKT CAMPUS Asia Online Winter Camp

TKT CAMPUS Asia Online Research Symposium

Tsinghua Global Summer School

Tsinghua Fall Semester Program (コロナによりオンラインでの授業受講となった)

年度	2016	2017	2018	2019	2020	(単位：人)
計画	5	10	10	10	10	45
実績	6	11	16	6	16	55
実績の内訳：KAIST	6	9	9	4	-	28
清華大学	0	2	1	2	-	5
韓国超短期派遣	0	0	6	0	-	6
単位取得を伴うオンラインプログラムへの参加（東工大）	-	-	-	-	5	5
単位取得を伴わないオンラインプログラムへの参加（東工大）	-	-	-	-	11	11

4) 質の保証を伴った大学間交流の枠組み形成に向けた取組

第2期事業採択後、質の保証を伴った大学間交流の枠組み形成のため、下記取組を行った。

○円滑な事業推進のためにプログラムの専任スタッフの雇用、キャンパス・アジアプログラム部会の設置を行い、プログラム主査のもと、学生の交流計画やプログラムの内容等を協議した。

○日中韓三大学での運営体制や教育制度等の詳細について明示した「Implementation Guidelines」を作成し、それらの理解と合意のもとで、質の保証を実現し、日中韓の交流・連携プログラムを推進した。『資料編1-3』

- 三大学間の連携強化のため、直接もしくはウェブ会議を通して合同運営委員会を開催し、現状や課題を共有や、その後の方針について検討を行った。事務担当者レベルの細かな確認も、メールやウェブミーティングを通して密に連絡を取り合い、行き違いや誤解を防いだ。
- 学生の滞在中に困難なことが生じた場合や事前の準備の際に、事業を推進する教員ならびに事務職員が、三大学間で、メールだけではなく、ネットワークTV会議を開催するなど、日中韓の関係者より親密な顔が見える意思疎通を行うことによって、問題点や解決方法の共有がより綿密に行われるようになった。これは、修了要件や規定やシステムの最適化と共に、三カ国の差異や共通課題をより理解し、円滑に推進する原動力となった。
- Summer School では連携大学以外からも学生を受け入れ、参加学生にさらに国際的な教育環境を提供した。『資料編 3-1、3-2、3-5』
- 成績通知書・プログラム修了証を発行することで、参加学生が派遣元大学で単位認定や単位以外の形での業績の認定（学位取得に必要な要件の一部にすることなど）ができるシステムとした。
- 独自の様式である「修学・研究計画書/報告書（Study and Research Plan/Record）」を使い、参加学生が授業履修・研究実施について受入先と所属大学双方の教員のもと立案のうえ研究活動を行い、修了後はその成果を確認できるようにした。『資料編 1-4、3-9』
- 平成 27 年度に、全学的な FD 研修を総括実施する教育革新センターが設置され、同センターおよび各部局において、教育技術向上や認識共有のための各種 FD を行っている。

5) 外国人学生及び日本人学生派遣のための環境整備

① 外国人学生の受入のための環境整備

- 来日前から学生と緊密な連絡を取り円滑な受入れを進めた。
- 経済的支援に関しては、所属キャンパスから出来るだけ近いエリアの大学の宿舎もしくは民間のシェアハウスをプログラムで手配した。
- JASSO の海外留学支援制度（協定受入）を活用して奨学金支給し、留学中に過度の経済的負担が生じないよう配慮した。
- 滞在中の海外旅行保険加入、キャンパス内での身分の付与、図書館や wi-fi 利用者登録等、日本での滞在に支障がないように配慮した。
- 滞日中は、専門分野が近いか、もしくは、同じ研究室の本学学生をチューターとして研究活動および日常生活での不安を軽減することにつながった。また、専任のスタッフによる助言を行った。
- 受入学生と派遣学生との研修旅行を実施することで、学生間の交流が深まり、助け合える関係性が生まれた。『本編 6-1』

② 日本人学生の派遣のための環境整備

○本事業専用ウェブサイトでの情報発信のほか、全学的な学生のサポート体制が整えられており、日本人学生の海外留学支援、留学中の安全確認体制が整備されている。

○緊急事態の連絡体制が整備されており、学生が海外においてトラブルに遭遇した際、保険会社、危機管理サービス会社とともに危機管理体制を構築し、情報収集から救助等の対応が迅速に行える体制を整えている。

○事前学習として、中韓に滞在経験を有する教職員や派遣経験学生等による現地語の基礎や文化・社会的慣習に関する派遣前講習会を通し、滞在のための予備知識を深め、現地での円滑な交流を可能にするための取り組みを実施した。

○語学力の向上を図るための「21世紀型スキルセミナー」を実施した。

○留学先での疑問点については派遣経験学生が経験に基づき助言を行った。

○留学中は、専任のコーディネーターがメール等により修学・生活上の相談に対応した。

○受入学生と派遣学生との研修旅行を実施することで、学生間の交流が深まり、助け合える関係性が生まれた。『本編 6-1』

○受入学生滞在中に、派遣予定学生および派遣経験学生との交流会を開催し、自由に意見交換が出来る場を設けた。これにより、受入学生・派遣学生双方に「キャンパス・アジア生」というチーム意識が生まれた。これから留学する本学学生にとっては、事前に受入大学の学生と情報交換が出来る貴重な機会となった。『本編 6-2』

③ 課題：短期受入学生用の宿舎確保

1か月～半年程度の短期受入プログラムにおいて、最も大きな課題のひとつは宿舎の確保である。東工大の学生寮は正規留学生や中長期の留学生でほぼ満室であり、確保できる部屋が非常に限られる。そのため、この事業では民間のシェアハウスを活用した。民間シェアハウスの利点は、1か月からの短期滞在が可能であること、学生寮に比べて部屋が確保しやすいこと、ウィークリーマンションに比べて安価なこと等がある。

しかし、夏は同時期に本学の別プログラムでも受入を行っており、特に 2019 年度の Summer School 参加学生 25 名分の部屋を確保するのは容易ではなく、シェアハウス、マンスリーマンション、学生寮など複数の物件に数部屋ずつ確保するなど、大変煩雑であった。また、受入人数を増やす中、交付金の削減により、予算内での宿舎確保がさらに難しいものとなった。『本編 2-2』

6) 活動内容の紹介、成果の普及

本事業での活動内容については、下記のように周知、成果の普及を行った。

○プログラム HP： 募集要項や活動内容等を伝えている。学生ブログでは、学生の声を通

して留学先の状況をタイムリーに伝えている。また、体験談を充実させ、派遣開始時期別に留学生活の様子がわかるようにした。『資料編 1-5』

○採択校連絡会：プログラム幹事校として採択校連絡会を開催し、意見交換を行う機会とした。さらに、事業全体のウェブサイトを開設し、取組を発信している。『資料編 1-5、8-1』

○キャンパス・アジア紹介動画：プログラム幹事校として、キャンパス・アジアプログラムの紹介動画を制作し、採択校ウェブサイト上と YouTube で公開している。『資料編 1-5、1-6』

○「日中韓大学間交流・連携推進会議」の委員の本学訪問時の対応：受入・派遣学生がプレゼンやポスターセッションを通して三カ国の有識者に生の声を伝え、事業の認知度および関係機関との連携を深める機会となった。『資料編 8-2』

○学生へのパンフレット配布：学内への広報として、新入生向けセミナーでプログラムパンフレットの配布やプログラム紹介を行った。『資料編 1-5』

○留学フェア：年度初めに開催する全学向け留学フェアでは、ブースを出展し、キャンパス・アジアプログラムについて広報を行った。『資料編 4-3』

○留学説明会・留学報告会：留学に興味のある学生を対象に留学説明会を行った。また、留学を終えた学生による留学報告会を開催し、プログラムの周知を積極的に行った。『資料編 4-7』

○事業報告書：事業最終年度である 2020 年度には事業報告書を作成した。

2. 運営体制、予算

1) 日中韓三大学の担当者

本プログラムの実務に携わった日中韓三大学の教職員と担当を本編巻末 (p25) に示す。

2) 会議体、事務体制

本事業は「学生交流プログラム実施協議会」の下、本プログラムの部会において実施内容・運営方法等の検討を行った。キャンパス・アジア部会では、受入・派遣学生の選考など、具体的なプログラムの企画、運営、実行について、審議・報告を行った。

事務体制としては、学務部留学生交流課に事務局を置き、専任のスタッフが窓口となり、三大学間の各種連絡調整、問い合わせ等に対応した。

3) 予算と実績（年度別）

① 補助金交付額

本事業の年度別補助金交付金を以下に占める。2年目にあたる平成29年度の交付額が、対前年度比で35%削減となった。全体額の削減はもとより、学生支援のための宿泊費や往復旅費などの総額が交付金執行額の30%以内に収める必要もあるため、特に予算内での宿舎の確保は難航を極めた。

表 年度別補助金交付額の推移

年数	対象年度	交付決定日	補助金交付額 (千円)	前年度比削減率 (%)
1年目	平成28年度 (2016年度)	平成28年11月17日	20,000	***
2年目	平成29年度 (2017年度)	平成29年6月27日	18,000	10.0
3年目	平成30年度 (2018年度)	平成30年6月25日	11,700	35.0
4年目	平成31年度/令和元年度 (2019年度)	令和元年6月19日	13,836 ※	0
5年目	令和2年度 (2020年度)	令和2年8月13日	13,461 ※	2.7
	合計		76,997	

※平成31年度/令和元年度は幹事校経費200万を含む金額

※令和2年度は幹事校経費250万を含む金額

② 実績報告書 『資料編 2-1』

補助事業の実績と具体的な成果をまとめた実績報告書を年度ごとに作成した。実績報告書は、補助事業の実績、補助事業に係る具体的な成果、費目別収支決算書で構成され、年度ごとに実施した活動内容が詳述されている。

3. 学生の受入

2016 年度～2019 年度までの期間、下記の受入プログラムを実施し、計 88 人 (KAIST 35 人、清華大学 33 人、その他大学 20 人) 外国人留学生を受け入れた。また、2020 年度には、三大学合同で実施したオンライン交流プログラムに KAIST・清華大学より 32 名が参加した。この人数を合わせて、受入学生実績は計 120 名となった。オンライン交流プログラムについては、『本編 5』で詳述する。

年度	2016	2017	2018	2019	2020	(単位：人)
計画	5	10	10	10	10	45
実績	10	20	36	22	32	120
実績の内訳：KAIST	5	12	10	8	12	47
清華大学	5	8	12	8	20	53
その他大学	-	-	14	6	-	20
単位取得を伴うオンラインプログラムへの参加 (KAIST・清華大)	-	-	-	-	0	0
単位取得を伴わないオンラインプログラムへの参加 (KAIST・清華大)	-	-	-	-	32	32

【実施した受入プログラム】 『資料編 3-1～3-9』

1) CAMPUS Asia Summer School [Course-Oriented Program] 「授業中心型教育」

4 週間の「授業中心型教育」プログラムでは、主に学部生を対象とし、専門に応じて基礎から最先端までの知識を修得する集中授業を受講した。「環境・エネルギー学特論 (Environment & Energy)」、「国際エンジニアリングデザインプロジェクト基礎 (International Engineering Design Experiences)」、「モダンジャパン (Modern Japan)」、「英語で語る科学・技術・社会(Communicating Science and Engineering in Society)」を受ける一方、日本語初心者は「サバイバル・ジャパニーズ (Survival Japanese)」にて日本語の基礎を学んだ。

2) CAMPUS Asia Summer School [Research -Oriented Program] 「研究重視型教育」

10 週間の「研究重視型教育」プログラムでは、各々が受入指導教員のもと、本学での研究活動に従事した。研究室での研究活動の傍ら、日本語初心者は「サバイバル・ジャパニーズ (Survival Japanese)」にて日本語を学習した。また、本プログラムで 3 本柱のひとつとしている「21 世紀型スキル」の修得につながる科目として、「モダンジャパン (Modern

Japan)」、「英語で語る科学・技術・社会(Communicating Science and Engineering in Society)」を受講し、異文化への理解、科学技術の知識、コミュニケーションスキルを併せ持ったグローバル人材となるための基礎を学んだ。最終日の研究成果発表会では、参加学生が研究成果のプレゼンテーションを行った。

以下、特筆すべき点を下記に記載する。

○受入学生と派遣学生の研修旅行：現地学生との交流を望む留学生の声を受け、来日後最初の週末には、1泊2日で鎌倉での研修旅行を実施した。この研修旅行は、東工大生（本プログラムでの派遣学生）も参加し、様々なアクティビティを通して、参加学生同士だけでなく東工大生とも親睦を深められる機会となった。また、日本語講義や茶道・書道等の文化体験の機会も提供した。

○両プログラム共通のアクティビティ：授業の受講・研究活動の他、最先端の研究所や企業の見学等、日本の科学技術の現場を体感できる機会を盛り込んだ。

○チューター制度：日々の生活の中では、派遣学生もしくは所属研究室の学生がチューターとなり生活支援を行うことで留学生の不安を軽減した。

○他大学の学生の受入：2018年度以降のSummer Schoolでは、清華大学・KAIST以外の大学からも参加学生の受入を行い、参加学生にさらに国際的な教育環境を提供した。

○参加学生アンケート評価：Summer School後に行った参加学生対象のアンケートでは、プログラム全体を評価する”I will recommend this program to students at my home university”の項目では、5ポイント中4.78ポイント（2017年度～2019年度平均）と高い評価を得た。

○受入学生と本学学生の共同研究：2019年度のSummer Schoolでは清華大学からの受入学生と本学学生が共同研究を行い、その論文が出版された。

3) CAMPUS Asia Joint Educational Program / Winter Program

3・4クオーターにあたる秋学期以降は、2か月～6か月の「研究重視型教育」プログラムでの学生受入を行った。主に大学院生（又は学部4年生以上）を対象とし、派遣・受入大学両教員の理解のもと、本学の研究室に所属し研究を行った。セメスター単位での受け入れであるJoint Educational Programでは、研究に加えて、授業履修も可能であった。

4) KAIST-東工大 Double Degree Program

過去にSummer Schoolに参加したKAIST生1名が、2019年度よりダブルディグリープログラムに参加しており、短期の留学が長期の留学やダブルディグリー取得へのきっかけとなっている。

4. 学生の派遣

2016 年度～2019 年度までの期間で、計 39 人 (KAIST 28 人、清華大学 5 人、韓国超短期派遣 6 人) の本学学生を派遣した。また、2020 年度には、オンラインでのプログラムに東工大より 16 名が参加した。この人数を合わせて、受入学生実績は計 55 名となった。

年度	2016	2017	2018	2019	2020	(単位：人)
計画	5	10	10	10	10	45
実績	6	11	16	6	16	55
実績の内訳：KAIST	6	9	9	4	-	28
清華大学	0	2	1	2	-	5
韓国超短期派遣	0	0	6	0	-	6
単位取得を伴うオンラインプログラムへの参加（東工大）	-	-	-	-	5	5
単位取得を伴わないオンラインプログラムへの参加（東工大）	-	-	-	-	11	11

【本学学生を派遣したプログラム】 『資料編 4-1～4-8』

1) KAIST

KAIST International Summer School

KAIST CAMPUS Asia Summer Program

KAIST Fall Exchange Program (セメスター単位：授業、授業+研究、研究)

KAIST CAMPUS Asia Fall-Winter Program / KAIST CAMPUS Asia Spring Program

(研究)

世界各国から学生が参加する KAIST International Summer School と、キャンパス・アジア生のために学事歴を合わせて開催される KAIST CAMPUS Asia Summer Program では、約 1 か月間、授業の受講や研究室に所属し KAIST の教員の指導のもと、研究を行った。また、フィールドトリップ等を通して韓国の文化体験や KAIST および他大学の留学生と交流する機会も設けられた。セメスター単位の留学の KAIST Fall Exchange Program では、授業受講、研究、授業+研究が可能で、それ以外の時期でも、学生は 1 か月以上の希望の期間、KAIST CAMPUS Asia Fall-Winter Program / KAIST CAMPUS Asia Spring Program で研究室に所属し研究活動を行った。

2) 清華大学

Tsinghua International Summer School

Tsinghua Fall Semester Program (9月～1月)

Tsinghua Fall Spring Program (2月～6月)

約 2 週間の Tsinghua International Summer School では、世界中から学生が参加し、選択したテーマ別に、グループディスカッションやプレゼンテーションを行った。Tsinghua Fall Semester Program (9月～1月)、Tsinghua Fall Spring Program (2月～6月) では、3 か月～5 か月の間、中国語や専門分野の授業の受講や、研究室に所属しての研究活動を行った。

3) 韓国超短期派遣プログラム

2018 年度には、連携大学である KAIST を中心に、韓国のトップ大学を訪問する「韓国超短期派遣プログラム」を実施した。留学に踏み出せていない学生に実際に韓国の生活環境を経験する機会を提供し、将来の中長期の留学に向けた準備を整えることを目的として企画・実施した。

5. コロナ禍でのオンライン交流プログラム

2020年3月以降は、新型コロナの影響を受け、実渡航を伴う留学は受入・派遣ともにすべて中止となった。代替えプログラムとして、三大学の学生が参加できるZoomを利用してのオンライン留学プログラムでの学生交流を図った。また、清華大学によるTsinghua Global Summer SchoolとTsinghua Fall Semester Programもオンラインで実施された。

【実施したオンラインプログラム】 『資料編5-1～5-5』

1) TKT CAMPUS Asia Online Summer Camp (三大学合同)

2) TKT CAMPUS Asia Online Winter Camp (三大学合同)

Summer Camp/Winter Campでは、3日間をかけて講義、文化体験、現地バーチャルツアーや、チームプロジェクト、チームプレゼンテーションをすべてオンラインで行った。Summer CampはKAIST、Winter Campは本学がメインホストを務めたが、メインホストだけでなく、三大学がプログラムの企画段階から関わり、ともに内容を検討し、スペシャルレクチャーを用意するなど、三大学の参加学生それぞれが多様な経験ができる機会となるように構成された。

3) TKT CAMPUS Asia Online Research Symposium (hosted by KAIST)

通常のシンポジウムとは違い、一般のオーディエンスを想定してプレゼンをするという、参加学生にとってユニークな機会となった。自分の研究について非専門家にわかりやすく伝えることを通して、社会に出た際に必要となるコミュニケーション力やプレゼンテーション力、専門知識を持たない顧客に専門的な話をわかりやすく伝える力を向上させた。

オンラインプログラムに参加した学生からは、コロナで留学は諦めていたけれど、国籍や言語、大学、文化背景、専門分野が異なるメンバーでのチームプロジェクトやディスカッションを通して交流が出来、貴重な機会となったとのフィードバックが多くあった。

【2020年度オンラインプログラムでの交流人数】

プログラム名	清華大学	KAIST	東工大	(単位:人)
TKT CA Summer Camp	11	6	8	25
TKT CA Winter Camp	9	6	3	18
TKT CA Research Symposium *	8	7	1	16
Tsinghua Global Summer School	-	-	3	3
Tsinghua Fall Semester Program	-	-	1	1
計	28	19	16	63

* Research Symposiumはシンポジウムのため、清華大学とKAISTの参加学生を受入学生としてカウントしていない。

6. 受入学生・派遣学生の交流

受入学生と派遣学生の交流機会として、下記の取組を実施した。 『資料編 6-1～6-3』

1) Summer School 研修旅行

Summer School の冒頭に、受入学生と派遣予定学生および派遣経験学生で行く 1 泊 2 日の研修旅行を実施した。チームプロジェクトやディスカッション、文化体験やアクティビティなどでともに濃い時間を過ごすことで、受入・派遣学生間の交流が深まり、その後も助け合える関係性が生まれた。

2) 受入学生・派遣学生交流会

Summer School 以外の時期は、受入学生滞在中に、派遣予定学生および派遣経験学生との交流会を開催し、自由に意見交換が出来る場を設けた。これにより、受入学生・派遣学生双方に「キャンパス・アジア生」というチーム意識が生まれ、友好が深まった。受入学生にとっては現地学生と知り合えるきっかけとなり、また、これから派遣予定の学生にとっては、事前に受入大学の学生と情報交換が出来る貴重な機会となった。

3) TKT CAMPUS Asia Online Alumni Assembly

第 2 期最終年度となる 2020 年度に、三大学合同で参加学生が集う Zoom オンライン同窓会を開催した。各大学から参加学生 2 名がキャンパス・アジアプログラムでの留学経験についてプレゼンテーションと Q&A を行い、その後、ブレイクアウトルームを利用して自由に交流ができる時間を設けた。参加学生は、画面越しながらお互いの近況報告をしたり、連絡先を交換したりするなど、久しぶりの再会を喜んでいた。

7. 21世紀型スキル教育への取組

1) 学生・教職員対象の「21世紀型スキル教育セミナー」 『資料編 7-1、7-2』

事業期間中に、学生・教職員を対象とした「21世紀型スキル教育セミナー」を計10回開催した。学生向けには、留学生および本学学生を対象とし、講義やグループワークなどを通して科学技術の知識のみならず、コミュニケーションスキルの重要性を理解するきっかけを提供した。一部の講義の模様はWEB上で公開し、受入学生および本学学生以外も聴講できるようにした。また、留学生対応業務に従事する事務職員対象のセミナーでは、異文化間コミュニケーションをよりスムーズにするスキルアップの機会を提供した

2) "Global Competence Workshop" 『資料編 7-3』

2017年7月に本学で行った三大学ミーティングの際、本コンソーシアムの3本柱の一つである「21世紀型スキル教育」について、すでに清華大学では"Global Competence"という名称で全学マターとして取り組んでいることを知った。その取り組みについて直接聞きたいという思いから、この"Global Competence Workshop"を教職員向け「21世紀型スキル教育」と位置づけて実施し、日中韓三大学のプログラム担当者が参加した。

8. 幹事校としての取り組み

2019 年度より 17 のキャンパス・アジア事業の日本国内の幹事校となり、意見交換のための採択校連絡会開催や、キャンパス・アジア事業の成果発信のため、以下の取組を行った。

1) 採択校連絡会の開催（2019 年度・2020 年度） 『資料編 8-1』

採択校連絡会では、採択校関係教職員のほか、文部科学省、日中韓三国協力事務局 (Trilateral Cooperation Secretariat: TSC)、大学改革支援・学位授与機構、日本学術振興会も参加し、各事業の取組状況の共有や、第 3 モードに向けた意見交換を行った。2019 年度は、採択校連絡会後にあわせて意見交換交流会を実施し、さらに採択校のヨコのつながりを作るきっかけとした。2020 年度はコロナの影響を受け、実際に集まることは出来なかつたが、Zoom を使用し、オンラインで実施した。

2) 「日中韓大学間交流・連携推進会議」委員 本学訪問時の対応 『資料編 8-2』

2019 年 9 月に「日中韓大学間交流・連携推進会議」委員が本学を訪問した際、構想責任者の原正彦教授より取組概要説明を行った後、本プログラムの Summer School に参加していた清華大学、KAIST の学生、及び清華大学、KAIST へ留学経験のある東京工業大学の学生によるプレゼンテーションが行われた。その後のポスターセッションでは、委員が各参加学生のポスターを訪れ、学生の留学体験や学んだこと、自身の経験を元にしたプログラムへの意見や改善点を聞き、意見交換を行った。

3) 採択校ウェブサイト制作 『資料編 8-3』

キャンパス・アジア事業全体のウェブサイトを制作し、採択事業一覧をはじめ、各大学やプログラムウェブサイトへのリンクや、事業のニュース、参加学生の体験談を掲載し、日英併記での情報発信を行った。また、4) にあるキャンパス・アジア紹介動画もウェブサイトに掲載した。

4) キャンパス・アジア紹介動画制作 『資料編 8-4』

事業概要や参加大学、事業数、交流学生数など、短い時間で視覚的に伝えるため、キャンパス・アジア事業の紹介動画（英語）を制作した。

5) キャンパス・アジア同窓会の設立

日中韓の三か国政府によって署名及び批准された協定に基づき、三国の平和と繁栄を促進するために 2011 年 9 月に韓国・ソウルに設立された国際機関（運営予算の 3 分の 1 ずつを各国が負担）である日中韓三国協力事務局（Trilateral Cooperation Secretariat: TCS）と連携して、第 1 期 2011 年度から現在に至る、キャンパス・アジアプログラムに参加した学生・卒業生全員の同窓会の設立に向けて、その組織形成を開始した。まず本学は、清華大学、KAIST、そして本学のキャンパス・アジア生の情報を集約し、TCS に送り、その情報に基づき TCS から各学生に登録方法を配信する構成を整えた。今後、東京大学、ソウル国立大学、北京大学でも、同様の情報集約を行い、さらに全 17 プログラムへと広げる計画にある。

9. 評価

1) 中間評価（文科省） 『資料編 9-1』

2018 年度に行われた中間評価では、中国・韓国のみならず、シンガポールなどアジアの大学や欧米の大学との連携を進め、他大学の学生の参加を可能とするよう体制を整備した点や、派遣・受入の双方の大学の教員が留学の前後に学生の活動内容を精査するための修学計画書を活用するなど、質保証を伴う取組を適切に実施していると「A」評価を頂いた。一方で、ダブルディグリーに関しては、学生が参加しやすい環境整備や、21 世紀型スキル教育の定義、評価指標や手法について、三大学間で深化をさせていくことが望まれるとのアドバイスを頂いた。

2) 国際評価パネル 『資料編 9-2』

第 2 期最終年度である 2020 年度に、コロナの影響を鑑み、ペーパーレビューでの国際評価パネルを実施し、下記の評価を頂いた。評価委員は、小尾 晋之介教授（慶應義塾大学）、中村 俊雄教授（ニューヨーク州立大学ストーニーブルック校）、曾我 健一教授（カリフォルニア大学バークレー校）、曲 徳林教授（清華大学）、そして経済界より Hyun-Kwon Ha 氏（株式会社韓国フルヤメタル）である。

①五段階評価

(1) プログラムの円滑な実施体制、並びに三大学間の交流活動が進んでいるか ? 平均 5.0

(2) 今後三か国以外へも公開する際に魅力的なプログラムが用意されているか ? 平均 4.6

(3) 事前情報ならびに修了前後のフォローアップ体制の整備が進んでいるか ? 平均 4.4

(4) web ならびに配布物などの広報体制の整備が進んでいるか ? 平均 4.8

②記述式（上記より通し番号）

(5) Summer School、Summer Camp、Winter Camp などのカリキュラムの整備について
・ 2015 年度の内容と比較してみるとカリキュラムの整備だけではなくすべての面で改善、発展されたと思う。一つ面白いのは Summer School 参加学生アンケートの中で、多くのアンケート項目について 2017 年度より 2018 年度は満足度が上がっているのに 2019 年度は前年度より下がっている。特に授業等に関する 満足度が低いのは気になるし、対策を

講ずる必要があると思う。

- ・Summer School のコースワークにおいて、2019 年開催の講義の中で学生の評価が極めて低い科目が散見された。受講者数が少ないことをその理由に挙げておられたが、同じ科目が前年度には高評価だったことから、それ以外の理由があるのではないかと思った。
- ・韓国短期派遣プログラムで複数の高等教育機関を訪問した例があったが、この種のものとしては参加者数が少なすぎるのではないかと感じた。
- ・Summer School の授業に関する満足度が他の項目に比べて低いのが気になった。講義の授業内容を先生方に任せて一貫性がないのか、それとも授業内容に問題があるのか、詳密に調べたらどうか。また、宿題を与えたり簡単なテストを行ったりして一日の学習の達成感を与えるのもよいかと思う。選択を増やすのが充実度を高めるとは限らない。
- ・留学生に対する Summer School カリキュラムについては、平成 27 年度評価時に比べ改善が見られる。特に箱根・鎌倉への研修旅行は良いアイデア。
- ・Winter Camp の Team Project の評価が他の項目と比べて比較的高いのはなぜだろうか。オンラインを使った効果的な国際交流の仕方（例えばプロジェクト形式、議論形式）を検討する良い機会ではないか。オンラインは国際交流のハードルを低くする可能性があると思う。
- ・コロナ禍においても 2020 年度にオンラインでプログラムを実施されたことは有意義でした。厳しい状況下でも継続する事は将来の開催の為不可欠である。
- ・Summer Camp、Winter Camp についてはどのような内容であったか把握しにくいが、三校の交流をさらに深めるには役に立つだろう。しかし 2020 年のオンライン開催では東工大からの参加学生が夏に 8 名、冬に 3 名だった。清華大学、KAIST 3 校の各キャンプの参加学生も含めても全体で 25 名と 18 名。コロナ禍で参加する学生を集めるのが難しかったと思うが、キャンプの開催に必要な準備、手間を考慮すると費用効果の面で疑問が残る。直接参加している学生だけでなく、一般の学生も講義等を聴講する事は可能だったのか？ 強制的でないと聴講する学生が限られるが、彼らにとっても有益なセミナーであるため、キャンプの参加者以外にも聴講をよびかけてはどうか。
- ・中日韓青年リーダー養成の為に、まずグローバル共通で関心ある問題、例えば Climate Change に関する問題や AI と Smart City の構成などについて、イノベーション能力を高めるため、ワークショップを組み入れ、サマースクールの一環として入れたほうが良いと思う。また東アジアにおいて、共通で関心ある問題、例えば高齢少子化問題について、日本の経験や中日韓協力できる仕組みなどの内容をカリキュラムの整備に力を入れれば効果があると思う。

(6) 留学生に配慮した環境の整備について

- ・留学生の受け入れ態勢については、初期の宿舎の支払いの問題を除いて、十分に整備されていたのではないかと思う。

- ・留学といえども約3か月もしくは1週間の比較的短期間の外国での生活を意味している。でも3か月と1週間はその差が大きいので配慮すべき点も違うのでは。特に3か月留学では大学での研究生活と留学先の文化に触れる生活が両立できる上手い方法を考えられたらいいのではないかと。
- ・TKT キャンパス・アジアのウェブサイト (<http://www.ipo.titech.ac.jp/campusasia/>) の内容を見ると、報告がメインで、TKT の学生が参加したいと思わせるような形式になつていいような気がする。
- ・前回の評価でもとりあげたが、留学生にとって重要な関心事の一つは宿泊施設。清華大学、KAIST あるいは他の海外大学では留学生受け入れの為の寮が用意されている。ネットで調べると東工大の学生寮が2017年から2018年にかけて開寮されたようだが、Campus Asia の学生はそこへ滞在しているのか？これに関する資料がみあたらなかつたので不明。なお海外では、一般的に通常の学生が寮に滞在出来るのは学期中だけで、大学は夏の時期空いている寮を利用して語学スクール等を開催している。日本では学期のスケジュールが異なるので難しいかもしれないが、ある程度の部屋数を夏の短期留学生為に開放するシステムを構築する事は可能だろうか。
- ・留学生の交流環境は一番重要ですので、Cultural Activities において、より多くの日本の学生さんが参加出来たら良いと思う。

(7) 優れている点

- ・参加者の満足度が総じて高く、関係者の準備が行き届いていたことが伺える。
- ・アジア、極東の最重要三か国の若者がこのプログラムを通じて互いの違いを直接触れ合って知ることは何よりも大事なことだと思う。それに長期に渡って改善しながらも一貫性のあるプログラムであることは他の似たようなプログラムに比べても競争力があると思う。
- ・オンラインで新たな国際交流のやり方を試したことは評価できる。この経験を生かして、オンライン形式で参加人数を増やし、さらに単位互換を促進することができれば、将来三大学のいろいろな授業をとれることにつながるのではないか。
- ・東工大を含め、三大学の Campus Asia の関係者が多大な努力を続けている。受け入れスタッフが充実しており、常に積極的に改善しようとする姿勢は高く評価される。
- ・2020年度において、コロナ感染予防対策の一環として、交流の環境整備の面では、学生達がチームに分かれ、オンライン交流していたことが良いと思う。

(8) 改善すべき点

- ・参加者数がそれほど多くないので、費用対効果（労力対効果）の点でやや難があるのではないか。
- ・受け入れ、派遣プログラムのいずれも内容が盛りだくさんではあるが、学生の自由時間

が少ない点は改善の余地があると感じた。様々な経験がザーッと通り過ぎていくだけではなく、一つのプログラムの中でもところどころで立ち止まって自分で考えたりする余裕が必要ではないか。

- ・清華大学そして KAIST の先生方の率直な意見を聞ければと思う。このプログラムを通して、3校の先生方の国際交流が活発になったという報告がない。キャンパス・アジアの活動を飛躍的に広げるには3校の多くの教官たちのサポートが必要なので、そのための戦略的計画を立ててはどうか。
- ・Campus Asia がスタートしてから10年たちましたが、東工大からの参加者は増えていない。参加奨励の為に今までとは異なる incentive の導入の検討が必要。例えば、修士課程に選考の際に海外の留学の経験を査定に加える等を考慮してはどうか。
- ・オンライン交流について、参加者人数をもっと増やした方が良いと思う。

(9) その他、自由記述（特に、今後、第3期に向けた ASEAN への展開、ならびに自立したプログラムへ展開する際のアドバイスをお願いします。）

- ・事業全体として様々なプログラムが用意されており、個々のプログラムの完成度は高いと感じた。ASEAN へと展開する場合は参加者の募集も含めて運用の労力を少し軽減しないとより困難になるのではないか。また、取り組み自体は優れていることは間違いないが、学内での位置づけがどのようになされているかが今回頂いた資料からは十分に理解できなかった。カリキュラムに組み込むとか、特定のコースで必修にするなどといった工夫が継続性の点で重要ではと思う。プログラムの自立性とカリキュラムとの整合性のバランスは学内での浸透において必要不可欠と考える。
- ・お互いの交流で得られた経験は単位として認めてもらう仕組みになっているか。時期も学生の就職や進学の支障にならない配慮があったらもっといいと思う。
- ・オンライン講義などを使って単位の互換を積極的に行えるように国際交流のシステムを整備したらどうか。学生たちが他の大学の魅力的な講義をオンラインで受講することによって、留学するハードルが低くなるかもしれない。また、日本または ASEAN の大学に留学した後にどのようなキャリアパスがあるのかを明確にすれば、ASEAN への展開の趣旨が学生たちに理解してもらえるのではないか。大学の国際化の目的の具体例そして国際的な舞台で活躍できる人材はどのようなものかをウェブサイトで示したらどうか。
- ・中国、韓国だけではなく、他のアジアの大学も含めてのプログラムに発展させる事は有意義ですが、他校との連携はより複雑になると思う。ASPIRE League の発展型になるのか。増加が予想される東工大での留学生受け入れ体制を全般的に整える必要がある。
- ・[授業型]と[研究型]サマースクールの授業科目の充実について、改善の余地があると思う。

日中韓三大学の担当者

●東京工業大学

構想責任者	原 正彦	物質理工学院 教授
部会メンバー	吉川 邦夫	環境・社会理工学院 教授 (2019年3月まで)
	調 麻佐志	リベラルアーツ研究教育院 教授
	肖 鋒	工学院 教授
	Tom HOPE	環境・社会理工学院 准教授
	金 俊完	科学技術創成研究院 准教授
	相澤 康則	生命理工学院 准教授
関連教員	早水 裕平	物質理工学院 准教授
事務局	牧野 崇行	留学生交流課長
	下園 健一	留学生交流課交流推進第3グループ長
	渡辺 幸恵	留学生交流課交流推進第3グループ 事務限定職員
	半田 容子	留学生交流課交流推進第3グループ 事務支援員
	月川 敦子	留学生交流課交流推進第3グループ 事務支援員 (2017年3月まで)

●清華大学

構想責任者	Xin-Hui XING	Professor and Director, Institute of Biochemical Engineering (2020年12月まで)
	Meng LI	Associate Professor, School of Civil Engineering (2021年1月から)
事務担当	Meng BO	Deputy Dean, Office of International Cooperation and Exchange
	Hongyu LI	Director of Study abroad, Office of International Cooperation and Exchange (2020年7月まで)
	Jing YANG	Director of Study abroad, Office of International Cooperation and Exchange (2020年7月から)
	Dongni LIU	Program manager (Outbound), Office of International Cooperation and Exchange
	Na BI	Program manager (Inbound), Office of International Cooperation and Exchange

●KAIST

構想責任者	Shin-Hyun KIM	Associate Professor, Department of Chemical and Biomolecular Engineering
事務担当	Sejin NAM	Program Coordinator (2019年5月まで)
	Jihyun MOON	Program Coordinator (2019年6月から)

資料編

1. 事業概要
2. 運営体制、予算
3. 学生の受入
4. 学生の派遣
5. コロナ禍でのオンライン交流プログラム
6. 受入学生・派遣学生の交流
7. 21世紀型スキル教育への取組
8. 幹事校としての取り組み
9. 評価
10. フォトギャラリー

1.

事業概要

- 1-1 計画調書
Joint Application Form
- 1-2 取組概要（日本語版、英語版）
- 1-3 Implementation Guidelines
- 1-4 修学・研究計画書／報告書(Study and Research Plan/ Record)
秘密保持契約
- 1-5 パンフレット
- 1-6 ウェブサイト、動画

2.

運営体制、予算

- 2-1 実績報告書

3.

学生の受入

- 3-1 受入学生一覧
- 3-2 募集要項
- 3-3 *Summer School Calendar*
- 3-4 *Summer School* サイトビジットレポート
- 3-5 *Summer School* 開催報告
- 3-6 留学体験談
- 3-7 参加学生 アンケート結果まとめ
- 3-8 受入指導教員 アンケート結果まとめ
- 3-9 修了証

4.

学生の派遣

- 4-1 派遣学生一覧
- 4-2 募集要項・ポスター
- 4-3 留学フェア
- 4-4 留学体験談
- 4-5 ブログ
- 4-6 近況報告書
- 4-7 留学報告会
- 4-8 超短期派遣プログラムと派遣学生の感想

5. コロナ禍での オンライン交流プログラム

- 5-1 参加学生一覧
- 5-2 募集要項
- 5-3 パンフレット
- 5-4 開催報告
- 5-5 参加学生 アンケート結果まとめ

6. 受入学生・派遣学生の交流

- 6-1 *Summer School* 研修旅行 パンフレット
- 6-2 *Joint Educational Program* ランチ交流会 開催報告
- 6-3 *TKT CAMPUS Asia Online Alumni Assembly*
ポスター、参加学生の声

7. 21世紀型スキル教育への取組

- 7-1 21世紀型スキル教育セミナー ポスター
- 7-2 21世紀型スキル教育セミナー 開催報告
- 7-3 *Global Competence Workshop at Tsinghua University*
アジェンダ

8. 幹事校としての取り組み

- 8-1 採択校連絡会 アジェンダ・席次表
- 8-2 「日中韓大学間交流・連携推進会議」委員本学訪問時
アジェンダ、報告記事
- 8-3 採択校 ウェブサイト
- 8-4 キャンパス・アジア 紹介動画

9. 評価

- 9-1 中間評価調書（文科省）
- 9-2 國際評価パネル 評価項目

10. フォトギャラリー

1. 事業概要

- 2. 運営体制、予算
- 3. 学生の受入
- 4. 学生の派遣
- 5. コロナ禍でのオンライン交流プログラム
- 6. 受入学生・派遣学生の交流
- 7. 21世紀型スキル教育への取組
- 8. 幹事校としての取り組み
- 9. 評価
- 10. フォトギャラリー

1-1 計画調書

Joint Application Form

1-2 取組概要（日本語版、英語版）

1-3 Implementation Guidelines

1-4 修学・研究計画書／報告書 (Study and Research Plan/Record)

秘密保持契約

1-5 パンフレット

1-6 ウェブサイト

動画

平成28年度大学教育再生戦略推進費
 「大学の世界展開力強化事業」計画調書
 ~ アジア諸国等との大学間交流の枠組み強化 ~

【基本情報】

1. 大学名 (○が代表申請大学)	東京工業大学							
2. 機関番号	代表申請大学	12608						
3. タイプ	A-①	キャンパス・アジア(CA)事業の推進 <CAバイロットプログラムでの実績をベースにさらに高度化した取組を行うもの>						
4. 事業者 (大学の設置者)	ふりがな (氏名)	みしま 三島 良直	(所属・職名)	東京工業大学 学長				
5. 申請者 (大学の学長)	ふりがな (氏名)	みしま 三島 良直	(所属・職名)					
6. 事業責任者	ふりがな (氏名)	はら 原 正彦	(所属・職名)	物質理工学院 教授				
7. 事業名	<p>【和文】※40文字程度 日中韓先進科学技術大学教育環高度化プログラム</p> <p>【英文】 Advanced TKT CAMPUS Asia Consortium</p>							
8. 取組学部・ 研究科等名 (必要に応じて複数の部 局で合わせて取組を形成 する場合は、全ての部局 名を記入。大学全体の場 合は大学と記入の上に 書きで全ての部局名を 入。)	学問分野	<input type="radio"/> 人社系	<input type="radio"/> 理工系	<input type="radio"/> 農学系	<input type="radio"/> 医歯薬系	<input checked="" type="radio"/> 看護・医療系	<input type="radio"/> 全学	<input type="radio"/> その他
	実施対象 (学部・大学院)	<input type="radio"/> 学部	<input type="radio"/> 大学院	<input checked="" type="radio"/> 学部及び大学				
	全学[理学院、工学院、物質理工学院、情報理工学院、生命理工学院、環境・社会理工学院]							
9. 海外の相手大学	国名	大学名	部局名					
1 中国	清華大学							
2 韓国	韓国科学技術院(KAIST)							
3								
4								
5								
6								
7								
8								
9								
10								
10. 連携して事業を行う機関(国内連携大学)	大学名	取組学部・研究科等名	大学名	取組学部・研究科等名				
1			4					
2			5					
3			6					

(大学名:東京工業大学) (タイプA-①)

11.「学校教育法施行規則」第172条の2第1項において「公表するものとする」とされた教育研究活動等の状況について、公表しているHPのURL

教育情報の公開
http://www.eduplan.titech.ac.jp/w/edu_info/

12. 本事業経費(単位:千円) ※千円未満は切り捨て

年度(平成)	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	合計
事業規模	20,000	20,000	18,000	17,020	16,300	91,320
内訳						
補助金申請額	20,000	20,000	18,000	16,200	14,580	88,780
大学負担額	0	0	0	820	1,720	2,540

13. 本事業事務総括者部課の連絡先 ※選定結果の通知等の事務連絡先となります。

部課名	国際部留学生交流課		所在地	〒152-8550 東京都目黒区大岡山2-12-1 S6-7
責任者	ふりがな (氏名)	ねぎし としゆき 根岸 敏幸	(所属・職名)	国際部留学生交流課長
担当者	ふりがな (氏名)	うえだ ひでかず 上田 英一	(所属・職名)	国際部留学生交流課事業推進グループ 長
	電話番号	03-5734-2984	緊急連絡先	03-5734-3025
	e-mail(主)	ryu.jig@jim.titech.ac.jp	e-mail(副)	campusasia@jim.titech.ac.jp

※原則として、当該機関事務局の担当部課とし、責任者は課長相当職、担当者は係長相当職とします。
 e-mail(主)については、できる限り係や課などで共有できるグループメールとし、必ず(副)にも別のアドレスを記入してください。

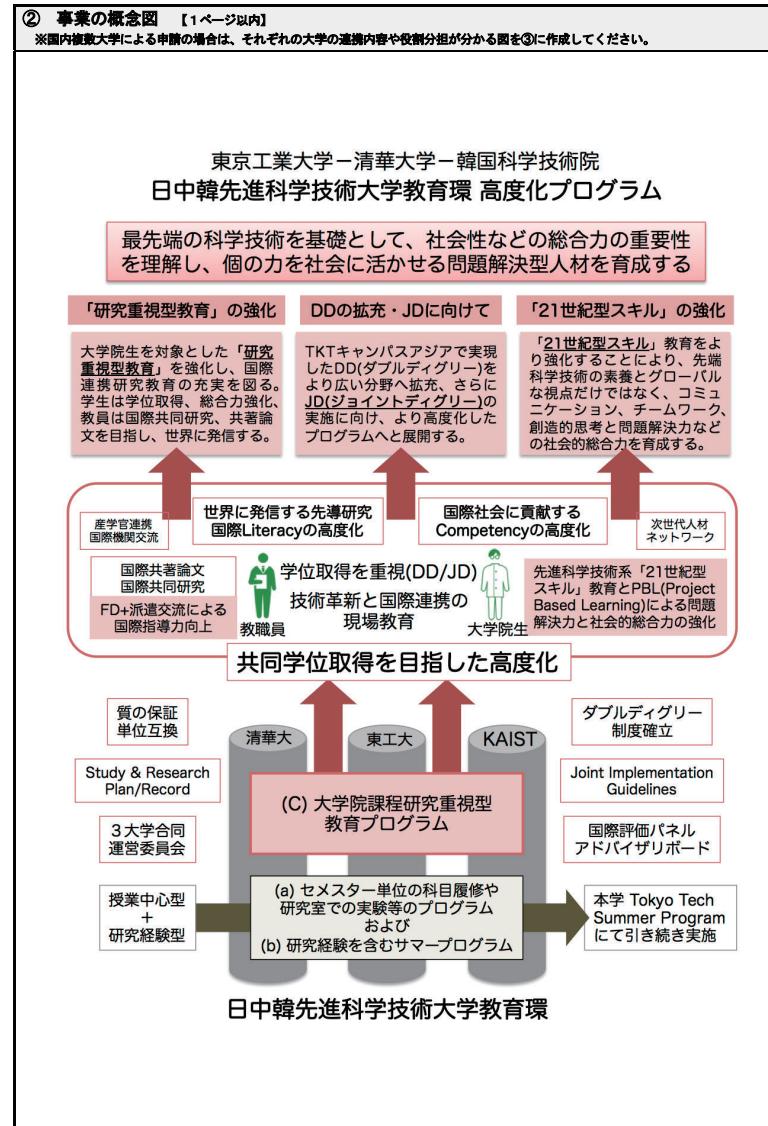
(大学名:東京工業大学) (タイプA-①)

様式 1

事業の目的・概要及び交流プログラムの内容 【1ページ以内】									
事業の目的・概要及び相手大学と実施する交流プログラムの内容について、以下の①～④を記入してください。									
<p>① 事業の目的・概要等 【事業の目的及び概要】 事業名：日中韓先進科学技術大学教育環高度化プログラム 英語名：Advanced TKT CAMPUS Asia Consortium 本学は「世界最高の理工系総合大学の実現」を長期的目標としている。このためには、世界の最高水準の理工系大学との連携協力が不可欠であり、平成23年度から5年間、大学の世界展開力強化事業「日中韓先進科学技術大学教育環（TKT キャンパスアジア）」を通じて、東アジアの最高水準の理工系大学である中国の清華大学、韓国の韓国科学技術院（KAIST）との間で人材の育成を目的とした教育研究プログラムを実施してきた。本事業は、それらの経験と実績に基づき、下記の人材像を養成するために、以下の3点を目的として、より高度化したプログラムへと展開する。</p>									
<p>1) 共同研究指導体制による「研究重視型教育」の強化 学部生を対象とした専門に応じて基礎から最先端までを修得する「授業中心型教育」と大学院生（又は学部4年生以上）を対象とした「研究重視型教育」の交流プログラムを強化し、異なる視点を横断する、より高度化した国際連携研究に基づく共同学位取得を目指す、目的により明確な枠組みを持つプログラムとする。特に派遣と受入の両教員の理解のもとで学位取得を目指す学生を共同指導し、その成果である科学技術の先導研究を世界に発信する。</p>									
<p>2) ダブルディグリーの拡充とジョイントディグリーに向けたプログラムの強化 TKT キャンパスアジアで実現した、教育制度の異なる大学間におけるダブルディグリーをより広い分野へと拡充し、それらの最適化プロセスの中で、ジョイントディグリー（JD）の実施に向けた試行を行い、日中韓3カ国間の理工系大学の質の保証を伴う、より高度化したプログラムへと展開する。</p>									
<p>3) 日中韓からアジアの先進科学技術系「21世紀型スキル」教育の強化 最先端の科学技術の修得を基礎として、さらにグローバルに社会貢献する問題解決型人材育成を目的として、先進科学技術系「21世紀型スキル」教育を強化し、アジアの科学技術教育において共通して求められるスキルとして広く発信する。また、産業界や関係諸機関との連携を深め、技術革新と国際連携の現場教育ならびにグローバル人材ネットワークの形成を推進する。</p>									
<p>【養成する人材像】 卓越した最先端科学技術の素養とグローバルな視点を持つだけではなく、アジアや世界を問題解決型の科学技術で結び、社会に貢献するトップリーダーに向けたキャリアパスを自ら展開出来る人材を育成する。また、本事業で先進科学技術系「21世紀型スキル」教育をより強化することにより、科学技術の知識（Literacy）と同時に、社会性などの総合力（Competency）の重要性を理解し、それらを実践出来る人材を育成する。特に、コミュニケーション力、チームワーク力、創造的思考と問題解決力など、最先端の科学技術を基礎として、個の力を社会に活かせる総合力を身につけた人材を養成する。</p>									
<p>本事業に参加した学生から、アカデミアのみならず、産業界や関係諸機関において、技術革新と国際連携を推進する人材が輩出されることが期待される。</p>									
<p>【本事業で計画している交流学生数】 各年度の派遣及び受入合計人数（交流期間、単位取得の有無は問わない）</p>									
平成 28 年度		平成 29 年度		平成 30 年度		平成 31 年度		平成 32 年度	
派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
5人	5人	10人	10人	10人	10人	10人	10人	10人	10人

（大学名：東京工業大学）（タイプ：A-①）

様式 1



（大学名：東京工業大学）（タイプ：A-①）

③ 国内大学の連携図 【1ページ以内】

※国内の大学が複数連携して実施する取組の場合は、それぞれの大学の役割分担が分かる図を作成してください。

(該当なし)

④ 交流プログラムの内容 【2ページ以内】

- 我が国の大間交流促進の牽引役となるような先導的な事業計画であり、大学の中長期的なビジョンのもとに戦略的な交流プログラムを実施するものとなっているか。
- 単位の相互認定や成績管理等の質の保証を伴った日本人学生の海外留学及び外国人学生の受入の双方向の交流を促進できるような交流プログラムとなっているか。
- 将来グローバルに活躍できる人材像とそれに基づく交流プログラムの設定や提供（外国人学生に対する企業等における体験活動の実施を含む）を行うものとなっているか。
- キャンパス・アジア（CA）の基本的な枠組みを踏まえた事業となっているか。
- タイプA-①においては、キャンパス・アジアハイロットプログラムへの参加実績をベースとして、さらに高度化した取組、あるいは先進的な教育プログラムに取り組むものとなっているか。

【実績・準備状況】

大学の世界展開力強化事業「日中韓先進科学技術大学教育環」（TKT キャンパスアジア）を通じて、中国の清華大学、韓国の韓国科学技術院（KAIST）と連携し、以下のような実績をあげた。

○日中韓3大学による交流プログラムの確立

- (a) セメスター単位の科目履修や研究室での実験等のプログラム
- (b) 研究経験を含むサマープログラム
- (c) 大学院課程研究重視型教育プログラム

○教育内容に関する情報共有とダブルディグリーの実現

派遣と受入れの両大学教員が確認する修学・研究計画書／記録報告書である「Study and Research Plan/Record」と「秘密保持契約書」の導入などを通じて、KAISTとのダブルディグリーの実現に至った。

○質の保証を実現するガイドライン「Joint Implementation Guidelines」の策定

日中韓3大学の運営体制や教育制度等の詳細について明示した文書を作成し、それらの理解と合意のもとで、質の保証を実現し、日中韓の交流・連携プログラムを確立した。

○合同運営委員会（Joint Committee）と国際評価パネル・アドバイザリーボードの実施

3大学の構想責任者、並びに本事業の教職員からなる合同運営委員会（Joint Committee）を設置し、毎年数回に及ぶ委員会を実施した。また、海外の大学と企業から評価委員を招聘し、年度末に3大学の構想責任者からの報告に対して、国際評価を実施した。

○卓越した科学技術の素養を持つグローバル人材育成、トップリーダーに向けたキャリア形成教育の実施

3大学の教員の連携による教育指導から、グローバルな視野を持つ問題解決型人材を育成するプログラムを実施し、さらに、科学技術の知識と同時に、社会性やコミュニケーション力などの総合力の重要性を議論する「21世紀型スキル」教育を導入した。

【計画内容】

1) 共同研究指導体制による「研究重視型教育」の強化

TKT キャンパスアジアのプログラム設計と質の保証を伴う共同教育指導体制の構築、ならびにその実施経験に基づき、学部生を対象とした専門に応じて基礎から最先端までを修得する「授業中心型教育」と大学院生（又は学部4年生以上）を対象とした「研究重視型教育」の交流プログラムを強化する。3カ国との協力のもと、種々の異なる視点を横断する、より高度化した国際連携研究に基づく共同学位取得を目指す、目的により明確な枠組みを持つプログラムとする。特に、派遣と受入れの両教員の理解のもとで、学位取得を目指す学生の修士論文や博士論文を共同指導し、さらに共著論文などを通じて、科学技術の先導研究を世界に発信する。また、その基礎となる「授業中心型教育」では、本学が導入したクオーター制度を活かした教育プログラムに改良する。

2) ダブルディグリーの拡充とジョイントディグリーに向けたプログラムの強化

TKT キャンパスアジアでは、KAISTと本学との間で機械工学の分野においてダブルディグリーを締結したが、さらに物質系、生命系、情報系など、より幅広い分野でのダブルディグリーへと拡充する。また、KAISTと清華大学の間でも工学分野におけるダブルディグリーを締結し、既に確立されている清華大学と本学の間でのダブルディグリーと合わせて、教育制度の異なる3大学間におけるダブルディグリーをより広い異なる分野へと拡充し、それらの最適化プロセスの中で、ジョイントディグリー(JD)の実施に向けた試行(JDハイロットプログラム)を行い、日中韓3カ国間の理工系大学の質の保証を伴う、より高度化したプログラムへと展開する。

様式 1

3) 日中韓からアジアの先進科学技術系「21世紀型スキル」教育の強化

最先端の科学技術の修得を基礎として、さらにグローバルに社会貢献する問題解決型人材育成を目的として、先進科学技術系「21世紀型スキル」教育を強化し、アジアの科学技術教育において共通して求められるスキルとして広く発信する。

卓越した科学技術の素養を持つグローバル人材の育成、さらにトップリーダーに向けたキャリアの形成のためには、いわゆる「21世紀型スキル」教育が重要である。すなわち、先進科学技術系における「21世紀型スキル」教育では、最先端の科学技術の知識（Literacy）だけではなく、同時に、社会性などの総合力（Competency）の重要性を理解し、PBL（Project Based Learning）などを通じてコミュニケーション力、チームワーク力、創造的思考と問題解決力を兼ね備え、最先端の科学技術を基礎として、個の力を社会に活かせる問題解決力と社会的総合力を身につけた人材を養成する。

さらに、産業界や関係諸機関との連携を深め、技術革新と国際連携の現場教育ならびにグローバル人材ネットワークの形成を推進し、「世界に発信する先導研究、国際 Literacy の高度化」と「国際社会に貢献する Competency の高度化」を実現する。

また、3大学以外の学生も聴講可能な公開講座やアーカイブ等を企画し、アジアにおける先進科学技術系「21世紀型スキル」教育を発信する。

様式 2

質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成

【①、②合わせて2ページ以内】

交流プログラムの質の保証のための取組内容について、実績・準備状況を踏まえて、計画内容を具体的に記入してください。

① 交流プログラムの質の保証について

- 透明性、客観性の高い厳格な成績管理（コースワークを重視したカリキュラムの構成、GPAの導入や教員間の相互チェックなど）、学生が履修可能な上限単位数の設定、明確なシラバスの活用等による学修課程と出口管理の厳格化に努め、単位の実質化を重視しているか。
- 交流プログラムを実施するに当たり、単位の相互認定や成績管理、学位授与に至るプロセスが明確になっているか。
- 国際公募による外国人教員の招聘や海外大学での教育経験又は国内大学で英語等による教育経験を有する日本人教員の配置、海外連携大学との教員交流、FD等による教員の資質向上など、質の高い教育が提供されるよう交流プログラムの内容に応じた教育体制の充実が図られているか。
- 大学院レベルの交流においては、ダブル・ディグリーもしくはジョイント・ディグリーの実施を目指すものとなっているか。

【実績・準備状況】

○質の保証に関する3大学間の取り組み

上記合同運営委員会（Joint Committee）などを通じて、質の保証を伴う連携教育と単位互換、さらにはダブルディグリーを目指した連携運営体制を確立した。また、具体的な学生の交流を行う中で、課題を洗い出し、繰り返し改善策と最適化を議論し、それらを実行に移し、高い質の保証を実現した。

○双方の大学の教員による共同指導体制の確立

ひとりひとりの学生に対し、派遣側、受入れ側双方において指導教員が指名され、派遣と受入れの両指導教員が深く関与することで、交流の成果の高度化を推進した。このため、教員と事務職員が協力し、限られた期間内で受入れる学生とその指導教員のマッチングを適切に行うための制度を整えた。

○「Study and Research Plan/Record」の導入

全ての参加学生に対し「Study and Research Plan/Record」の提出を義務付けた。この書式は単に履修科目の承認を目的として事前に学生と教員双方が確認する「ラーニングアグリーメント」だけでなく、双方の大学の教員が共同で、計画段階から終了時まで一貫した教育指導を行うという長所を持つ。

○学生の履修への配慮と質を保証した成績管理と単位互換の実績

本プログラムに参加した学生に対しては、プログラムに対する満足度のアンケートとは別に、派遣終了後の成果を確認することを目的とした調査を行った。その結果、平成24年度より最終年度まで本学から派遣を行った学生、清華大学12名、KAIST27名の内、清華大学派遣学生6名、KAIST派遣学生13名が帰国後、滞在先で履修した科目の単位認定を本学で申請し、単位互換が認定された。また本学が受入れた学生では、サマープログラムにおいて、清華大学学生13名、KAIST学生20名、すなわちサマープログラム参加留学生全員が、本学の単位認定を受け、大学院課程研究重視型教育プログラムでは、清華大学学生17名の内10名、KAIST学生14名の内10名の単位認定が行われた。さらに参加学生の将来の学位取得への貢献やキャリア形成に向けた効果の検証も行ったが、本学が受入れた学生の大半が、本プログラムが、学位取得や将来のキャリア形成に有効であった、さらにはアジアと世界に視野を広げる初めての経験であった、と回答している。

○KAISTとの「ダブルディグリープログラム」の覚書の締結

本学は平成16年以降、清華大学との間で合同学位プログラムを実施しており、修士課程におけるダブルディグリーのパイロットプログラムを遂行している。本プログラムでは、本学とKAIST、KAISTと清華大学との間で、ダブルディグリープログラムの締結を推進するために、平成26年度に各2大学間でJoint Education Programを推進する協定にサインし、最終年度である平成27年度には、機械工学の分野で、KAISTと本学との間でダブルディグリープログラムの覚書を締結した。同じく平成27年度には、KAISTと清華大学の間でダブルディグリープログラムが確立し、教育制度の異なる3大学間におけるダブルディグリーモードが構築された。

○教員に対するフェカルティデベロップメント（FD）の実施

専門の講師を招聘し、英語でのプレゼンテーションにおける口頭発表術や発表の形態からスライドの作り方まで、さらに講義における教授法について、フェカルティデベロップメント（FD）研修を行った。また、教員のみならず事務職員の国際化にも取り組み、国内外で機会のある毎に、国際交渉現場に同席してもらい、事務職員の国際的視野の拡大も推進した。

【計画内容】

○質の保証を伴う共同教育指導体制から、アジアの科学技術を先導する共同研究につながる「研究重視型教育」への拡充

3カ国（構想責任者と担当教職員からなる）合同運営委員会（Joint Committee）の構築や、同委員会のもの

様式 2

とで合意を得た「Joint Implementation Guidelines」や「Study and Research Plan/Record」は、質の保証を伴う教育の連携指導体制を実現することを目的としていた。また、派遣と受入の学生は、自身の国際経験を積むことを主たる目的として、それらを支援する共同教育指導体制は、TKT キャンパスアジアで確立されたと言える。今後は、それらの教育指導体制を基盤に、アジアの科学技術を先導する研究につながる「研究重視型教育」へと強化する。すなわち、学生は、2国間ないし3国間の共同指導の下、自身の研究が架け橋の存在であるという立場を理解することによって、将来のトップリーダーに向けたキャリア形成の開始点に位置することになる。また、教員は短期間留学生を受入れて研究室での研究を経験させることではなく、派遣大学の教員との連携を（例えば教員の派遣と受入なども視野に）強化することによって、共著の学会発表や論文発表に向けた共同研究への展開とジョイントディグリーが可能となるような枠組みを構築する。

○他大学の学生の参加

TKT キャンパスアジアで実施したサマープログラムには、日中韓の3大学以外の教員や学生から、参加することが出来ないかという問合せが毎年複数あった。それらの大学の教育内容、研究活動状況、世界的な大学間ネットワークへの加盟実績など、質の保証を担保として、日中韓の他大学の学生の参加が可能となるような枠組みを構築し、参加学生の多様化とプログラムの質の高度化へと展開する。

○フェカルティデベロップメント (FD) の強化、ならびに国際公募による国際連携を推進する教員の強化
基本的に教員の英語力に問題はないと言われているが、英語による教授法や涉外活動については、さらには強化する必要があり、引き続き、フェカルティデベロップメント (FD) を強化拡充する。また、教員のみならず事務職員の国際化にも取り組み、相手国への短期滞在などを通じて、教職員の国際的視野の拡大を推進する。さらに、国際公募により海外での教育や国際連携研究の経験を有する教員を配置し、本プログラムの推進強化を図る。

② 相手大学（相手国）のニーズを踏まえた大学間交流の展開

○ 相手大学における単位制度（授業時間を含めた学習量や単位の換算方法等）、学生の履修順序、単位の相互認定の手続、アカデミックカレンダーの相違等について留意し、交流プログラムの内容に応じたサポートの実施等により、学生の履修に支障がないよう配慮されているか。
○ 短期の交流から学位取得を見据えた長期の交流までの様々な形態の交流を含む多層的な構成で、大学間交流の発展に繋がるような柔軟で柔軟な交流プログラムの構成となっているか。
○ 各国の人材育成ニーズに合わせた教育の提供に留意したものとなっているか。

【実績・準備状況】

3大学では、構想責任者と関係教員、並びに事務担当者で、合同運営委員会（Joint Committee）を設置し、各大学のアカデミックカレンダー、授業時間割、受入学生の身分、単位制度、他大学で取得した単位の認定制度、単位認定を取り扱う部署と認定手順、成績評価、GPA、卒業・修了要件の相違点等の情報を共有する「Joint Implementation Guidelines」とその附属文書を策定し、質の保証を伴う連携教育と単位互換に対して柔軟な対応を可能とする連携運営体制を確立し、ダブルディグリープログラムを実現した。

【計画内容】

本事業では、本学が導入したクオーター制度を活用し、「授業中心型教育」プログラムでは1クオーターである7~8週間に単位取得につながる講義を強化し、一方、その基礎学力を基本とした「研究重視型教育」プログラムでは、学生の滞在のみならず、学生の帰国後も教員同士の共同研究を通じて、学位取得を目指した長期的交流が続けられる枠組みを作り、科学技術を先導する連携プログラムへと強化する。

また、応用と実用を重視した韓国の技術開発志向と基礎を重視した日本の研究展開から、それぞれの人材育成ニーズに対して相補的に高度化する連携指導体制を強化し、両国間の国際共同研究へと展開推進する枠組みを構築する。さらに、本学が力を入れている環境やエネルギーに関する研究と教育は、中国の人材育成ニーズのみならず、アジアや世界の国々でも問題解決型人材強化への展開が期待されており、日本の基礎科学技術が日中韓に留まらず、世界に貢献する大きな契機になると期待される。

様式 3

外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

【①～③合わせて2ページ以内】
交流プログラムの実施に伴う受け入れる外国人学生及び派遣する日本人学生に対する生活や学修及び就職への支援やそのための環境整備について、①～③の内容を実績・準備状況を踏まえて、計画内容を具体的に記入してください。

① 外国人学生の受入のための環境整備

- 外国人学生の在籍管理のための適切な体制が整備されているか。
- 受け入れた外国人学生が学業に専念できるよう、履修指導、教育支援員・TA等の配置、学内外での諸手続き支援、カウンセリング、宿舎、学内各種資料の翻訳、就職支援等のサポート体制の充実が図られているか。
- 単位認定可能な科目、履修体系・順序、単位の相互認定の手続、アカデミックカレンダーの相違等について、学生の履修に支障がないよう十分な情報提供を行う体制がとられているか。
- 国内外でのインターンシップ等による企業体験の機会確保や、外国人学生の国内就職説明会参加、産業界からの講師等の派遣など、産業界との連携が十分に図られているか。

【実績・準備状況】

○キャンパス・アジアパイロットプログラムにおいて、外国人受入学生の一元的在籍管理、出願手続きのオンライン化、留学アドバイザー及びチューターによる生活指導、質の保証を考慮した研究指導、グローバル企業による英語によるインターンシップの試行など、当初計画に沿った組織的な支援体制の拡充と受入環境の整備が実現した。
○来日する外国人学生に対してチューター学生を指名して、事前説明会を開催し、専任のプログラムコーディネーターによるチューター教育を実施した。地震対策などの危機管理についても、全て必要文書の英文化を整え、口頭説明と共に、留学生の日常生活での留意点の理解も徹底された。さらに、宿舎担当の教育研究支援員を置き、民間宿舎について比較検討の上、大学が賃貸借契約（アウトソーシング）を行うことにより、留学生に対して奨学金支給と併せて宿舎（シェアハウス）の提供を実現した。
○各大学のアカデミックカレンダー、授業時間割、受入学生の身分、単位制度、他大学で取得した単位の認定制度、単位認定を取り扱う部署と認定手順、成績評価、GPA、卒業・修了要件、等の情報を共有し、それらの制度を前提としたプログラムの枠組みの構築を行った。授業の履修登録期間の開始や授業日程の変更等は随時対象学生全員にメール配信を行った。

【計画内容】

留学生の一元的管理、出願手続きのオンライン化、留学アドバイザー及びチューターによる生活指導について、組織的な支援体制の拡充と強化を推進する。例えば、宿舎担当の窓口を設置し、日常の生活支援や危機管理体制を強化する。また、日本人学生と連携した研究発表会やアカデミックツアなどを企画し、授業と研究室での活動以外の交流の環境整備を強化する。

TKT キャンパスアジアでは、企業から招聘した評価委員を含む国際評価パネル・アドバイザリーボードや、産業界などからのコメントを頂く有識者座談会を開催し、また、産業界からの講師の招聘とアカデミックツアーや開催するなど、産業界との連携を推進する体制を構築してきた。本プログラムでは、さらに産業界との連携を強化し、各大学の卒業生や本事業の経験者との情報共有の高度化と共に、企業や研究所などとの連携教育を企画する。また、インターンシップや留学生を採用する企業リストを作成し、参加学生に公開する。さらに、プログラム修了後の学生と定期的に連絡を取り、グローバル人材へのキャリアアップ状況を把握することにより、アジアの学生に対するキャリア教育のあり方を広く提示する。

② 日本人学生の派遣のための環境整備

- 留学中の日本人学生が学業に専念できるとともに、帰国後の学業生活や就職活動等にも支障のないよう、留学中の日本人学生への必要な情報の提供やインターネット等を通じた相談体制の構築等がなされているか。
- 日本人学生に対して、海外への派遣前から帰国後にわたり、履修面・学習面・生活面にわたるサポート（履修指導、交流）に関する情報の提供、相談サービスの実施、就職支援等）が推進されているか。
- 単位認定可能な科目、履修体系・順序、単位の相互認定の手続、アカデミックカレンダーの相違等について、学生の履修に支障がないよう十分な情報提供を行う体制がとられているか。
- 留学中の日本人学生の安全管理に関する体制が十分に取られているか。
- 国内外でのインターンシップ等による企業体験の機会確保や、産業界からの講師等の派遣など、産業界との連携が十分に図られているか。

【実績・準備状況】

○キャンパス・アジアパイロットプログラムにおいて、留学中の日本人学生には、月報などの現状報告の提出を義務づけ、メールにより国際部との間で定期的に連絡をとり、安否確認、修学・生活上の各種相談に応じた。また、学生から多く寄せられる質問への情報を集約して専用 web サイトを通じて的確に情報提供が出来るようにした。

様式3

- 留学前オリエンテーションの実施や個別相談対応等を通じて、留学先での修学計画等、これまで指導教員や学生本人の自助努力に委ねられていた部分についても、質の保証の観点から、積極的な指導を行った。学生の語学力向上については、外国语研究教育センターの協力を得て、英語集中講義（英語塾に相当）や短期語学留学プログラム等を実施した。
- 各大学のアカデミックカレンダー、授業時間割、受入学生の身分、単位制度、他大学で取得した単位の認定制度、単位認定を取り扱う部署と認定手順、成績評価、GPA、卒業・修了要件、等の情報を共有し、それらの制度を前提としたプログラムの枠組みの構築を行った。
- 「東工大生のための安全な海外渡航の手引き」と「派遣留学・研修等の危機管理対応マニュアル」を用いて一層充実した内容で周知徹底を図ると共に、全学で危機管理サービスに加入し、派遣学生個人のみならず、大学組織として海外で発生する危機管理に迅速に対応できるように整備した。
- 国内外でのインターンシップ等による企業体験プログラムは各部局レベルから提供されており、TKTキャンパスアジアでは産業界から講師や評価委員を招聘して、産業界との連携を図った。

【計画内容】

学生の語学力向上は引き続き強化すべき項目であり、英語集中講義や短期語学プログラム等の他に、留学生と日本人学生が英語と日本語を共有するBuddy制度や日常的に英語を使うキャンパスの環境を整備する。留学中の支援については、メールやネットワークを通じての定期的な連絡体制をさらに強化し、特に危機管理や健康管理、安全対策などについては、24時間危機管理サービスの拡充も含めて迅速に対応できるように環境を強化する。

また、引き続き産業界との連携を強化し、アカデミックツアーやインターンシップなどを通じて、企業の研究開発現場での経験やキャリア形成教育の高度化を図る。さらに、プログラムの可能な部分については、産業界とのタイアップを視野に、企画推進を図る。

③ 関係大学間の連絡体制の整備

- 外国人学生及び日本人学生へのサポートが円滑及び適切になれるよう、関係大学間の十分な連絡・情報共有体制が整備されているか。大学間交流の発展に向け、参加学生の窓会の立ち上げ、卒業・修了後の継続的サポート体制の構築等が図られている。
- 緊急時、災害時の対応のための留学中の日本人学生や受け入れた外国人学生をサポートするリスク管理への配慮が十分になされているか。

【実績・準備状況】

- キャンパス・アジアパイロットプログラムの対象大学である清華大学とKAISTとは、これまでに豊富な交流実績を有しており、国際担当部署の間で組織的な連絡体制と教員同士の連絡・情報共有体制は十分に整備されている。
- 外国人留学生の全学的な同窓会組織を立ち上げ、本プログラム修了生に対しても本同窓会組織に参画することで継続的に教育研究上の情報提供や意見交換の機会が得られた。また、プログラムに参加した学生の協力により、新たに本学へ留学を希望する学生に対して窓口教員を介して情報を提供するなど、修了生との連携は実効的に機能している。
- 万に備えては、派遣学生には海外旅行保険に加入させ、学生が留学先において24時間体制のサポートが受けられる危機管理体制を構築している。留学生には、入学時のオリエンテーションで有事の際の行動や連絡先について伝えるとともに、メールニュースで防災情報など生活に重要な情報も提供している。

【計画内容】

3大学の構想責任者と関係教員、並びに事務担当者で設置した、合同運営委員会（Joint Committee）を強化する形で、修了学生が参加する会合を設置し、現在、学生間で個別に行われている情報交換などを一元化した同窓会を立ち上げ、卒業・修了後のキャリアアップに貢献する情報ネットワーク機能を構築する。リスク管理についても、そのネットワークを通じて、常に情報の授受と共有が可能なシステムを構築強化する。また、先進科学技術「21世紀型スキル」教育などの新しい試みについて、卒業・修了後も聴講出来るようにアーカイブをwebブラウザ上で公開し、キャリア形成について継続的なサポート体制を強化構築する。

様式4

事業の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及

【①～④合わせて2ページ以内】
事業の実施に伴う大学の国際化と情報公開、成果の普及について、①～④の内容を実績・準備状況を踏まえて、計画内容を具体的に記入してください。

① 事業の実施に伴う大学の国際化

- 質の保証を伴った大学間交流の充実・発展のため、実施大学だけでなく他大学の学生も参加できる取組が設けられるなど柔軟で発展的なものになっているか。
- 大学の国際化に向けた戦略的な目標等において、事業の意義及び方向性を明確に位置づけるとともに、相手大学も含めた組織的・継続的な教育連携を実施する体制が構築されているか。

【実績・準備状況】

- キャンパス・アジアパイロットプログラムにおいて開始したサマースクールには、3大学の学生に加え、本学協定校から派遣された学生も参加できる取組が設けられるなど、柔軟で発展的なものとなっている。平成27年度のサマースクールでは国内のキャンパスアジア3プログラム合同のスペシャルレクチャー「Technology of Tomorrow」を主催。TV会議システム経由も含め、3プログラムの学生と教員、さらにASPIRE（Asian Science and Technology Pioneering Institutes of Research and Education）リーグや欧米の大学からの留学生も参加し、アジアの問題解決に向けた討論を行った。

○清華大学とKAISTは、本学の国際室を中心とした長年の国際化活動と教員同士の教育研究連携活動を通じて主導的にアジアの主要理工系大学を集結させたASPIREリーグに所属する大学である。特に、清華大学とは修士課程ダブルディグリープログラムが、KAISTとはJSPS拠点大学交流等の共同研究に基づく大学院学生の相互交流が、長年にわたり継続している。両大学とは学生交流に係る授業料不徴収協定も締結されており、こうした豊富な実績を背景として、清華大学、KAISTそれぞれの国際担当部署との密接な連携のもと、本事業における学生交流も、事前の合意に沿って順調に進められた。

【計画内容】

○大学の国際化：「世界最高水準の理工系大学ネットワーク」の強化

本学の将来構想の中に、大学の国際化戦略として「世界最高水準の理工系大学ネットワーク」の構築があり、キャンパスアジアはその実現に向けた取組みの重要なプログラムの一つと位置づけられている。本学と、清華大学、KAISTの日中韓キャンパスアジア3大学に加え、香港科学技術大学とシンガポール南洋理工大学の5大学で形成したASPIREリーグを基軸に、ヨーロッパの主要理工系大学コンソーシアムであるIDEAリーグと米国のトップクラスの理工系大学などと、リーグ間の交流事業を企画し、キャンパスアジアを世界最高水準の理工系大学のネットワークをアジアで結ぶハブ機能へと強化する。

また、清華大学とKAIST以外の日中韓の大学との交流、さらにASEAN諸国へ広げた場合の可能性の検討、ならびに産業界や研究開発法人等の基礎科学技術研究所との連携を強化する。

② 事業体制の強化

- 本事業の取組に対応するため、事務局機能を強化するなど事業をサポートする全学的体制の充実（交流にかかる業務が一部の教職員に偏らないよう、窓口となる担当部署を設定し、教職員間の情報共有、意思疎通や各種問い合わせへの対応、事業運営上の関係者間の調整など）が図られているか。
- 招聘した外国人教員や外国人学生とのコミュニケーションを図れる程度の能力を有する事務職員を配置できるよう、事務職員の能力向上を推進しているか。

【実績・準備状況】

- キャンパス・アジアパイロットプログラムは全学のプログラムであることから、全学の国際部と連携しつつ実施した。構想責任者が総括し、カリキュラム策定を行う国際連携プランナー、運営実務を担当するプログラムコーディネーター、学生の派遣と受入れを担当する留学アドバイザー及び宿舎と特別講義を担当する教育研究支援員から構成された。なお、最後の2年間は計65回に及ぶ本事業推進会議を実施し、綿密な打合せと準備のもと、種々の業務を実施し、本事業の目的を達成した。

○本プログラムの実施にあたっては、英語能力と国際経験のある専任のコーディネーターを置き、国際連携プランナー（特任准教授）や事務員、教育研究支援員とともに、プログラムの円滑な運営を遂行した。

【計画内容】

引き続き全学のプログラムとして、全学の国際部が担当部署となり、韓国、中国の担当者とも連携して事務局機能を強化する。また、事務職員に対するスタッフデベロップメント（SD）を実施する。さらに、3大学間の本事業担当事務職員を中心に、それぞれの大学に短期滞在し、事務体制や手続きなどの研修を行い、職員の国際的対応能力の強化と、日中韓の事務レベルでの連携運営体制を推進する。

様式 4

③ 事業の実施、達成・進捗状況の評価体制

- 事業の実施、達成状況を評価し、改善を図るための評価体制が整備されているか。

【実績・準備状況】

○平成 24 年度より毎年年度末に国際評価パネル・アドバイザリボード委員会を開催し、それに回答する形で改善策を実施してきた。外部評価委員は①英国サザンプトン大学: Mizuta 教授、②米国ニューヨーク州立大学: Nakamura 教授、③英国ケンブリッジ大学: Soga 教授、④韓国漢陽大学: Im 教授、⑤慶應大学: 小尾教授（委員長）、⑥中国清華大学: Qu 日本研究センター長、⑦韓国フルヤメタル: Ha CEO の 7 名からなる。また第 1 回には米国ジョージア工科大学 Woodall 教授とスタンフォード大学 Horvat 教授がオブザーバーとして参加した。

【計画内容】

引き続き、国際評価パネル・アドバイザリボード委員会を開催し、評価コメントを頂き、それに答える形で次年度の事業内容の改善を実施する。また理工系関係者に限らない有識者会議を開催し、さらに産業界や基礎科学研究所との連携を強化して、多角的な視点から評価を頂く。

④ 国内外への情報提供の方法・体制

- 質を保証する観点や学生の適切な判断・選択に資する観点から、取組の実施状況等や交流プログラムの詳細など必要な情報について、外国语による提供も含め、積極的に情報の発信を行うものとなっているか。
- 中央教育審議会大学分科会国際的な大学評価活動に関するワーキンググループ「国際的な大学評価活動の展開状況や我が国の大学に関する情報の海外発信の観点から公表が望まれる項目の例」（平成 22 年 6 月）が掲げる、国際的な活動に特に重点を置く大学において公表が望まれる項目について、大学のグローバル化に向けた戦略的な国内外への教育情報の発信を行うものとなっているか。
- 取組を通じて得られた成果について、ホームページ等による公表の他、報告会、発表会等の報告の場を設けて、各大学や学生、産業界等への普及を図るものとなっているか。

【実績・準備状況】

○本学の web サイトは日英同等内容を原則に構築され、本事業の全ての行事、取組み、成果についても広く国内外に情報提供を行った。さらに、プログラム独自の web サイトを構築し取組内容を随時 web 上で公開した。またサマースクールの講義内容も閲覧することができる。

○本学の web サイトには、公表が望まれる項目として、教員数（含外国人教員数）、学生数（含留学生数）、海外大学との連携等国際連携情報や、宿舎等生活情報等の基本情報が日本語、英語で公表されている。

○本事業の取組成果について、プログラム独自の web サイトにて日英同等内容で発信している。また、本事業のホームページのみならず、CAMPUS Asia Research Review というキャンパス・アジア全 10 プログラムの最新のニュースをまとめた情報発信 web サイトを英語で開設し、国内外へのプログラムの情報提供を強く推進した。

【計画内容】

○キャンパスアジア全プログラムの情報発信 web サイトの強化

TKT キャンパスアジアにて構築した、キャンパスアジアの全プログラムの最新情報を 1 ストップで集約する情報発信 web サイトである CAMPUS Asia Research Review を強化し、ニュース性のある編集を行うことで、参加する教職員の活動の「見える化」とアジアの研究と教育の最新の情報発信力を推進する。

○他大学の学生との交流、理工系と文系が融合する「21世紀型スキル」合同事業の強化

本学は、今までにキャンパスアジアの理工系 3 プログラムに参加する 12 大学の学生交流を推進するために、国内のキャンパスアジア 3 プログラム合同のスペシャルレクチャー「Technology of Tomorrow」などを主催してきた。その試みは、1 つのプログラムの中に留まることなく、他のプログラムの学生や教員との交流、ならびに成果の普及と共有から、さらなる相乗効果が期待され、今後も、例えば「21 世紀型スキル」教育を基軸とした、理工系と文系が融合する合同事業を推進し、広い視野を持つグローバル人材の育成を他大学の教職員と連携して強化推進する。

様式 5

達成目標 ①(①、②、③で 2 ページ以内、④、⑤はそれぞれ 1 ページ以内、⑥は交流プログラムの内容に応じたページ数)

本事業を実施することによって達成しようとする目標について、下記の点に留意し、①～⑥に具体的に記入してください。

- 国民にとって分かりやすい具体的な目標が設定されているか。
- アウトプットだけでなくアウトカムに関する具体的な目標が設定されているか。

① 養成しようとするグローバル人材像について

- 本事業において養成しようとするグローバル人材像が明確に設定されているか。

(i) 事業計画全体の達成目標（事業開始～平成 32 年度まで）

卓越した最先端科学技術の素養とグローバルな視点を持つだけではなく、アジアや世界を問題解決型の科学技術展開で結び、社会に貢献するトップリーダーに向けたキャリアパスを自ら展開出来る人材を育成する。すなわち、自身の 5 年後 10 年後のビジョンを持ち、現在の問題を科学技術と世界情勢の両方の観点から長期的展望を持ってリーダーとして解決していくスキルを身につける。

(ii) 中間評価までの達成目標（事業開始～平成 29 年度まで）

本事業で先進科学技術系「21 世紀型スキル」教育をより強化することにより、科学技術の知識(Literacy)と同時に、社会性などの総合力(Competency)の重要性を理解し、実践出来る人材を育成する。特に、コミュニケーション力、チームワーク力、創造的思考と問題解決力など、最先端の科学技術を基礎として、個の力を社会に活かせる総合力を身につけた人材を養成する。

②-1 学生に修得させる具体的能力のうち、一定の外国語力基準をクリアする学生数の推移について

- 本事業計画において海外に留学する日本人学生数のうち、留学後に一定の外国語力基準をクリアする学生数に関する適切な目標が設定されているか。

(i) 本事業計画において定める外国語力基準及び同基準をクリアする学生数に関する達成目標

外国語力基準	達成目標	
	中間評価まで (事業開始～平成 29 年度まで)	事業計画全体 (事業開始～平成 32 年度まで)
【参考】本事業計画において海外に留学する日本人学生数	15 人（延べ数）	45 人（延べ数）
1 帰国後、TOEFL iBT で 70 点以上を取る、もしくは、派遣前から 5 点以上上昇させた者	15 人（延べ数）	45 人（延べ数）
2 受入指導教員から、研究室における英語力として支障がないと評価された者	15 人（延べ数）	45 人（延べ数）

(ii) 外国語力基準を定めた考え方

(※ (i)において、複数の外国語力基準を設けている場合は、それぞれについて明示すること)

TKT キャンパスアジアバイロットプログラムの募集要項では、派遣前の語学力基準を TOEFL iBT 65 点以上 (TOEIC 600 点以上) と定めていた。また、留学先の受入指導教員から、研究室における英語力として支障がないとの評価を得ているため、今回も同様のスコアを語学力基準とする。

派遣後については、TKT キャンパスアジアバイロットプログラムにおいて、留学初期に顕著な語学力の上昇が見られ、その後は穏やかな上昇を示したことから、今回は、留学先での滞在期間に拘わらず、帰国後の TOEFL iBT で 5 点 (TOEIC で約 40 点) のスコアアップを目標とする。

様式5

<p>(iii) 事業計画全体の目標達成に向けたプロセス（事業開始～平成32年度まで） ○本事業に参加した学生で、帰国後、TOEFL iBTで70点以上を取る、もしくは、派遣前から5点以上、上昇させた者の数 ○なお、全参加学生が、受入れ先指導教員から語学力において支障がないとの評価を得ることを基準とする</p> <p>(iv) 中間評価までの目標達成に向けたプロセス（事業開始～平成29年度まで） ○本事業に参加した学生で、帰国後、TOEFL iBTで70点以上を取る、もしくは、派遣前から5点以上、上昇させた者の数 ○なお、全参加学生が、受入れ先指導教員から語学力において支障がないとの評価を得ることを基準とする</p>	
<p>②-2 学生に修得させる具体的な能力のうち、「②-1」以外について ○ 本事業に参加する学生に修得させる具体的な能力が設定されているか。</p>	
<p>(i) 事業計画全体の達成目標（事業開始～平成32年度まで）</p> <p>科学技術を基礎として、「21世紀型スキル」教育を通じて4Cスキル、すなわち Communication, Collaboration, Critical Thinking, Creativityを兼ね備えた能力を持ち、問題解決に向けて企画、立案、実行が出来る能力。</p>	
<p>(ii) 中間評価までの達成目標（事業開始～平成29年度まで）</p> <p>1つのプログラムの中に留まることなく、他のプログラムの学生や教員との交流、ならびに成果の普及と共有から、さらなる相乗効果が期待され、「21世紀型スキル」教育を通じて、理工系と文系が融合する合同事業を推進し、広い視野を持つグローバル人材の育成を他大学の教職員と連携して強化推進する。</p>	
<p>③ 質の保証を伴った大学間交流の枠組みの形成及び拡大に向けた具体的な取組について ○ 質の保証を伴った大学間交流の枠組みの形成及び拡大に向けた具体的な取組が設定されているか。</p>	
<p>(i) 事業計画全体の達成目標（事業開始～平成32年度まで）</p> <p>本学の所属する ASPIRE リーグ参加大学から、香港科学技術大学とシンガポール南洋理工大学の学生と教員との連携教育ならびに連携研究を試行し、アジアにおける質の保証を伴った大学間交流の枠組みの形成及び拡大を検討する。また、日中韓の3カ国以外の ASEAN 諸国の理工系大学に本プログラムの取組みを発信し、質の保証を担保とした拡大の可能性を評価検討する。</p>	
<p>(ii) 中間評価までの達成目標（事業開始～平成29年度まで）</p> <p>日中韓の3大学以外の教員や学生の参加を考慮し、それらの大学の教育内容、研究活動状況、世界的な大学間ネットワークへの加盟実績など、質の保証を担保として、日中韓の他大学の学生の参加が可能となるような枠組みを構築し、参加学生の多様化とプログラムの質の向上強化へと展開する。</p>	

様式5

<p>④ 本事業計画において海外に留学する日本人学生数の推移 ○ 本事業計画において日本人学生の派遣数に関する適切な目標が設定されているか。</p>						
<p>現状（平成27年5月1日現在）※1</p>						35人
<p>(i) 日本人学生数の達成目標</p>						
<p>事業計画全体の達成目標（事業開始～平成32年度まで）</p>						45人（延べ数）
<p>中間評価までの達成目標（事業開始～平成29年度まで）</p>						15人（延べ数）
<p>[上記の内訳]</p>						
	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	合計
合計人数	5人	10人	10人	10人	10人	45人
<p>(ii) 目標を設定した考え方及び達成までのプロセス（事業計画全体、中間評価までの双方について）</p>						
<p>本構想に基づき交流する学生の数は、三大学の副学長会議において決定されたが、その理由は、各大学が本構想の下で実施する各プログラムにおいて質の高い教育研究機会を提供するために適正な参加学生数であること、三大学間の派遣、受入れ学生数のバランスが取れること、の二点である。</p>						
<p>本学からは、毎年中国および韓国に計10名を派遣する（初年度は5名）。これにより、中間評価までの期間に計15名、本構想期間を通して計45名の本学の学生を派遣する予定である。</p>						
<p>清華大学については、サマープログラムを実施していないことから、セメスター単位の交流のみとなるが、KAISTについては、本構想においてサマープログラムが実施されており、これに参加した後、引き続き秋学期を履修する者が含まれる予定である。</p>						
<p>「研究重視型教育」は、既にASPIRE リーグの共同プログラム（サテライトラボ）等により三大学の研究室の間で共同研究が実施されており、また、今まで開催されたASPIRE リーグ学生ワークショップへの参加実績などがあることから、これらを含む幅広い大学間交流に基づき派遣を行う予定である。</p>						

※1 現状は、事業の取組単位（全学、学部等）における平成27年5月1日現在の人数を記入すること。

⑤ **交流する学生数について**

○ 外国人及び日本人学生数の推移については、外国人学生の受入のみに偏らず、相当数の日本人学生の海外派遣を伴う、双方の交流活動が発展するようならざついているか。

1. 交換する相手大学名

(中国科技大学) 清華大学 (韓国科技大学) 韓国科学技術院 (KAIST)

2. 交流する学生数について(概要)

①: 事業計画における交換学生数(計画)

合計人数	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	合計	平成28年度 平成29年度 平成30年度 平成31年度 平成32年度 合計					
							派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
5	5	10	10	10	10	45	10	10	10	10	10	45

①-1. [三ヵ国共通の財政支援の有無及び交換相手国別 内訳](計画)

合計人数	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	合計	平成28年度 平成29年度 平成30年度 平成31年度 平成32年度 合計					
							派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
5	5	10	10	10	10	45	10	10	10	10	10	45

①-2. [交換形態別 内訳](計画)

合計人数	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	合計	平成28年度 平成29年度 平成30年度 平成31年度 平成32年度 合計					
							派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
5	5	10	10	10	10	45	10	10	10	10	10	45

②: 寄宿舎の提供について(計画)

合計人数	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	合計	平成28年度 平成29年度 平成30年度 平成31年度 平成32年度 合計					
							宿舎(大学新設の参考)派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
5	5	10	10	10	10	45	10	10	10	10	10	45

③: 寄宿舎の提供について(実績)

合計人数	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	合計	平成28年度 平成29年度 平成30年度 平成31年度 平成32年度 合計					
							宿舎(大学新設の参考)派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
5	5	10	10	10	10	45	10	10	10	10	10	45

④: 寄宿舎の提供について(実績)

合計人数	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	合計	平成28年度 平成29年度 平成30年度 平成31年度 平成32年度 合計					
							宿舎(大学新設の参考)派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
5	5	10	10	10	10	45	10	10	10	10	10	45

⑤ 本事業計画において受け入れる外国人学生数の推移

○ 本事業計画において外国人学生の受入数に関する適切な目標が設定されているか。

現状(平成27年5月1日現在)※1 1,332人

(i) 外国人学生数の達成目標

事業計画全体の達成目標(事業開始～平成32年度まで)						45人(延べ数)
中間評価までの達成目標(事業開始～平成29年度まで)						15人(延べ数)

[上記の内訳]

合計人数	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	合計
5	5	10	10	10	10	45

(ii) 目標を設定した考え方及び達成までのプロセス(事業計画全体、中間評価までの双方について)

本構想により受入れる学生の数は、上記「④本構想において海外に留学する日本人学生数の推移」において記したとおり、教育研究の質と三大学間のバランスの観点から決定された。

毎年中国および韓国から計10名を受入れる(初年度は5名)。これにより、中間評価までの期間に計15名、本構想期間をとおして計45名の学生を清華大学およびKAISTから受入れる予定である。

「研究重視型教育」については、上記のように、既にASPIREリーグの共同プログラム(サテライトラボ)等により三大学の研究室の間で共同研究が実施されており、今までに開催されたASPIREリーグ学生ワークショップへの参加などの実績があることから、これらを含む幅広い大学間交流の一環として学生を受入れる予定である。

※1 現状は、事業の取組単位(全学、学部等)における平成27年5月1日現在の人数を記入すること。

(大学名: 東京工業大学) (タイプ: A-①)

⑥ 交換する学生数について

○ 外国人及び日本人学生数の推移については、外国人学生の受入のみに偏らず、相当数の日本人学生の海外派遣を伴う、双方の交流活動が発展するようならざつしているか。

1. 交換する相手大学名

(中国科技大学) 清華大学 (韓国科技大学) 韩国科学技術院 (KAIST)

(単位: 人)

①: 事業計画における交換学生数(計画)

合計人数	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	合計	平成28年度 平成29年度 平成30年度 平成31年度 平成32年度 合計					
							派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
5	5	10	10	10	10	45	10	10	10	10	10	45

②: 事業計画における交換学生数(実績)

合計人数	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	合計	平成28年度 平成29年度 平成30年度 平成31年度 平成32年度 合計					
							派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
5	5	10	10	10	10	45	10	10	10	10	10	45

③: 事業計画における交換学生数(実績)

合計人数	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	合計	平成28年度 平成29年度 平成30年度 平成31年度 平成32年度 合計					
							派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
5	5	10	10	10	10	45	10	10	10	10	10	45

④: 事業計画における交換学生数(実績)

合計人数	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	合計	平成28年度 平成29年度 平成30年度 平成31年度 平成32年度 合計					
							派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
5	5	10	10	10	10	45	10	10	10	10	10	45

⑤: 事業計画における交換学生数(実績)

合計人数	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	合計	平成28年度 平成29年度 平成30年度 平成31年度 平成32年度 合計					

3. 交流する学生数についてく派遣・受入別 交流プログラムの詳細>

①:日本人学生の派遣 (日本⇒中国、韓国)

年度	交流期間	派遣元大学名 (日)	派遣先大学名 (中、韓)	交流内容 (交流プログラム名等)	交流形態	交流 学生数
H28	H29. 1. ~ H29. 3.	東京工業大学	清華大学	講義及び研究重視型	上記以外の交流期間3ヶ月未満の交流	3
	H29. 1. ~ H29. 3.	東京工業大学	KAIST	研究重視型	上記以外の交流期間3ヶ月未満の交流	2
	~					
H29	H29. 8. ~ H30. 3.	東京工業大学	清華大学	講義及び研究重視型	単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	5
	H29. 8. ~ H29. 9.	東京工業大学	KAIST	研究重視型 サマープログラム	単位取得を伴う交流期間3ヶ月未満の交流	2
	H29. 10. ~ H30. 3.	東京工業大学	KAIST	研究重視型	単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	3
H30	H30. 8. ~ H31. 3.	東京工業大学	清華大学	講義及び研究重視型	単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	5
	H30. 8. ~ H30. 9.	東京工業大学	KAIST	研究重視型 サマープログラム	単位取得を伴う交流期間3ヶ月未満の交流	2
	H30. 10. ~ H31. 3.	東京工業大学	KAIST	研究重視型	単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	3
H31	H31. 8. ~ H32. 3.	東京工業大学	清華大学	講義及び研究重視型	単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	5
	H31. 8. ~ H31. 9.	東京工業大学	KAIST	研究重視型 サマープログラム	単位取得を伴う交流期間3ヶ月未満の交流	2
	H31. 10. ~ H32. 3.	東京工業大学	KAIST	研究重視型	単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	3
H32	H32. 8. ~ H33. 3.	東京工業大学	清華大学	講義及び研究重視型	単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	5
	H32. 8. ~ H32. 9.	東京工業大学	KAIST	研究重視型 サマープログラム	単位取得を伴う交流期間3ヶ月未満の交流	2
	H32. 10. ~ H33. 3.	東京工業大学	KAIST	研究重視型	単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	3

②:外国人学生の受入 (中国、韓国⇒日本)

年度	交流期間	派遣元大学名 (中、韓)	受入先大学名 (日)	交流内容 (交流プログラム名等)	交流形態	交流 学生数
H28	H29. 1. ~ H29. 3.	清華大学	東京工業大学	研究重視型	上記以外の交流期間3ヶ月未満の交流	2
	H29. 1. ~ H29. 3.	KAIST	東京工業大学	研究重視型	上記以外の交流期間3ヶ月未満の交流	3
	~					
H29	H29. 6. ~ H29. 8.	清華大学・KAIST	東京工業大学	研究重視型	単位取得を伴う交流期間3ヶ月未満の交流	4
	H29. 9. ~ H30. 3.	清華大学・KAIST	東京工業大学	研究重視型	単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	6
	~					
H30	H30. 6. ~ H30. 8.	清華大学・KAIST	東京工業大学	研究重視型	単位取得を伴う交流期間3ヶ月未満の交流	4
	H30. 9. ~ H31. 3.	清華大学・KAIST	東京工業大学	研究重視型	単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	6
	~					
H31	H31. 6. ~ H31. 8.	清華大学・KAIST	東京工業大学	研究重視型	単位取得を伴う交流期間3ヶ月未満の交流	4
	H31. 9. ~ H32. 3.	清華大学・KAIST	東京工業大学	研究重視型	単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	6
	~					
H32	H32. 6. ~ H32. 8.	清華大学・KAIST	東京工業大学	研究重視型	単位取得を伴う交流期間3ヶ月未満の交流	4
	H32. 9. ~ H33. 3.	清華大学・KAIST	東京工業大学	研究重視型	単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	6
	~					

(大学名:東京工業大学)(タイプ:A-①)

大学の世界展開に向けた取組の実績 【国内の大学1校につき、①は2ページ以内、②は1事業ごとに1ページ以内】

大学名	東京工業大学
-----	--------

① 取組の実績

- 英語による授業の実施や留学生との交流、海外の大学と連携して学位取得を目指す交流プログラムの開発等による国際的な教育環境の構築などに取り組んできた実績を有しているか。
- 海外の有力大学が参加する国際的なネットワークへの参加や、単なる枠組みの形成にとどまらない、実質的な交流が継続して行われてきた実績を有しているか。
- 国際化に応じるため、外国人教員や国際的な教育研究の実績を有する日本人教員の採用や、FD等による教員の資質向上に取り組んできた実績を有しているか。特に、そのために国際公募、年俸制、ティニューアトラック制等を実施・導入しているか。
- 英語のできる国際担当職員の配置、語学等に関する職員の研修プログラムなど、事務体制の国際化に取り組んできた実績を有しているか。
- 厳格な成績管理、学生が履修可能な上限単位数の設定、明確なシラバスの活用等による学修課程と出口管理の厳格化など、単位の実質化に取り組んできた実績を有しているか。

※大学におけるこれまでの世界展開に向けた取組の実績について、事業との関連性を踏まえつつ上記の点にも書及して具体的に分かりやすく記入するとともに、記入した内容の添付となる資料を様式1.1④に記入してください。

【英語授業の実施、留学生との交流、学位取得プログラムなどの国際的教育環境の構築】

2009年から修士・博士一貫課程を中心とした国際大学院プログラムを開始した。国際的に魅力のある留学生受け入れプログラムという観点から、講義を英語で行うこととしており、2015年現在これに基づく5プログラムが文部科学省の「国費外国人留学生(研究留学生)の優先配置を行う特別プログラム」に採択されている(国費枠53名)。これを機に、教育推進室の下に国際大学院プログラム運営協議会を置き、プログラムの運営に係る事項を同協議会において一括して行うことを定め、関連組織が連携してプログラムを実施する体制ができる。国際大学院プログラムを含めた本学の外国语による授業科目数は平成27年4月時点で900を超えており、全授業科目数の22.5%を占めている。(資料1)

また、本学の学術交流協定校から授業料等不徴収協定に基づいて学生を受け入れるプログラムとして、ACAP(Academic Cooperation Agreement Program)とYSEP(Young Scientist Exchange Program)を実施している。ACAPは大学院学生及び学部学生を、YSEPは修士生及び学部学生を対象としている。ACAPは平成23年4月の開始時点から平成28年5月時点まで335名を受け入れている。YSEPは平成12年10月の開始時点から平成25年5月時点まで515名を受け入れている。(資料2)

2004年にインターナショナル・コミュニケーションズ・スペース(略称:ICS)が設置された。学生や教職員が、英語やその他の言語で行うイベントなどのスペースの提供を目的とし、定期的な英語によるディスカッション形式のイベントなどが開催され、日本人学生と留学生の交流の場となっている。

更に日本語、中国語及び英語の素養を持った、優れた理工系の人材を養成し、両国の科学技術及び産業経済の発展に資することを目的とし、2004年9月に東京工業大学・清華大学大学院合同プログラムを実施している。170名の学生が入学し、約130名の学生が修了している。(資料3)

なお、短期外国人留学生の受入について、受入身分の複雑化、受入身分による授業受講の不都合、学部レベル学生(授業主体)の受入希望増加への対応などの課題を解決するため、受入身分の新設及び統廃合を2011年4月に実施した。これにより、学外・学内において受入身分の明確化、申請受付・受入審議・成績通知書・修了書発行などの手続一元化、学部レベル学生(授業主体)の受入基盤の確立など短期外国人留学生の受入を円滑に行なえるようになった。

また、これまで、大学の世界展開力強化事業(平成23年度採択)タイプA、タイプBを実施しており、清華大学、韓国科学技術院、マサチューセッツ工科大学、インペリアルカレッジロンドン等の世界トップレベルの大学への学生の派遣と学生の受け入れ(サマースクール実施を含め)を実施してきた。また、スーパーグローバル大学創成支援事業(タイプA)にて、国際水準での単位互換、教育内容の国際的チャーニングを向上させる体制を整えつつある。(資料4)

【国際的ネットワークへの参加や実質的な交流実績】

科学技術の発展と人材の開発を通してアジアにおけるイノベーションハブを形成し、持続的世界の実現に資することを目的としたアジア理工系トップ5大学(香港科学技術大学、韓国科学技術院、南洋理工大学、清華大学及び東京工業大学)によるコンソーシアム「ASPIRE(Asian Science and Technology Pioneer Institutes of Research and Education)リーグ」を本学主導で2009年に設立した。ASPIREリーグの活動として、シンポジウム、学生ワークショップ、副学長会議で構成されるASPIRE Forum、Undergraduate Research Academy(南洋理工大学主催)などを実施している。

また、ヨーロッパのトップ理工系大学のコンソーシアムであるIDEAリーグともサマースクールへの学

(大学名:東京工業大学)(タイプ:A-①)

様式 6

生相互派遣を行うなど、アジア地域のみならずヨーロッパ地域との連携を推進している。

更に、本学は学生交流や連携研究の推進を目的として、中国、香港、日本、韓国、台湾の 18 の大学が参加する AEARU (The Association of East Asian Research Universities) に加盟しており、AEARU 加盟大学がそれぞれ実施する総会、ワークショップ、学生サマーキャンプ、国際シンポジウム等において学生・教職員交流を行っている。本学は、2016 年 1 月から 2 年の任期で理事校を務めている。

また、理工学研究科工学系においては、アジア・オセアニア地域のトップレベルの工学系大学において情報交換や学生・教職員の交流を通じて協力関係を構築し、教育研究の質を向上させることを目的として AOUTLE (The Asia-Oceania Top University League on Engineering) を本学主導で設立してきた。このリーグの活動の一環として、学部学生での短期学生の受け入れを実施しているほか、AOUTLE 以外のアジア地域、欧米大学との交流も積極的に行っている。(資料 5)

【外国人教員や国際的な教育研究の実績を有する日本人教員の採用】

平成 18 年度科学技术振興調整費「若手研究者の自立的研究環境整備促進」事業の採択を受け、世界レベルの活躍が見込まれる優秀な若手研究者を国内外より発掘・採用し、自立した研究の促進、分野を超えた研究交流の場を形成するため、Global Edge Institute を平成 18 年度に設置し、基礎的研究・基礎的研究の強い分野、強化すべき分野として 8 つの分野の設定を行い、テニュアトラック制度を導入し、国際公募により平成 21 年度までの間に応募総数 743 名の若手研究者から 21 名を特任助教として採用している。この実績を活かし、平成 23 年度からは各部局にて採用を行う「東京工業大学テニュアトラック制度」の運用を開始した。本制度では、有力国際誌や学会等を通じた国際公募により平成 23 年度から平成 27 年度までに 9 名のテニュアトラック教員を採用し、うち 7 名が海外ポスドク経験者、うち 1 名が外国籍の者である。

一方、国際水準の教員を任用する制度として、透明性、公正性を促進した高視点での教員人事を行うため、教授については、当該研究分野における同世代の研究者の中で、世界最優秀のレベルに達している者または当該レベルに近い者であること及び引き続き 2 年以上本学以外の研究・教育機関または企業等に在籍して、研究・教育経験を有することを条件とした新たな教授選考規則を制定し、国際水準の教授を採用する制度を実施した。なお、教員選考に際して、研究教育業績が国際水準である旨の意見書を国内及び国外から得ることとしている。

また、教員選考過程の公表に関するアンケート調査を実施した結果、全学的に公表のガイドラインを策定・周知することとした。現在、専任講師以上の教員選考過程（応募者数、委員会開催状況等）については、大学ホームページ上で公表している。平成 23 年 10 月からは、すべての教員公募を原則として日本語及び英語で募集することが義務づけられている。

その他、平成 24 年度から外国人教員を採用若しくは昇任させる場合に、一定の人事ポイントを大学から付与する制度を実施することや、平成 25 年度からは教員選考に関するガイドラインを作成し、国際公募の実施や英語での講義能力を選考時の評価対象にすることにより、外国人教員の採用を促進している。

【職員の研修プログラムや事務体制の国際化】

語学研修として、平成 25 年度から新採用事務職員全員の英会話研修受講を必須とした。TOEIC 公開テストを本学の研修として実施し、海外研修、英会話研修、英語通訳講座研修の受講者全員とその他希望者等が受験をした。海外研修としては、文部科学省及び日本学術振興会主催の 1 年以上の海外派遣プログラムに積極的に事務職員を参加させている他、平成 20 年度より本学主催の研修として、海外の大学における 1 ヶ月程度以上の事務職員対象の語学・実務の研修を実施しており、これまで、英国、豪州、米国へ毎年度 1 名～3 名の事務職員を派遣している。また、海外出張へ同行する 1 週間程度の研修を実施し、国際関係部署のみならずできるだけ全学の事務部署から主に TOEIC600 点程度以上の事務職員を派遣することとしており、平成 26 年度と平成 27 年度合わせて 10 名以上の事務職員を海外（欧米、アジア、豪州）へ派遣した。

【単位の実質化に取り組んできた実績】

本学では、OCW を通してシラバスを公開し、また、学習計画立案等に際しては、指導教員と十分に相談しなければならないとするなど、単位の実質化に向けた取り組みを行ってきた。同時に、国際化の面においても、本学および相手大学の双方の単位が実質化するため、以下のような取り組みを行っている。既に相手大学で取得した単位の認定については、「東京工業大学院学生の留学に関する取扱いについて」、「東京工業大学学部学生の留学に関する取扱いについて」および「留学先で取得した科目の認定ガイドライン」を定め、海外の大学の様々な制度に対応した手続きをとってきた。

様式 6

大学名	
② 取組の評価	<input type="checkbox"/> 文部科学省の大学教育再生戦略推進費による経費支援を受けて実施し、終了した事業がある場合、事業目的が実現された旨の評価を得ているか。 ※事業評価結果を貼付してください。

(該当なし)

様式 7

交流プログラムを実施する相手大学について 【ページ数については、相手大学ごとに①、②合わせて1ページ以内】 交流プログラムを実施する相手大学に関して、 ①については、交流プログラムの内容や交流期間など、相手大学との交流実績が分かるように記入してください。 (本事業における交流プログラムとの関連性や現在の交流の有無は問いません。) なお、交流実績が無い場合は、交流実績が無くとも本事業が実施できると判断した理由及び背景等を説明してください。 ②については、相手大学との交流プログラム実施に向けた準備状況について具体的に分かりやすく記入してください。 また、交流を実施するまでの具体的なスケジュールについても記入してください。	
相手大学名 (国名)	韓国科学技術院 (KAIST) (韓国)
① 交流実績（交流の背景） <input type="checkbox"/> 交流プログラムを実施する相手大学との交流実績を有しているか。	
<p>韓国科学技術院 (KAIST)との間では、1986年に学術交流協定が締結された。2000年から2009年まで、JSPS拠点大学交流事業「高機能・環境順応型ソフトマテリアル創生と応用」において、日本側拠点の東工大と韓国側拠点大学のKAISTとの間で、双方の博士後期課程の学生を3ヶ月間程度相互に派遣し(KAISTへの派遣37名、東工大への受入43名)、共同研究を行なった他、合同シンポジウムを25回開催した。また、1年以内の学生交換留学プログラムを行っており、2001年から2010年までの間にKAISTへ東工大生2名を派遣し、KAISTの学生19名を東工大へ受け入れている。</p> <p>さらに、アジア理工系トップ大学によるコンソーシアムであるASPIRE (Asian Science and Technology Pioneering Institutes of Research and Education) リーグの活動として、本学の主導で、2011年度から、ASPIREリーグ5大学間の共同研究促進のため、「東京工業大学ASPIREリーグ研究グランツ」(研究助成事業)を開始し、2015年度までに17件の共同研究を支援するとともに、採択された研究室に合計15のサテライト・ラボを設置した。本学は全ての共同研究に参加しており、KAISTは9件の共同研究に参加している。</p> <p>また、本学はAEARU (The Association of East Asian Research Universities)に加盟しており、AEARU加盟大学がそれぞれ実施する総会、ワークショップ、学生サマーキャンプ、国際シンポジウム等において学生・教職員交流を行っている。2016年には、本学でワークショップの開催を予定しており、ASPIREグランツで共同研究を行っているKAISTの教員の参加が見込まれる。</p> <p>2011年度に採択された本事業では、2015年度までの5年間で39名の学生をKAISTから受け入れ、27名の本学学生を派遣した。また、2016年3月には、機械工学系の分野においてダブルディグリーの協定書を締結した。</p>	
② 交流に向けた準備状況 <input type="checkbox"/> 交流プログラムの実施に向けた相手大学との準備（大学ごとの役割・実施体制の明確化など）が十分なされているか。	
<input type="checkbox"/> 教育内容に関する情報共有と質の保証を実現するガイドライン「Joint Implementation Guidelines」の策定、質を保証した成績管理と単位互換の実施 <input type="checkbox"/> 双方の大学の教員による共同指導体制の確立 <input type="checkbox"/> 派遣と受け入れの両大学教員が確認する修学・研究計画書／記録報告書である「Study and Research Plan/Record」と「秘密保持契約書」の導入 <input type="checkbox"/> 合同運営委員会 (Joint Committee) と国際評価パネル・アドバイザリーボードの実施 <input type="checkbox"/> 機械工学系分野における「ダブルディグリープログラム」の締結 <input type="checkbox"/> KAISTの教員を招聘し、日本に留学する韓国人留学生に対してキャリア教育の実施 <input type="checkbox"/> KAIST学生の受け入れのための環境整備 <input type="checkbox"/> 日本人学生のためのKAIST学内寮環境整備 <input type="checkbox"/> 留学前と留学中のサポート体制の取組と成果 <input type="checkbox"/> 双方の大学の教員による「KAIST-Tokyo Tech Joint Workshop」の実施	

(大学名：東京工業大学) (タイプ：A-①)

様式 7

交流プログラムを実施する相手大学について 【ページ数については、相手大学ごとに①、②合わせて1ページ以内】 交流プログラムを実施する相手大学に関して、 ①については、交流プログラムの内容や交流期間など、相手大学との交流実績が分かるように記入してください。 (本事業における交流プログラムとの関連性や現在の交流の有無は問いません。) なお、交流実績が無い場合は、交流実績が無くとも本事業が実施できると判断した理由及び背景等を説明してください。 ②については、相手大学との交流プログラム実施に向けた準備状況について具体的に分かりやすく記入してください。 また、交流を実施するまでの具体的なスケジュールについても記入してください。	
相手大学名 (国名)	清華大学 (中国)
① 交流実績（交流の背景） <input type="checkbox"/> 交流プログラムを実施する相手大学との交流実績を有しているか。	
<p>清華大学との間では、1985年に学術交流協定を締結された。2004年9月には、「東京工業大学-清華大学院合同プログラム」を開設した。2004年9月にナノテクノロジーコース、バイオコース修士課程、2006年9月に社会理工学コース修士課程が開設されている。本プログラムの修士課程では、双方の大学院修士課程に入学した学生に対し双方の大学で共同指導を行い、相手大学で教育・研究活動を一定期間行うことで、両大学からそれぞれ修士の学位を取得するダブル・ディグリー・プログラムである。これまでにおよそ70名の学生が修了している。</p> <p>さらに、アジア理工系トップ大学によるコンソーシアムであるASPIRE (Asian Science and Technology Pioneering Institutes of Research and Education) リーグの活動として、本学の主導で、2011年度から、ASPIREリーグ5大学間の共同研究促進のため、「東京工業大学ASPIREリーグ研究グランツ」(研究助成事業)を開始し、2015年度までに17件の共同研究を支援するとともに、採択された研究室に合計15のサテライト・ラボを設置した。本学は全ての共同研究に参加しており、清華大学は12件の共同研究に参加している。</p> <p>また、本学はAEARU (The Association of East Asian Research Universities)に加盟しており、AEARU加盟大学がそれぞれ実施する総会、ワークショップ、学生サマーキャンプ、国際シンポジウム等において学生・教職員交流を行っている。2016年には、本学でワークショップの開催を予定しており、ASPIREグランツで共同研究を行っている清華大学の教員の参加が見込まれる。</p> <p>2011年度に採択された本事業では、2015年度までの5年間で39名の学生を清華大学から受け入れ、27名の本学学生を派遣した。</p>	
② 交流に向けた準備状況 <input type="checkbox"/> 交流プログラムの実施に向けた相手大学との準備（大学ごとの役割・実施体制の明確化など）が十分なされているか。	
<input type="checkbox"/> 教育内容に関する情報共有と質の保証を実現するガイドライン「Joint Implementation Guidelines」の策定、質を保証した成績管理と単位互換の実施 <input type="checkbox"/> 双方の大学の教員による共同指導体制の確立 <input type="checkbox"/> 派遣と受け入れの両大学教員が確認する修学・研究計画書／記録報告書である「Study and Research Plan/Record」と「秘密保持契約書」の導入 <input type="checkbox"/> 合同運営委員会 (Joint Committee) と国際評価パネル・アドバイザリーボードの実施 <input type="checkbox"/> 清華大学の教員を招聘し、日本に留学する中国人留学生に対してキャリア教育の実施 <input type="checkbox"/> 清華大学学生の受け入れのための環境整備 <input type="checkbox"/> 日本人学生のための清華大学学内寮環境整備 <input type="checkbox"/> 留学前と留学中のサポート体制の取組と成果	

(大学名：東京工業大学) (タイプ：A-①)

様式 8**本事業の実施計画** 【①は1ページ以内、②、③は合わせて2ページ以内】

事業全体の「①年度別実施計画」、「②補助期間終了後の事業展開」及び「③補助期間終了後の事業展開に向けた資金計画」について、具体的に分かりやすく記入してください。

① 年度別実施計画**【平成28年度（申請時の準備状況も記載】**

- 新規合同運営委員会（Joint Committee）の開催
- 今までのサマープログラムの経験に基づく、学部生「授業中心型教育」と大学院生「研究重視型教育」の交流プログラムの構築
- 今までのキャリア教育を強化した、先進科学技術系「21世紀型スキル」教育プログラムの構築
- ダブルディグリーの分野拡大の可能性調査
- 合同運営委員会（Joint Committee）に修了学生の同窓部会を設置

【平成29年度】

- 学部生「授業中心型教育」と大学院生「研究重視型教育」の交流プログラムの実施
- 先進科学技術系「21世紀型スキル」教育プログラムの実施
- ダブルディグリーの分野拡大とジョイントディグリーに向けた可能性調査
- 合同運営委員会（Joint Committee）と同窓部会の実施
- 国際評価パネル・アドバイザリボードの実施と産業界との連携可能性調査

【平成30年度】

- 学部生「授業中心型教育」と大学院生「研究重視型教育」の交流プログラムの実施
- 先進科学技術系「21世紀型スキル」教育プログラムの実施
- ダブルディグリーの新分野設置とジョイントディグリーに向けた可能性調査

【平成31年度】

- 学部生「授業中心型教育」と大学院生「研究重視型教育」の交流プログラムの実施
- 先進科学技術系「21世紀型スキル」教育プログラムの実施
- ダブルディグリーの実施とジョイントディグリーの実施にむけたパイロットプログラム構築
- 国際評価パネル・アドバイザリボードの実施

【平成32年度】

- 学部生「授業中心型教育」と大学院生「研究重視型教育」の交流プログラムの実施
- 先進科学技術系「21世紀型スキル」教育プログラムの実施
- ジョイントディグリーの実施にむけたパイロットプログラムの開始
- 国際ワークショップの開催

様式 8**② 補助期間終了後の事業展開**

○質の保証を担保した、日中韓の他大学、ASEAN諸国の大大学への事業展開

本補助期間終了後は、継続して、自立した交流プログラムへと展開することを予定している。

特に、理工系分野における、質の保証と単位互換、ダブルディグリー、ジョイントディグリーの標準化を基本に、日中韓の他大学への展開、さらにはASEAN諸国の大大学への事業展開を推進する。

○「世界最高水準の理工系大学ネットワーク」の強化

本学の将来構想の中に、大学の国際化戦略として「世界最高水準の理工系大学ネットワーク」の構築があり、キャンパスアジアはその実現に向けた取組みの重要なプログラムの一つと位置づけられている。本学と、清華大学、KAISTの日中韓キャンパスアジア3大学に加えて、香港科学技術大学とシンガポール南洋理工大学の5大学で形成した ASPIRE (Asian Science and Technology Pioneering Institutes of Research and Education) リーグを基軸に、ヨーロッパの主要理工系大学コンソーシアムである IDEA リーグと米国のトップクラスの理工系大学などと、リーグ間の交流事業を企画し、キャンパスアジアを世界最高水準の理工系大学のネットワークをアジアで結ぶハブ機能へと強化する。

○キャンパスアジアの情報発信 web サイトの強化

TKT キャンパスアジアにて構築した、キャンパスアジアの全プログラムの最新情報を1ステップで集約する情報発信 web サイトである CAMPUS Asia Research Review を強化し、ニュース性のある編集を行うことで、参加する教職員の活動の「見える化」とアジアの研究と教育の最新の情報発信力を推進する。

○他大学の学生との交流、理工系と文系が融合する「21世紀型スキル」合同事業の強化

本学は、今までにキャンパスアジアの理工系3プログラムに参加する12大学の学生交流を推進するために、3プログラム合同のスペシャルレクチャー「Technology of Tomorrow」などを主催してきた。その試みは、1つのプログラムの中に留まることなく、他のプログラムの学生や教員との交流、ならびに成果の普及と共有から、さらなる相乗効果が期待され、本補助期間終了後は、例えば「21世紀型スキル」のような、理工系と文系が融合する合同事業を推進し、広い視野を持つグローバル人材の育成を他大学の教職員と連携して強化推進する。

③ 補助期間終了後の事業展開に向けた資金計画**○自立した交流プログラムに向けて、大学基金や企業からの連携支援による事業展開**

大学基金等からの経費を用いて、プログラムを維持し、自立した交流プログラムへの展開に務めると共に、企業からの連携支援による事業展開を考える。

平成27年度まで実施された、TKT キャンパスアジアの国際評価パネル・アドバイザリボードでも、産業界との連携、並びに支援が提案されてきた。今までに、サマープログラムなどで、企業からの講師を招き集中講義やアカデミックツアーや開催して来たが、さらにインターンシップなどの連携事業を強化すると共に、資金面での支援を企業にお願いすることは、自立したプログラムとして運営していく上で、重要な展開と思われる。その企業は、日本国内に限らず、韓国や中国の企業も視野に入れている。

○学生参加必要経費の有料化

海外のサマースクールなど、短期留学プログラムは、参加学生の必要経費が有料で実施されているものが多い。本事業でも、授業料免除対象校の学生に対しても、宿泊費他、滞在中の必要経費については有料化して実施することを考えている。

様式9

補助期間における各経費の明細(年度ごとにページ)

○ 資金計画が、経費や規模の面で合理的であるか。

(単位:千円)				
記載例: 教材印刷費 ○○○千円 ○○前×○○○円 ○○人×○○○円				
補助金申請ができる経費は、当該事業の遂行に必要な経費であり、本プログラムの目的である大学の世界展開力強化のための使途に限定されます。(平成28年度大学の世界展開力強化事業公募要領参照。) 【年度ごとに1ページ】				
<平成28年度> 経費区分				
補助金申請額 (①)	大学負担額 (②)	事業規模 (①+②)	備考	
【物品費】	790	0	790	
①設備備品費	0	0	0	
・	0	0	0	
・	0	0	0	
②消耗品費	790	0	790	様式 2 ①②、 4 ②
・ 教育用品等	790	0	790	
・	0	0	0	
【人件費・謝金】	5,100	0	5,100	
①人件費	4,900	0	4,900	
・ コーディネーター (年500万) 10~3月	2,500	2,500	5,000	様式 3 ①②③、 4 ②
・ 事務補佐員 (年240万×1人) 10~3月	1,200	1,200	2,400	様式 3 ①②③、 4 ②
・ 事務補佐員 (年240万×1人) 10~3月	1,200	1,200	2,400	様式 3 ①②③、 4 ②
②謝金	200	0	200	
・ チューター (月10000円×4ヶ月×5人)	200	0	200	様式 3 ①
・	0	0	0	
【旅費】	4,100	0	4,100	
・ 外国旅費 (教職員出張@15万×14回)	2,100	2,100	4,200	様式 2 ①②
・ 外国人招聘旅費 (15万×10回)	1,500	1,500	3,000	様式 2 ①②、 4 ③
・ 教職員国内出張 (@50,000円×10回)	500	500	500	様式 4 ①④
・	0	0	0	
【その他】	10,010	0	10,010	
①外注費	6,050	0	6,050	
・ HP開設、広報媒体	5,500	5,500	11,000	様式 3 ①②③、 4 ④
・ サーバー保守、セキュリティ対策 (9~3月)	500	500	1,000	様式 3 ①②、 4 ④
・ 空港ピックアップサービス	50	50	100	会議等開催関連 (テープ起こし等)
②印刷製本費	1,500	0	1,500	空港ピックアップサービス
・ パンフレット作成	1,500	1,500	100	バス借り上げ
・	0	0	0	②印刷製本費
③会議費	30	0	30	・ パンフレット作成
・ 会議費	30	30	400	400
・	0	0	0	0
④通信運搬費	50	0	50	0
・ 郵便代、データ通信料 (海外出張時)	50	50	0	0
・	0	0	0	0
⑤光熱水料	0	0	0	0
・	0	0	0	0
・	0	0	0	0
⑥その他(諸経費)	2,380	0	2,380	0
・ 派遣学生航空券 (80,000円×5人)	400	400	240	様式 2 ①
・ 受入学生宿舎借り上げ (月85000円×4ヶ月×5人)	1,700	1,700	800	様式 3 ②
・ 受入学生宿舎管理費 (30000円×5室)	150	150	2,550	様式 3 ①
・ 派遣学生TOEIC受験料 (5725×5人)	30	30	300	様式 3 ①
・ コピー機レンタル	100	100	60	60
・	0	0	100	100
平成28年度	合計	20,000	0	20,000

(大学名: 東京工業大学) (タイプ:A-①)

様式9

(単位:千円)

(前ページの続き)

<平成29年度> 経費区分	補助金申請額 (①)	大学負担額 (②)	事業規模 (①+②)	備考
【物品費】	835	0	835	
①設備備品費	0	0	0	
・	0	0	0	
・	0	0	0	
②消耗品費	835	0	835	様式 2 ①②、 4 ②
・ 教育用品等	835	835	0	
・	0	0	0	
【人件費・謝金】	8,515	0	8,515	
①人件費	7,900	0	7,900	
・ コーディネーター (@年500万×1人)	5,000	5,000	5,000	様式 3 ①②③、 4 ②
・ 事務補佐員 (@年240万×1人)	2,400	2,400	2,400	様式 3 ①②③、 4 ②
・ 非常勤講師 (日本語)	500	500	500	様式 3 ①
②謝金	615	0	615	
・ チューター (月10000円×3月×10人)	300	300	300	様式 3 ①
・ 招聘教員謝金 (30000円×9人、 45000円×1人)	315	315	315	様式 3 ①、 4 ③
・	0	0	0	
【旅費】	3,900	0	3,900	
・ 外国旅費 (教職員出張@15万×12回)	1,800	1,800	1,800	様式 2 ①②
・ 外国人招聘旅費 (15万×6回、 評価パネル100万×1回)	1,900	1,900	1,900	様式 2 ①②、 4 ③
・ 教職員国内出張 (@50,000円×4回)	200	200	200	様式 4 ①④
・	0	0	0	
【その他】	6,750	0	6,750	
①外注費	2,240	0	2,240	
・ サーバー保守、セキュリティ対策 (4~3月)	960	960	960	様式 3 ①②、 4 ④
・ ホームページ更新	1,000	1,000	1,000	様式 3 ①②③、 4 ④
・ 会議等開催関連 (テープ起こし等)	100	100	100	様式 4 ③
・ 空港ピックアップサービス	80	80	80	様式 3 ①
・ バス借り上げ	100	100	100	様式 3 ①
②印刷製本費	400	0	400	
・ パンフレット作成	400	400	400	様式 3 ②、 4 ④
・	0	0	0	
③会議費	30	0	30	
・ 水、お弁当等	30	30	30	様式 2 ①、 4 ③
・	0	0	0	
④通信運搬費	30	0	30	
・ 郵便代、データ通信料 (海外出張時)	30	30	30	様式 2 ①②③
・	0	0	0	
⑤光熱水料	0	0	0	
・	0	0	0	
・	0	0	0	
⑥その他(諸経費)	4,050	0	4,050	
・ 教員の英語強化費用 (@6000円×2H×10回) ×2組	240	240	240	様式 2 ①
・ 派遣学生航空券 (80,000円×10人)	800	800	800	様式 3 ②
・ 受入学生宿舎借り上げ (月85000円×3ヶ月×10人)	2,550	2,550	2,550	様式 3 ①
・ 受入学生宿舎管理費 (30000円×10室)	300	300	300	様式 3 ①
・ 派遣学生TOEIC受験料 (5725×10人)	60	60	60	様式 3 ②
・ コピー機レンタル	100	100	100	様式 4 ②
・	0	0	0	
平成29年度	合計	20,000	0	20,000

(大学名: 東京工業大学) (タイプ:A-①)

様式9

(前ページの続き)

(単位:千円)

経費区分	補助金申請額 (①)	大学負担額 (②)	事業規模 (①+②)	備考
【物品費】				
①設備備品費	200	0	200	
・	0	0	0	
・	0	0	0	
・	0	0	0	
②消耗品費	200	0	200	
・教育用品等	200	200	200	様式2①②、4②
・	0	0	0	
・	0	0	0	
【人件費・謝金】				
①人件費	8,440	0	8,440	
・コーディネーター (@年500万×1人)	7,900	0	7,900	
5,000		5,000		様式3①②③、4②
・事務補佐員 (@年240万×1人)	2,400		2,400	様式3①②③、4②
・非常勤講師 (日本語)	500		500	様式3①
②謝金	540	0	540	
・チューーター (月10000円×6月×10人)	300		300	様式3①
・招聘教員謝金 (30000円×9人)	240		240	様式3①
・	0	0	0	
【旅費】				
・外国旅費 (教職員出張@15万×10回)	2,800	0	2,800	
・外国人招聘旅費 (@15万×8回)	1,500		1,500	様式2①②
・教職員国内出張 (@50,000円×2回)	1,200		1,200	様式2①②、4③
100		100		様式4①④
・	0	0	0	
・	0	0	0	
【その他】				
①外注費	6,560	0	6,560	
・サーバー保守、セキュリティ対策 (4~3月)	1,970	0	1,970	
960		960		様式3①②、4④
・ホームページ更新	760		760	様式3①②③、4④
70		70		様式4③
・会議等開催関連 (テープ起こし等)	80		80	様式3①
・空港ピックアップサービス	100		100	様式3①
・バス借り上げ	600	0	600	
・実績報告書 (中間) 作成	600		600	様式3②、4④
・	0	0	0	
③会議費	30	0	30	
・水、お弁当等	30		30	様式2①
・	0	0	0	
④通信運搬費	30	0	30	
・郵便代、データ通信料 (海外出張時)	30		30	様式2①②③
・	0	0	0	
⑤光熱水料	0	0	0	
・	0	0	0	
・	0	0	0	
・	0	0	0	
⑥その他(諸経費)	3,930	0	3,930	
・教員の英語強化費用 (@6000円×2H×10回) ×1組	120		120	様式2①
・派遣学生航空券 (80,000円×10人)	800		800	様式3②
・受入学生宿舎借り上げ (月85000円×3ヶ月×10人)	2,550		2,550	様式3①
・受入学生宿舎管理費 (30000円×10室)	300		300	様式3①
・派遣学生TOEIC受験料 (5725×10人)	60		60	様式3②、4③
・コピー機レンタル	100		100	様式4②
平成30年度	合計	18,000	0	18,000

様式9

(前ページの続き)

(単位:千円)

経費区分	補助金申請額 (①)	大学負担額 (②)	事業規模 (①+②)	備考
【物品費】				
①設備備品費	245	0	245	
・	0	0	0	
・	0	0	0	
・	0	0	0	
②消耗品費	245	0	245	
・教育用品等	245	245	245	様式2①②、4②
・	0	0	0	
・	0	0	0	
【人件費・謝金】				
①人件費	8,515	0	8,515	
・コーディネーター (@年500万×1人)	7,900	0	7,900	
5,000		5,000		様式3①②③、4②
・事務補佐員 (@年240万×1人)	2,400		2,400	様式3①②③、4②
・非常勤講師 (日本語)	500		500	様式3①
②謝金	615	0	615	
・チューーター (月10000円×3月×10人)	300		300	様式3①
・招聘教員謝金 (30000円×9人、45000円×1人)	315		315	様式3①、4③
・	0	0	0	
【旅費】				
・外国旅費 (教職員出張@15万×7回)	2,050	700	2,750	
450		600	1,050	様式2①②
・外国人招聘旅費 (15万×4回、評価パネル100万×1回)	1,600	0	1,600	様式2①②、4③
・教職員国内出張 (@50,000円×2回)	0	100	100	様式4①④
・	0	0	0	
【その他】				
①外注費	5,390	120	5,510	
・サーバー保守、セキュリティ対策 (4~3月)	1,440	0	1,440	
960		960		様式3①②、4④
・ホームページ更新	200		200	様式3①②③、4④
70		70		様式4③
・会議等開催関連 (テープ起こし等)	80		80	様式3①
・空港ピックアップサービス	100		100	様式3①
・バス借り上げ	80	0	80	
・パンフレット作成	80		80	様式3②、4④
・	0	0	0	
③会議費	30	0	30	
・水、お弁当等	30		30	様式2①、4③
・	0	0	0	
④通信運搬費	30	0	30	
・郵便代、データ通信料 (海外出張時)	30		30	様式2①②③
・	0	0	0	
⑤光熱水料	0	0	0	
・	0	0	0	
・	0	0	0	
⑥その他(諸経費)	3,810	120	3,930	
・教員の英語強化費用 (@6000円×2H×10回) ×1組	0	120	120	様式2①
・派遣学生航空券 (80,000円×10人)	800		800	様式3②
・受入学生宿舎借り上げ (月85000円×3ヶ月×10人)	2,550		2,550	様式3①
・受入学生宿舎管理費 (30000円×10室)	300		300	様式3①
・派遣学生TOEIC受験料 (5725×10人)	60		60	様式3②、4③
・コピー機レンタル	100		100	様式4②
平成31年度	合計	16,200	820	17,020

(大学名: 東京工業大学)(タイプ:A-①)

(大学名: 東京工業大学)(タイプ:A-①)

様式9

(単位:千円)

(前ページの続き)

経費区分	補助金申請額 (①)	大学負担額 (②)	事業規模 (①+②)	備考
【物品費】	100	0	100	
①設備備品費	0	0	0	
・			0	
・			0	
・			0	
②消耗品費	100	0	100	
・教育用品等	100		100	様式2 ①②、4②
・			0	
・			0	
【人件費・謝金】	7,760	500	8,260	
①人件費	7,400	500	7,900	
・コーディネーター (@年500万×1人)	5,000		5,000	様式3 ①②③、4②
・事務補佐員 (@年240万×1人)	2,400		2,400	様式3 ①②③、4②
・非常勤講師 (日本語)	0	500	500	様式3 ①
②謝金	360	0	360	
・チューーター (月10000円×3月×10人)	300		300	様式3 ①
・招聘教員謝金 (30000円×2人)	60	0	60	様式3 ①、4③
・			0	
【旅費】	900	1,100	2,000	
・外国旅費 (教職員出張@15万円×7回)	0	1,050	1,050	様式2 ①②
・外国人招聘旅費 (15万×2回、W\$15万×4人)	900		900	様式2 ①②、4③
・教職員国内出張 (@50,000円×1回)	0	50	50	様式4 ①④
・			0	
【その他】	5,820	120	5,940	
①外注費	1,510	0	1,510	
・サーバー保守、セキュリティ対策 (4~3月)	960		960	様式3 ①②、4④
・ホームページ更新	350		350	様式3 ①②③、4④
・会議等開催関連 (テープ起こし等)	100		100	様式4 ③
・空港ピックアップサービス	0	80	80	様式3 ①
・バス借り上げ	100		100	様式3 ①
②印刷製本費	440	0	440	
・事業報告書作成	440		440	様式4 ③
・			0	
③会議費	30	0	30	
・水、お弁当等	30		30	様式2 ①、4③
・			0	
④通信運搬費	30	0	30	
・郵便代、データ通信料 (海外出張時)	30		30	様式2 ①②③
・			0	
⑤光熱水料	0	0	0	
・			0	
⑥その他(諸経費)	3,810	120	3,930	
・教員の英語強化費用 (@6000円×2H×10回) ×1組	0	120	120	様式2 ①
・派遣学生航空券 (80,000円×10人)	800		800	様式3 ②
・受入学生宿舎借り上げ (月85000円×3ヵ月×10人)	2,550		2,550	様式3 ①
・受入学生宿舎管理費 (30000円×10室)	300		300	様式3 ①
・派遣学生TOEIC受験料 (5725×10人)	60		60	様式3 ②、4③
・コピー機レンタル	100		100	様式4 ②
・			0	
平成32年度	合計	14,580	1,720	16,300

(大学名: 東京工業大学)(タイプ:A-①)

様式10

交流プログラムを実施する相手大学の概要【相手大学数に応じたページ数(枠内に記入)】			
大学名稱	清華大学 Tsinghua University	国名	中国
設置形態	国立	設置年	1911
設置者(学長等)	Chen Jining		
学部等の構成	Academy of Arts and Design, School of Aerospace, School of Architecture, School of Civil Engineering, School of Economics and Management, School of Environment, School of Humanities and Social Sciences, School of Information Science and Technology, School of Journalism and Communication, School of Law, School of Life Sciences, School of Marxism, School of Mechanical Engineering, School of Medicine, School of Public Policy & Management, School of Sciences, Department of Chemical Engineering, Department of Electrical Engineering, Department of Engineering Physics, Department of Materials Science and Engineering, Institute for Advanced Study, Institute of Education, Institute for Interdisciplinary Information Sciences, Institute of Nuclear and New Energy Technology, Zhou Peiyuan Center for Applied Mathematics, Department of Physical Education, School of Continuing Education		
学生数	総数 46,200人	学部生数 15,636人	大学院生数 30,564人
受け入れている留学生数		日本からの留学生数	
海外への派遣学生数		日本への派遣学生数	
Webサイト(URL)	http://www.tsinghua.edu.cn/publish/newthuen/index.html		
大学名稱	韓国科学技術院 Korea Advanced Institute of Science and Technology (KAIST)	国名	韓国
設置形態	国立	設置年	1971
設置者(学長等)	Kang Sung-mo		
学部等の構成	College of Natural Science, College of Life Science & Bioengineering, College of Engineering, College of Cultural Science, College of Information Science & Technology, College of Business, School of Innovation		
学生数	総数 10,806人	学部生数 3,965人	大学院生数 6,841人
受け入れている留学生数		日本からの留学生数	
海外への派遣学生数		日本への派遣学生数	
Webサイト(URL)	http://www.kaist.ac.kr/html/en/		

(大学名: 東京工業大学)(タイプ:A-①)

様式11

参考データ【国内の大学1校につき、①～③は枠内に記入、④及び⑤はそれぞれ2ページ以内】 ※人數等の算定に当たっては、原則として「学校基本調査」による定義に基づいて記入してください。																																																															
大学名	東京工業大学																																																														
①大学全体における出身国別の留学生の受入総数(平成27年5月1日現在) 及び各出身国(地域)別の平成27年度の留学生受入人数																																																															
※ここでの「留学生」とは、「出入国管理及び難民認定法」別表1に定める「留学」の在留資格を有する者に限ります。 ※平成27年度の留学生受入人数は、平成27年4月1日～平成28年3月31日の出身国(地域)別受入人数を記入してください。 ※ここでの「全学生数」とは、日本人学生及び外国人留学生を含めた大学全体の平成27年5月1日現在の在籍者数を記入してください。																																																															
<table border="1"> <thead> <tr> <th>順位</th> <th>出身国(地域)</th> <th>受入総数</th> <th>平成27年度受入人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>中国</td><td>497</td><td>192</td></tr> <tr><td>2</td><td>タイ</td><td>118</td><td>53</td></tr> <tr><td>3</td><td>韓国</td><td>111</td><td>51</td></tr> <tr><td>4</td><td>インドネシア</td><td>104</td><td>69</td></tr> <tr><td>5</td><td>マレーシア</td><td>51</td><td>15</td></tr> <tr><td>6</td><td>ベトナム</td><td>37</td><td>21</td></tr> <tr><td>7</td><td>台湾</td><td>26</td><td>25</td></tr> <tr><td>8</td><td>フィリピン</td><td>19</td><td>12</td></tr> <tr><td>9</td><td>アメリカ</td><td>15</td><td>21</td></tr> <tr><td>10</td><td>スウェーデン</td><td>13</td><td>12</td></tr> <tr> <td>その他 (上記10カ国以外)</td><td>ドイツ・パングラディ (主な国名) シン・トルコ・インド・ブルジル・モンゴル</td><td>232</td><td>173</td></tr> <tr> <td colspan="2">留学生の受入人数の合計</td><td>1223</td><td>644</td></tr> <tr> <td colspan="2">全学生数</td><td>10108</td><td></td></tr> <tr> <td colspan="2">留学生比率</td><td>12.1%</td><td></td></tr> </tbody> </table>				順位	出身国(地域)	受入総数	平成27年度受入人数	1	中国	497	192	2	タイ	118	53	3	韓国	111	51	4	インドネシア	104	69	5	マレーシア	51	15	6	ベトナム	37	21	7	台湾	26	25	8	フィリピン	19	12	9	アメリカ	15	21	10	スウェーデン	13	12	その他 (上記10カ国以外)	ドイツ・パングラディ (主な国名) シン・トルコ・インド・ブルジル・モンゴル	232	173	留学生の受入人数の合計		1223	644	全学生数		10108		留学生比率		12.1%	
順位	出身国(地域)	受入総数	平成27年度受入人数																																																												
1	中国	497	192																																																												
2	タイ	118	53																																																												
3	韓国	111	51																																																												
4	インドネシア	104	69																																																												
5	マレーシア	51	15																																																												
6	ベトナム	37	21																																																												
7	台湾	26	25																																																												
8	フィリピン	19	12																																																												
9	アメリカ	15	21																																																												
10	スウェーデン	13	12																																																												
その他 (上記10カ国以外)	ドイツ・パングラディ (主な国名) シン・トルコ・インド・ブルジル・モンゴル	232	173																																																												
留学生の受入人数の合計		1223	644																																																												
全学生数		10108																																																													
留学生比率		12.1%																																																													
②平成27年度中に留学した日本人学生数及び派遣先大学合計校数																																																															
※教育又は研究等を目的として、平成27年度中(平成27年4月1日から平成28年3月31日まで)に海外の大学等(海外に所在する日本の大学等の分校は除く。)に留学した日本人学生について記入してください。 なお、平成27年3月31日以前から継続して留学している者は含みません。																																																															
<table border="1"> <thead> <tr> <th>順位</th> <th>派遣先大学の所在国(地域)</th> <th>派遣先大学名</th> <th>平成27年度派遣人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>シンガポール</td><td>南洋理工大学</td><td>45</td></tr> <tr><td>2</td><td>イギリス</td><td>インペリアル・カレッジ・ロンドン</td><td>25</td></tr> <tr><td>3</td><td>オーストラリア</td><td>モナシュカレッジ</td><td>24</td></tr> <tr><td>4</td><td>イギリス</td><td>オックスフォード大学</td><td>16</td></tr> <tr><td>5</td><td>アメリカ</td><td>ワシントン大学</td><td>16</td></tr> <tr><td>6</td><td>フィリピン</td><td>デ・ラサール大学</td><td>15</td></tr> <tr><td>7</td><td>イギリス</td><td>ヨーク大学</td><td>14</td></tr> <tr><td>8</td><td>韓国</td><td>韓国科学技術院 (KAIST)</td><td>13</td></tr> <tr><td>9</td><td>ドイツ</td><td>アーヘン工科大学</td><td>13</td></tr> <tr><td>10</td><td>アメリカ</td><td>スタンフォード大学</td><td>13</td></tr> <tr> <td>その他 (上記10校以外)</td><td>中国 (主な国名)</td><td>清華大学 (主な大学名)</td><td>246</td></tr> <tr> <td>計 (上記10校以外)</td><td>25</td><td>力国 計 校</td><td>79</td></tr> <tr> <td colspan="2">派遣先大学合計校数</td><td>89</td><td></td></tr> <tr> <td colspan="2">派遣人数の合計</td><td>440</td><td></td></tr> </tbody> </table>				順位	派遣先大学の所在国(地域)	派遣先大学名	平成27年度派遣人数	1	シンガポール	南洋理工大学	45	2	イギリス	インペリアル・カレッジ・ロンドン	25	3	オーストラリア	モナシュカレッジ	24	4	イギリス	オックスフォード大学	16	5	アメリカ	ワシントン大学	16	6	フィリピン	デ・ラサール大学	15	7	イギリス	ヨーク大学	14	8	韓国	韓国科学技術院 (KAIST)	13	9	ドイツ	アーヘン工科大学	13	10	アメリカ	スタンフォード大学	13	その他 (上記10校以外)	中国 (主な国名)	清華大学 (主な大学名)	246	計 (上記10校以外)	25	力国 計 校	79	派遣先大学合計校数		89		派遣人数の合計		440	
順位	派遣先大学の所在国(地域)	派遣先大学名	平成27年度派遣人数																																																												
1	シンガポール	南洋理工大学	45																																																												
2	イギリス	インペリアル・カレッジ・ロンドン	25																																																												
3	オーストラリア	モナシュカレッジ	24																																																												
4	イギリス	オックスフォード大学	16																																																												
5	アメリカ	ワシントン大学	16																																																												
6	フィリピン	デ・ラサール大学	15																																																												
7	イギリス	ヨーク大学	14																																																												
8	韓国	韓国科学技術院 (KAIST)	13																																																												
9	ドイツ	アーヘン工科大学	13																																																												
10	アメリカ	スタンフォード大学	13																																																												
その他 (上記10校以外)	中国 (主な国名)	清華大学 (主な大学名)	246																																																												
計 (上記10校以外)	25	力国 計 校	79																																																												
派遣先大学合計校数		89																																																													
派遣人数の合計		440																																																													

(大学名: 東京工業大学)(タイプ:A-①)

様式11

大学等名	東京工業大学										
③大学全体における外国人教員数(兼務者を含む)(平成27年5月1日現在)											
※「全教員数」には大学に在籍する日本人教員も含めた全教員数を記入してください。											
※「うち専任教員(本務者)数」には教授、准教授、講師、助教、助手の専任教員の数をそれぞれ記入してください。(いずれにも当てはまらない場合には、「助手」に含めてください。)											
全教員数	外国人教員数				外国人教員の比率						
	教授	准教授	講師	助教	助手	合計					
2038	24	29	3	42	27	125	6%				
うち専任教員 (本務者)数	5	11	1	17	0	34					

(大学名: 東京工業大学)(タイプ:A-①)

樣式11

樣式1

出典： 東京工業大学-清華大学大学院合同プログラム協定書

(資料4) 東京工業大学-KAIST ダブルディグリー

<p style="text-align: center;">Agreement on Double Degree Program on Mechanical Engineering between Korea Advanced Institute of Science and Technology Department of Mechanical Engineering and Polytechnic Institute of Technology Graduate School of Science and Engineering Mechanical Engineering Department Department of Mechanical and Control Systems Engineering, and Department of Materials and Components in Growing</p>	<p style="text-align: right;">Signature For Korea Institute of Technology Date 2010. 7. 15  Tae-Hwan Chang, Ph.D. Executive Vice President for Education and International Affairs  Hyeon-Ju Kim, Ph.D. Professor, M.S. Office Graduate School of Science and Engineering Signature For Korea Advanced Institute of Science and Technology Date 2010. 7. 15  Ji-Hwan Kim, Ph.D. President  Seung-Jae Lee, Ph.D. Professor, Chairperson Graduate School of Science and Engineering </p>
---	---

出典： 東京工業大学-KAIST ダブルディグリー 協定書

(資料5) ASPIREリーク

出典： ASPIREリーグ協定書

(創設時の名称は「Consortium of the World Leading Technical Universities in Asia」)

(大学名: 東京工業大学)(タイプ:A-①)

様式11

大学名	東京工業大学
⑤他の公的資金との重複状況【2ページ以内】	
<p>※当該申請大学等において、今回申請している内容以外に、文部科学省が行っている大学改革推進等補助金、国際化拠点整備事業費補助金、研究拠点形成費等補助金等又は独立行政法人日本学術振興会が行っている国際交流事業の補助金等による経費措置を受けている取組がある場合、また、現在申請を予定している取組（大学教育再生加速プログラム等）がある場合は、それらの事業名称及び取組内容について、1事業につき3～4程度を目安に記入してください。その中で、今回の申請内容と類似しているものがある場合には、その相違点についても言及してください。</p> <p>また、独立行政法人日本学生支援機構平成28年度海外留学支援制度（協定派遣・協定受入）に採択されたプログラムがある場合には、本事業の申請内容との関連について必ず明記してください。</p>	
<p>【国際化拠点整備事業費補助金】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学の世界展開力強化事業 <ul style="list-style-type: none"> ①～海外との戦略的高等教育連携支援～ ICI-ECPプロジェクト（平成26年度） 「東京電力福島第一原子力発電所事故後の原子力に関する教育と訓練における欧州・日本交換プロジェクト（EUJEP2）」 原子力に関する高等教育や訓練を、欧州と日本の複数の高等教育機関間の交換留学やインターンシップによって、修士レベルで行う学生交流プログラムである。 ②～中南米等との大学間交流形成支援～（平成27年度） 「エネルギー・システムと都市のレジリエンス工学日土協創教育プログラム」 ・スーパーホーリー大学創成支援事業（タイプA：トップ型）（平成26年度） <ul style="list-style-type: none"> 「真の国際化のためのガバナンス改革によるTokyo Tech Qualityの深化と浸透」 「ガバナンス体制の改革」「国際的視野での教育システムの刷新」「国際的研究活動の刷新」という3つの取り組みを実施し、本学を起点として理工系分野における知と人材を世界的に環流させ、もつて、実を伴った質の高い教育研究、すなわち「Tokyo Tech Quality」の深化と世界への浸透を図る。 	
<p>【研究拠点形成費等補助金】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・博士課程教育リーディングプログラム <p>平成23年度</p> <ul style="list-style-type: none"> 「環境エネルギー協創教育院」 「情報生命博士教育院」 「グローバル原子力安全・セキュリティ・エージェント養成」 <p>平成24年度</p> <ul style="list-style-type: none"> 「グローバルリーダー教育院」 優秀な学生を俯瞰力と独創力を備え広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダーへと導くため、国内外の第一級の教員・学生を結集し、産・学・官の参画を得つつ、専門分野の枠を超えて博士課程前期・後期一貫した世界に通用する質の保証された学位プログラムを構築・展開する。 ・がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン 「次世代がん治療推進専門家養成プラン」 手術療法、放射線療法、化学療法その他のがん医療に携わるがん専門医療人を養成するプログラムである。 <p>【国際研究拠点形成促進事業費補助金】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界トップレベル研究拠点プログラム（WPI） 「地球生命研究拠点」 <p>地球惑星科学および生命科学分野の世界一線級の研究者を結集し、「生命の起源に関する研究は初期地球環境の研究と不可分である」というコンセプトのもと、地球、さらには地球・生命システムの起源と進化の解明に挑むプログラムである。</p> <p>【大学改革推進等補助金】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学改革推進事業 成長分野を支える情報技術人材の育成拠点の形成 <ul style="list-style-type: none"> 「分野・ 地域を越えた実践的情報教育協働NW」 最先端の情報技術を実践的に活用することができる人材育成を目指し、クラウドコンピューティング、セキュリティ、組込みシステム、ビジネスアプリケーションの4つの分野において、大学と産業界による全国的なネットワークを形成し、実践的な情報教育の普及・推進を図る。 <p>【独立行政法人日本学術振興会が実施する国際交流事業の補助金】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・戦略的国際研究交流推進事業費補助金 頭脳循環を加速する若手研究者戦略的海外派遣プログラム（日本学術振興会） 「脳は身体運動をどう表現しているか—計算論的脳身体イメージング」 世界水準の国際共同研究に携わる若手研究者を海外へ派遣し、様々な課題に挑戦する機会を提供する 	

様式11

るプログラムである。
○国立大学法人運営費交付金（機能強化経費（28年度新規採択事業））
既存の研究所等を改組・集約し、科学技術創成研究院を新たに設置する。その中に、「Tokyo Tech World Research Hub Initiative（WRHI）」を置き、世界から第一線級の研究者、研究グループを招へいすることなどを通じて、理工系分野における知と人材の世界的環流のハブとなり「真の国際化」を目指す。また、教員と学生による協働や学生間の能動的・自律的な学び合いの教育環境を構築し、相互の切磋琢磨により、世界トップレベルの教育力を培い、自律的・持続的に教育の質を向上させる。
【独立行政法人日本学生支援機構 平成28年度海外留学支援制度（協定派遣・協定受入）】
<ul style="list-style-type: none"> ・スーパーホーリー大学創成支援（トップ型）プログラム ・キャンパス・アジアプログラム ・東京工業大学・清華大学大学院合同プログラム ・授業料等不徴収協定に基づく派遣交換留学 ・TASTE（Tokyo Tech Abroad Short-Term Education）海外短期語学留学 ・TAIST-Tokyo Tech Student Exchange Program ・グローバル人材育成推進事業（特色型）プログラム ・工系3学院学生国際交流プログラム ・プロジェクト型の国際共同研究を駆動力とした実効的な国際性育成のプログラムの展開
上記のプログラムはいずれも、対象地域、派遣期間、対象とする学位レベル等の点において、本事業による取組と同一のものではなく、重複しない。（独立行政法人日本学生支援機構 平成28年度海外留学支援制度（協定派遣・協定受入）キャンパス・アジアプログラムを除く）

(大学名：東京工業大学)(タイプ:A-①)

(別添4) Attachment4

(Attached form)

Joint Application Form for the CAMPUS Asia

1. Project Title

Advanced TKT CAMPUS Asia Consortium (TKT: Tsinghua, KAIST, and Tokyo Tech)
* Specify Field of Exchange: All Fields of Science and Technology

2. Name of the Persons Responsible for the Project

Chinese University	Name of University	Tsinghua University (Tsinghua)	Division	Department of Chemical Engineering
	Name	Xin-Hui XING	Position	Professor and Vice Chair
	Affiliation	Institute of Biochemical Engineering	Address	Department of Chemical Engineering, Tsinghua University, Beijing 100084, P.R. China
	Tel.	+86-10-62794771(O)	Mobile	+86-13901324869
	E-mail	xhxing@tsinghua.edu.cn	FAX	+86-10-62770304
Japanese University	Name of University	Tokyo Institute of Technology (Tokyo Tech)	Division	Department of Chemical Science and Engineering
	Name	Masahiko HARA	Position	Professor
	Affiliation	School of Materials and Chemical Technology	Address	4259 G1-7 Nagatsuta, Midori-ku, Yokohama 226-8502, Japan
	Tel.	+81-3-5734-3026	Mobile	+81-90-5781-9734
	E-mail	ryu.jig@jim.titech.ac.jp	FAX	+81-3-5734-3677
Korean University	Name of University	Korea Advanced Institute of Science and Technology (KAIST)	Division	School of Computing and International Office
	Name	Sung Hyon MYAENG	Position	Professor and Associate Vice President, International Office
	Affiliation		Address	291 Daehak-ro, Yuseong-gu, Daejeon, Republic of Korea
	Tel.	+82-42-350-2115	Mobile	+82-10-5451-5446
	E-mail	irt@kaist.edu	FAX	+82-42-350-4930

*Please add columns for the consortium composed of more than three universities.

3. Project Summary (about 200 words)

* Describe the background, objective, academic field, number of exchange students, degree to be conferred, achievements, expected outcomes, etc.

*If this program is selected, this summary will be released along with a list of selected programs.

Since 2011, the TKT CAMPUS Asia Consortium has been run by three world-class universities which specialize in the fields of science and technology in East Asia: Tsinghua (China), KAIST (South Korea), and Tokyo Tech (Japan). The three universities have initiated various study-abroad exchange programs, which include double-degree programs, with quality assurance.

The objectives of the Advanced TKT CAMPUS Asia Consortium are 1) to strengthen research-oriented joint educational programs to promote student mobility and international collaborations, 2) to standardize a common understanding of establishing double and joint degree programs among the three countries, and 3) to foster future leaders in Asia and the global community who will possess 21 Century Skills for science and technology problem-solving. In addition, in order to encourage more creative and active involvement in the program, other activities involving industries and related organizations will be implemented, and students will be able to experience the latest technological innovations and build global human networks.

Every year, each university will on average send ten students on an exchange program and accept ten exchange students.

The programs are offered to advanced undergraduate students, master students and doctoral students, and the consortium will build a common understanding of establishing double and joint degree programs for selected areas of specialty.

4. Proposal *Length: No more than four pages.

1) Project Objective & Background

The objectives of the Advanced TKT CAMPUS Asia Consortium are: 1) to strengthen research-oriented joint educational programs to promote student mobility and international collaborations in leading state-of-the-art science and technology in Asia, and to motivate students to become globally oriented future leaders, 2) to standardize a common understanding of establishing double and joint degree programs and to enhance higher-quality education with quality assurance in Asia, and 3) to nurture participating students into becoming globally competitive human resources as well as to foster future leaders in Asia and the global community who will possess 21 Century Skills for science and technology problem-solving.

These programs have clear objectives to enhance the quality of education and research opportunities through their quality assurance system including credit recognition and joint supervision.

The Consortium will encourage setting up more advanced research-oriented educational programs including a joint degree program to promote international collaborations.

The program has the following background:

- (1) The three leading universities - Tsinghua, KAIST, and Tokyo Tech - all share the same values of excellence in research and education established in the original TKT CAMPUS Asia Consortium and therefore aim to create a synergistic effect in enhancing the quality of education and research;
- (2) Each university has their own quality assurance system, and established a new framework for reciprocal recognition of the other universities' quality assurance system in the TKT CAMPUS Asia Consortium, which contributed to enhancing the quality of educational exchange among universities in East Asian countries;
- (3) The three universities are not just leading universities in the East Asian region, but are globally competitive and have collaborated with top universities in other areas. The model of this trilateral exchange can be applied to the global collaboration among the world's top universities.

2) Content of the Exchange Program

- Academic field, number of exchange students, curriculum, degree to be conferred etc.

After previous implementation of such programs, a double degree program was established for selected areas of specialty between two universities upon mutual agreement, which can be extended to the joint degree in the Advanced TKT CAMPUS Asia Consortium. Each university will send the two other universities a total of 10 exchange students on average.

The curricula of (a) course-oriented studies with lab work including summer programs and (b) research-oriented joint educational programs will be developed by each university and a list of classes along with their syllabi and laboratories will be handed out in advance. A "Study and Research Plan" for each student will be introduced jointly by the supervisors of the member universities. A transcript and/or certificate will be given to participants, which may be recognized as credits necessary in attaining degrees from their home universities.

- Difference from existing domestic and overseas programs/curricula in the same field

The program is unique in that it places great emphasis on research and provides the guidance and collaboration of supervisors of the collaborating universities. The three universities established a Joint Committee for the TKT CAMPUS Asia Consortium under which they will continue to accumulate the best practices obtained through the programs and apply them to new advanced programs. Unlike other course-oriented studies with lab work (including summer programs), this provides lab research work experience for advanced undergraduate students, master students and doctoral students with a more

advanced structure than the so-called "Research Experiences for Undergraduates (REU)" offered at several world-class universities in the U.S. and Europe. For research programs aimed at double and joint degrees, this Advanced TKT CAMPUS Asia Consortium has a flexible structure enabling students to do research at a laboratory other than that of his/her home university and be supervised by both researchers from partner laboratories.

Moreover, in order to encourage more creative and active involvement in the program, other activities involving industries and related organizations, like a technical tour or a joint research project, will be implemented. Through these additions, students will be able to experience the latest technological innovations and build global human networks in organizations as well as in the educational field, as participation in these research programs will be beneficial to their future careers.

3) Expected Outcomes

- (1) To motivate students to become global future leaders with high problem-solving abilities, and to encourage them to develop a career.
- (2) To assist students in obtaining academic achievements with high global standards and to become globally competitive. Their achievements will be measured/reviewed by supervisors, and a follow-up survey will be conducted.
- (3) To enhance higher-quality education and international collaborations in Asia, 'best practices' of educational and joint research achievements among top universities will be accumulated.

4) Cooperative System and Roles of Participating Universities

- You may submit copy of 'Letter of Intent for Cooperation' etc.

The three universities are equal partners in implementing the program. The Vice Presidents or their equivalent representatives have signed a "Letter of Intent for Cooperation" in 2011 and have confirmed that they share the responsibility of the program implementation. (Attached: "Letter of Intent for Cooperation")

5) Framework for credit transfer, grading, degree conferral

The three universities have devised a credit system in which credits obtained at one university under this program will be recognized by the other universities. Furthermore, they have agreed to issue an "Study and Research Plan" for each student, which will be developed via consultation with supervisors at both home and host universities. The three universities also share a common understanding that each has its own quality assurance system, the standards of which are high. Although they have separate grading systems, they will each develop a formula to convert the other universities' grades to fit into and be recognized by their system. Together they will establish advanced research-oriented educational programs to develop mutually recognized curricula and credit systems, through which students may attain double and joint degrees.

6) Student Support (Tuition waivers, counseling, internships etc.)

Students participating in this program will be exempt from paying tuition. Each university will assign a counselor both for academic activities and daily life. The three universities will make every effort to ensure that participating students can be provided with accommodations free of charge or at a reasonable price.

7) Language Plan

The three universities have high standards of English language proficiency which the participants of the program are required to meet. Each university offers the necessary English language programs to satisfy their academic requirements. Students' progress and English skill levels will be evaluated after each program.

8) Monitoring & Evaluation / Feedback Plan

The three universities have established a Joint Committee and International Advisory Board for the TKT CAMPUS Asia Consortium which will monitor the implementation of the program. It will also evaluate the program and provide feedback to the three universities.

9) Publicity/Dissemination Plan

All information on this program will be posted on the university web pages. There will be two kinds of websites; an official main website as well as a local website, which are closely linked. The main website will post overall/general information on the program, and the local website, which is established by each university, provides more detailed information on classes and research projects offered in the program.

Furthermore, the Advanced TKT CAMPUS Asia Consortium will enhance and strengthen the CAMPUS Asia Research Review website which has been established in 2014 to visualize the participating faculty members and their activities not only from the TKT CAMPUS Asia Consortium but also from all ten CAMPUS Asia programs, including all updated news on their own local websites. This will provide a one-stop community website and contribute more visibility regarding CAMPUS Asia activities to promote the next generations of Asia.

10) Cooperation with other institutions (local governments, NGOs, enterprises etc.) and Support from them

Parts of the programs may be implemented with the cooperation of industries in related fields. No financial support from other institutions is expected at this moment, but the Consortium will consider how we can implement the new scheme for self-sustaining programs partially from the Advanced TKT CAMPUS Asia Consortium.

Furthermore, the Advanced TKT CAMPUS Asia Consortium will extend the Special Joint Lectures which have been implemented into the TKT CAMPUS Asia Consortium to provide new opportunities to discuss the "technology of tomorrow" and "sharing Asia" with all participating students from all CAMPUS Asia programs in science and technology fields, including discussions with other universities through TV conferences. In addition, the Consortium will encourage the participation of high school students in STEM (Science, Technology, Engineering, and Mathematics) type programs as their interactions with international CAMPUS Asia students from different disciplines may help them gain skills necessary in the 21st century.

*Length: No more than one page

Necessary budget:

2016:

	From this program	From the university	Total
Tsinghua	1,000,000 RMB	0 RMB	1,000,000 RMB
KAIST	66,000,000 KRW	0 KRW	66,000,000 KRW
Tokyo Tech	20,000,000 JPY	0 JPY	20,000,000 JPY

2017:

	From this program	From the university	Total
Tsinghua	1,000,000 RMB	0 RMB	1,000,000 RMB
KAIST	164,000,000 KRW	0 KRW	164,000,000 KRW
Tokyo Tech	20,000,000 JPY	0 JPY	20,000,000 JPY

2018:

	From this program	From the university	Total
Tsinghua	950,000 RMB	50,000 RMB	1,000,000 RMB
KAIST	164,000,000 KRW	0 KRW	164,000,000 KRW
Tokyo Tech	18,000,000 JPY	0 JPY	18,000,000 JPY

2019:

	From this program	From the university	Total
Tsinghua	920,000 RMB	80,000 RMB	1,000,000 RMB
KAIST	164,000,000 KRW	0 KRW	164,000,000 KRW
Tokyo Tech	16,200,000 JPY	820,000 JPY	17,020,000 JPY

2020:

	From this program	From the university	Total
Tsinghua	900,000 RMB	100,000 RMB	1,000,000 RMB
KAIST	164,000,000 KRW	0 KRW	164,000,000 KRW
Tokyo Tech	14,580,000 JPY	1,720,000 JPY	16,300,000 JPY

Note: Please describe how much each university can provide from its own budget and how much financial support each university is requesting from its respective government.

5. Schedule * Length: No more than one page

2016:

The Consortium encourages the setting up of advanced research-oriented educational programs. Tokyo Tech will send two students to Tsinghua and three students to KAIST. KAIST will send two students to Tokyo Tech and three students to Tsinghua. Tsinghua will send three students to Tokyo Tech and three students to KAIST.

2017:

Tokyo Tech will send five students to Tsinghua and five students to KAIST. KAIST will send five students to Tokyo Tech and five students to Tsinghua. Tsinghua will send five students to Tokyo Tech and five students to KAIST. Two faculty members from each university will make a series of joint intensive lectures.

2018:

Tokyo Tech will send five students to Tsinghua and five students to KAIST. KAIST will send five students to Tokyo Tech and five students to Tsinghua. Tsinghua will send five students to Tokyo Tech and five students to KAIST. Two faculty members from each university will make a series of joint intensive lectures.

2019:

Tokyo Tech will send five students to Tsinghua and five students to KAIST. KAIST will send five students to Tokyo Tech and five students to Tsinghua. Tsinghua will send five students to Tokyo Tech and five students to KAIST. Two faculty members from each university will make a series of joint intensive lectures.

2020:

Tokyo Tech will send five students to Tsinghua and five students to KAIST. KAIST will send five students to Tokyo Tech and five students to Tsinghua. Tsinghua will send five students to Tokyo Tech and five students to KAIST. Two faculty members from each university will make a series of joint intensive lectures.

Note: Please describe how many students and faculty members will transfer to other campuses on exchange over five years as detailed as possible.

6. Capability of the Institutions and Achievements in Cooperation

- * Provide information on the participating Chinese, Japanese and Korean universities (department, college, etc)
- Competitiveness of participating university in the current project field
- Achievements in cooperation (conclusion of MOUs, number of students exchanged or with conferred degrees, etc.), current status of exchange with foreign universities including universities participating in the consortium

<i>Name of Chinese University</i> Tsinghua University	As one of China's leading institutions for teaching and research, Tsinghua University has been a driving force for research excellence, technical innovation and public service for over one hundred years. Today, Tsinghua is among the most selective universities in the world with 20 schools and 55 departments. Tsinghua has about 300 research institutes, including one National Laboratories, 13 state key laboratories, 7 national engineering research centers, 17 key laboratories of the Ministry of Education, and 17 Beijing laboratories. Tsinghua University has been actively developing partnerships with universities, international organizations and enterprises throughout the world. Partnering with over 250 of the world's most prestigious universities in 48 countries, Tsinghua has rich experience in joint education and research with top universities around the world - including Tokyo Institute of Technology (Tokyo Tech) and Korea Advanced Institute of Science and Technology (KAIST), who are close partners of Tsinghua University in education and research. Tsinghua carries out student exchange and joint research with both universities and a double degree program with Tokyo Tech in addition.
<i>Name of Japanese University</i> Tokyo Institute of Technology	Tokyo Institute of Technology (Tokyo Tech) is a top Japanese national university which covers all fields of science and technology. Established in 1881, Tokyo Tech has 6 schools, leading laboratories and multiple research and education centers. In addition, the Institute has concluded academic and student exchange agreements with 95 world-class universities in 28 countries, and currently has 1,250 foreign students enrolled. Tokyo Tech has close ties with the partner universities of the TKT CAMPUS Asia Consortium, having entered into academic agreements with Tsinghua University in 1985 and with KAIST in 1986. The three universities are the founding members of the ASPIRE League, a consortium of five leading universities in Asia, and work together to enhance research and education in Asia through active involvement in the ASPIRE League activities.
<i>Name of Korean University</i> Korea Advanced Institute of Science and Technology	Korea Advanced Institute of Science and Technology (KAIST) is the first and top science and technology research university in Korea. Founded in 1971 to raise elites in science and technology, critical for Korea's economic takeoff, KAIST has been the gateway to advanced science and technology, innovation, and a driving engine for the development of Korea for the past four decades. Now, KAIST is a growing global institution of more than 10,000 students including 600 international students from 75 different countries, 1,400 faculty members, and three campuses. KAIST established academic and student exchange programs with 191 partner universities in 59 different countries. Furthermore, KAIST has close ties with members of the TKT CAMPUS Asia Consortium. KAIST has formalized academic agreements with Tsinghua University in 2006 and Tokyo Institute of Technology (Tokyo Tech) in 1986. Tsinghua University, KAIST, and Tokyo Tech are the founding members of the ASPIRE League, a consortium of the leading science and technology universities in Asia. Through active involvement, the three universities are working together to advance science and technology and develop human resources in Asia.

7. Declaration

Each university president or other supervising representative (or project manager) shall sign below to certify that all information contained in this application is correct to the best of his or her knowledge.

Korean University: KAIST

Project Manager: Sung Hyon MYAENG

President: Sung-Mo KANG



Chinese University: Tsinghua University

Project Manager: Xin-Hui XING

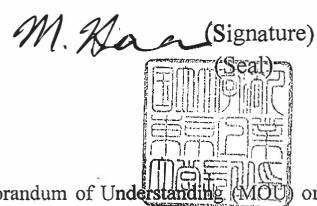
President: Yong QIU



Japanese University: Tokyo Institute of Technology

Project Manager: Masahiko HARA

President: Yoshinao MISHIMA



*You may substitute a copy of a signed Agreement, Memorandum of Understanding (MOU) or Letter of Intent for this form.

Note:

- Application forms must be submitted to the Trilateral Cooperation Secretariat by the representative universities for each J-C-K consortium.
- Applications will be invalidated if the content submitted to each of the three countries differs.
- One university can participate in two or more consortia.
- Two or more universities from one country can participate in one J-C-K consortium.
- Each government shall provide support to the universities located in the respective country which it has selected accordingly.
- A Letter of Intent for Cooperation signed by institutions participating in the consortium must be attached.

8. Application Submission and Inquiries

1) Submission of application forms

- Both hard copy application forms and electronic application forms must be submitted to the designated organizations noted below.
- The application submission period will be **from May23, 9am to May 27, 6pm, 2016**, and no forms will be accepted after 6pm on May27.

Country	Submit To
China	China Academic Degrees and Graduate Education Development Center(CDGDC), Ministry of Education, China Contact Person: Li Hongyan Add: B1715, Tongfang Scientific Building, No.1 Wangzhuang Road, Haidian District, Beijing, China (100083) TEL:+86-10-8237-8735 EMAIL: campusasia@cdgdc.edu.cn URL: http://www.cdgdc.edu.cn/campusasia/
Japan	Please refer to the <i>CAMPUS Asia Consortium Recruitment Announcement</i> in the respective country
Korea	Please refer to the <i>CAMPUS Asia Consortium Recruitment Announcement</i> in the respective country

Note:

- In principle, application forms cannot be corrected or replaced once they have been submitted.
- Applications may be invalidated if forms contain serious errors or false statements.
- Once submitted, application forms will NOT be returned. Each university must retain a copy for its records.
- Each government will inform the universities about procedures concerning support for selected programs.

2) Inquiries

If you have any questions, please contact the following government agency or organization.

* Inquiries concerning program content

China:	<p>* Inquiries concerning the policy for the program: Ministry of Education Division of Asia and African Affairs, Department of International Cooperation and Exchanges, No.35,Damucang Hutong Xidan, Beijing(100816) TEL:+86-10-6609-6650 FAX:+86-10-6601-3647 URL:http://www.moe.edu.cn</p> <p>* Inquiries concerning application submission and selection procedures: China Academic Degrees and Graduate Education Development Center(CDGDC) B1715, Tongfang Scientific Building, No.1 Wangzhuang Road, Haidian District, Beijing, China (100083) TEL:+86-10-8237-8735 FAX:+86-10-8237-9489 URL: http://www.cdgdc.edu.cn/campusasia/</p>
Japan:	Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology Office for International Planning, Higher Education Policy Planning Division, Higher Education Bureau 3-2-2 Kasumigaseki, Chiyoda-ku, Tokyo 100-8959 TEL: +81-(0)3-5253-4111(3352) FAX: +81-3-6734-3385 URL: http://www.mext.go.jp
Korea:	Ministry of Education International Education Cooperation Division 408 Galmaje-ro, Sejong, Republic of Korea TEL : +82-44-203-6817 FAX : +82-44-203-6788 URL: http://www.moe.go.kr Korean Council for University Education (KCUE) International Cooperation Team TEL: +82-2-6919-3911 FAX : +82-2-6919-3919 URL: http://www.kcue.or.kr

Letter of Intent for Cooperation

In order to implement the "CAMPUS Asia" Pilot Program, Tsinghua University, Korea Advanced Institute of Science and Technology, and Tokyo Institute of Technology agree to form the "TKT Campus Asia Consortium".

The TKT Campus Asia Consortium will implement international educational programs among the three universities based on the "Joint Application Form for the CAMPUS Asia Pilot Program" that has been agreed among the three universities.

The Consortium has the objectives of providing students with a strong motivation toward being globally oriented future leaders, nurturing participating students into becoming globally competitive human resources and enhancing higher-quality education in Asia.

The Consortium will build a common understanding of establishing dual degree programs possibly after three years of practice for selected areas of specialty.

The three universities agree that their collaboration through the Consortium will contribute to enhancing the quality of educational exchange among universities in Asia.

Date: 8 July, 2011



Prof. Si YUAN
 Vice President
 Tsinghua University



Prof. Yong Taek IM
 Associate Vice President
 Korea Advanced Institute of Science and Technology



Prof. Ichiro OKURA
 Executive Vice President for Planning
 Tokyo Institute of Technology

1. 事業概要

- 2. 運営体制、予算
- 3. 学生の受入
- 4. 学生の派遣
- 5. コロナ禍でのオンライン交流プログラム
- 6. 受入学生・派遣学生の交流
- 7. 21世紀型スキル教育への取組
- 8. 幹事校としての取り組み
- 9. 評価
- 10. フォトギャラリー

1-1 計画調書

Joint Application Form

1-2 取組概要（日本語版、英語版）

1-3 Implementation Guidelines

1-4 修学・研究計画書／報告書 (Study and Research Plan/Record)

秘密保持契約

1-5 パンフレット

1-6 ウェブサイト

動画

大学の世界展開力強化事業(平成28年度採択) 東京工業大学 取組概要

【事業の名称】(選定年度28年度・タイプA-① CAMPUS Asia) 日中韓先進科学技術大学教育環高度化プログラム

【事業の概要】

本学は「世界最高の理工系総合大学の実現」を長期的目標としている。このためには、世界の最高水準の理工系大学との連携協力が不可欠であり、平成23年度から5年間、大学の世界展開力強化事業「日中韓先進科学技術大学教育環(TKTキャンパスアジア)」を通じて、東アジアの最高水準の理工系大学である中国の清華大学、韓国のKAISTとの間で人材の育成を目的とした教育研究プログラムを実施してきた。本事業は、それらの経験と実績に基づき、下記の人材像を養成するために、以下の3点を目的として、より高度化したプログラムへと展開する。

- 1)共同研究指導体制による「研究重視型教育」の強化
- 2)ダブルディグリーの拡充とジョイントディグリーに向けたプログラムの強化
- 3)日中韓からアジアの先進科学技術系「21世紀型スキル」教育の強化

【交流プログラムの概要】

○ 本学への参加学生の受け入れ、相手大学への本学学生の派遣

「授業中心型教育」であるサマープログラム及び「研究重視型教育」の交流プログラムに参加する学生について、清華大学およびKAISTから推薦を受け、入れを行つ。また、清華大学・KAISTへ派遣学生を学内公募を通して選考し、派遣を行つ。

○ 共同研究指導体制による「研究重視型教育」の強化

学部生を対象とした専門に応じて基礎から最先端までを修得する「授業中心型教育」と大学院生(又は学部4年生以上)を対象とした「研究重視型教育」の交流プログラムを強化する。

○ ダブルディグリーの拡充とジョイントディグリーに向けたプログラムの強化

KAISTと本学との間で機械工学の分野においてダブルディグリーを締結したが、さらに物質系、生命系、情報系など、より幅広い分野でのダブルディグリーへと拡充する。

○ 「21世紀型スキル」教育の強化

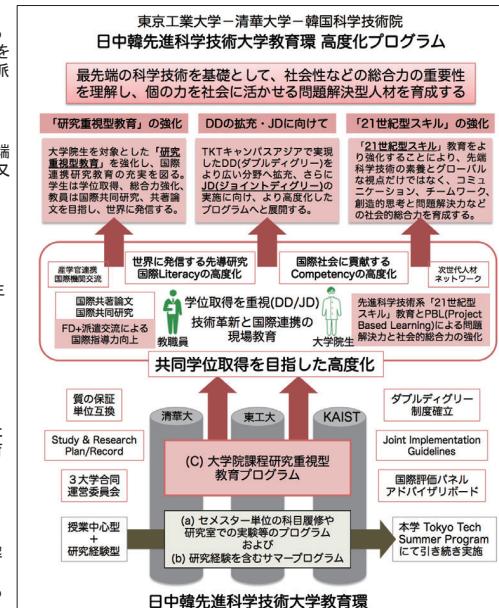
最先端の科学技術を基礎として、コミュニケーション力、チームワーク力、創造的思考と問題解決力を兼ね備え、個の力を社会に活かせる問題解決力と社会的総合力を身につけた人材を育成するため、「21世紀型スキル」教育を強化する。

【本事業で養成する人材像】

卓越した最先端科学技術の素養とグローバルな視点を持つだけではなく、アジアや世界を問題解決型の科学技術で結び、社会に貢献するトップリーダーに向けたキャリアパスを自ら展開出来る人材を育成する。

【本事業の特徴】

上記「研究重視型教育」「共同学位」「21世紀型スキル」の強化のために、3大学の担当教職員ならびに各研究分野の代表教員を選定し、事務レベルの合同運営委員会から、教育実施レベルの直接会合などを実施し、全学レベルでの質の保証を伴う連携教育互換モデルの提唱を進めている。それらの連携体制を3ヵ国他の大学、さらにはアジアの科学技術を先導する人材育成に資する共同研究教育へと展開することを目指している。



【交流予定人数】

	H28	H29	H30	H31	H32
日本(J)での受入	C 2 K 3	C 5 K 5	C 5 K 5	C 5 K 5	C 5 K 5
中国(C)での受入	J 3 K 3	J 5 K 5	J 5 K 5	J 5 K 5	J 5 K 5
韓国(K)での受入	J 2 C 5	J 5 C 5	J 5 C 5	J 5 C 5	J 5 C 5

FY2016 Inter-University Exchange Project Tokyo Institute of Technology

Support for the Formation of Collaborative Programs with Universities in Asia

【Name of project】(Adopted year: FY2016, (TypeA-① CAMPUS Asia)) Advanced TKT CAMPUS Asia Consortium

【Summary of Project】

Since 2011, the TKT CAMPUS Asia Consortium has been run by three world-class universities in East Asia, Tsinghua (China), KAIST (South Korea), and Tokyo Tech (Japan), which specialize in the fields of science and technology. The three universities aim to enhance the quality of education and research opportunities through a shared quality assurance system which includes credit recognition and joint supervision of students. The Consortium will encourage development of more advanced research-oriented educational programs, including a joint degree program, to promote international collaborations.

【Summary of Exchange Program】

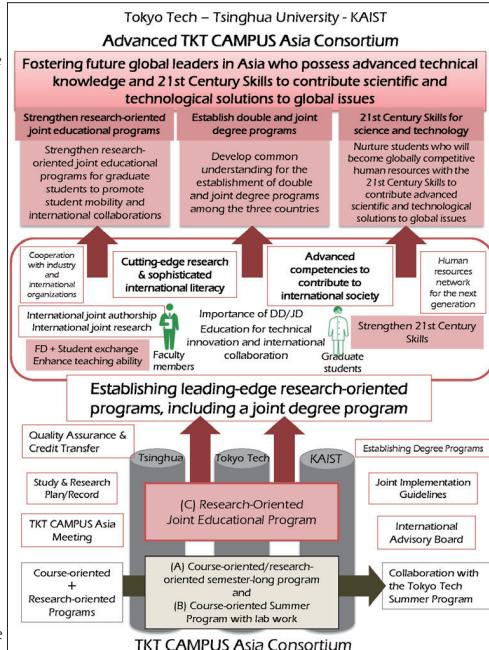
The objectives of the Advanced TKT CAMPUS Asia Consortium are 1) to strengthen research-oriented joint educational programs to promote student mobility and international collaborations, 2) to develop common understanding in order to establish double and joint degree programs among the three countries, and 3) to foster future leaders in Asia and the global community who, possessing 21st Century Skills, will contribute science- and technology-based solutions to global issues. In addition, in order to encourage more creative and active involvement in the program, other activities involving industries and related organizations will be implemented. Students will be able to experience the latest technological innovations and build professional networks. Every year, each university will send ten students on an exchange program and accept ten exchange students. The programs are offered to advanced undergraduate students, master's students and doctoral students, and the consortium will build a common understanding for the establishment of double and joint degree programs for selected areas of specialty.

【Global Human Resource Development】

The project aims to nurture internationally competitive human resources. As future leaders in Asia and the global community, these students will develop the specialized knowledge and 21st Century Skills to contribute scientific and technological solutions to global issues.

【Project Features】

The three universities established a Joint Committee to discuss future plans to achieve the objectives above. Another meeting of KAIST and Tokyo Tech professors was held to discuss the possibility of expanding double degree programs between partner schools or departments in the fields of Computing, Materials Science and Engineering, Life Science and Technology, and Business and Technology Management. The project aims to apply best practices to foster future global leaders in Asia.



【Exchange numbers】

	2016	2017	2018	2019	2020
Accepted number in Japan	C 2 K 3	C 5 K 5	C 5 K 5	C 5 K 5	C 5 K 5
Accepted number in China	J 3 K 3	J 5 K 5	J 5 K 5	J 5 K 5	J 5 K 5
Accepted number in Korea	J 2 C 5	J 5 C 5	J 5 C 5	J 5 C 5	J 5 C 5

1. 事業概要

- 2. 運営体制、予算
- 3. 学生の受入
- 4. 学生の派遣
- 5. コロナ禍でのオンライン交流プログラム
- 6. 受入学生・派遣学生の交流
- 7. 21世紀型スキル教育への取組
- 8. 幹事校としての取り組み
- 9. 評価
- 10. フォトギャラリー

1-1 計画調書

Joint Application Form

1-2 取組概要（日本語版、英語版）

1-3 Implementation Guidelines

1-4 修学・研究計画書／報告書 (Study and Research Plan/Record)

秘密保持契約

1-5 パンフレット

1-6 ウェブサイト

動画

Implementation Guidelines for TKT CAMPUS Asia Consortium

Preamble

This document is aimed to stipulate implementation of the programs under the TKT CAMPUS Asia Consortium, a joint educational program established by Korea Advanced Institute of Science and Technology (KAIST), Tokyo Institute of Technology and Tsinghua University. The three universities shall share the common understanding toward further development of the programs by following these Implementation Guidelines

1. Organization to Implement the Program

Each of the three universities assigns a Project Leader. The Project Leaders are the faculty members who take overall responsibility in implementing the program.

The Joint Committee shall be established. The Joint Committee will monitor and evaluate the program, and accumulate the best practices obtained through the program. The Joint Committee consists of Project Leaders and other personnel involved in the Consortium. The Joint Committee holds a meeting at least once a year.

The three universities may assign Coordinators to promote exchanges in specific fields

*Names of Project Leaders and other personnel shall be shared in the Appendix to the Implementation Guidelines

2. Forms of Exchanges

The three universities shall implement student exchanges under the following forms.

- (a) semester long exchanges with course study and/or lab work
- (b) summer programs
- (c) research-oriented joint educational programs

The more advanced research-oriented educational programs including a dual or joint degree program will be encouraged to set up, as agreed in the "Joint Application Form for the CAMPUS Asia Pilot Program"

In addition, other forms of exchanges may be agreed to implement.

3. Number and Eligibility of Exchange Students

Each university may exchange five or more students with each of the other two universities depending on their financial situation

Both undergraduate and graduate students are eligible to participate in the program; however, each university may set additional eligibility conditions for receiving students.

4. Exchange of Information on Educational Programs and Research Opportunities

The three universities are encouraged to exchange their universities' information on educational programs that are open to participating students in the program. It is expected that the information

1

will be provided to the students through published media on the internet such as OpenCourseWare (OCW)

The three universities shall also share information on research opportunities. The information will include, but not limited to, eligibility of participating students, areas of research, names of faculty members who are the potential advisors, and documents that the university can issue to certify the research results. It is expected that such information as areas of research and names of faculty members will be provided through internet web pages

5. Procedures of Program Announcement, Selection, Nomination, and Acceptance

The three universities shall follow the procedures as stipulated below.

5-1. Program Announcement

The receiving university shall send the announcement of the program in such forms as "Call for Nomination" at least two months prior to the deadline of nomination. The announcement will include such information as outline of the program, eligibility of students, number of students, period of stay, and financial conditions

5-2. Selection

It is expected that the sending university will disseminate the information to all students in its university who may be interested in joining the program. The sending university must make selection of students in an appropriate manner which fits to the objective of the program

5-3. Nomination

The sending university must nominate the students by the deadline set by the receiving university.

5-4. Acceptance

The receiving university reserves the right to make final judgment on the acceptance of the nominated students

6. Planning of the Study and Research Activities

The participating students are required to accomplish high standard of study and research at receiving university. To this end, advisors or coordinators at both sending and receiving universities shall be assigned to each individual student (Project Leaders may also be assigned to act as advisors or coordinators). The advisors and coordinators should be faculty members of the two universities. It is expected that the advisors in the two universities have collaborative relationship in their research activities. The advisors must give necessary guidance and assistance to the participating students.

7. Study and Research Plan/Record

The "Study and Research Plan/Record" is the document in which participating students work with their advisors or coordinators of both sending and receiving universities. The participating students must follow the instructions attached to the "Study and Research Plan/Record".

2

8. Status of Exchange Students at the Receiving University

The status of the exchange students at receiving university shall be full time students. In principle, the students are non-degree seeking students. However, it will be possible to give a status of regular, degree seeking students based on the mutual agreement between the sending and receiving universities

9. Financial and Other Responsibility

9-1. Tuition Fees

The participating students shall not pay the examination, admission and tuition fees to the receiving university.

9-2. Financial Support to the Participating Students

The three universities shall provide five or more participating students from each of the other two universities with stipend or other financial support. It is expected that the amount of the support will be on par with the university's other "full-support" scholarship programs. Each university shall inform the amount of the support to the other universities. In addition, the three universities may receive participating students under the condition that they cover their living expenses by themselves

The receiving universities shall arrange accommodations to the participating students for free or with reasonably low rent.

The three universities are responsible for ensuring the participating students' expenses for their trip to receiving universities. It is expected that the sending universities may provide their students with air ticket depending on the funding.

10. Report of Students' Educational and Research Results by the Receiving University

The three universities shall issue documents to certify the educational and research results of receiving students. The documents will be issued in such forms as transcript, academic record, research report, etc. It is expected that the documents contain detailed information on the achievement of the students

The three universities must give necessary assistances for both students and their advisors and coordinators to develop and finalize the "Study and Research Plan/Record".

11. Recognition of Students' Educational and Research Results at the Sending University

The sending university must recognize educational and research results of the students at the receiving university. One way to recognize the results is to recognize the credit that the students obtained at the receiving university. It is encouraged that the sending university respects receiving university's quality assurance system and makes every effort to recognize the credits in compatible manner.

Since the TKT CAMPUS Asia Consortium is the research oriented educational program, it is also expected that the research results will be recognized in appropriate manners, especially in the

process of conferring degrees

In order that the three universities understand the other universities' educational systems and recognize participating students' educational and research results properly, the three universities shall exchange information on their educational systems

12. Implementation of Monitoring of Students and Evaluation of the Program

The three universities shall jointly implement monitoring of students and evaluate the program. The monitoring and evaluation shall be implemented in concerted manner, and when necessary, shall be incorporated into the monitoring and evaluation system set by the governments and/or quality assurance agencies in the three countries

13. Cooperation with Education Ministries and Quality Assurance Councils of the three countries

The three universities shall cooperate with their Ministries responsible for implementing the CAMPUS Asia program; Ministry of Education (China), Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology (Japan) and Ministry of Education, Science and Technology (Korea)

The three universities shall also cooperate with members of Japan-China-Korea Quality Assurance Council; Higher Education Evaluation Center of the Ministry of Education (China), National Institution for Academic Degrees and University Evaluation (Japan) and Korean Council for University Education (Korea).

14. Appendix

Appendix of the Implementation Guidelines shall be developed and revised at any time to share information necessary to implement the TKT CAMPUS Asia Consortium. Each of the three universities must report updated information on the Appendix to the other universities. The academic calendar shall be updated every year.

15. Term of Validity

The Guidelines will be effective upon the date of signature by the Project Leaders of the three universities. The Guidelines may be modified by agreement in writing of the three universities. The Guidelines will be invalid when the TKT CAMPUS Asia Consortium is terminated.

Date: April 1, 2013

Professor Masahiko Hara,
Project Leader,
Tokyo Institute of Technology

Date: April 11, 2013

Professor XING Xinhui
Project Leader,
Tsinghua University

Date: Apr. 16, 2013

Professor Wong Taek Im
Project Leader,
KAIST

Appendix to the Implementation Guidelines of TKT CAMPUS Asia Consortium

Academic Year 2020

Last revised: August, 2020

Table of Contents

Part 1. Organization and Outline of the Program

1. Project Leaders and other personnel	
1-1. Project Leaders and Coordinators	4
1-2. Faculty members and administrative staff in charge	5
2. Forms of exchanges	6
3. Academic calendar	7
4. Status of exchange students	8
5. Financial support	9
6. Recognition procedure of the credits obtained at partner universities	
6-1. Coursework	10
6-2. Research activities	11

Part 2. Educational Systems

7. Semester system/Requirements for graduation	
7-1. Semester system	13
7-2. Number of academic years for graduation	14
7-3. Number of credits for graduation	15
8. Credit system/ Credit transfer system	
8-1. Number of credits per class	16
8-2. Definition of credit	17
8-3. Calculation of credit	18
8-4. Limit of credit recognition	19
8-5. Regulations on credit recognition	20
8-6. Formula of credit recognition	21
9. Grading system	
9-1. Form of Grades	22
9-2 GPA system	23

Part 1. Organization and Outline of the Program

1. Project Leaders and other personnel

1-1. Project Leaders and coordinators

 清華大學 Tsinghua University	 KAIST	 東京工業大學 Tokyo Institute of Technology
Project Leaders		
Prof. Xinhui XING, Vice Chairman Department of Chemical Engineering, Tsinghua University	Prof. Shin-Hyun KIM Department of Chemical and Biomolecular Engineering	Prof. Masahiko HARA Department of Chemical Science and Engineering
Coordinators		
Prof. Xinhui XING (Bio-Nano) Prof. Xue WANG (ME) Prof. Zhisheng NIU (CS)	Prof. Man-Sung YIM, Department of Nuclear and Quantum Engineering Mr. EunJae LEE, Manager of International Relations Team Prof. Jung KIM, Department of Mechanical Engineering) Prof. Hak-Sung KIM, Department of Biological Sciences Prof. Steve PARK, Department of Materials Science & Engineering Prof. Jinah PARK, School of Computing Prof. SeungHun HAN, School of Business and Technology Management Prof. Ji Ho PARK, Department of Bio and Brain Engineering	Prof. Feng XIAO, Department of Mechanical Engineering Prof. Masashi SHIRABE, Institute for Liberal Arts Prof. Joon-wan KIM, Department of Mechanical Engineering Prof. Yasunori AIZAWA, Department of Life Science and Technology

1. Project Leaders and other personnel

1-2. Faculty members and administrative staff in charge

 清華大學 Tsinghua University	 KAIST	 東京工業大學 Tokyo Institute of Technology
Faculty members		
Ms. Bo Meng, Associate Dean Office of International Cooperation and Exchange		
Administrative staff		
Ms. Hongyu LI Director of Study Abroad, Office of International Cooperation & Exchange Ms. Dongni Liu Program Manager, (outbound) Office of International Cooperation & Exchange Ms. BI Na Program Manager, (inbound) Academic Affairs Office	Ms. Jihyun MOON Project Coordinator, Center for CAMPUS Asia	Mr. Takayuki MAKINO Manager, International Student Exchange Division Mr. Kenichi SHIMOZONO Group Leader, International Student Exchange Division Ms. Yukie Watanabe Ms. Yoko Handa CAMPUS Asia Program Office, International Student Exchange Division

2. Forms of exchanges

	 清華大學 Tsinghua University	 KAIST	 東京工業大學 Tokyo Institute of Technology
(a) semester long exchanges with course study and/or lab work	Yes, Application time for spring semester is from October 15 to November 30 (previous year) while for fall semester is from March 15 to April 30 (present year)	Available	(Tokyo Tech receives students from KAIST and Tsinghua university under the bilateral MOU)
(b) summer programs	No summer program at university-level offered by Tsinghua now.	Available	Available AY2019: Course-Oriented Program for 4 weeks and Research-Oriented Program for 10 weeks. AY2020: Research-Oriented Program for 5 weeks.
(c) research- oriented joint educational programs	Research only program for doctor /master course students is available. Students need to contact and get the approval from the professor before conducting research in THU.	Available depending on mutual agreement between the research or academic advisors or department head of two universities.	Available. Students participate in a lab-based research project while taking some courses. The program starts in late September and ends in early February.
Other forms of exchanges	Students under Tsinghua - Tokyo Tech Joint Graduate Program may be supported.		Students under Tokyo Tech- Tsinghua Joint Graduate Program may be supported.

3. Academic Calendar (AY2020)



Start of Academic year	Sep.14	Mar. 1	Apr.1
Start of Spring semester	Feb. 22	Mar. 2	Apr. 4
End of classes for Spring semester	Jun. 13	Jun. 19	July. 28
Final exams of Spring semester	Jun. 14 – Jun.27	Jun. 15 – 19	July. 29- Aug. 5
Summer holidays/ Summer session	Jun. 28– Sep. 127	Jun. 29 – Aug. 21	Aug. 6 - Sep. 29
Start of Fall semester	Sep.14	Aug.31	Sep. 30
Winter break	Jan.18–Feb.21	Dec.21~Jan.29	Dec. 27 - Jan. 5
End of classes for Fall semester	Jan.3	Dec. 18	Feb. 2
Exams of Fall semester	Jan.4–Jan.17	Dec. 14-18	Feb. 3 - Feb. 10
Spring Break	-	Feb.1~28	Feb. 11 – Mar.31

4. Status of exchange students



Recognized as full-time non-degree seeking student at Tsinghua. The students can take courses both at undergraduate and graduate levels, as well as join laboratories for research once get professors' acceptance.	Recognized as international exchange student who does not need to pay tuition and admission fees. They will be treated as part of the regular non-degree seeking students at the moment and provided with the on-campus housing. The dormitory fees should be paid by the incoming students.	The status of incoming exchange students under the TKT CAMPUS Asia Consortium is “International Exchange Student (non-regular, non-degree seeking student)”. Tokyo Tech waives the entrance, admission, and tuition fees. Students are assigned to a laboratory where they study and conduct research under the guidance of a Tokyo Tech academic supervisor.
---	--	---

5. Financial Support

		 清華大學 Tsinghua University	 KAIST	 東京工業大學 Tokyo Institute of Technology
to sending students				
Air Ticket	Not available	Not Available	Economy class round trip air tickets are provided	
to receiving students				
Stipend	A stipend of 3,000 YUAN/month for general exchange students while 3,500 YUAN/month for senior exchange students (doctor candidate)	800,000 Korean Won for Undergraduate Students 900,000 Korean Won for Graduate Students	A stipend of 80,000 JPY/month will be provided	
Accommodation	On-campus double room is provided. (Free of Charge)	On Campus Housing (Fee should be paid by the incoming students.)	Off-campus accommodations (free of charge) are provided	
Other support	Insurance fee,400 YUAN per semester (Free of Charge)			

6. Recognition procedure of the credits obtained at partner univ.

6-1. Coursework

		 清華大學 Tsinghua University	 KAIST	 東京工業大學 Tokyo Institute of Technology
Similar or related courses and credits earned at partner universities can be transferred and recognized once approved by academic office of related departments.	Credits can be transferred by the University as pass/non-pass base depending on the approval by the professors at the department who are teaching the similar topics or department head.	Credits obtained at partner universities are recognized by the President based on the decision of the faculty meeting. Grading of the recognized credits is “pass”. Before departure, students are requested to consult with department head (UG) or academic supervisor (G) concerning the recognition of the credit. After returning to home university, students must submit academic transcript and other necessary issued by the host university to the registrar.		

6. Recognition procedure of the credits obtained at partner univ.

6-2. Research activities

 清華大學 Tsinghua University	 KAIST	 東京工業大學 Tokyo Institute of Technology
Research at partner universities, which is conducted during summer and winter holiday, can be recognized as 1 credits for research of one week. The calculation is by inference and the maximum period for research is 5 weeks. The recognition also need the approval from academic office of related departments.	Credits can be transferred by the University as pass/non-pass base depending on the approval by the academic advisor or department head (undergraduate) or research (graduate) advisor at the department.	Credits obtained at partner universities are recognized by the President based on the decision of the faculty meeting. Grading of the recognized credits is "pass". Before departure, students are requested to consult with department head (UG) or academic supervisor (G) concerning the recognition of the credit. After returning to home university, students must submit necessary issued by the host university to the registrar.

Part 2. Educational Systems

7. Semester system/Requirements for graduation

7-1. Semester system

Question: How many semesters/terms does your university have? When each semester/ term starts and how many weeks it continues?



- 3 semester-system (fall, spring, summer)
- Fall semester (semester 1): 18 weeks (incl. exams)
Starting in September
- Spring semester (semester 2): 18 weeks (incl. exams)
Starting in February
- Summer semester (semester 3): 12 weeks starting in June



- KAIST has semester system, i.e., two (spring and fall) semesters.
- Spring semester or semester 1 starts in March
- Fall semester or semester 2 starts in September.
- Each semester continues for 16 weeks of lectures and exams.



- Quarter system
- 1Q: 10 weeks
early April – early June
- 2Q: 8 weeks
mid June – early Aug.
- 3Q: 9 weeks
late Sep. – late Nov.
- 4Q: 9 weeks
early Dec. – early Feb.
(including winter break)

7. Semester system/Requirements for graduation

7-2. Number of academic years for graduation

Question: How many academic years are needed to complete the undergraduate and graduate programs?



- Undergraduate program: **4 years**
(Medical school: 4-8 years, School of Architecture: 5 years)
- Master's program: **2-3 years** (Medical school, for clinical 3 years and no longer than 4 years)



- Undergraduate program: **4 years**
(Medical school: N.A.)
- Master's program: **2 years** (Medical school: N.A.)
 - (Ph.D program: 4 years, MS-PhD program: 5 years (Medical school: 6 years)



- Undergraduate program: **4 years**
- Master's program: **2 years**
(No medical school)
- Ph.D program: **3 years**
- **Integrated Doctoral Education Program:** 3-4 years

7. Semester system/Requirements for graduation

7-3. Number of credits for graduation

Question: What is the minimum number of credits that are required to obtain for the graduation of undergraduate and Master's Programs. Also, please describe if your university have additional condition for graduation (e.g., thesis).



清华大学
Tsinghua University

- Undergraduate programs: **170 credits** (Medical school: N.A.)
- Master's program: **23 credits** (In addition to 23 credits, **thesis** is required) (Medical school: for the specialty of bio-engineering, no less than 24 credits)



- Undergraduate program: **136 credits** (Medical school: N.A.)
- Master's program: **33 credits** (**at least 21 credits for course work**. In addition, **12 thesis or additional credits**) and thesis are required
- PhD's or MS-PhD's Program: **60 credits** including 30 credits for coursework plus 30 research credits) and thesis are required



東京工業大学
Tokyo Institute of Technology

- Undergraduate program: **around 124 credits** (Medical school: N.A.)
- Master's program **30 credits** (In addition to 30 credits, **thesis** is required for Master's degree.) (Medical school: N.A.)
- PhD's Program: **24 credits**

8. Credit system/Credit transfer system

8-1. Number of credits per class

Question: What is the most common number of credits per each of the classes (lectures, lab works, seminars, etc.)?



清华大学
Tsinghua University

- One lecture class is usually 2-3 credits
- One lab work class is usually 1-3 credit (only for undergrad.)
- One seminar class is usually 1-2 credits.



- One lecture class is usually 3 credits.
- Lab class(es) can be included in the lecture.
- One seminar class usually counts for 1 credit.



東京工業大学
Tokyo Institute of Technology

- One lecture class is usually 2 credits
- One lab work class is usually 1 credit
- One seminar class is usually 2 credits

8. Credit system/Credit transfer system

8-2. Definition of credit

Question: Whether the credit is defined based on hours of lecture, lab work and seminars (only contact hours), or based on students' overall workload (including homework, self-study and preparation for exams)? Are there any differences in definition between undergraduate and graduate programs?



- Credit for undergrad. is recognized based on **hours of lecture and seminar** (both 16 hours a credit), **lab work** (32 hours a credit).
- For graduates, 16 **hours of lecture** is a credit and 10 **times of seminar** with a summary earns one credit.



- Credit is recognized based on **hours of lecture, lab work and seminars** (meeting times). There is no difference between undergraduates and graduates.



- Credit is recognized based on **hours of lecture, lab work and seminars** (contact hours). There are no difference between undergrads. and graduates. (MEXT guidance stipulates 45 hours of students overall workload equals one credit)

8. Credit system/Credit transfer system

8-3. Calculation of credit

Question: What is the basis of calculation of the credit? [For example, One credit is given for a lecture of one hour per week for a semester (16 hours lecture in total) or for a lab work of two hours per week for a semester (32 hours lab work in total)]



- For undergraduates, 1 credit is given for a **lecture /seminar of one hour per week for a semester** (16 hours lecture in total) or for a **lab work of 2 hours per week for a semester** (32 hours lab work in total)
- For graduates, 1 credit is given for **16 lectures of one hour per week for a semester** (16 hours lecture in total), or for **attending seminar 10 times**.



- 1 credit is given for a **lecture of one hour per week for a semester** (14 hours lecture in total plus two exams such as midterm and final) or for a **lab work of two hours per week for a semester** (32 hours lab work in total).



- 1 credit is given for a **lecture /seminar of one hour per week for a semester** (15 hours lecture in total) plus exam or for a **lab work of two hours per week for a semester** (30 hours lab work in total) plus exam.

8. Credit system/Credit transfer system

8-4. Limit of credit recognition

Question: Is there any limit on credit recognition when students obtain academic credit in foreign countries (e.g., 66 out of 130 credits are recognized at universities overseas)?



- Undergraduate program: **No limit**, but **some credits** earned for course attendance may **not be recognized**.
- Graduate program: There is no minimum credit requirement for both undergraduate and graduate program.



- **66 credits out of 130** credits for undergraduate program
- **24 credits out of 33** credits for master program (students have to study at KAIST at least one year to obtain KAIST's master degree)



- Undergraduate program: **60 credits out of 124** credits
- Graduate program: **10 credits out of 30** credits

8. Credit system/Credit transfer system

8-5. Regulation on credit recognition

Question: What are the regulations on credit transfer system? Does your university only admit foreign university's credits that are compatible with the classes listed in your own curriculum, or do you have any scheme to admit foreign credits of the classes that are not offered at your university?



- Each department has an authority to admit undergraduate credits obtained in other universities based on the courses.
- For graduates, the Disciplinary Degree Committee is fully empowered for credit recognition and transfer.



- The similar courses in KAIST curriculum will be transferred to 'major' category which had not been taken before at KAIST. But if the course is not in our own curriculum, it is accepted as 'elective.'
- Each department has an authority for approval for credit transfer.



- Each department has an authority to admit credits obtained in other universities, and the credits that are not in Tokyo Tech curriculum may be admitted as an exception.

8. Credit system/Credit transfer system

8-6. Formula of credit recognition

Question: Does your university have any formula of credit recognition between foreign universities, including universities in Europe and the U.S.?



- For undergraduates, each department has an authority to admit credits and there are no concrete formula for credit transfer, but the courses must meet the course standards of Tsinghua U. for the credits to be transferred.
- For graduates, the Disciplinary Degree Committee is fully entitled to decide how credits earned abroad are calculated and transferred.



- Depending on hours of lecture, laboratory, practice, the credits can be transferred to KAIST credits as pass or non-pass base depending on the approval from the professors, department head or advisors.
- Lectures:
over 16 hours- 1 credit, over 32 hours- 2 credits, over 48 hours- 3 credits, over 64 hours- 4 credits
- Laboratory work:
-over 32 hours- 1 credits, over 64 hours- 2 credits



- Since the credits obtained at foreign universities are usually transferred to similar class of Tokyo Tech.
- Only in case there are no corresponding class at Tokyo Tech, the formula to convert 2 ECTS credits into 1 Tokyo Tech's credit may be used (Conversion of other foreign credits are decided by the departments in a case by case basis).

9. Grading System

9-1. Form of Grades

Question: What kind(s) of letter grades or other form(s) of grades are commonly used at your university? What are the intervals between each grade?



- A+: 95-100,
- A: 95-100,
- A-: 90-94,
- B+: 85-89,
- B: 80-84,
- B-: 77-79,
- C+: 73-76,
- C: 70-72,
- C-: 67-69,
- D+: 63-66,
- D: 60-62,
- F: 0-59,
- Or
- Fail or Pass



- A+: 100-95%, A0: 95-90%,
A-: 90-85%,
B+: 85-80%, B0: 80-75%,
B-: 75-70%,
C+: 70-65%, C0: 65-60%,
C-: 60-55%,
D+: 55-50%, D0: 50-45%,
D-: 45-40%,
F: 40-0%,
Or
Satisfactory or
Unsatisfactory



- Tokyo Tech does not adopt letter grade system, but has **actual number scoring system**. Full score is 100, and 60 is the minimum requirement to obtain a pass. As to credits obtained at foreign univ. (and in some other cases), only pass/fail scores are given. In case letter grade is needed, the actual numbers are converted as
100~80: A, 79~70: B, 69~60: C, 59~: Fail

9. Grading System

9-2. GPA system

Question: Does your university introduce GPA (Grade Point Average) System?
What is the point attached for each grade? [For example, A=4, B=3, etc.]



- A+: 4.0,
- A: 4.0,
- A-: 4.0,
- B+: 3.6,
- B: 3.3,
- B-: 3.0,
- C+: 2.6,
- C: 2.3,
- C-: 2.0,
- D+: 1.6,
- D: 1.3,
- F: 0



A+: 4.3, A0: 4.0, A-: 3.7,
B+: 3.3, B0: 3.0, B-: 2.7,
C+: 2.3, C0: 2.0, C-: 1.7,
D+: 1.3 D0: 1.0, D-: 0.7,
F: 0



GPA= $\frac{GP \times \text{number of credits}}{\text{Number of all credits earned}}$
GP= $\frac{\text{Actual Score} - 55}{10}$
*Actual score < 60, GP=0.

1. 事業概要

- 2. 運営体制、予算
- 3. 学生の受入
- 4. 学生の派遣
- 5. コロナ禍でのオンライン交流プログラム
- 6. 受入学生・派遣学生の交流
- 7. 21世紀型スキル教育への取組
- 8. 幹事校としての取り組み
- 9. 評価
- 10. フォトギャラリー

1-1 計画調書

Joint Application Form

1-2 取組概要（日本語版、英語版）

1-3 Implementation Guidelines

1-4 修学・研究計画書／報告書 (Study and Research Plan/Record)

秘密保持契約

1-5 パンフレット

1-6 ウェブサイト

動画

Instructions for *Study and Research Plan/Record*

Your academic supervisor at Tokyo Tech (host institution) will work with your advisor or coordinator at your home institution to offer you the best research guidance possible at Tokyo Tech. To this aim, students participating in the Summer Program / Joint Educational Program are requested to prepare the *Study and Research Plan/Record*.

1. Preparing your *Study and Research Plan*

- If you are planning to take any of the offered courses/lectures, please check the appropriate course titles on the *Study and Research Plan*.
- Review the Intellectual Property/Confidential Information Agreement attached on page 4. This agreement is to ensure that you keep your research results confidential until you obtain permission to publicly present the results from your host Prof. (You will be requested to submit the signed agreement along with your *Study and Research Plan* upon arrival.)
- You are requested to explain your research plan on the *Study and Research Plan*.
- Once this form is filled out, please send it to your academic supervisor at Tokyo Tech for review. Please send the file in Word format to your academic supervisor at Tokyo Tech via e-mail.
(Deadline: **Date**)
- Please also cc TKT CAMPUS Asia team (campusasia@jim.titech.ac.jp) when contacting your academic supervisor at Tokyo Tech.
- Your academic supervisor at Tokyo Tech will review the proposed research plan and get back to you with comments.

2. Confirming with your advisor or coordinator at your HOME Institution

- Once you receive a confirmation from your academic supervisor at Tokyo Tech, your advisor at home institution should also confirm and sign your *Study and Research Plan*. If you do not have an advisor, please ask the coordinating faculty member or administrator, who is responsible for your visit to Japan.
- Once signed, please bring it (**hard copy**) with you to Japan.

3. Confirming with your academic supervisor at Tokyo Tech

- Please bring the completed *Study and Research Plan* to the first meeting with your academic supervisor at Tokyo Tech and have it signed by him/her.

4. Participating in the TKT CAMPUS Asia Program

- During your participation in the Program, you must conduct your study and research adhering to your *Study and Research Plan*.
- Your academic supervisor at Tokyo Tech may need to consult with your advisor at your home institution to more effectively guide your study and research at Tokyo Tech. If you wish to change any part of your *Study and Research Plan*, you must first obtain the approval of your academic supervisor at Tokyo Tech.

5. Completing your *Study and Research Record*

- Please fill out the *Study and Research Record* when you complete the Program.

6. Reviewing with your academic supervisor at Tokyo Tech

- Before leaving Japan, you are required to ask your academic supervisor at Tokyo Tech to review your *Study and Research Record* and have it signed by him/her. Your Academic Supervisor at Tokyo Tech may communicate with your advisor at your home institution for the purpose of discussing ways to continue and /or develop your study and research upon your return to your home institution.
- Once signed, please submit it to the TKT CAMPUS Asia team at Tokyo Tech (in the International Student Exchange Division at Ookayama Campus). TKT CAMPUS Asia team staff will make one extra copy to keep, so you can bring the original back to your home institution.

Intellectual Property / Confidential Information Agreement

- To ensure proper handling of intellectual property derived from research undertaken at Tokyo Tech, all results and related information must be treated as confidential for three (3) years from the date of signing this agreement. Prior written approval from the host professor at Tokyo Tech must first be obtained when quoting, presenting or publishing any such research results derived at Tokyo Tech in any publication, written or electronic.
- Materials being transferred to and from Tokyo Tech must be formally covered with a Material Transfer Agreement (MTA), to protect the intellectual and other property rights of the provider while permitting research with the scientific materials to proceed.
- The audio or video recording of lectures or seminars and the photographing of research-related materials without prior consent of the Tokyo Tech host professor is prohibited.

I hereby agree to abide by the above conditions.

Date: _____

Name: _____

Signature: _____

1. 事業概要

- 2. 運営体制、予算
- 3. 学生の受入
- 4. 学生の派遣
- 5. コロナ禍でのオンライン交流プログラム
- 6. 受入学生・派遣学生の交流
- 7. 21世紀型スキル教育への取組
- 8. 幹事校としての取り組み
- 9. 評価
- 10. フォトギャラリー

1-1 計画調書

Joint Application Form

1-2 取組概要（日本語版、英語版）

1-3 Implementation Guidelines

1-4 修学・研究計画書／報告書 (Study and Research Plan/Record)

秘密保持契約

1-5 パンフレット

1-6 ウェブサイト

動画

ポスター

TKT CAMPUS Asia

日中韓
先進科学技術大学教育環
高度化プログラム

JAPAN 東京工業大学
TOKYO Tech

日中韓先進科学技術大学教育環
高度化プログラム

TKT CAMPUS Asia

世界トップレベルの
理工系
3大学が連携

KOREA KAIST

韓国科学技術院 (KAIST)

CHINA Tsinghua

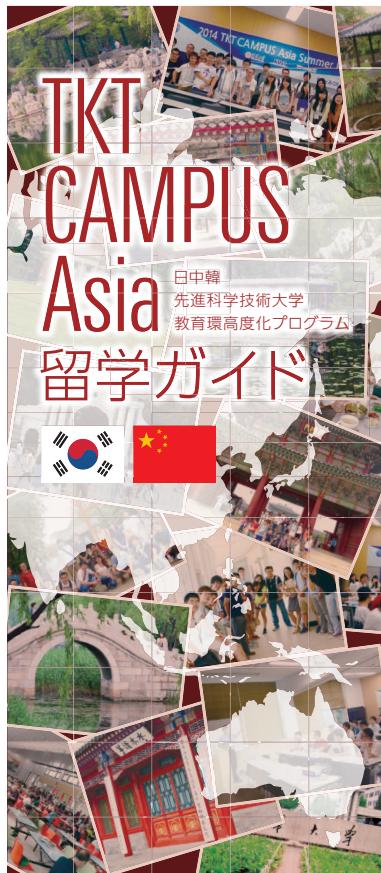
清華大学

東京工業大学
Tokyo Institute of Technology

お問い合わせは
TKT CAMPUS Asia 事務局

〒152-8550 東京都目黒区大岡山 2-12-1
東京工業大学大岡山キャンパス 南 6号館 308号室
学務部留学生交流課 事業推進グループ
電話: 03-5734-2984 内線: 7177 メールボックス: S6-7
メール: campusasia@jim.titech.ac.jp
URL: <http://www.ipo.titech.ac.jp/campusasia/japanese/>





TKT CAMPUS Asia 留学ガイド

日中韓 先進科学技術大学 教育環高度化プログラム

TKT CAMPUS Asiaとは

プログラム概要

- KAIST [韓国科学技術院]
 - サマープログラム
 - 研究+授業 (9~12月)
 - 研究のみ (1ヶ月以上)
- 清華大学 [Tsinghua Univ.]
 - 研究+授業 (9~12月)
 - 研究のみ (3ヶ月以上)

先輩の声

- なぜ韓国?なぜ KAIST?
- なぜ中国?なぜ清華大?
- 留学して変わったこと

支援内容

- 授業料
- 奨学金
- 宿 舎
- 航空券

応募資格

応募方法

- 応募までの流れ
- 必要書類

FAQ
お問い合わせ先

FAQ

Frequently Asked Questions

応募資格について

① 学部3年生ですが、TKT CAMPUS Asiaに応募できますか?

② このプログラムはサマープログラムは学部2年生以上、研究+授業のプログラムは留学時に学部3年生以上、研究のみのプログラムは学部4年生以上であることが条件になります。

③ 私は中国/韓国からの留学生です。応募資格はありますか?

④ このプログラムでは、中国籍の大学には留学できないルールとなっております。たとえば、中国の方は韓国の KAIST には留学可能ですが、清華大学には留学できません。

⑤ どのような基準で選考されるのでしょうか?

⑥ 留学ですので、基本的な語学力 (TOEICスコア 650以上) などが必要です。選考時には研究テーマ、過去2年間の成績、語学力など総合的に判断いたします。また面接も実施いたします。

プログラムについて

① 具体的にはどういう支援内容のプログラムでしょうか?

② 住復船空券、宿舎費 (KAIST の場合は奨学金より支払)、月々の奨学金が支給されます。奨学金受給には、KAIST は1ヶ月以上、清華大学は3ヶ月以上の滞在が必要となります。

③ KAIST宿舎の費用は日割り計算できますか?

④ 1ヶ月を超えた分は、日割りではなく15日単位での支払となります。

留学の内容

① 授業は何語で行われますか?

② KAIST では、授業はすべて英語で行われます。清華大学では中国語の授業が多いですが、英語の授業もあります。ゼミは英語で行ななど配慮してもらいます。

③ 申請時に派遣先大学の研究室の受入れ許可が必要ですか?

④ KAIST の場合は、ご自身の希望をもとに KAIST 側コーディネーターが受入れ先研究室を調整してくれますので、事前の受入れ許可は不要です。清華大学の場合は、応募前にご自身で東工大の指導教官と相談の上、受入れ先研究室を探し、受入れ内訳をもらう必要があります。

お問い合わせ

TKT CAMPUS Asia 事務局

〒152-8550 東京都目黒区大岡山2-12-1 東京工業大学大岡山キャンパス 南6号館 308号室
学務部留学生交換課 事業推進グループ
電話: 03-5734-2984 内線: 7177 メールボックス: S6-7 メール: campusasia@jim.titech.ac.jp
URL: <http://www.ipo.titech.ac.jp/campusasia/japanese/>



TKT CAMPUS Asiaとは

Collective Action for Mobility Program of University Students in Asia

- 日本・中国・韓国の3カ国の大学・大学院間での留学生交換プログラム
- グローバルな人材育成を目的に、2011年度から実施
- 文部科学省の「大学の世界展開力強化事業」として運営



日中韓先進科学技術大学教育環

高度化プログラム

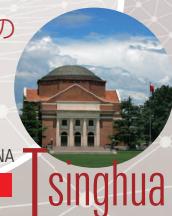
TKT CAMPUS Asia

世界トップレベルの
理工系

3大学が連携



韓国科学技術院 (KAIST)



清華大学

プログラム概要

Program Overview

KAIST [韓国科学技術院 (韓国)]



セマスター単位 韓国語の基礎講義と科学技術の特別講義からなる集中プログラム。

【留学内容】授業のみ (対象: 学部2年生以上)

【滞在時期】毎年 8月初旬から約1ヶ月間

3大学の教員によるJoint Lecture (工学や他のトピック)、Basic Korean といった講義が用意されている。

セメスター単位 セメスター単位で滞在し、授業を受講しながら研究。または研究のみのプログラム。

【留学内容】①授業と研究 (対象: 学部3年生以上)

②研究のみ (対象: 学部4年生以上、大学院生 (修士・博士課程))

【滞在時期】毎年 9月~12月 (秋学期)

研究のみ (1ヶ月以上) 自由で期間を設定できる研究プログラム。

【留学内容】研究のみ (対象: 学部4年生以上、大学院生 (修士・博士課程))

清華大学 [Tsinghua Univ. (中国)]



セメスター単位 セメスター単位で滞在し、授業を受講しながら研究。または研究のみのプログラム。

【留学内容】①授業と研究 (対象: 学部3年生以上)

②研究のみ (対象: 学部4年生以上、大学院生 (修士・博士課程))

【滞在時期】毎年 9月~翌年1月下旬

研究のみ (3ヶ月以上) 自由で期間を設定できる研究プログラム。

【留学内容】研究のみ (対象: 学部4年生以上、大学院生 (修士・博士課程))

研究室は
どう決める?

KAIST

希望をもとに先方のコーディネーターが受入れ先研究室を調整してくれる。

清華大学

応募前に、東工大の指導教員と相談の上、受入れ先研究室を探す必要あり。



先輩の声

Senior's Voice

なぜ韓国?なぜKAIST?

なぜ中国?なぜ清華大?

留学して変わったこと

研究だけでなく、就職を見据えたネットワークづくりも出来る。

北京の日本人ネットワークや東工大のOB会である歳前会を通して、製薬会社、銀行、新聞社、コンサルティング会社、プラット会社など多くの企業の北京支部を見学し、駐在員の方のお話を聞くことができました。また、定期的に行われる歳前会の集まりでは、東工大のOBである社会人の方に、社会人としてのあり方や就職の説明会では決して聞けないような話を聞くことができました。北京留学は日本人いるときよりも社会人と交流しやすく、企業に就職することを考えている方にとて、非常に恵まれた環境だと思います。

なぜ韓国?なぜKAIST?

まず隣国である韓国に飛び込んでみたかった。

今回のプログラムに参加して、アジアの一員であるという事を改めて強く感じました。日本、中国、韓国は多くの文化・言語・歴史を共有しており、非常に似通った部分が多いなと、欧米人と比較しても非常に親しみやすく感じました。今回、欧米の国への留学よりも先にアジアの国への留学を見てみて非常に良かったと思います。政治的な問題はまだあります、個人レベルで我々3国が互いに理解し、協力し合い、同じアジアとして(European Unionならぬ Asian Unionとして)今後のアジアの発展に貢献していきたいと強く感じています。

なぜ中国?なぜ清華大?

中国トップの清華大学で研究ができる自信につながった。

清華大学は北京大学とともに中国国内トップの大学であり、特に理系の分野では世界的にも知名度がある。研究面では学部生であるにもかかわらず、大学院生と同じ環境での研究をさせてもらいました。初めての研究室配属ということになり、最初は英語の論文読み、実験計画などから困難の連続であった。しかし次第にそれらを自分自身でこなせるようになり、最終的に実験報告書を英文でまとめて提出したことは自信にもなった。

なぜ韓国?なぜKAIST?

中国は親切で面倒見がいい人が多い!

第一に、遠慮せずに人に頼りましょう。慣れない環境では自分一人ではどうすることもできない部分がたくさんあります。一人で抱え込まずに周りを頼ってたくさん助けてもらいましょう。自分にとっては意外でしたが、中国は親切で面倒見がいい人が多いです。

なぜ中国?なぜ清華大?

英語圏への留学ではわからなかったことに気づけた。

今回初めての留学で英語圏、またヨーロッパではなく、アジアの、それも日本と非常に良く似た韓国に留学できることはとても有意義であったと感じています。3ヵ国語(韓国語、英語、中国語)を実際にその国で生活して学び、その重要性に気づくことができました。英語圏のみの留学では分からなかったことであると思います。こういった経験は今後の生活でも重要なことを感じています。その国の人と実際に話してみることの重要性を感じることができたのは私にとって貴重な経験になりました。

なぜ韓国?なぜKAIST?

韓国式英語にヒントあり!

日本人は英語が苦手と言われているが、実は韓国人にとって英語はかなり苦手なようである。KAISTの学生と留学生との会話をよく聞いていると、極力スピードを落として話しているのがわかった。自分もそれを真似して話すようにしたところ、考える余裕が生まれるようになり、自信が持てるようになった。

なぜ中国?なぜ清華大?

予想もない経験を積めるのが留学。是非挑戦しよう!

苦しいこともありましたが、留学したこと、視野が広がり、自らの強み弱みをこれまで以上に認識できるようになりました。私は学部生だったので、研究室には所属せず、授業のみ受講しました。中国語学習経験があつたため日常会話は問題ありませんでしたが、授業では大苦労しました。また、清華大学日本人会に短期留学生代表として関わったことは、非常に大きな経験になりました。予想もない経験を積めるのが留学です。少しでも興味があれば是非挑戦してください。

なぜ韓国?なぜKAIST?

積極性の大切さを生身で経験。

帰国後、自身の将来のことを以前よりも積極的に考えるようになったと感じている。積極性があつた友人たちは囲まれたことで、自身の積極性が大事ということを生身で経験したこと、それが交友関係や楽しみなど幅広く影響していくと思ったことが大きく影響していると思う。

なぜ中国?なぜ清華大?

理学部 化学科

支援内容・応募資格

Support / Program Eligibility Requirements

支援内容	
授業料	留学先大学の授業料免除
奨学金	清華大学(中国): 学部生・修士課程学生は 3,000元/月 修士号を有する学生は 3,500元/月 KAIST(韓国): 学部生 800,000Won/月 大学院生(修士・博士) 900,000Won/月
宿舎	清華大学(中国): キャンパス内の留学生専用宿舎(無料) KAIST(韓国): キャンパス内、またはキャンパス外の宿舎(奨学金より支給)
航空券	東工大より 往復国際航空券を支給

応募資格

1	セマープログラム (対象: 学部2年生以上) セメスター単位 (対象: 学部3年生以上) 研究のみ (対象: 学部4年生、大学院生 (修士・博士課程))
2	留学期間修了後は本学に戻り学業を継続すること
3	KAISTへの応募: 日本国籍及び中国国籍を有する者 ※それ以外の場合は要相談
4	清華大学への応募: 日本国籍を有し、かつ「東工大・清華大大学院合同プログラム生」でない者
5	TOEFL-iBT 70点、TOEIC 公開テスト650点以上
	派遣前及び派遣終了後に、勉強会や報告会に参加できること

応募方法

How to Apply



必要書類

- 1 東工大申請書
- 2 KAIST Application Form ※KAIST留学希望者のみ
- 3 在籍証明書 ※KAIST留学希望者のみ
- 4 学業成績書 (学部生)、学業成績証明書 (大学院生)
- 5 話語能力証明書 (TOEIC、TOEFL-iBT、IELTS 等)
- 6 本学における指導教員・助言教員の推薦状
- 7 パスポートコピー、証明写真 (3枚)

! 指導教員の推薦状や署名が必要なものは早めに準備しましょう!

研究室の探し方

KAIST: 指導教員と相談の上、下記サイトより探し、申請書に第3希望まで記入。
その希望をもとに先方のコーディネーターが受入れ先研究室を調整してくれる。
http://www.kaist.ac.kr/html/en/edu/edu_030101.htm

KAIST

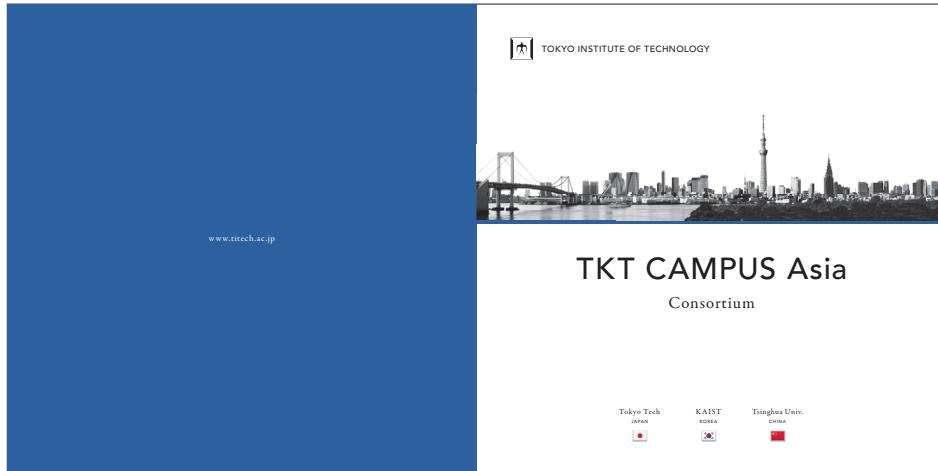


清華大学: 東工大の指導教員と相談の上、下記サイトより探し。
http://www.tsinghua.edu.cn/publish/newthuen/newthuen_cnt/faculties/faculties-1.html

清華大学

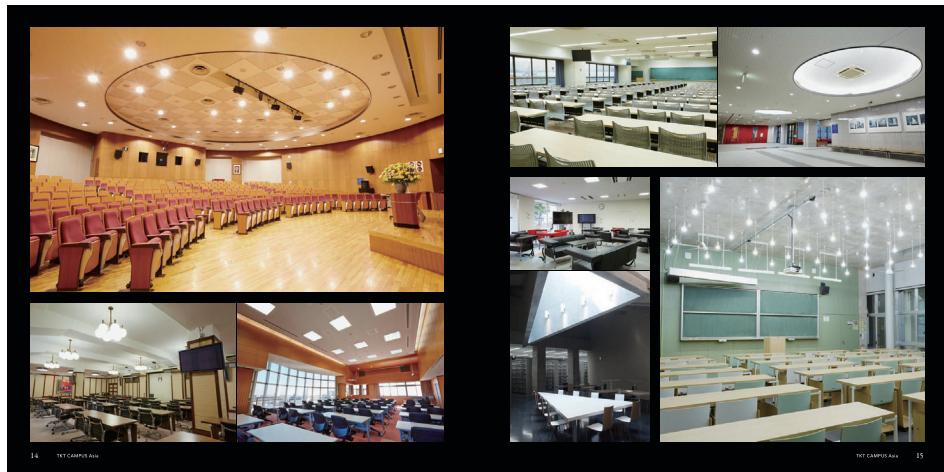
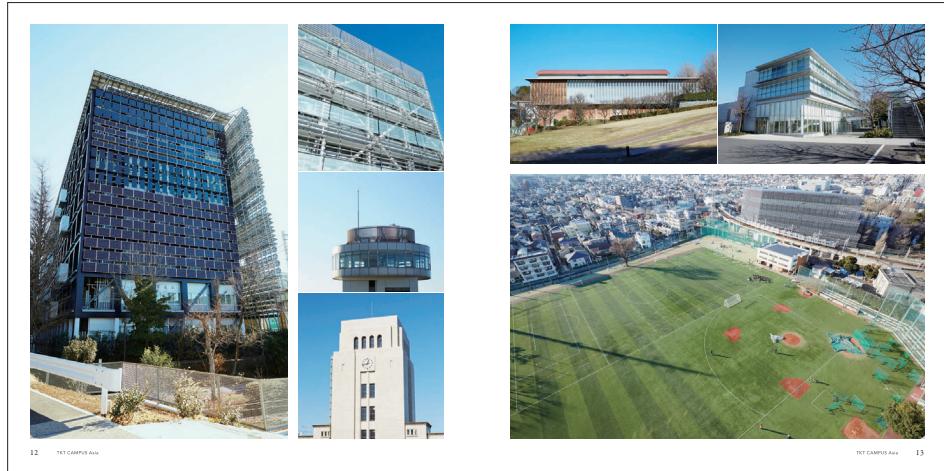


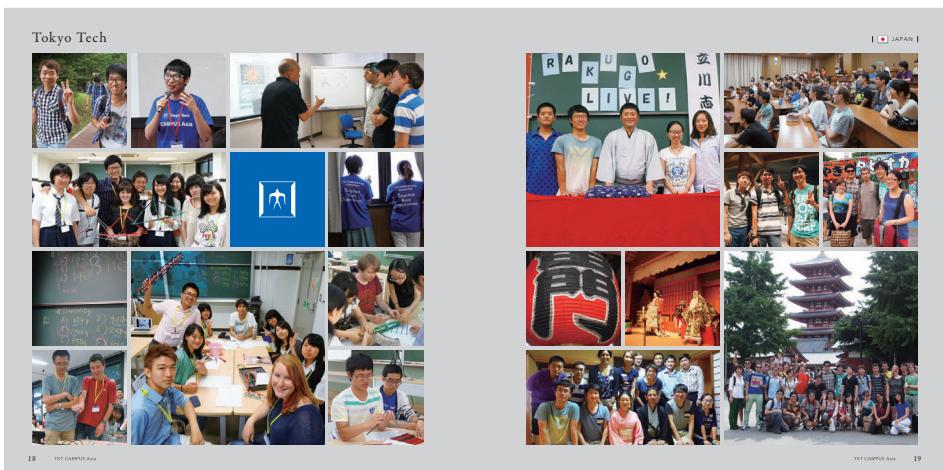
コンセプトブック





TIT CAMPUS Asia 09





Summer Program

Every year, about 30 exchange students, 10 from Tsinghua University and KAIST, and others from world-leading universities of science and technology from Western and Asian countries participate in our Summer Program. They experience research life in laboratories different from the environment of their home countries and attend lectures to study the state-of-the-art technology. At the same time, students can gain an understanding of Japanese and Asian society and culture through visiting world-class, leading-edge companies and basic research laboratories, and by participating in cultural events.



Lab Research Experience



Visits



Workshop



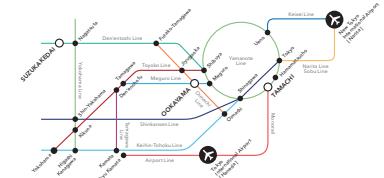
Special Lecture



TIT CAMPUS Adu 24

TIT CAMPUS Adu 25

Map & Locations



OOKAYAMA Campus

Location: 2-3 Ookayama, Meguro-ku, Tokyo, 152-8550 JAPAN
Nearest Station: Ookayama Station (1-minute walk)

SUZUKAKEDAI Campus

Location: 4259 Nagata-cho, Midori-ku, Yokohama, Kanagawa, 226-8502 JAPAN
Nearest Station: Suizukakedai Station (5-minute walk)

TAMACHI Campus

Location: 3-14 Ochiai, Minato-ku, Tokyo, 108-0022 JAPAN
Nearest Station: Tamachi Station (2-minute walk)

TOKYO INSTITUTE OF TECHNOLOGY

2-12-1 Ookayama, Meguro-ku, Tokyo,
152-8550 JAPAN
2013.3.1 (Mon) Tokyo Institute of Technology



TIT CAMPUS Adu 26

1. 事業概要

- 2. 運営体制、予算
- 3. 学生の受入
- 4. 学生の派遣
- 5. コロナ禍でのオンライン交流プログラム
- 6. 受入学生・派遣学生の交流
- 7. 21世紀型スキル教育への取組
- 8. 幹事校としての取り組み
- 9. 評価
- 10. フォトギャラリー

1-1 計画調書

Joint Application Form

1-2 取組概要（日本語版、英語版）

1-3 Implementation Guidelines

1-4 修学・研究計画書／報告書 (Study and Research Plan/Record)

秘密保持契約

1-5 パンフレット

1-6 ウェブサイト

動画

BLOG

2020.01.27
【清华大学】留学期間最後の12月・1月について振り返ります。

2019.12.20
【KAIST】留学3ヶ月目

2019.11.30
【清华大学】11月の1ヶ月について振り返ります。

2019.11.20
【KAIST】留学2ヶ月目

NEWS

2020.11.11
【参加学生募集】TKT CAMPUS Asia Winter Camp 開催決定！

2020.11.04
【参加学生募集】TKT CAMPUS Asia Research Symposium

2020.09.14
【開催報告】TKT CAMPUS Asia Online Summer Camp 2020

2020.04.14
【派遣学生募集】清华大学 Fall Semester Program



大久保 雄真(清华大学)
土木・環境工学系 修士1年(当時)
2019年度 清華大学秋学期プログラム
清华大学秋学期プログラム

近くで重要な国、でも日本にいる情報があまりない国、実際に行ってすごさや実感を感じられる。

BLOG

2018.03.30
Hello and warm welcome to our blog!

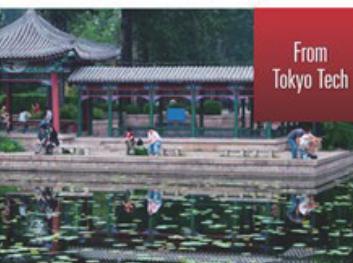
NEWS

2019.12.03
The application for the 2020 Tokyo Tech CAMPUS Asia Sum...

2018.12.27
[Jan. 16, 2019] 21st Century Skills Seminar # 8

2018.12.04
2019 Tokyo Tech CAMPUS Asia Summer School Application I...

2017.12.28
Report of CAMPUS Asia Summer School 2017 posted on the...



Hezi LIU
Tsinghua University, China
CAMPUS Asia Summer School 2019 (Research-oriented)

KAIST派遣学生によるKAIST紹介動画



KAIST (韓国科学技術院)

清華大学派遣学生のインタビュー動画



Voices from Tokyo Tech Students



KAIST 寮の様子



Why Tsinghua University?

1. 事業概要

2. 運営体制、予算

3. 学生の受入

4. 学生の派遣

5. コロナ禍での
オンライン交流プログラム

6. 受入学生・派遣学生の交流

7. 21世紀型スキル教育への取組

8. 幹事校としての取り組み

9. 評価

10. フォトギャラリー

2-1 実績報告書

〔別紙様式14-1〕

平成 29 年 4 月 6 日

大学等の設置者 (名 称)	国立大学法人東京工業大学
(所在地)	東京都目黒区大岡山2-12-1
(代表者氏名)	学長 三島 良直 (記名押印又は署名)
大学等名	東京工業大学

平成28年度 国際化拠点整備事業費補助金
(大学の世界展開力強化事業) 実績報告書

プログラム名称・選定年度	大学の世界展開力強化事業 一キャンパス・アジア(CA)事業の推進(タイプA-1)		平成28年度
構想名称	日中韓先進科学技術大学教育環高度化プログラム		
補助事業の実績等	別紙のとおり		
補助事業実績期間	平成28年9月30日～平成29年3月31日		
事業推進担当者	氏名	所属・職名	
事業推進代表者	三島 良直	学長	
事業推進責任者	原 正彦	物質理工学院・教授	
会計事務担当者名	所属・職名	連絡先(電話番号、FAX番号、E-mailアドレス)	
伊東 啓子	学務部留学生交流課 事業推進グループ長	TEL	03-5734-3026
		FAX	03-5734-3677
		E-mail	ryu.jig@jim.titech.ac.jp

式9(第11条第1項関係)

別紙1

補助事業の実績	補助事業に係る具体的な成果
（補助対象期間中に行った事業の内容の概要を記載してください。また、必ず、交付申請（実施計画・実績）に対応させるように記載してください）	（学生教育の観点での成果の概要を記載してください。また、必ず、左記の補助事業の内容と対応させるように記載してください。）
補助事業の目的は、以下の3点である。	
共同研究指導体制による「研究重視型教育」の強化 都生を対象とした「授業重視型教育」と大学院生（又は学部4年生以上）を対象とした「研究重視型教育」の実施プログラムを明確化し、異なる視点を検討し、より高レベルの国際連携研究に基づく共同学位取得を目標とする「学部プログラム」とする。 都道府県の連携のための学部学術連携会議を開催し、その成果を各学部の連携会議の運営のための学部学術連携会議を開催する。 各学部の連携会議の運営のための学部学術連携会議を開催する。	1)「授業中心型教育」と、研究室所属型の「研究重視型教育」を明確化することについて、その趣を明確化し、学生への取扱いを行った（修学計画書にに基づき、派遣先、派遣元の両教員の学生が組む修業計画書を記載し、共通認識を持つて指導するなどして、留学生によって有効な時間を作った）。
ダブルディグリーによる「国際化型教育」の強化 留学生を対象とした「授業重視型教育」と大学院生（又は学部4年生以上）を対象とした「研究重視型教育」の実施プログラムを明確化し、異なる視点を検討し、より高レベルの国際連携研究に基づく共同学位取得を目標とする「学部プログラム」とする。 都道府県の連携のための学部学術連携会議を開催し、その成果を各学部の連携会議の運営のための学部学術連携会議を開催する。	2) 三つの実施委員会が構成され、実施委員会での具体的な調査によって、各学部に付随する実施委員会による各野分野の実施委員会に具体的な可能性について協議を行った。また、各実施委員会が実施委員会にて、留学生に対する「ダブルディグリー」の拡充による「広い分野」へ拡充し、それらの最適化プロセスの中、ジョイントマッチングを行った。
日中韓からアジアの先進科学技術系「21世紀型スキル」教育の強化 先端の学術技術を基礎として、グローバル社会で競うける問題解決型人材育成を目的として、先進科学技術系「21世紀型スキル」教育を強化し、アジアの科学技術教育において共通して求められるスキルによって広く発展する。また、産業界や経済機関との連携を深め、技術革新と国際連携の現場教育ならびにグローバル人材ネットワークの形成を推進する。	3) 中韓からアジアの先進科学技術系「21世紀型スキル」教育を強化し、アジアの科学技術教育において共通して求められるスキルによって広く発展する。また、産業界や経済機関との連携を深め、技術革新と国際連携の現場教育ならびにグローバル人材ネットワークの形成を推進する。
事業を通して、「研究重視型教育」の強化、ダブルディグリーの拡充に向けたプログラムの強化、「21世紀型スキル」教育の強化を行った。	（学生教育の観点での成果を記載してください。また、必ず、左記の補助事業の内容と対応させるよう、箇条書きで記載してください。）
9月 - 3月 実施部会委員の選定および実施部会の実施	受入・派遣学生の選定を部会内で行い、事業実施期間内には受入学生10名、派遣学生2名を実現した。そのほか、29年度のサークルプログラムの授業内容の検討や、学生の21世紀型スキルを高めるためのセミナーの企画等部会内で行った。
会員として教員7名、事務職員5名を選定し、28年度内に4回の部会を実施した。	
9月 - 11月 プログラムコーディネーターおよび事務支援員の公募・選考・雇用	学生交流の際に必要な連携する大学や、留学生に必要な手続を専任コーディネーターと事務支援員が行い、円滑な学生交換を実現することができた。また、学生教育について審議する場である部会の運営、21世紀型スキルのセミナーの実施、運営も行った。
会員として教員7名、事務職員5名を選定し、28年度内に4回の部会を実施した。	
11月 - 2月 三大学の関係教職員を集めた合同運営委員会を開催	学生交流の際に課題となることについて共通認識を深め、共に課題解決に向けて推進すべきことを確認することができた。派遣学生が進むためのプロセッション、埋める予算の有効な使い道、ダブルディグリー・ジョイントマッチング一括、留学先大学の学生の交流など、幅広い意見交換を行なうことができた。また、直接面接をせざることでお互いを理解することができ、今後ダブルディグリーに挑戦するきっかけになった。
月に三大学の関係教職員が韓国KAISTに会し、合同運営委員会を開催した。	3) 「21世紀型スキル」教育の意義の実現により、学生が科学技術の知識のみならずコミュニケーションスキルの重要性を理解するきっかけとなった。また、留学生対応をする教職員向けのセミナーを実施し、留学生とのコミュニケーションをよりスムーズにすることができた。
11月 - 3月 國内のキャンパスアシアプログラム採択校との情報交換会を実施	
山大学、神戸大学、九州大学、東京大学との情報交換を行った。	（学生教育の観点での成果を記載してください。また、必ず、左記の補助事業の内容と対応させるよう、箇条書きで記載してください。）
10月 - 3月 ホームページおよびパンフレット等の作成	岡山大学、神戸大学とは、派遣学生を増やすためのプロモーションや宿舎事情などについて意見交換を行った。多くの学生に留学の魅力を伝え、学生体験を通してうらぎに出来る施設や、宿舎改善のための意見を伺うことができた。九州大学とは、共に理工系採択校として情報交換を行った。東京大学とは、今後どのように連携していくかについて意見交換を行い、次年度渡航ウェブサイト「CAMPUS Asia Research Review」上に取り扱っており、意見交換を行なうことで、国内他の採択校との繋がりがうき渡される見受けられるなどして、これまでの情報交換が学生により伝わるようになり、留学にチャレンジする学生がますます増えていることが期待できる。
事業のみでなく、他の採択大学のウェブサイトへのリンクも網羅した「CAMPUS Asia Research Review」をリニューアルし、関連教員情報などをさらに充実させた。派遣学生向けパンフレット、ポスターの作成を行った。	「CAMPUS Asia Research Review」では、キャンパスアシア関連教員の情報を掲載し、学生が指導教員を進ぶ際に必要な情報を探しやすいようにした。また、このフォームは教員が自分で複数登録ができるため、今後、各自教員が最新情報を更新でき、学生もまた最新情報を得ることができる。
10月 - 3月 受入れ学生の募集・選考	（学生教育の観点での成果を記載してください。また、必ず、左記の補助事業の内容と対応させるよう、箇条書きで記載してください。）
インターネットプログラム（1～3月）に参加する学生の募集・選考を行った。	インターネットプログラム（1～3月）に参加する学生の募集・選考を行った。多数の応募があり、成績、語学力、申請書内容に基づき正規採択部会にて行った。KAIST、清華大学を含む各名門10名の学生を受け入れ、研究室所構成の教育プログラムを行なった。
10月 - 3月 10月 - 3月 派遣生の募集・説明会も実施・選考	（学生教育の観点での成果を記載してください。また、必ず、左記の補助事業の内容と対応させるよう、箇条書きで記載してください。）
派遣生の募集・説明会・選考を行った。	派遣生の募集・説明会・選考を実施した。事業採択後十ぐるに募集を開始し、KAISTの秋学期プログラムに1名、春学期プログラムに2名を派遣した。清华大学は事業実施時に募集を締め切ったため、38年度は募集を行っていない。
10月 - 3月 外国人学生受入れのための業務調整・充実	（学生教育の観点での成果を記載してください。また、必ず、左記の補助事業の内容と対応させるよう、箇条書きで記載してください。）
外国人学生の出願手続き一部オンライン化を継続した。 宿舎宿泊を検討する所の、検討・比較を行い、契約を行った。 新たに来れる留学生に対して、専門分野の近い東大生をチューターに指名した。 前説明会の講師のチューター教育を行うことにより、チューターの役割を事前に理解してもらう。 留学アドバイザーによる修学・生活支援を行った。 専門業者による空港でのピックアップおよび駅前バス乗り場への案内を行った。 外国人学生と本プログラムにて派遣留学経験のある本学生が参加するセミナーを実施し、 留学生を予定している学生を対象とした留学準備講座を実施した。	・学生の出願手続き・手順を軽減した。 ・本学宿舎の中学生の生活をより快適にになり、不安なく研究活動を送るための助けになった。 ・専門が近い東大生が初期から知り合が出来、外国人留学生が相談しやすくなった。 ・留学アドバイザーが留学生にとってできる限りのサポートを行なった。 ・留学アドバイザーが留学生が抱える様々な不安に対応し、快適な留学生活へとつながった。 ・外国人学生が不安なく宿舎に到着できるようサポートした。 ・共通の留学体験を持つ本学学生の知りうることで、留学生活がより充実したものになった。
10月 - 3月 本学の学生を対象とした留学準備講座の実施	（学生教育の観点での成果を記載してください。また、必ず、左記の補助事業の内容と対応させるよう、箇条書きで記載してください。）
留学生を予定している派遣学生に対し、留学国事情や大学の情報について説明を行う渡航前オリエンテーションを実施した。また、語学とコミュニケーションスキルアップのための21世紀型スキルセミナー（使用言語：英語）を準備し、渡航前の不安を払拭した。	

⑩ 11月～3月 受入れ教員対象PD研修の企画・実施	留学生対応業務に従事する事務職員を対象し、語学とコミュニケーションスキルのイギリス人専門講師による「英語コミュニケーションスキルアップセミナー」を実施した。留学生対応で使う英語をシミュレーションごとに学ぶことで、伝えたいことを的確に伝えるスキルをアップすることができ、留学生とのコミュニケーションをよりスマーズにすることができます。
⑪ 10月～3月 本学学生を清華大学・KAISTに派遣	KAISTの秋学期プログラムに1名、春学期プログラムに2名を派遣した。夏にはKAISTサマースクールに3名を派遣した(事業実施前)。短期間ながら、海外大学の研究環境や新しい視点を身に付けることができた。清華大学は事業実施時に募集を締め切っていたため、28年度は派遣していません。本学学生をKAISTに派遣した。
⑫ 10月～3月 本学において清華大学およびKAISTから学生を受け入れ、研究室型教育プログラムを実施	日本での研究環境や生活を経験する中で、新しい視点を身に付けることができた。また、21世紀型スキルセミナー特別講義を実施し、学生のコミュニケーションスキルアップへのきっかけとなつた。講義の間に開催した交流ランチでは、東工大生や講師との交流の場を提供した。KAIST、清華大学から各5名計10名の学生を受け入れ、研究室所属型の教育プログラムを行つた。
⑬ 10月～3月 派遣・受入学生に対する直接・間接評価(アンケート等)を実施	アンケートを実施することで、プログラムの改善点が見え、学生にとってより有意義なプログラムを提供できる。派遣・受入学生に対するアンケートを実施した。
⑭ 10月～3月 合同運営委員会に修了生の同窓部会を設置できるよう企画を推進	キャンバアジアの派遣学生、受入学生が書き込みができるLinkedInをプラットフォームとしたOB・OG交流サイトを作成した。
⑮ 10月～3月 ダブルディグリーの分野拡大の可能性調査	今後、ダブルディグリーの分野拡充がされることになれば、学生にとって双方の大学での修学がより効率的かつ有意義なものになり、教育効果が高まることが期待される。また、超短期派遣した7名の学生にとっては、KAISTに間近で見ることでKAISTへの留学がどのようなものか想像することができ、今後のダブルディグリーへの挑戦のきっかけになつた。
⑯ 12月～3月 「21世紀型スキル」教育の講座を実施	第1回、第2回は、「21世紀型スキル」教育の講義の実施に上り、学生が科学技術の知識のみならずコミュニケーションスキルの重要性を理解するきっかけとなつた。また、第3回は留学生対応をする教職員向けのセミナーを実施し、留学生とのコミュニケーションをよりスマーズにすことができるようだ。

(注)交付申請書の「補助事業の目的・必要性」、「本年度の補助事業実施計画」と対応させて分かり易く記入すること。

様式9(第11条第1項関係)

プログラム名称	大学の国際展開力強化事業 一キャンパス・アジア(CA)
(選定年度)	平成28年度
構想名称	日中韓先進科学技術大学教育高度化プログラム
大学等名	東京工業大学
担当者氏名等	岸英一
電話番号	03-5734-3026
E-mail	ryu.ya@pmi.titech.ac.jp

費目別収支決算書						
区分等			交付決定に係る補助対象経費の額等(円)	補助事業に要した補助対象経費の額等(円)	増減額(円)	増減率(%)
支出	物品費	設備品費	0	1,277,196	1,277,196	-*1
		消耗品費	790,000	1,053,355	263,355	33.3%
		計	790,000	2,330,551	1,540,551	195.0%
	人件費	人件費	4,900,000	2,791,228	-2,108,772	-43.0%
		謝金	800,000	873,000	73,000	9.1%
		計	5,700,000	3,664,228	-2,035,772	-35.7%
	旅費	旅費(うち国内旅費)	500,000	119,764	-380,236	-76.0%
		旅費(うち国外旅費)	2,100,000	1,255,796	-844,204	-40.2%
		旅費(うち外国人招待旅費)	900,000	99,980	-800,020	-88.9%
		計	3,500,000	1,475,540	-2,024,460	-57.8%
	その他	外注費	6,050,000	7,222,720	1,172,720	19.4%
		印刷製本費	1,500,000	1,652,940	152,940	10.2%
		会議費	30,000	85,000	55,000	183.3%
		通信運搬費	50,000	13,853	-36,147	-72.3%
		光热水料	0	0	0	-
		その他(諸経費)(うち委託費以外)	2,380,000	3,211,012	831,012	34.9%
		その他(諸経費)(うち委託費)	0	0	0	-
		計	10,010,000	12,185,525	2,175,525	21.7%
		合計	20,000,000	19,655,844	-344,156	-1.7%
収入	国際化拠点整備事業費補助金	20,000,000	20,000,000	0	0.0%	
	自己収入	0	0	0	-	
	預金利息	-	0	0	-	
	合計	20,000,000	20,000,000	0	0.0%	

返還額算定	控除額(査定)	0
	差引支払額	19,655,844
	別表第4(第12条第1項)	19,655,844
	確定額	19,655,844
	返還額	344,156

<返還額算定式>

以下の算定結果が正である場合に返還対象となります。

i. 別表第4(第12条第1項関係)

補助事業に要した補助対象経費の総額 × 補助金の交付決定額 ÷ 支付決定に係る補助対象経費の額

ii. 収入予定額のうち補助金交付決定額とiの少ない方

iii. 収入予定額のうち補助金交付決定額からiiを引いた金額

学外使用の有無	使用なし
---------	------

主要増減理由記述欄

No.	増減理由記述欄	備考
*1	3月に入つて29年7月のサマープログラム準備が本格化、また受入学生審査も重なり、年度内に打ち合わせが必要な事項が増えた。プログラム主査ははずかけ台キャンパスに研究室があり、事務局は大岡山キャンパスにあるため、集まってミーティングができる機会が限られているため、遠隔でも意思疎通がスムーズになるよう、本設備備品を購入することとした。	

〔別紙様式14-1〕

平成 30 年 4 月 6 日

文部科学大臣 殿

大学等の設置者 (名 称)	国立大学法人東京工業大学
(所在地)	東京都目黒区大岡山2-12-1
(代表者氏名)	学長 益 一哉
	(記名押印又は署名)
大学等名	東京工業大学

平成29年度 国際化拠点整備事業費補助金
(大学の世界展開力強化事業)

実績報告書

プログラム名称・選定年度	大学の世界展開力強化事業 一キャンパス・アジア(CA)事業の推進(タイプA-1)－		平成28年度
構想名称	日中韓先進科学技術大学教育環高度化プログラム		
補助事業の実績等	別紙のとおり		
補助事業実績期間	平成29年4月1日～平成30年3月31日		
事業推進担当者	氏名		所属・職名
事業推進代表者	益 一哉		学長
事業推進責任者	原 正彦		物質理工学院・教授
会計事務担当者名	所属・職名		連絡先(電話番号、FAX番号、E-mailアドレス)
下園 健一	学務部留学生交流課 交流推進第3グループ長	TEL	03-5734-3027
		FAX	03-5734-3677
		E-mail	ryu.kor3@jim.titech.ac.jp

別紙1

補助事業の実績	補助事業に係る具体的な成果
論(補助事業期間中に行った事業の内容の概要を記載してください。また、必ず、交付申請時に実施計画の総論と対応させるように記載してください。)	(学生教育の観点での成果の概要を記載してください。また、必ず、左記の補助事業の内容と対応させるように記載してください。)
本補助事業の目的は、以下の3点である。 共同研究指導体制による「研究重視型教育」の強化 師生を対象とした「授業を中心とした」大学生成(又は学部4年生以上)を対象とした「研究重視型教育」のプログラムを明確化し、異なる視点をも横断し、より高文化化された人材を育む。各大学が各自の特徴を旨にプログラムを運営する。特に、各大学の教員陣の運営のもとで、学位獲得を指向する学生を共同指導し、理工系における「研究重視型教育」の実施を実現する。 ダブルデグリーの拡充とダブルデグリーに向けたプログラムの強化 ダブルデグリーをより広い分野へと拡充し、それらの最適化プロセスの中で、ジョイントマッチングの実施に向けた実行を行った。 中間輔導からアジアの先進科学技術系「21世紀型スキル」教育の強化 先端の科学技術を基礎として、ダブルハベル社会貢献できる問題解決型人材育成を目的として、先進科学技術系「21世紀型スキル」教育を強化し、アジアの科学技術教育において共通で求められるスキルとして広く発信する。また、産業界や、政府機関との連携を深め、技術革新と国際連携の現場教育などひびにグローバルネットワークの形成を推進する。	1)「授業を中心型」と、研究室所属型の「研究重視型教育」の強化 2017年度は、「授業を中心型」と、研究室所属型の「研究重視型教育」の強化を明確化した。授業を中心型については、主に学部生を対象とし、1年間集中講義を実施する「サマープログラム」を実施した。研究重視型については、主に学部4年生以上を対象とし、研究室に所属して研究を行なう「プロジェクト」を実施した。留学時に、修了計画書に基づき、派遣先・派遣元の両教員が学生が取り組む修了計画書を理解し、共通認識を持てる指導にあたることで、留学でも学生にとって有意義な時間になった。 2)ダブルデグリーの拡充とダブルデグリーに向けたプログラムの強化 7月、2月に実行した三次会の関係教職員が会合した合同運営委員会での性能検査に加え、KAIST・東工大間で9月(技術経営)と10月(生命倫理)に各分野との教員により、さらに具体的な教員・学生交流の可能性について協議を行った。教員の研究分野を共有する中で、教員同士のつながりが深まることもあった。今後、お互いの学生紹介や交流、教員の交流になながっていくことが十分期待できる。 3)中間輔導からアジアの先進科学技術系「21世紀型スキル」教育の強化 2017年度は、学生・職員・教員向けの「21世紀型スキル」セミナーを実施した。学生にとっては、科学技術の知識のならぬるコミュニケーションスキルの重要性を理解するきっかけとなった。職員向けには、英語での対応対応セミナーを実施し、留学生とのコミュニケーション時に文化で差異があることや、英語で話す際の大切な発想の転換など、英語コミュニケーションのポイントを学んだ。また、教員向けのセミナーとして、清華大学では「21世紀型スキル」教育を「Global Competence」と称し、本格的に強化を進めており、その取り組みを知ることは大変意義のある機会となった。教職員の「21世紀型スキル」を強化することで、学生とのコミュニケーションをよりスムーズにすることができると考えられる。
事業を通して、「研究重視型教育」の強化、ダブルデグリーの拡充を行った。 補助対象期間中に行った事業の内容を具体的に記載してください。また、必ず、交付申請の実施計画と対応させるよう、箇条書きで記載してください。)	(学生教育の観点での成果を記載してください。また、必ず、左記の補助事業の内容と対応させるよう、箇条書きで記載してください。)
D 4月~3月 実施部会の実施	
17年度年内に6回の会合を実施し、学生交流やプログラムの実施に関する協議を行った。	・部会は、受入・派遣学生の選定を行った。事業実施期間内に、KAISTから12名、清華大学から名前2名の学生を受け入れた。 ・本会からKAISTは8名、清華大学は2名計10名の学生を派遣した。 ・そのほか、30年度のサマープログラムの実施内容の検討や、学生の21世紀型スキルを高めるためのセミナーの企画も部会内で行った。
D 4月~3月 選任スタッフの雇用	
会のプログラムコーディネーターと事務支援員を引き続き雇用した。	・学生交流の際に必要となる連携大学間の連絡や、留学に必要な手続き、来日後のサポートを専任のコーディネーターと事務支援員が行い、円滑な学生交流を実現することができた。 ・学生教育について審議する場である部会の運営、21世紀型スキルのセミナーの実施を行なった。 ・事業実施に関する予算の管理、執行、各種報告書の作成、提出等を行なった。
D 4月~3月 三大学の関係教職員を集めた合同運営委員会を開催	
度内に2回(7月、3月)、三大学の関係教職員が会する合同運営委員会を開催した。また、要に応じてスカイミーティングを実施した。	・学生交流の際に課題となることについて共通認識を深め、共に課題解決に向けた推進すべきことを確認することができた。 ・留学生増加のためのプログラム・限りある予算の有効な使い道、ダブルデグリー、ジョイントマッチングの充実、留学生の現地学年との対応など、諸々にむき合った意見交換を行なった。 ・9月には初めて清華大学での合同運営委員会の開催が実現し、清華大学プログラム担当者と直面接話し合わせてきました。マネージャークラスだけでなく、実務を行なうプログラム担当者も含め、三大学がチームとして働くという意識が強まり、学生にとってさらに有意義なプログラム作りにつながることになった。
D 4月~3月 国内のキャンパスアジアプログラム採択校との情報交換会を実施	
キャンパス・アジア採択校連絡会に参加し、参加大学との情報交換を行った。	・日本側採択大学の関連教職員が会する文部科学省主催のキャンパス・アジア採択校連絡会に参加した。各コソーシアムの取組内容や実施上の問題点等について話を聞く貴重な機会であり、意見交換の場として非常に有意義であった。
D 4月~3月 ホームページの定期的な更新および保守	
事業のみでなく、他の採択大学のウェブサイトへのリンクも網羅した「CAMPUS Asia Research Review」を更新し、関連教員情報などをさらに充実させた。また、本プログラムのホームページの情報を随時更新した。	・「CAMPUS Asia Research Review」では、昨年度に継続キャンパス・アジア関連教員情報を掲載し、学生が指導教員を訪ぶ際などに情報を探しやすいたいとした。また、このフェアは教員が自分で構成ができるため、今後も教員自身が最新情報を更新でき、学生もまた最新情報を得ることができます。 ・本プログラムのホームページでは、募集情報、プログラム情報を随時更新し、留学を希望する学生の最新情報を得られるようにいたしました。 ・編集機能を追加し、学生交流の情報をブログで発信できるようになりました。留学時の様子などを掲載することで、留学を希望する学生にとって有効な情報になると期待できる。
D 4月~3月 受入れ学生の募集・選考	
ummer Program、Joint Educational Program、Winter Programに参加する学生の募集・選考を行なった。	・Summer Program、Joint Educational Program、Winter Programに参加する学生の募集・選考を行なった。多数组の応募があり、成績、語学力、申請書内容を基に公正な採択を部会にて行なった。 ・KAISTから12名、清華大学から名前2名計20名の学生を受け入れた。
D 4月~3月 派遣学生の募集(説明会も実施)・選考	
遣の学生の募集・説明会・選考を行なった。	・派遣学生の募集・説明会(留学フェア)、選考を実施した。 ・事業期間内に、KAISTのSummer Programに4名、Winter Programに2名、Winter Programに2名、Joint Programに1名の計8名を本学から派遣候補生として推薦し、全員がKAISTによって正式に採択された。 ・清華大学では、2月~7月のSpring Programに2名の学生を本学から候補生として推薦し、2名ともが清華大学によって正式に採択された。(清華大学は9月からの派遣学生の募集もあったが、いままで週間しかなく、学生を派遣することができなかった。)

⑩ 4月~3月 外国人学生受け入れのための環境整備・充実	<p>・外国人学生の出願手続き一部オンライン化を継続した。</p> <p>・民間宿舎を視察の上、検討・比較を行った。また、学内寮については空きが非常に少ないが、頻繁に担当部署をやりとりし、6名を学内寮に入れてもらうことができた。</p> <p>・新規開設予定の寮に対する、専門工事の近く東工大生をチャーターに指名した。</p> <p>・事前説明会等チャーター教育を行うことにより、チャーターの役割を事前に理解してもらい、修学生活支援に当たった。</p> <p>・専門委員会による空港でのピックアップおよび最寄駅行きバス乗り場への案内を行った。</p> <p>・外国人学生と派遣留学経験学生・派遣予定学生が交流できる場を提供し、学生同士が情報交換ができるようにした。</p>
⑪ 4月~3月 本学の学生を対象とした留学準備講座の実施	<p>・留学を予定している派遣学生に対し、留学国情事や大学の情報について説明を行う渡航前オリエンテーションを実施した。</p> <p>・渡航前に韓国語・韓国文化に関する事前学習会を実施した。簡単な会話文や韓国文化について学ぶことができ、留学への意を払わせた。</p> <p>・双方向プログラムであることを活かし、受入学生と派遣学生が会う場をセッティングし、情報交換ができるようにした。本学の学生にとっては、留学先の学生と渡航前に知りあうことができ、渡航後にも知りあうことができるつながりとなった。</p>
⑫ 4月~3月 受入れ教員対象FD研修の企画・実施	<p>・清華大学では「21世紀型スキル」教育を“Global Competence”と称し、本格的に強化を進めています。その取組みを知ることは大変有意義な機会となった。次年度以降の「21世紀型スキル」セミナー企画する際の参考になると想われる。</p> <p>・教職員の「21世紀型スキル」を強化することで、学生とのコミュニケーションをよりスマーズにすることがができると期待できる。</p>
⑬ 4月~3月 本学学生を清華大学・KAISTに派遣	<p>・事業期間内に、KAISTのSummer Programに4名、Fall Programに2名、Winter Programに2名、Spring Programに1名の計8名を本学から派遣候補生として推薦し、全員がKAISTによって正式に採択された。</p> <p>・清華大学には、2月~7月のSpring Programに2名の学生を本学から候補生として推薦し、2名もが清華大学によって正式に採択された。(清華大学から19月からの派遣学生の募集もあったが、〆切まで1週間しかなく、学生を派遣することができなかった。)</p>
⑭ 4月~3月 本学において清華大学およびKAISTから学生を受け入れ、サマープログラムおよび研究実習型教育プログラムを実施	<p>・研究実習型プログラムの参加学生は、日本での研究環境や生活を経験する中で、新しい視点を身に付けることができた。</p> <p>・授業を中心型プログラムの参加学生は、環境エネルギーをテーマとした講義を受講することにより日本の環境エネルギーの最先端情報を知る機会となった。</p> <p>・21世紀型スキルセミナー特別講義を実施し、学生のコミュニケーションスキルアップへのきっかけとなった。</p> <p>・双方向プログラムであることを活かし、受入学生と派遣学生が会う場をセッティングし、情報交換ができるようにした。留学生にとっては、在籍大学への留学経験がある本学学生や、これから留学をする予定の本学学生と知りあうことができる機会となった。</p>
⑮ 4月~3月 派遣・受入学生に対する面接・間接評価(アンケート等)を実施	<p>・プログラム実行1ヶ月にアンケートを実施することで、プログラムの改善点が見え、学生にとってより意義あるプログラムと提供することにつながる。</p> <p>・夏季の宿舎については、電車での移動よりも駅から宿舎への歩徒移動(15分程度)に大変さを感じる学生が多くいたが、この問題を改善するため、留学生には、月1回の近況報告書の提出を課し、留学生での様子を知ることができた。必要に応じて留学生のデータ(データーに連絡を取り、状況の改善を行つた)。</p> <p>・清華大学への派遣学生に渡航3週間のタイミングで面接し、状況についてヒアリングを行つた。学生が研究室探しに関する不安を持っていたことから、清華大学側コーディネーターとの旨を共有し、改善策を協議した。</p>
⑯ 4月~3月 合同運営委員会に修了生の面接部会を設置できるよう企画を推進	<p>・現在在学中の受入学生と派遣学生(経験者、予定者)が交流できる場を提供し、学生同士で情報交換をしたり、連絡を取る方法を学ぶことができた。</p> <p>・学生自身がプログラムのFacebookを開設し、さらなる交流を行つた。</p> <p>・学生に「キャンパスアシジ生」という一員意識が生まれることにより、お互いに助け合うことができるようになった。このチーム意識により、修了生の面接部会の存在に意味も出てくる。</p>
⑰ 4月~3月 ダブルディグリーの分野拡大の可能性について3大学間での調査・検討会実施	<p>・教員の研究分野を共有する中で、教員同士のつながりが見えることもあった。今後、お互いの学生紹介や交流、教員の交換といったつながりが十分期待できる。</p> <p>・今後、ダブルディグリーの分野拡充がされる上にすれば、学生にとって双方の大学での修業が有効で効果的なものになり、教育効率が高まることが期待される。</p>
⑱ 4月~3月 「21世紀型スキル」教育の講座を実施	<p>・学生向け(受入学生、派遣学生、本学学生)には、7月のサマープログラム授業の一貫として、清華大学よりProf. MENGを招請し、「21世紀型スキル」教育の特別講義を行つた。学生にとっては、科学技術の知識のみならずコミュニケーションスキルの重要性を理解するきっかけとなった。</p> <p>・職員向けには、外部講師を迎え、英語での窓口対応セミナーを実施し、19名が参加した。留学生とのコミュニケーション時に文化面で注意することや、英語で話す際に大切な発想の転換など、英語コミュニケーションのポイントを学んだ。</p> <p>・教員向として、清華大学でのGlobal Competence Workshopに教員3名と職員5名が参加した。清華大学では「21世紀型スキル」教育を“Global Competence”と称し、本格的に強化を進めしており、その取組みを知ることは大変有意義な機会となった。</p> <p>・教職員の「21世紀型スキル」を強化することで、学生とのコミュニケーションをよりスマーズにすることができると考へられた。</p>

(注)交付申請書の「補助事業の目的・必要性」、「本年度の補助事業実施計画」と対応させて分かり易く記入すること。

様式9(第11条第1項関係)

プログラム名称	大学の世界開拓力強化事業 -キャンパス・アジア(CA)事業の推進(タイプA-1)-
(選定年度)	平成28年度
構成名称	日中韓先進科学技術大学教育環境強化プログラム
大学等名	東京工業大学
担当者氏名等	下園 健一
電話番号	03-5734-3027
E-mail	ryu.kos3@jim.titech.ac.jp

費目別収支決算書

区分等	交付決定に係る補助対象経費の額(円)	補助事業に要した補助対象経費の額(円)	増減額(円)	増減率(%)	備考
支出	設備備品費	0	0	0	-
	消耗品費	200,000	662,806	462,806	231.4%
	計	200,000	662,806	462,806	231.4%
	人件費	7,660,000	6,756,830	-903,170	-11.8%
	謝金	500,000	180,883	-319,117	-63.8%
	計	8,160,000	6,937,713	-1,222,287	-15.0%
	旅費(うち国内旅費)	200,000	6,498	-193,502	-96.8%
	旅費(うち国外旅費)	1,500,000	1,616,510	116,510	7.8%
	旅費(うち外国人招聘旅費)	900,000	489,960	-410,040	-45.6%
	計	2,600,000	2,129,968	-470,032	-18.7%
その他	外注費	2,020,000	2,429,360	409,360	20.3%
	印刷製本費	0	0	0	-
	会議費	30,000	167,000	137,000	456.7%
	通信運搬費	30,000	17,977	-12,023	-40.1%
	光熱水料	0	0	0	-
	その他(諸経費)(うち委託費以外)	4,960,000	5,576,437	616,437	12.4%
	その他(諸経費)(うち委託費)	0	0	0	-
	計	7,040,000	8,190,774	1,150,774	16.3%
	合計	18,000,000	17,904,261	-95,739	-0.5%
	国際化調整整備事業費補助金	18,000,000	18,000,000	0	0.0%
収入	自己収入	0	0	0	-
	預金利息			0	-
	合計	18,000,000	18,000,000	0	0.0%
	控除額(査定)	0	0	0	-
返還額算定	差引実支出額	17,904,261	17,904,261	17,904,261	<返還額算定式> 以下の算定結果が正である場合に返還対象となります。 Ⅰ 別表第4(第12条第1項関係) 補助事業に要した補助対象経費の額 × 补助金の交付決定額 ÷ 交付決定に係る補助対象経費の額 Ⅱ 収入予定額のうち補助金交付決定額とⅠの少ない方 Ⅲ 収入予定額のうち補助金交付決定額からⅡを引いた金額
	別表第4(第12条第1項)	17,904,261	17,904,261	17,904,261	
	確定額	17,904,261	17,904,261	17,904,261	
	返還額	95,739	95,739	95,739	
	学外使用の有無	使用なし			

主要増減理由記述欄

No.	増減理由記述欄	備考

様式9(第12条第1項関係)

〔別紙様式14-1〕

平成 31 年 4 月 9 日		
文部科学大臣 殿		
大学等の設置者 (名 称) (所在地) (代表者氏名) 大学等名	国立大学法人東京工業大学 東京都目黒区大岡山2-12-1 学長 益 一哉 (記名押印又は署名) 東京工業大学	
平成30年度 国際化拠点整備事業費補助金 (大学の世界展開力強化事業) 実績報告書		
プログラム名称・選定年度	大学の世界展開力強化事業 一キャンパス・アジア(CA)事業の推進(タイプA-1) 平成28年度	
構想名称	日中韓先進科学技術大学教育環高度化プログラム	
補助事業の実績等	別紙のとおり	
補助事業実績期間	平成30年4月1日～平成31年3月31日	
事業推進担当者	氏名	所属・職名
事業推進代表者	益 一哉	学長
事業推進責任者	原 正彦	物質理工学院・教授
会計事務担当者名	所属・職名	連絡先(電話番号、FAX番号、E-mailアドレス)
下園 健一	TEL	03-5734-3027
	FAX	03-5734-3677
	E-mail	ryu.kor3@jim.titech.ac.jp

様式9(第12条第1項関係)

別紙1

補助事業の実績		補助事業に係る具体的な成果
総論(補助対象期間中に行った事業の内容の概要を記載してください。また、必ず、交付申請時の実施計画の総論と対応させるように記載してください。)		(学生教育の観点での成果の概要を記載してください。また、必ず、左記の補助事業の内容と対応させるように記載してください。)
本補助事業の目的は、以下の3点である。		1)授業中心型教育と、研究室所属型の「研究重視型教育」の強化
1)共同研究指導等による「研究重視型教育」の強化 学生を対象とした授業等による「研究重視型教育」は、学生(学部4年生以上)を対象とした、「研究重視型教育」の交換プログラムを明確化し、真の視点を意識し、より高変化した「研究重視型教育」に基づく共同研究整備を目標ナウフームとする。特に派遣と受入れの教員の理解のほどで研究取扱を自指「ナウフーム」学生を共同指導し、理工系大学における「研究重視型教育」を強化する。	2018年度は、2017年度に引き続き「授業中心型教育」と、研究室所属型の「研究重視型教育」のそれぞれを明確化してプログラムを実施した。授業中心型については、主に学部生を対象とし、1ヶ月間集中講義と実験、研究重視型については、主に学部生以上を対象とし、1ヶ月～2ヶ月の期間で研究室に所属し研究を行った。留学時には、「修学計画書」に基づき、派遣元の両教員が学生の修学計画を理解し、共通認識を持って指導にあたることで、短期間でも学生にとって有意義な時間となれた。	
2)ダブルディグリーの拡充とジョイントディグリーに向けたプログラムの強化 3月に、東工大より日本プログラム主導の教員と学生16名が日本プログラムのKAISTを訪問し、生体分子生物学、生命理工学、機械機械工学など教員が学生と交流を行った。在籍研究分野を共にする中で、研究室をつなぐつなげていくことが期待される。今後、お互いの学生紹介と交換の教員が、日本プログラムにつなげていくことが期待される。また、18年のサマースクールに参加した受入学生が2019年度のダブルディグリープログラムに応募をしており、2019年度秋に来日する見込みである。実際のダブルディグリー取得者がいることにより、他の学生への周知が図ることが期待される。	2)ダブルディグリーの拡充とジョイントディグリーに向けたプログラムの強化	
3)日中韓からアジアの先進科学技術系「21世紀型スキル」教育の強化 最先端の技術を駆使して、グローバル社会貢献できる問題解決型人材育成を目的として、先進科学技術系「21世紀型スキル」教育を強化へ、アプタの科学技術教育において共通して求められるスキルとして広く発信する。また、産業界や関係機関との連携を深め、技術革新と国際連携の現場教育ならびにグローバル人材ネットワークの形成を推進する。	3)日中韓からアジアの先進科学技術系「21世紀型スキル」教育の強化 2018年度は、企業での教育プログラムを推進やCSRを担当した専門家を講師に迎え、学生会向けに「21世紀型スキルセミナー」を実施。科学技術の知識のみならずコミュニケーションスキルの重要性を学ぶ機会とした。このセミナーには、本学所属高専より高校生も参加し、受入学生は言語、年齢、文化、知識量の異なる対象に専門的な知識を伝える経験を通して、実践的コミュニケーションスキルの重要性を理解する場となれた。教員向けには、全学的な取り組みが行われており、英語での授業運営等について専門家のセミナーの企画等も部会で実施されている。	
(補助対象期間中に行った事業の内容を具体的に記載してください。また、必ず、交付申請時の実施計画と対応させるよう、簡略書きで記載してください。)		(学生教育の観点での成果の概要を記載してください。また、必ず、左記の補助事業の内容と対応させるよう、簡略書きで記載してください。)
① 4月～3月 実施部会の実施		・部会では、受入・派遣学生の選定を行った。事業実施期間内に、KAISTから12名、清華大から12名計22名の学生を受け入れ、また、新入試みして、香港科技大学、南洋理工大学をはじめとするパートナー大学以外からも14名の学生を受け入れた(参加費有料)。
2018年度内に2回の部会を実施し、学生交流やプログラムの実施に関する協議を行った。		・本学ではKAISTに5名、清華大学に1名の合計6名の学生を派遣した。 ・そのほか、2019年度のサマースクールの実施内容の検討や、学生の21世紀型スキルを高めるためのセミナーの企画等も部会で実施された。
② 4月～3月 連任スタッフの雇用		・学生交流の際に必要となる連携大学間の連絡や、留学に必要な手続き、留学中のサポートを専任のコーディネーターと事務支援員を引き続き雇用した。 ・専任のプログラムコーディネーターと事務支援員を引き続き雇用した。
③ 4月～3月 三大学の関係教職員を含めた合同運営委員会を開催		・2018年5月の合同運営委員会で既存の運営員がたの「プロモーション、限りある予算の効率化」、連携・クリエイティブプログラムの実施、留学先大学の現地学生との交換などを盛り込み、同時に清華大学プログラム運営に取り組むことになった。 ・その他の、マネージャークラスだけでなく「業務を行なうプログラム担当者」の顔を合わせた。担当者同士の意見の見えたコミュニケーションが可能となっこから、事業運営上の相談等が格段にしやすくなり、学生にとってさらに有意義なプログラム作りにつながった。
④ 4月～3月 国内のキャンパスアジアプログラム採択校との情報交換会を実施		・同じ理工系大学の採択校である九州大学とメールでの情報交換を行った。また、2019年3月にキャンパスアジアプログラムの幹事校を務めることとなり、2019年5月の採択校連絡会の開催に向けて動いた。
同じ理工系大学の採択校である九州大学とメールでの情報交換を行った。また、2019年3月にキャンパスアジアプログラムの幹事校を務めることとなり、2019年5月の採択校連絡会の開催に向けて動いた。		・2019年3月よりキャンパスアジアプログラムの日本側採択校の幹事校を務めることとなり、事業への取組まさに主導に進められ、また、各大学の情報が集まるようになり、意見交換の機会が増えることを見込まれる。また、本学内に採択校連絡会を開催することで、学内のプログラム認知度アップにも繋がり、教職員・学生への周知が進むことが期待される。
⑤ 4月～3月 ホームページの定期的な更新および保守		・本プログラムのホームページで、通常の取組状況の更新に加え、新たにブログ形式で学生の声を掲載するコーナーを設け、留学中の学生の声を発信した。また、参加学生の体験談掲載数を増やす。
⑥ 4月～3月 受入留学生の募集・選考		・本プログラムのホームページでは、募集情報、プログラム情報を随時更新し、留学を希望する学生が最新情報を得られるようにした。 ・募集機能を追加し、学生間の情報の交換をブログで発信できるようにした。留学時の様子などを掲載することで、これから留学を希望する学生にとって留学の様子がかかる貴重な材料となつた。
⑦ 4月～3月 サマースクール／ウィンタープログラムに参加する学生の募集・選考を行った。		・サマースクール／ウィンタープログラムに参加する学生の募集・選考を行った。成績、語学力、申請書内容を基に公正な採択を組み合わせて行った。 ・KAISTから10名、清華大学から12名計22名の学生を受け入れた。
⑧ 4月～3月 派遣学生の募集・説明会・選考		・派遣学生の募集・説明会(留学フェア)、選考を実施した。 ・事業実期間内に、KAISTのSpring Programに1名、Summer Schoolに3名、Fall Programに1名、Winter Programに4名の計10名を本学から派遣候補生として推薦し、全員がKAISTによって正式に採択された。 ・また、韓国短期間派遣プログラム5名の学生を採択し、KAISTへの短期間訪問等を行った。 ・留学準備期間の留学体験会を通して、さらなる長期留学を考えるきっかけとなつた。 ・清華大学には、9月～1月のFall Semester Programに1名の学生を本学から候補生として推薦し、清華大学によって正式に採択された。
⑨ 4月～3月 外国人学生受け入れのための環境整備・充実		・学生の出願時の手間を軽減した。 ・できるだけ開催キャンパスに近く、通いやすい宿舎を提供することで本学滞在中の学生生活がより快適になり、不安な研究活動を送るための助かりになった。 ・専門門違い東工大生と初期から会合が出来、外国人学生が相談をやすやすくした。 ・双方のプログラムで交換することをめざし、受入学生と派遣学生が会える場をセッティングし、情報交換ができるようにした。 ・東工大との交流機会が少ないので声を受けて、新たな取り組みとして、サマースクールの冒頭・東工大と交換する研修旅行を実施し、受入学生が日本人学生と交流ができる機会とした。 ・受入期間冒頭に多くの交流機会を作ることで、その後も自然と交流が生まれ良かったとの声が多くあった。

⑩ 4月~3月 本学の学生を対象とした留学準備講座の実施	<p>・留学を予定している派遣学生に対し、留学国事情や大学の情報について説明を行う渡航前オリエンテーションを実施した。</p> <p>・短期期間派遣の学生を対象として、渡航前に韓国・韓国文化、派遣先大学に関する事前学習会を実施。事前学習会を通じて、留学生への不安を軽減した。</p> <p>・双方方向プログラムであることを活かし、受入学生と派遣学生が会うる機会を設け、情報交換ができるようじした。サマースクール冒頭の研修旅行では、選抜大学に派遣予定の学生も参加した。留学生の先生と渡航前に知りあうことができ、渡航後にも頼ることができるつながりとなった。</p>
⑪ 4月~3月 受入れ教員対象FD研修の企画・実施	<p>・教員向けとして、外部から専門家を講師に招き、英語での授業運営等について、全学的なFD研修が実施された。教職員の「21世紀型スキル」が強化されることで、学生とのコミュニケーションをよりスムーズにすることができると考えられる。</p> <p>専門家を講師に招き、全学的なFD研修が実施された。</p>
⑫ 4月~3月 本学生を清華大学・KAISTに派遣	<p>・事業期間内、KAISTのSpring Programに1名、Summer Programに3名、Fall Programに1名、Winter Programに4名の計10名を本学から候補生として推薦し、全員がKAISTによって正式に採択された。</p> <p>・また、韓国経営短期派遣プログラム5名の学生を採択し、KAIST短期訪問等を行った。学生にとっては短期間の留学体験を通して、さらなる長期留学を希望するきっかけとなった。</p> <p>・清華大学では、9月~1月のFall Semester Programに1名の学生を本学から候補生として推薦し、清華大学によって正式に採択された。</p>
⑬ 4月~3月 本学において清華大学およびKAISTから学生を受け入れ、サマープログラムおよび研究実習型教育プログラムを実施	<p>・研究重視型プログラムの参加学生は、日本の研究環境や生活を経験する中で、新しい視点を身に付けることができた。</p> <p>・授業を中心型プログラムの参加学生は、環境エネルギー等をテーマとした講義を受講することにより、日本の最先端情報を知る機会となった。この授業を中心型プログラムに参加したKAIST学生のうち1名が、この留学経験を通じて、2019年度のダブルディグリープログラムに応募している。</p> <p>・21世紀型スキルセミナー特別講義を実施し、学生のコミュニケーションスキルアップへのきっかけとなった。</p> <p>・双方方向プログラムであることを活かし、受入学生と派遣学生が会うる機会を設け、情報交換ができるようじした。サマースクール冒頭の研修旅行では、選抜大学に派遣予定の学生も参加した。留学生の先生と渡航前に知りあうことができ、渡航後にも頼ることができるつながりとなった。</p>
⑭ 4月~3月 派遣・受入学生に対する直接・間接評価(アンケート等)を実施	<p>・プログラム終了時にアンケートを実施することで、プログラムの改善点が見え、学生にとってより充実したプログラムを提供することにつながる。プログラムの開始時期についても、参加学生の声を受けて調整し、より参加やすいプログラムにすることにつながった。</p> <p>・派遣学生には、月1回の近況報告書の提出を課す。留学生への様子を把握した。必要に応じて留学生のコーディネーターに連絡を取り、状況の改善を行った。</p> <p>・派遣学生には、帰国後には直接顔を合わせて留学時の様子を開いた。必要に応じて派遣先のコーディネーターと共有し、改善を行った。有用な情報については、今後の派遣学生と共有することで、より快適に留学生活を送れることが期待できる。</p>
⑮ 4月~3月 合同運営委員会に修了学生の同意部会を設置できるよう企画を推進	<p>・受入学生と派遣学生(経験者、予定者)が交流できる場を提供し、学生同士で情報交換をしたり、連絡を取れたりした。</p> <p>・学生に「キャンパスアシジ」というホームページが生まれることにより、お互いに助け合えることができるようになった。このホームページを用いて、修了生の同意部会の存在に意味も出る。</p> <p>・サマースクール冒頭の研修旅行では、選抜大学に派遣予定の学生も参加した。留学生の学生が渡航前に知りうるところが、渡航後に頼るところがどちらがどちらかとく。</p> <p>・TCS (Trilateral Cooperation Secretariat)と連携し、日中韓のキャンパスアシジプログラム参加学生の同意部会の組織化を推進している。これにより、プログラムに参加した学生同士の繋がりや交流がプログラム参加後、卒業後も継続されることが期待される。</p>
⑯ 4月~3月 ダブルディグリーの分野拡大の可能性について3大学間での調査・検討を継続	<p>・互いの研究分野を共有する中で、研究室同士のつながりが見えることになり、今後、お互いの学生紹介や交流、教員の交流につながっていくことが期待される。</p> <p>・今後、ダブルディグリーの分野拡充がされるところになれば、学生にとって双方の大学での修学がより効率的で効果的なものになり、教育効果が高まることが期待される。</p> <p>・2018年度のサマースクールに参加した学生が2019年度のダブルディグリープログラムに応募して39、2019年度秋より来日する見込みである。実際のダブルディグリー取得者が出来ることにより、他の学生への周知が進むことが考えられる。</p>
⑰ 4月~3月 「21世紀型スキル」教育の講座を実施	<p>・学生向け(受入学生、派遣学生、本学学生)には、サマースクール授業の一貫として、企業での教育プログラム推進やCSRを担当した専門家を講師に迎え、「21世紀型スキルセミナー」を行った。学生にとって、科学技術の知識のみならずコミュニケーションスキルの重要性を理解するきっかけとなりました。</p> <p>・教員向けでは、専門家を講師に招き、英語での授業運営等について、全学的なFD研修が実施され、教職員の「21世紀型スキル」が強化されることで、学生とのコミュニケーションをよりスムーズにすることができると考えられる。</p>

(注)交付申請書の「補助事業の目的・必要性」、「本年度の補助事業実施計画」と対応させて分かり易く記入すること。

様式9(第12条第1項関係)

プログラム名称	大学の世界展開力強化事業 -キャンパス・アジア(CA)事業の推進(タイプA-1)-
(運営年度)	平成28年度
構想名称	日中韓先進科学技術大学教育環境化プログラム
大学等名	東京工業大学
担当者氏名等	下園 健
電話番号	03-5734-3027
E-mail	ryu.kor3@tm.titech.ac.jp

費目別収支決算書

区分等	交付決定に係る補助対象経費の額等(円)	補助事業に要した補助対象経費の額等(円)	増減額(円)	増減率(%)	備考
支出	設備備品費	0	0	0	-
	消耗品費	10,000	86,682	76,682	766.8%
	計	10,000	86,682	76,682	766.8%
	人件費	6,730,000	6,772,445	42,445	0.6%
旅費	謝金	140,000	256,733	116,733	83.4%
	計	6,870,000	7,029,178	159,178	2.3%
	旅費(うち国内旅費)	49,000	29,400	-19,600	-40.0%
	旅費(うち外国旅費)	360,000	216,767	-143,233	-39.8%
その他	旅費(うち外国人招聘旅費)	150,000	371,720	221,720	147.8%
	計	559,000	617,887	58,887	10.5%
	外注費	360,000	324,000	-36,000	-10.0%
	印刷製本費	0	0	0	-
収入	会議費	55,000	0	-55,000	-100.0%
	通信運搬費	6,000	11,152	5,152	85.9%
	光热水料	0	0	0	-
	その他(諸経費)(うち委託費以外)	3,840,000	3,173,273	-666,727	-17.4%
返還額算定	その他(諸経費)(うち委託費)	0	391,270	391,270	-
	計	4,261,000	3,899,695	-361,305	-8.5%
	合計	11,700,000	11,633,442	-66,558	-0.6%
	国際化拠点整備事業費補助金	11,700,000	11,700,000	0	0.0%
自己収入	0	0	0	-	
預金利息	-	-	0	-	
合計	11,700,000	11,700,000	0	0.0%	

<返還額算定式>
以下の算定結果が正である場合に返還対象となります。

i 別表第6(第13条第1項)
補助事業に要した補助対象経費の総額 × 補助金の交付決定額 ÷ 交付決定に係る補助対象経費の総額

ii 収入予定額のうち補助金交付決定額とiの少ない方

iii 収入予定額のうち補助金交付決定額からiiを引いた金額

学外使用の有無	使用なし
---------	------

主要増減理由記述欄

No.	増減理由記述欄	備考

1. 事業概要
2. 運営体制、予算

3. 学生の受入

4. 学生の派遣
5. コロナ禍でのオンライン交流プログラム
6. 受入学生・派遣学生の交流
7. 21世紀型スキル教育への取組
8. 幹事校としての取り組み
9. 評価
10. フォトギャラリー

3-1 受入学生一覧

3-2 募集要項

3-3 Summer School Calendar

3-4 Summer School サイトビジットレポート

3-5 Summer School 開催報告

3-6 留学体験談

3-7 参加学生 アンケート結果まとめ

3-8 受入指導教員 アンケート結果まとめ

3-9 修了証

PDF版の事業報告書では
参加学生一覧を掲載しておりません

1. 事業概要
2. 運営体制、予算

3. 学生の受入

4. 学生の派遣
5. コロナ禍でのオンライン交流プログラム
6. 受入学生・派遣学生の交流
7. 21世紀型スキル教育への取組
8. 幹事校としての取り組み
9. 評価
10. フォトギャラリー

3-1 受入学生一覧

3-2 募集要項

3-3 Summer School Calendar

3-4 Summer School
サイトビジットレポート

3-5 Summer School 開催報告

3-6 留学体験談

3-7 参加学生
アンケート結果まとめ

3-8 受入指導教員
アンケート結果まとめ

3-9 修了証

Tokyo Tech CAMPUS Asia SUMMER SCHOOL 2019

For SDGs (Sustainable Development Goals)

A) COURSE-ORIENTED

July 3 -July 30 (4 weeks)

B) RESEARCH-ORIENTED

July 3 – Sept. 10 (10 weeks)



(For other universities)



Program Overview

A) COURSE-ORIENTED PROGRAM, July 3 -July 30 (4 weeks)

The Course-Oriented Program consists of a field trip to Kamakura, lectures, team projects, site visits and more. Beginning the program is the field trip in which summer school participants from all over the world, including Tokyo Tech students, will join to get to know each other.

Courses Offered

Compulsory Must take all three courses.	Communicating Science and Engineering in Society (1 credit) Modern Japan & 21 st Century Skills (1 credit) International Engineering Design Experiences (2 credits)
Elective Choose two of the following four courses.	Environment & Energy 1 (1 credit) Environment & Energy 2 (2 credits) Earth & Life Science (1 credit) Advanced Materials Science & Engineering (1 credit)
Optional	Survival Japanese (1 credit)

- All courses are subject to change without prior notice.
- For more information and syllabi, please visit http://www.ipo.titech.ac.jp/campusasia/intl_students/

Program Completion Requirements

Students must 1) pass all compulsory courses and elective courses, and 2) give a final presentation.

Eligibility

Year of Study

Undergraduate students who have completed at least their first year at the time of participation.

GPA and English Test Score

A minimum cumulative GPA of 2.3 on a 3.0 scale and at least a score of 70 on the TOEFL iBT70 or 650 on the TOEIC exam.

Majors

Engineering or Science

Program Expenses

Program fee

50,000 JPY (446USD, 1USD=112 JPY as of Nov., 2018)

Tuition and other fees

University tuition and related fees for this program will be waived.

Accommodation Fee

100,000-140,000 JPY in total

Airline tickets and local transportation

At participant's expense.

Scholarships

No scholarships are available

Credit Transfer

An academic record containing course grades will be available. How credits are transferred depends on the student's home university.



Home universities of participants in 2018 :

Tsinghua University/ KAIST/ The Hong Kong University of Science and Technology/ Nanyang Technological University/ Cornell University/ University of California, Berkeley/ TU Wien/ University of Cambridge/ University of York/ ENSAM

Program Schedule

	<tentative>	
	Course-Oriented (July 3-July 30)	Research-Oriented (July 3-September 10)
July 1-2	Moving-in(July 1-2)	
Week 0 July 3-9	Orientation (July 3)	Trip to Kamakura (July 6-7)
Week 1 July 8-July 14	<Optional> Survival Japanese <Compulsory> CSES	Choose one from the following two courses <Elective> Earth & Life Science OR <Elective> Environment & Energy-1
Week 2 July 15-July 21	<Compulsory> Modern Japan & 21st Century Skills	Choose one from the following two courses <Elective> Environment & Energy-2 OR <Elective> Advanced Materials & Science <Compulsory> Modern Japan & 21st Century Skills
Week 3 July 22-July 28	<Compulsory> Engineering Design	Research Project
Week 4 July 29-30	Final presentation & Closing (July 30)	
July 30-July 31	Moving-out (July 30-31)	Final presentation & Closing Moving-out (Sept. 10-11)

B) RESEARCH-ORIENTED PROGRAM, July 3 – Sept. 10

The program starts with a trip to Kamakura to get to know each other. Participants in the Research-Oriented Program will conduct research projects in Tokyo Tech labs under the guidance of faculty members. In addition, they will enroll in two courses; *Communicating Science and Engineering in Society* and *Modern Japan & 21st Century Skills*. A certificate will be issued after successfully completing the program.

Eligibility

Year of Study

Fourth-year undergraduate and graduate students at the time of participation.

GPA and English Test Score

A minimum cumulative GPA of 2.3 on a 3.0 scale, and a score of 70 on the TOEFL iBT or 650 on the TOEIC.

Majors

Engineering or Science

Academic Supervisor at Tokyo Tech

Once you have decided to apply, search for an academic supervisor at Tokyo Tech and contact him/her to obtain the permission to participate in a laboratory as an International Exchange Student.

● Schools of Tokyo Tech <https://www.titech.ac.jp/english/about/organization/>

● Tokyo Tech STAR Search (Researcher Finder) outer <https://search.star.titech.ac.jp/titech-ss/lang.act?forward=search.act&lang=en>

BEFORE beginning the online application process, you are required to find and get confirmation from a Tokyo Tech professor that he or she has agreed to become your academic supervisor. You will be required to provide the name of this professor when filling out the application. (Only professors, associate professors and lecturers are eligible to be academic supervisors.)

Program Completion Requirements

Students must 1) pass the *Communicating Science and Engineering in Society* and *Modern Japan & 21st Century Skills* courses, 2) receive approval from an academic supervisor regarding their Study and Research Record, and 3) give a final presentation on which they must receive approval by two other professors.

Program Expenses

Program fee

50,000 JPY (446USD, 1USD≈112 JPY as of Nov., 2018)

Tuition and other fees

University tuition and related fees for this program will be waived.

Accommodation

200,000-240,000 JPY in total

Airline tickets and local transportation

At participant's expense.

Scholarships

No scholarships are available.

Credit Transfer

An academic record containing course grades will be available.

How credits are transferred depends on the student's home university.



For both COURSE-ORIENTED & RESEARCH ORIENTED

Application Deadline

January 31, 2019 (17:00 Japan Standard Time)

Number of Participants

Around 25 students in total will be selected to participate.

Application Procedures

Apply through our online application system and submit the required items electronically at the following link: <https://form.gsic.titech.ac.jp/ryu/>



*Please select "CAMPUS Asia" on the top page.
(NOT "Tokyo Tech Summer/Winter Program")

1. 事業概要
2. 運営体制、予算

3. 学生の受入

4. 学生の派遣
5. コロナ禍でのオンライン交流プログラム
6. 受入学生・派遣学生の交流
7. 21世紀型スキル教育への取組
8. 幹事校としての取り組み
9. 評価
10. フォトギャラリー

3-1 受入学生一覧

3-2 募集要項

3-3 Summer School Calendar

3-4 Summer School
サイトビジットレポート

3-5 Summer School 開催報告

3-6 留学体験談

3-7 参加学生
アンケート結果まとめ

3-8 受入指導教員
アンケート結果まとめ

3-9 修了証

Tokyo Tech CAMPUS Asia Summer Program 2017

<Course-Oriented Program>

	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat	Sun
	7/3	7/4	7/5	7/6	7/7	7/8	7/9
1,2 9:00-10:30	9:30 Orientation S-622, 56-409A 11:45-13:00 Welcome Lunch S-516	Survival Japanese 1 ① S-517, S-518	Survival Japanese 1 ② S-511, S-518	Modern Japanese Architecture ① (Stewart) S-517	Survival Japanese 1 ④ S-517, S-518	Tokyo Ori- enting with Tokyo Tech Students 9:30 @Ooka- yama Campus	Moving-in
3,4 10:45-12:15	Environment & Energy 1-① (Cross) S-516	Survival Japanese 1 ② S-517, S-518	Survival Japanese 1 ④ S-511, S-512	Survival Japanese 1 ⑤ S-511, S-512	Survival Japanese 1 ⑦ S-517, S-518		
5,6 13:20-14:30	Environment & Energy 1-③ (Tokimatsu) S-515	CSES ① (Hope) S-224	Environment & Energy 1-⑤⑥ Site Visit to High-Efficiency Fossil- Fuel Power Plant/Waste Management Facility (Yoshikawa/Cross/Tokimatsu) S-515/S-518	Environment & Energy 1-⑦⑧ (Tokimatsu/Takahashi) S-515			
7,8 15:05-16:35	Environment & Energy 1-② (Takahashi) S-516	Environment & Energy 1-④ (Honda) S-515	15:00-17:00 Extracurricular Activity (Tea Ceremony) Meiguro	Environment & Energy 1-⑦⑧ (Yoshikawa/Cross/Tokimatsu) S-515/S-518			
9,10 16:50-18:20							
	7/10	7/11	7/12	7/13	7/14	7/15	7/16
1,2 9:00-10:30	Survival Japanese 1 ⑧ S-517, S-518	Survival Japanese 1 ⑧ S-517, S-518	Survival Japanese 1 ⑧ S-511, S-518	Modern Japanese Architecture ③ (Stewart) S-517	Survival Japanese 1 ⑧ S-517, S-518		
3,4 10:45-12:15	Modern Japanese Architecture ② (Stewart) S-517	Survival Japanese 1 ⑧ S-517, S-518	CSES ② (Hope) S-224	Survival Japanese 1 ⑧ S-511, S-512	Survival Japanese 1 ⑧ S-517, S-518		
5,6 13:20-14:30	Environment & Energy 2-① (Ihara and Assistant Prof. Hasegawa) EEI Bldg. 6F (611)	Environment & Energy 2-③ (Masta) S-515	Environment & Energy 2-⑤⑥ Site Visit to JXTG Nippon Oil & Energy Corporation (Hara)	Environment & Energy 2-⑦ (Yamaguchi) S-511	CSES ③ (Hope) ELSI 1F Hall 21C Skill Lab (Meng from Tsinghua U.) (w/ High School Students) (Kanno) S-511		
7,8 15:05-16:35	Environment & Energy 2-② (Hirai) S-511	Environment & Energy 2-④ (Yamada) S-515					
9,10 16:50-18:20							
	7/17	7/18	7/19	7/20	7/21	7/22	7/23
1,2 9:00-10:30	Survival Japanese 1 ⑨ S-517, S-518	Survival Japanese 2 ① S-511, S-518	Survival Japanese 2 ③ S-511, S-512	Modern Japanese Architecture ⑤ (Stewart) S-517			
3,4 10:45-12:15	Modern Japanese Architecture ④ (Stewart) S-517	Survival Japanese 2 ② S-511, S-518	Survival Japanese 2 ④ S-511, S-512	Survival Japanese 2 ⑤ S-517, S-518			
5,6 13:20-14:30							
7,8 15:05-16:35							
9,10 16:50-18:20							
	7/24	7/25	7/26	7/27	7/28	7/29	7/30
1,2 9:00-10:30	Survival Japanese 2 ⑥ S-517, S-518	Modern Japanese Architecture ⑥ (Stewart) S-518	Modern Japanese Architecture ⑦ (Stewart) S-518	Survival Japanese 2 ⑦ S-511, S-512	Engineering Design ① Ookayama Orienteering (Shirabe)		
3,4 10:45-12:15	Environment & Energy 2-① (Matsumoto) S-516	Environment & Energy 2-③ (Kodera) S-516	Environment & Energy 2-⑧ (Miyajima) S-516	9:30-12:35 Presentation S-8B 10F	12:40-13:45 Lunch Cafeteria		
5,6 13:20-14:30	Environment & Energy 2-② (Waki) S-516			13:45-15:00 Closing (Conferal of Certificate) S-8B 10F			
7,8 15:05-16:35	Engineering Design ② (Shirabe) I-123	Engineering Design ③ (Shirabe) I-123	Engineering Design ④ (Shirabe) I-123	Engineering Design ⑤ (Shirabe) I-123			
9,10 16:50-18:20							
	Course Title	Number of Credit					
Survival Japanese 1		1 credit					
Survival Japanese 2		1 credit					
Environment & Energy (Advanced Technology in Emerging Fields)		1 credit	2 credits				
International Engineering Design Experiences		2 credits					
Communicating Science and Engineering in Society		1 credit					
Modern Japanese Architecture		1 credit					
Cultural activities (Optional)							

Tokyo Tech CAMPUS Asia Summer Program 2017

<Research-Oriented Program>

	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat	Sun
	7/1	7/2					
Week1	7/3	7/4	7/5	7/6	7/7	7/8	7/9
AM	9:30 Orientation	Survival Japanese 1 ①②	Survival Japanese 1 ③④	Survival Japanese 1 ⑤⑥	Survival Japanese 1 ⑦⑧		
PM	11:45-13:00 Welcome Lunch		CSES ① (Hope)	CSES ② (Hope)	Site Visit to High-Efficiency Fossil-Fired Power Plant/Waste Management Facility		
Week2	7/10	7/11	7/12	7/13	7/14	7/15	7/16
AM	Survival Japanese 1 ⑨	Survival Japanese 1 ⑩	Survival Japanese 1 ⑪	Survival Japanese 1 ⑫	Survival Japanese 1 ⑬		
PM			CSES ③ (Hope)	Site Visit to JXTG Nippon Oil & Energy	CSES ④ (Hope)		
Week3	7/17	7/18	7/19	7/20	7/21	7/22	7/23
AM		Survival Japanese 1 ⑭	Survival Japanese 2 ①②	Survival Japanese 2 ③④	Survival Japanese 2 ⑤		
PM		National Holiday	CSES ⑤ (Hope)	Extracurricular Activity (A cappella with A cappella club at Tokyo Tech "Ajwai")	Site Visit to Riken		
Week4	7/24	7/25	7/26	7/27	7/28	7/29	7/30
AM	Survival Japanese 2 ⑥			Survival Japanese 2 ⑦⑧	Lunch		
PM							

<AUGUST 2017>

	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat	Sun
	8/1	8/2	8/3	8/4	8/5	8/6	
AM							
PM			Extracurricular Activity (Calligraphy)				
Week5	8/7	8/8	8/9	8/10	8/11	8/12	8/13
AM							
PM							
Week6	8/14	8/15	8/16	8/17	8/18	8/19	8/20
AM							
PM							
Week7	8/21	8/22	8/23	8/24	8/25	8/26	8/27
AM							
PM							

<SEPTEMBER 2017>

	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat	Sun
	8/28	8/29	8/30	8/31	9/1	9/2	9/3
AM							
PM							
Week8	9/4	9/5	9/6	9/7	9/8	9/9	9/10
AM							
PM							
Week9							

Individual Research Project in lab
"Communicating Science and Engineering in Society" (Compulsory Course) 1 Credit
Site visits (Optional) - Subject to change
Survival Japanese 1 (Optional/Beginners only)
Survival Japanese 2 (Optional/Beginners only)
Cultural activities (Optional)

Tokyo Tech CAMPUS Asia Summer School Calendar 2018

[Course-Oriented]

		Moving-in		6/29 Fri	6/30 Sat	7/1 Sun
Week 0	1,2	9:00 ~ 10:30		9:40 Orientation 10:40-10:55 textbook purchase <Survival Japanese> 11:00-12:00 <Campus Tour> 13:20-14:20 <For everyone> Survival Japanese ① (Sato)	8:45 meeting place: West Bldg. 9	CSES C-②, C-③ groupwork (Karthaus)
	3,4	10:45 ~ 12:15		Move to Hakone	Excursion	
	5,6	13:20 ~ 14:50				
	7,8	15:05 ~ 16:35		14:40-16:10 Poster Session	CSES C-① (Karthaus)	
	9,10	16:50 ~ 18:20			BBQ	Back to School

		Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat	Sun
Week 1	1,2							
	3,4							
	5,6	Earth & Life Science ① E&E-1 (1) (Cross)	Survival Japanese D -Oshushi- ②③ (Morii) Wi-Lounge WB31	Survival Japanese E -Fujisan- ②③ (Yamaguchi) WB31	Survival Japanese D -Oshushi- ④⑤ (Yatabe)	Survival Japanese E -Fujisan- ④⑤ (Yatabe)	Survival Japanese D -Oshushi- ⑥⑦ (Yoshizawa)	Survival Japanese E -Fujisan- ⑥⑦ (Hanai)
	7,8	Earth & Life Science ② (Takahashi) Site Visit to ELSI	Earth & Life Science ③ E&E-1 (3) (Tokumatsu)	Earth & Life Science ⑤ E&E-1 (5) Site Visit	Earth & Life Science ⑦ (Yanagihara)	Earth & Life Science ⑨ E&E-1 (9)	Earth & Life Science ⑩ (Yoshikawa)	Earth & Life Science ⑪ (Cross) (Tokumatsu)
	9,10							
	1,2							
	3,4							
	5,6	Advanced Materials① (Hirai) SS11	Advanced Materials③ -Institute- (Miyajima)	Advanced Materials⑤⑥ (Kanno)	Advanced Materials⑦ (Takemoto)	Advanced Materials⑧ (Yamaguchi)	Advanced Materials⑨ (Yanagihara)	Advanced Materials⑩ (Hanai)
	7,8	Advanced Materials② (Tachibana) SS11	Advanced Materials④ (Shima) E&E-2 ① (Kodera)	Advanced Materials⑤⑥ Site Visit to RIKEN D	Advanced Materials⑦ (Miyajima)	Advanced Materials⑧ (Yamaguchi)	Advanced Materials⑨ (Yanagihara)	Advanced Materials⑩ (Hanai)
	9,10							
Week 2	1,2							
	3,4							
	5,6	Advanced Materials① (Hirai) SS11	Advanced Materials③ -Institute- (Miyajima)	Advanced Materials⑤⑥ (Kanno)	Advanced Materials⑦ (Takemoto)	Advanced Materials⑧ (Yamaguchi)	Advanced Materials⑨ (Yanagihara)	Advanced Materials⑩ (Hanai)
	7,8	Advanced Materials② (Tachibana) SS11	Advanced Materials④ (Shima)	Advanced Materials⑤⑥ Site Visit to RIKEN D	Advanced Materials⑦ (Miyajima)	Advanced Materials⑧ (Yamaguchi)	Advanced Materials⑨ (Yanagihara)	Advanced Materials⑩ (Hanai)
	9,10							
	1,2							
	3,4							
	5,6	Engineering Design ④⑤⑥ (Shirabe)	Engineering Design ⑦⑧⑨ (Shirabe)	Engineering Design ⑩⑪⑫ (Shirabe)	Engineering Design ⑬⑭⑮ (Shirabe)	Engineering Design ⑬⑭⑮ (Shirabe)	Engineering Design ⑬⑭⑮ (Shirabe)	Engineering Design ⑬⑭⑮ (Shirabe)
	7,8							
	9,10							
Week 3	1,2							
	3,4							
	5,6	E&E-2 ⑧ (Maeda) SS11			Modern Japan & 21C Skill ①② (Lee)	ELS1 Hall	Modern Japan & 21C Skill ③④ (Kamiya)	ELS1 Hall
	7,8	CSES ④ (Yanagihara) (w/ High School Students)	ELS1 Hall	E&E-2 ⑨⑩ Site Visit to Mitsubishi Minatomirai Industrial Museum	ELS1 Hall	ELS1 Hall	ELS1 Hall	ELS1 Hall
	9,10							
	1,2							
	3,4	E&E-2 ⑫ (Prof. Subodh -NTU) SS11	E&E-2 ⑬ (Prof. Subodh -NTU) SS11	E&E-2 ⑭ (Prof. Subodh -NTU) SS11				
	5,6	Engineering Design ④⑤⑥ (Shirabe)	Engineering Design ⑦⑧⑨ (Shirabe)	Engineering Design ⑩⑪⑫ (Shirabe)	Engineering Design ⑬⑭⑮ (Shirabe)	Engineering Design ⑬⑭⑮ (Shirabe)	Engineering Design ⑬⑭⑮ (Shirabe)	Engineering Design ⑬⑭⑮ (Shirabe)
	7,8							
	9,10							
Week 4	1,2							
	3,4	E&E-2 ⑯ (Prof. Subodh -NTU) SS11	E&E-2 ⑰ (Prof. Subodh -NTU) SS11	E&E-2 ⑱ (Prof. Subodh -NTU) SS11				
	5,6	Engineering Design ④⑤⑥ (Shirabe)	Engineering Design ⑦⑧⑨ (Shirabe)	Engineering Design ⑩⑪⑫ (Shirabe)	Engineering Design ⑬⑭⑮ (Shirabe)	Engineering Design ⑬⑭⑮ (Shirabe)	Engineering Design ⑬⑭⑮ (Shirabe)	Engineering Design ⑬⑭⑮ (Shirabe)
	7,8							
	9,10							

		Course Title	Number of Credit	Instructor(s)
Compulsory				
Must take all courses.		Communicating Science and Engineering in Society	1 credit	Naoko Yanagihara, Olaf Karthaus
Modern Japan & 21st Century Skills			1 credit	Masahiko Hara, Olaf Karthaus
International Engineering Design Experiences			2 credits	Masahiko Hara
Elective				
Choose two of the following four courses.		Environment & Energy-①	1 credit	Kunio Yoshikawa, Jeffrey Cross and more
Earth & Life Science			1 credit	Yoshie Nakamura, Steven McGlynn and more
Environment & Energy-②			2 credits	Manuela Iriarte, Subash Mhaisalkar (NTU), Shuhei Hirai and more
Advanced Materials Science & Engineering			1 credit	Yoshitomo Ito, Koichiro Tachibana and more
Optional				
Survival Japanese 1			1 credit	Reiko Sato and more

Tokyo Tech CAMPUS Asia Summer School Calendar 2018

[Research-Oriented]

		Moving-in	6/29 Fri	6/30 Sat	Camp	7/1 Sun
Week 0	1,2	9:00 ~ 10:30		9:45 meeting place: West Bldg. 9	CSES C-②, C-③ groupwork (Karthaus)	
	3,4	10:45 ~ 12:15		Move to Hakone		
	5,6	13:20 ~ 14:50			Excursion	
	7,8	15:05 ~ 16:35				
	9,10	16:50 ~ 18:20				

		Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat	Sun	
Week 1	1,2	7/2							
	3,4								
	5,6	Earth & Life Science ① E&E-1 (1) (Cross)	Survival Japanese D -Oshushi- ②③ (Morii) Wi-Lounge WB31	Survival Japanese E -Fujisan- ②③ (Yamaguchi) WB31	Survival Japanese D -Oshushi- ④⑤ (Yatabe)	Survival Japanese E -Fujisan- ④⑤ (Yatabe)	Survival Japanese D -Oshushi- ⑥⑦ (Yoshizawa)	Survival Japanese E -Fujisan- ⑥⑦ (Hanai)	
	7,8	Earth & Life Science ② (Takahashi) Site Visit to ELSI	Earth & Life Science ③ E&E-1 (3) (Tokumatsu)	Earth & Life Science ⑤ E&E-1 (5) Site Visit	Earth & Life Science ⑦ (Yanagihara)	Earth & Life Science ⑨ E&E-1 (9)	Earth & Life Science ⑩ (Yoshikawa)	Earth & Life Science ⑪ (Cross) (Tokumatsu)	
	9,10								
	1,2	7/9							
	3,4								
	5,6	Advanced Materials① (Hirai) SS11	Advanced Materials③ -Institute- (Miyajima)	Advanced Materials⑤⑥ (Kanno)	Advanced Materials⑦ (Takemoto)	Advanced Materials⑧ (Yamaguchi)	Advanced Materials⑨ (Yanagihara)	Advanced Materials⑩ (Hanai)	
	7,8	Advanced Materials② (Tachibana) SS11	Advanced Materials④ (Shima)	Advanced Materials⑤⑥ Site Visit to RIKEN D	Advanced Materials⑦ (Miyajima)	Advanced Materials⑧ (Yamaguchi)	Advanced Materials⑨ (Yanagihara)	Advanced Materials⑩ (Hanai)	
	9,10								
Week 2	1,2	7/10							
	3,4								
	5,6	Advanced Materials① (Hirai) SS11	Advanced Materials③ -Institute- (Miyajima)	Advanced Materials⑤⑥ (Kanno)	Advanced Materials⑦ (Takemoto)	Advanced Materials⑧ (Yamaguchi)	Advanced Materials⑨ (Yanagihara)	Advanced Materials⑩ (Hanai)	
	7,8	Advanced Materials② (Tachibana) SS11	Advanced Materials④ (Shima)	Advanced Materials⑤⑥ Site Visit to RIKEN D	Advanced Materials⑦ (Miyajima)	Advanced Materials⑧ (Yamaguchi)	Advanced Materials⑨ (Yanagihara)	Advanced Materials⑩ (Hanai)	
	9,10								
	1,2	7/11							
	3,4								
	5,6	Advanced Materials① (Hirai) SS11	Advanced Materials③ -Institute- (Miyajima)	Advanced Materials⑤⑥ (Kanno)	Advanced Materials⑦ (Takemoto)	Advanced Materials⑧ (Yamaguchi)	Advanced Materials⑨ (Yanagihara)	Advanced Materials⑩ (Hanai)	
	7,8	Advanced Materials② (Tachibana) SS11	Advanced Materials④ (Shima)	Advanced Materials⑤⑥ Site Visit to RIKEN D	Advanced Materials⑦ (Miyajima)	Advanced Materials⑧ (Yamaguchi)	Advanced Materials⑨ (Yanagihara)	Advanced Materials⑩ (Hanai)	
	9,10								
Week 3	1,2	7/12							
	3,4								
	5,6	Advanced Materials① (Hirai) SS11	Advanced Materials③ -Institute- (Miyajima)	Advanced Materials⑤⑥ (Kanno)	Advanced Materials⑦ (Takemoto)	Advanced Materials⑧ (Yamaguchi)	Advanced Materials⑨ (Yanagihara)	Advanced Materials⑩ (Hanai)	
	7,8	Advanced Materials② (Tachibana) SS11	Advanced Materials④ (Shima)	Advanced Materials⑤⑥ Site Visit to RIKEN D	Advanced Materials⑦ (Miyajima)	Advanced Materials⑧ (Yamaguchi)	Advanced Materials⑨ (Yanagihara)	Advanced Materials⑩ (Hanai)	
	9,10								
	1,2	7/13							
	3,4								
	5,6	Advanced Materials① (Hirai) SS11	Advanced Materials③ -Institute- (Miyajima)	Advanced Materials⑤⑥ (Kanno)	Advanced Materials⑦ (Takemoto)	Advanced Materials⑧ (Yamaguchi)	Advanced Materials⑨ (Yanagihara)	Advanced Materials⑩ (Hanai)	
	7,8	Advanced Materials② (Tachibana) SS11	Advanced Materials④ (Shima)	Advanced Materials⑤⑥ Site Visit to RIKEN D	Advanced Materials⑦ (Miyajima)	Advanced Materials⑧ (Yamaguchi)	Advanced Materials⑨ (Yanagihara)	Advanced Materials⑩ (Hanai)	
	9,10								
Week 4	1,2	7/14							
	3,4								
	5,6	E&E-2 ⑫ (Prof. Subodh -NTU) SS11	E&E-2 ⑬ (Prof. Subodh -NTU) SS11	E&E-2 ⑭ (Prof. Subodh -NTU) SS11					
	7,8	Engineering Design ④⑤⑥ (Shirabe)	Engineering Design ⑦⑧⑨ (Shirabe)	Engineering Design ⑩⑪⑫ (Shirabe)	Engineering Design ⑬⑭⑮ (Shirabe)	Engineering Design ⑬⑭⑮ (Shirabe)	Engineering Design ⑬⑭⑮ (Shirabe)	Engineering Design ⑬⑭⑮ (Shirabe)	
	9,10								
	1,2	7/15							
	3,4								
	5,6	Engineering Design ④⑤⑥ (Shirabe)	Engineering Design ⑦⑧⑨ (Shirabe)	Engineering Design ⑩⑪⑫ (Shirabe)	Engineering Design ⑬⑭⑮ (Shirabe)	Engineering Design ⑬⑭⑮ (Shirabe)	Engineering Design ⑬⑭⑮ (Shirabe)	Engineering Design ⑬⑭⑮ (Shirabe)	
	7,8								
	9,10								
Week 5	1,2	7/16							
	3,4								
	5,6	E&E-2 ⑯ (Prof. Subodh -NTU) SS11	E&E-2 ⑰ (Prof. Subodh -NTU) SS11	E&E-2 ⑱ (Prof. Subodh -NTU) SS11					
	7,8	Engineering Design ④⑤⑥ (Shirabe)	Engineering Design ⑦⑧⑨ (Shirabe)	Engineering Design ⑩⑪⑫ (Shirabe)	Engineering Design ⑬⑭⑮ (Shirabe)	Engineering Design ⑬⑭⑮ (Shirabe)	Engineering Design ⑬⑭⑮ (Shirabe)	Engineering Design ⑬⑭⑮ (Shirabe)	
	9,10								
	1,2	7/17							
	3,4								
	5,6	Engineering Design ④⑤⑥ (Shirabe)	Engineering Design ⑦⑧⑨ (Shirabe)	Engineering Design ⑩⑪⑫ (Shirabe)	Engineering Design ⑬⑭⑮ (Shirabe)	Engineering Design ⑬⑭⑮ (Shirabe)	Engineering Design ⑬⑭⑮ (Shirabe)	Engineering Design ⑬⑭⑮ (Shirabe)</	

Tokyo Tech CAMPUS Asia Summer School Calendar 2019 [Course-Oriented]

		Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat	Sun
Week 0	1-7							
	1,2 9:00-10:30 3,4 10:45-12:15 5,6 13:20-14:50 7,8 15:05-16:35	Moving-in	Moving-in	10:00-12:00 Orientation Welcome Lunch Campus Tour Orienting	Survival Japanese ^{1,2} <Optional> (Yatabe) CSES 1 (Yanagihara)	Survival Japanese ^{3,4} <Optional> (Yoshizawa) Kamakura (Modern Japan (12) (Karthaus))	W1 Lounge	
	8			Slide Session				
	9							
Week 1	10	Survival Japanese ^{5,6} <Optional> (Yamaguchi)	Survival Japanese ^{7,8} <Optional> (Yamaguchi)	W1 Lounge	Survival Japanese ^{9,10} <Optional> (Yamaguchi)	Survival Japanese ^{11,12} <Optional> (Yoshizawa)	W1 Lounge	
	11	E&E-1 (1) (Cross)	E&E-1 (3) (Tokimatsu)	E&E-1 (5) (Science 5)	E&E-1 (6) (Science 6)	E&E-1 (7) (Cross, Tokimatsu)	E&E-1 (8) (Science 8)	
	12	Earth & Life Science 1 (Takahashi)	Earth & Life Science 3 (Yamaguchi)	Earth & Life Science 5 (Yamaguchi)	Earth & Life Science 6 (Hosoda)	Earth & Life Science 7 (Yamaguchi)	Earth & Life Science 8 (Yamaguchi)	
	13	Earth & Life Science 2 (Takahashi)	E&E-1 (4) (Cross)	E&E-1 (5) (Yamaguchi)	E&E-1 (6) (Science 6)	E&E-1 (7) (Cross, Tokimatsu)	E&E-1 (8) (Science 8)	
	14							
	15							
	16	Modern Japan ^{3,4} (Kamiya)	Modern Japan ^{5,6} (Hara)	Modern Japan ^{7,8} (Karthaus)	Modern Japan ^{9,10} (Karthaus)	Modern Japan ^{11,12} (Karthaus)		
Week 2	17							
	18							
	19							
	20							
	21							
Week 3	22							
	23							
	24							
	25	E&E-2 (5) (Matsumoto)	E&E-2 (1) (Maeda)	E&E-2 (3,4) (Shimada)	Advanced Materials ¹³ (Yokota)	Advanced Materials ¹³ (Takao)	Advanced Materials ¹³ (Baloo)	
Week 4	26	E&E-2 (6) (Miyajima)	E&E-2 (7) (Kodera)	E&E-2 (8) (Tamatiki)	E&E-2 (1) (Shirabe)	Engineering Design ^{14,15} (Shirabe)	Engineering Design ^{16,17,18} (Shirabe)	
	27							
	28							
	29							
Week 5	30							
	31							
	1-Aug							
	2							
Week 6	3							
	4							
	5							
	6							
Week 7	7							
	8							
	9							
	10							
Week 8	11							
	12							
	13							
	14							
Week 9	15							
	16							
	17							
	18							
Week 10	19							
	20							
	21							
	22							
Week 11	23							
	24							
	25							
	26							
Week 12	27							
	28							
	29							
	30							
Week 13	31							
	1-Aug							
	2							
	3							
Week 14	4							
	5							
	6							
	7							
Week 15	8							
	9							
	10							
	11							
Week 16	12							
	13							
	14							
	15							
Week 17	16							
	17							
	18							
	19							
Week 18	20							
	21							
	22							
	23							
Week 19	24							
	25							
	26							
	27							
Week 20	28							
	29							
	30							
	1-Aug							
Week 21	2							
	3							
	4							
	5							
Week 22	6							
	7							
	8							
	9							
Week 23	10							
	11							
	12							
	13							
Week 24	14							
	15							
	16							
	17							
Week 25	18							
	19							
	20							
	21							
Week 26	22							
	23							
	24							
	25							
Week 27	26							
	27							
	28							
	29							
Week 28	30							
	31							
	1-Aug							
	2							
Week 29	3							
	4							
	5							
	6							
Week 30	7							
	8							
	9							
	10							
Week 31	11							
	12							
	13							
	14							
Week 32	15							
	16							
	17							
	18							
Week 33	19							
	20							
	21							
	22							
Week 34	23							
	24							
	25							
	26							
Week 35	27							
	28							
	29							
	30							
Week 36	31							
	1-Aug							
	2							
	3							

Course Title	Number of Credit	Instructor(s)
Communicating Science and Engineering in Society	1 credit	Naoko Yanagihara
International Society Seminar	1 credit	Masahiko Hara, Olaf Karthaus
International Engineering Design Experiences	2 credits	Masashi Shirabe
Environment & Energy-1	1 credit	Koji Tokimatsu, Jeffrey Cross, Fumitake Takahashi
Earth & Life Science	1 credit	Ryuhei Nakamura, Shawn McGlynn and more
Environment & Energy-2	1 credit	Manabu Hara, Suboh Kishimura (NTU), Shuchih Hsiao and more
Advanced Materials Science & Engineering	1 credit	Takuji Tanaka, Takayori Shima and more
Survival Japanese	1 credit	Noriko Yamaguchi, Yukari Yoshizawa and more

Tokyo Tech CAMPUS Asia Summer School Calendar 2019 [Research-Oriented]

Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat	Sun
1,2 9:00-10:30 3,4 10:45-12:15 5,6 13:20-14:50 7,8 15:05-16:35	Moving-in	Moving-in	9:30-12:00 Orientation S622	Survival Japanese ^{1,2} <Optional> (Yatabe) W1 Lounge	Survival Japanese ^{3,4} <Optional> (Yoshizawa) W1 Lounge	Kamakura (Modern Japan (12) (Karthaus))
Week 0						
1,2 9:00-10:30 3,4 10:45-12:15 5,6 13:20-14:50 7,8 15:05-16:35	Survival Japanese ^{5,6} <Optional> (Yamaguchi)	Survival Japanese ^{7,8} <Optional> (Yamaguchi)	CSES 1 (Yanagihara) S514	Survival Japanese ^{9,10} <Optional> (Yamaguchi)	CSES 2 (Yanagihara) S514	Kamakura (Modern Japan (12) (Karthaus))
Week 1						
1,2 9:00-10:30 3,4 10:45-12:15 5,6 13:20-14:50 7,8 15:05-16:35	Survival Japanese ^{11,12} <Optional> (Yamaguchi)	Survival Japanese ^{13,14} <Optional> (Yamaguchi)	CSES 3 (Yanagihara) S514	Survival Japanese ^{15,16} <Optional> (Yamaguchi)	CSES 4 (Yanagihara) S514	Kamakura (Modern Japan (12) (Karthaus))
Week 2						
1,2 9:00-10:30 3,4 10:45-12:15 5,6 13:20-14:50 7,8 15:05-16:35	Survival Japanese ^{17,18} <Optional> (Yamaguchi)	Survival Japanese ^{19,20} <Optional> (Yamaguchi)	CSES 5 (Yanagihara) S514	Survival Japanese ^{21,22} <Optional> (Yamaguchi)	CSES 6 (Yanagihara) S514	Kamakura (Modern Japan (12) (Karthaus))
Week 3						
1,2 9:00-10:30 3,4 10:45-12:15 5,6 13:20-14:50 7,8 15:05-16:35	Survival Japanese ^{23,24} <Optional> (Yamaguchi)	Survival Japanese ^{25,26} <Optional> (Yamaguchi)	CSES 7 (Yanagihara) S514	Survival Japanese ^{27,28} <Optional> (Yamaguchi)	CSES 8 (Yanagihara) S514	Kamakura (Modern Japan (12) (Karthaus))
Week 4						

1. 事業概要
2. 運営体制、予算

3. 学生の受入

4. 学生の派遣
5. コロナ禍でのオンライン交流プログラム
6. 受入学生・派遣学生の交流
7. 21世紀型スキル教育への取組
8. 幹事校としての取り組み
9. 評価
10. フォトギャラリー

3-1 受入学生一覧

3-2 募集要項

3-3 Summer School Calendar

3-4 Summer School
サイトビジュアルレポート

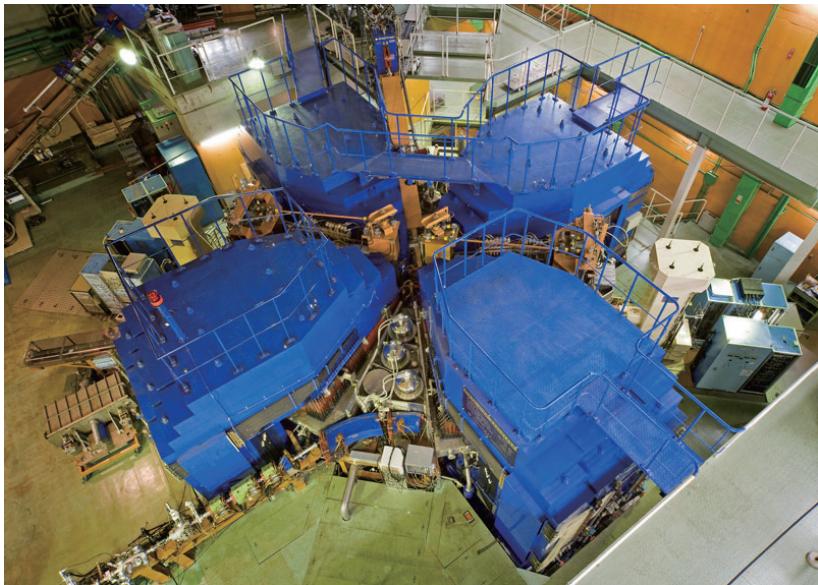
3-5 Summer School 開催報告

3-6 留学体験談

3-7 参加学生
アンケート結果まとめ

3-8 受入指導教員
アンケート結果まとめ

3-9 修了証

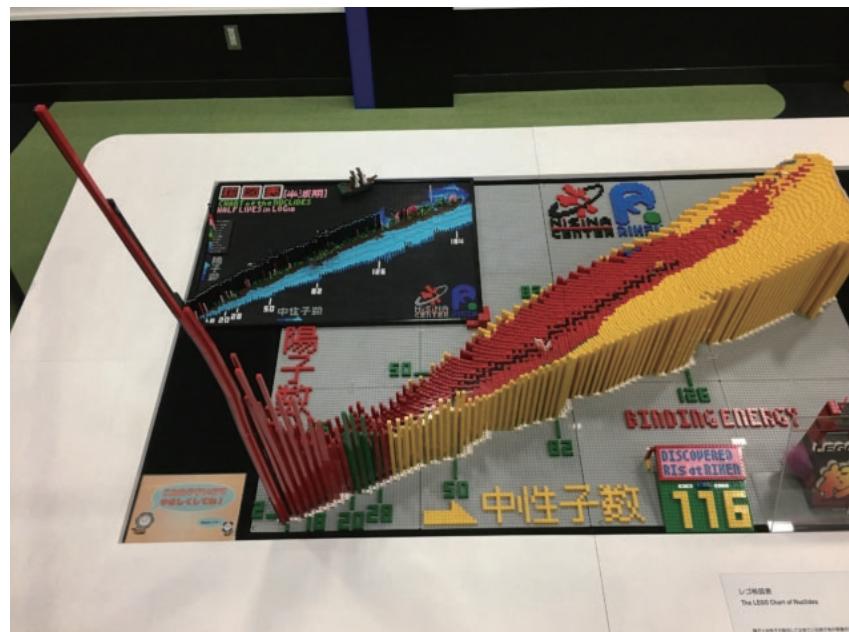


Cyclotron

RIKEN, is a private research foundation in Tokyo, where basic and applied research is being conducted in a wide range of science and technology fields. The place where we visited was the famous RIKEN Cyclotron, which is the most powerful particle accelerator. What was even more fascinating was the fact that Nihonium 113 element was discovered and fabricated. This made me realize how advanced Japan's basic science field is compared to Korea.

What intrigued me more was the fact that RIKEN was actively seeking international scientists. I believe that this is a necessary step for any science institute as engineers and scientists from different backgrounds can provide different valuable insight. In fact, I became interested in International Programs that RIKEN offers. Firstly, Junior Research Associate program allows PhD students to gain insight into top research through working alongside RIKEN's best scientists. Similarly, International Program Associate offers non-Japanese doctoral students to carry out studies at RIKEN. I believe that this is a wonderful opportunity, and although I am still pursuing my undergraduate degree, RIKEN's programs attracted me.

As a person who once dreamed of working in CERN as a particle physicist, looking at the Cyclotron was definitely something. The scale of the machine as well as the scale of joint research surprised me. It made me feel that the discovery of Nihonium was not coincidental, but rather result of disciplined joint research.



- 1. 事業概要
- 2. 運営体制、予算

3. 学生の受入

- 4. 学生の派遣
- 5. コロナ禍でのオンライン交流プログラム
- 6. 受入学生・派遣学生の交流
- 7. 21世紀型スキル教育への取組
- 8. 幹事校としての取り組み
- 9. 評価
- 10. フォトギャラリー

3-1 受入学生一覧

3-2 募集要項

3-3 Summer School Calendar

3-4 Summer School
サイトビジットレポート

3-5 Summer School 開催報告

3-6 留学体験談

3-7 参加学生
アンケート結果まとめ

3-8 受入指導教員
アンケート結果まとめ

3-9 修了証

キャンパス・アジアサマープログラム 2017 を開催

いいね！ 0
シェア
ツイート

RSS

国際交流 開催報告

公開日: 2017.12.28

2011年度より文部科学省の大学の世界展開力強化事業として運営されている留学生交換プログラム「キャンパス・アジア」では、2017年夏にキャンパス・アジアサマープログラム(CAMPUS Asia Summer Program)2017を開催しました。

「キャンパス・アジアプログラム」は、中国の清華大学並びに韓国科学技術院(KAIST)と協力し、質の高い最先端の科学技術を学び、また、国際社会で活躍できる総合力を身につけることを目的とした研究重視型教育プログラムです。2017年度は、東工大のサマープログラム(Tokyo Tech Summer Program)※1と合同で、授業中心のプログラム(Course-Oriented)が実施されました。



キャンパス・アジアプログラムとサマープログラム合同での開講式

授業中心プログラム

7月3日～7月28日の4週間にわたり、清華大学から2名、KAISTから4名の計6名に加え、本学のサマープログラム(Tokyo Tech Summer Program)に参加している学生のうち12名が参加し、合計18名がサマープログラム集中講義を受講しました。

本プログラムのための英語による集中講義である「環境・エネルギー学特論(Environment & Energy)」、「国際エンジニアリングデザインプロジェクト基礎(International Engineering Design Experiences)」、「近代日本の建築(Modern Japanese Architecture)」、「英語で語る科学・技術・社会(Communicating Science and Engineering in Society)」を受ける一方、日本語初心者は「サバイバル・ジャバニーズ(Survival Japanese)」にて日本語を学習しました。また、本プログラムで3本柱のひとつとしている「21世紀型スキル」の修得につながる科目として、「英語で語る科学・技術・社会(Communicating Science and Engineering in Society)」を受講し、科学技術の知識とコミュニケーションスキルを併せ持ったグローバル人材となるための基礎を学びました。

「環境・エネルギー学特論(Environment & Energy)」では、講義室でのレクチャーに加え、JXTGエネルギー株式会社と理化学研究所を見学しました。石油・エネルギー業界大手のJXTGエネルギー株式会社・根岸製油所・中央技術研究所では、日本の最先端の石油精製技術やリスクマネジメントについて理解を深め、また、日本で唯一の自然科学の総合研究所である理化学研究所では、幅広い分野の研究を進める現場を肌で感じることができました。

「英語で語る科学・技術・社会(Communicating Science and Engineering in Society)」では、専門知識がない人たちに科学技術の知識をわかりやすく伝えることの重要性とその実践について学びました。この科目は、本プログラムで3本柱のひとつとしている「21世紀型スキル」の修得につながるものであり、「研究中心プログラム(Research-oriented)」に参加する16名にとって唯一必修の科目もありました。

講義最終日には、東工大附属科学技術高等学校の生徒19名、グローバル・リンク・シンガポール(Global Link Singapore)※2に参加予定の高校生17名が参加し、環境問題や持続可能な社会などのテーマのもと、留学生とのグループディスカッションとプレゼンテーションに挑戦しました。留学生は、知識、文化、母語が異なる中で、これまで学んできた専門知識の伝え方、リーダーシップの取り方を実践していました。また、清華大学のメンボ(MENG Bo)先生による特別講義“Strategic Communication - 21st Century Skills”(戦略的コミュニケーションー21世紀型スキル)では、コミュニケーションスキルに関するレクチャーの他、国連が掲げる17の持続可能な開発目標(17 Sustainable Development Goals)についてカードゲームを交えて学びました。プログラム最終日には、サマープログラム(Tokyo Tech Summer Program)と合同で成果発表会を行いました。18名の参加学生が与えられたテーマや日本での経験についてプレゼンテーションを行いました。



東工大附属科学技術高等学校の生徒とのディスカッション



理化学研究所へのサイトビズット

研究中心プログラム

10週間の「研究中心プログラム」には、清華大学から4名、KAISTから1名の計5名が参加し、各々が受入指導教員のもと、本学での研究活動に従事しました。研究室での研究活動の傍ら、日本語初心者は「サバイバル・ジャバニーズ(Survival Japanese)」にて日本語を学習しました。また、本プログラムで3本柱のひとつとしている「21世紀型スキル」の修得につながる科目として、「英語で語る科学・技術・社会(Communicating Science and Engineering in Society)」を受講し、科学技術の知識とコミュニケーションスキルを併せ持ったグローバル人材となるための基礎を学びました。

最終日には、サマープログラム(Tokyo Tech Summer Program)と合同で研究成果発表会を行いました。16名の参加学生が10分間の研究成果発表をし、その後の自由討論では、プログラムに対する意見交換や東工大での経験について、参加

学生から感想が述べられました。



サマープログラムと合同の研究成果発表会と閉講式



体験企画

参加学生は、サマープログラム(Tokyo Tech Summer Program)および本プログラムで企画された以下の体験企画に参加し、日本文化や日本人学生との交流を楽しみました。

- 日本文化体験(茶道・浴衣着付け体験／書道体験)
- 東工大国際学生交流会SAGEによる東京オリエンテーリング
- 東工大アカペラサークル「あじわい」によるアカペラ体験



東工大アカペラサークル「あじわい」によるアカペラ体験



書道体験／茶道・浴衣着付け体験



※1 サマープログラム (Tokyo Tech Summer Program)

6月上旬から8月中旬に、世界トップレベルの理工系大学より学生を受入れ、研究室でのリサーチ・プロジェクトに従事する「研究中心プログラム」です。先端企業見学や日本文化体験、東工大生との交流会など、留学生が日本の技術や文化への理解を深めるためのイベントも開催して、理解を深めます。

※2 グローバル・リンク・シンガポール

シンガポール国立大学を舞台に、アジア地域を中心とする世界各国の中高生が、科学や国際課題に関する考え方や研究成果を、英語を使って国際舞台で発表と議論を行うアイデアコンテストです。

□ TKT CAMPUS Asiaウェブサイト

□ プログラム紹介 | キャンパス・アジア(日中韓先進科学技術大学教育高度化プログラム)

● サマープログラム2017を開催 | 東工大ニュース

お問い合わせ先

留学生交流課 キャンパス・アジア事務局

E-mail : campusasia@jim.titech.ac.jp

Tel : 03-5734-2984

© Tokyo Institute of Technology. All rights reserved.



CAMPUS Asia Summer Program 2017

Like 11

Share

Tweet

 Global  Past Events 

Published: December 28, 2017

CAMPUS Asia Summer Program was held from July to September 2017 to provide students from leading research universities in Asia, Europe, and the US with opportunities to experience education and research at Tokyo Tech.



CAMPUS Asia Program & Summer Program participants with Tokyo Tech students

Course-Oriented Program

This four-week program offered 18 participants intensive courses, which included Environment & Energy, Engineering Design, Communicating Science and Engineering in Society, and Modern Japanese Architecture. Participants also took part in Survival Japanese, an introductory language course for summer program students.

Site visits conducted as part of the Environment & Energy course introduced students to cutting-edge Japanese technologies in the areas of waste management and power generation. At the Kawasaki Thermal Power Station, students observed technologies used in combined-cycle power generation. A visit to the Tsurumi Plant in Yokohama featured a facility tour and explanation of integrated solid-waste management strategies and renewable energy technologies employed by Yokohama City. In addition, students had the opportunity to visit RIKEN, Japan's largest comprehensive research institution with branches throughout the country. This year, students visited the Nishina Center for Accelerator-Based Science and the Nanoscience Joint Laboratory.

On July 18, students from Tokyo Tech High School of Science and Technology joined the Communicating Science and Engineering in Society class. Participants tested their leadership and inter-cultural communication skills as they engaged high school students in English language-based discussions on green energy and sustainability. As part of the class, Professor Bo Meng from Tsinghua University gave a talk titled "Strategic Communication - 21st Century Skills" after which students shared ideas and practiced how to communicate more effectively.



Discussion with Tokyo Tech High School students



Site visit to RIKEN

Research-Oriented Program

This ten-week session provided five CAMPUS Asia participants with opportunities to pursue individual summer research projects under the guidance of Tokyo Tech faculty members. Students conducted research projects on environmental application of photochemistry, information visualization and social network analysis, and semiconductor devices, among others.

For those interested in supplementing their research, an introductory-level language course, site visits, and a course on 21st Century Skills and Communicating Science and Engineering in Society were also offered.

On September 8, the final day of the Research-Oriented Program, participants shared thought-provoking presentations on their summer research projects and enthusiastically discussed their experiences at Tokyo Tech.



Final presentations and closing ceremony with Tokyo Tech summer program students

Cultural activities

Both the Course-Oriented and Research-Oriented Programs provided a variety of activities focusing on Japanese culture. These cultural and social activities, organized with Japanese and international students at the Institute, offered opportunities for participants to integrate with local students outside of research labs and classrooms.

Activities included:

- Traditional tea ceremony and kimono-wearing experience
- Introduction to Japanese calligraphy (*shodo*)
- Singing practice and performance with the Tokyo Tech a cappella club AJIWAI



A cappella experience with Tokyo Tech student club



Calligraphy, tea ceremony, and kimonos

[□ TKT CAMPUS Asia web site](#)

[● Tokyo Tech Summer Program 2017 | Tokyo Tech News](#)

Contact

CAMPUS Asia Program Office, International Student Exchange Division
Email campusasia@jim.titech.ac.jp
Tel +81-3-5734-2984

© Tokyo Institute of Technology. All rights reserved.

キャンパス・アジアサマースクール 2019 を開催 CAMPUS Asia Summer School 2019

本文

2011年度より文部科学省の大学の世界展開力強化事業として運営されている留学生交換プログラム「キャンパス・アジア」では、2017年夏にキャンパス・アジアサマープログラム(CAMPUS Asia Summer Program) 2017を開催しました。

「キャンパス・アジアプログラム」は、中国の清華大学並びに韓国科学技術院(KAIST)と協力し、質の高い最先端の科学技術を学び、また、国際社会で活躍できる総合力を身につけることを目的とした研究重視型教育プログラムです。2019年度のサマースクールでは、2018年度に続き、プログラム連携大学以外からも参加学生も受け入れて開催しました。

CAMPUS Asia Summer School 2019 概要

授業中心プログラム 2019年7月3日(水)～2019年7月30日(火) 6名

清華大学1名、KAIST3名、香港科技大学1名、
カリフォルニア大学サンタバーバラ校1名

研究中心プログラム 2019年7月3日(水)～2019年9月10日(火) 15名

清華大学7名、KAIST4名、
Arts et Métiers Paris Tech (ENSAM)4名

授業中心プログラム

7月3日～7月30日の4週間にわたり、清華大学から1名、KAISTから3名に加え、香港科技大学から1名、カリフォルニア大学サンタバーバラ校から1名の計6名が参加し、サマースクール集中講義を受講しました。英語による集中講義である「環境・エネルギー学特論(Environment & Energy)」、「国際エンジニアリングデザインプロジェクト基礎(International Engineering Design Experiences)」、「モダンジャパン(Modern Japan)」、「英語で語る科学・技術・社会(Communicating Science and Engineering in Society)」を受ける一方、日本語初心者は「サバイバル・ジャパニーズ(Survival Japanese)」にて日本語の基礎を学びました。4週間の「授業中心プログラム」では、参加学生は本プログラムのための集中講義を受講しました。また、日本語初心者は「サバイバル・ジャパニーズ(Survival Japanese)」にて日本語の基礎を学びました。「環境・エネルギー学特論(Environment & Energy)」では、講義室でのレクチャーに加え、株式会社JERA川崎火力発電所、資源循環局鶴見工場、理化学研究所を見学しました。

株式会社JERA川崎火力発電所では、発電所の仕組みや実際の設備、資源循環局鶴見工場

ではごみ処理の流れや環境への配慮について理解を深めました。また、日本で唯一の自然科学の総合研究所である理化学研究所では、幅広い分野の研究を進める現場を肌で感じることができました。

「モダンジャパン(Modern Japan)」では、国内外の有識者の先生方が、それぞれの経験に基づいて、様々な科学技術分野における研究活動、国際連携研究と人材移動、ならびにキャリアパスなどについての議論から、現在の日本がどのように見えているか(位置づけ)について講義が行われました。また、「英語で語る科学・技術・社会(Communicating Science and Engineering in Society)」では、専門知識がない人たちに科学技術の知識をわかりやすく伝えることの重要性とその実践について学びました。講義最終日には、東工大附属科学技術高等学校の生徒17名、グローバル・リンク・シンガポール(Global Link Singapore)※1に参加予定の高校生8名が参加し、環境問題や持続可能な社会などのテーマの下、留学生とのグループディスカッションとプレゼンテーションに挑戦しました。これらの科目は、本プログラムでの3本柱のひとつとしている「21世紀型スキル」の修得につながるものであり、「研究中心プログラム(Research-oriented)」に参加する15名にとっての必修科目でもありました。

選択科目：以下4科目のうち2科目

「環境・エネルギー学特論(Environment & Energy)1」

「環境・エネルギー学特論(Environment & Energy)2」

「地球の生命と科学(Earth Life & Science)」

「先端物質理工学(Advanced Materials Science & Engineering)」

必修科目：

「国際エンジニアリングデザインプロジェクト基礎(International Engineering Design Experiences)」

「モダンジャパン(Modern Japan)」

「英語で語る科学・技術・社会(Communicating Science and Engineering in Society)」

研究中心プログラム

7月3日～2019年9月10日に渡る10週間の「研究中心プログラム」には、清華大学から7名、KAISTから4名に加え、Arts et Métiers Paris Tech (ENSAM)から4名の計15名が参加し、各々が受入指導教員のもと、本学での研究活動に従事しました。研究室での研究活動の傍ら、日本語初心者は「サバイバル・ジャパニーズ(Survival Japanese)」にて日本語を学習しました。また、本プログラムで3本柱のひとつとしている「21世紀型スキル」の修得につながる科目として、「モダンジャパン(Modern Japan)」、「英語で語る科学・技術・社会(Communicating Science and Engineering in Society)」を受講し、異文化

への理解、科学技術の知識、コミュニケーションスキルを併せ持ったグローバル人材となるための基礎を学びました。最終日の研究成果発表会では、参加学生が研究成果をプレゼンし、全員がプログラムを修了しました。

必修科目：

「モダンジャパン (Modern Japan)」

「英語で語る科学・技術・社会 (Communicating Science and Engineering in Society)」

アクティビティ

鎌倉研修旅行

来日後最初の週末（7月6日～7日）には、1泊2日で鎌倉での研修旅行を実施しました。この研修旅行は、東工大生（本プログラムでの派遣学生）も参加し、様々なアクティビティを通して、参加学生同士だけでなく東工大生とも親睦を深められる機会となっています。

朝9時に総勢30名で大岡山駅を出発。電車を乗り継いで、江ノ電長谷駅へ。Kamakura Welcome Guide Association (KWGA) によるガイドで、境内からの海の眺望が素晴らしい長谷寺と、国宝「鎌倉大仏」で有名な高徳院を訪れました。6日午後と7日朝の Modern Japan の講義では、参加学生はグループに分かれ、興味のある環境問題についてリサーチ、ディスカッション、プレゼンを行いました。

座禅、茶道などの文化体験を行いました。参加学生同士だけでなく、東工大生とも親睦を深められる良い機会となりました。



※1 グローバル・リンク・シンガポール：シンガポール国立大学を舞台に、アジア地域を中心とする世界各国の中高生が、科学や国際課題に関する考え方や研究成果を、英語を使って国際舞台で発表と議論を行うアイデアコンテストです。

1. 事業概要
2. 運営体制、予算

3. 学生の受入

4. 学生の派遣
5. コロナ禍でのオンライン交流プログラム
6. 受入学生・派遣学生の交流
7. 21世紀型スキル教育への取組
8. 幹事校としての取り組み
9. 評価
10. フォトギャラリー

3-1 受入学生一覧

3-2 募集要項

3-3 Summer School Calendar

3-4 Summer School
サイトビジットレポート

3-5 Summer School 開催報告

3-6 留学体験談

3-7 参加学生
アンケート結果まとめ

3-8 受入指導教員
アンケート結果まとめ

3-9 修了証



Student Activities

Student Testimonials

2019 2018 2017 2016 2015 2014 2013



Chenzi ZHAO

Home University
Tsinghua University, China

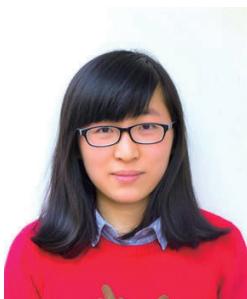
Degree
G2 (at the time of participation)

Program
CAMPUS Asia Winter Program
2017 (AY2016)

This program is wonderful! It offers me a precious chance to live and study in Japan. I joined an impressive lab and carried out a project about electrochemistry. My professor, student tutor and labmates are very knowledgeable and friendly. They patiently helped me in many ways. We shared lots of ideas about research and life. The stay is short, but I believe the friendship will last long.

During the stay, I learned how to communicate with people from different cultures. I am no longer a shy student being too nervous to talk, but become outgoing and have the courage to express my views.

Finally, I want to say thank you to the TKT CAMPUS Asia Program. All the activities are organized perfectly. Tokyo Tech is so beautiful and I will never forget this meaningful winter.



Danyang LI

Home University
Tsinghua University, China

Degree
G1 (at the time of participation)

Program
CAMPUS Asia Winter Program
2017 (AY2016)

Joining the CAMPUS Asia program is really a great experience for me! During my stay at Tokyo Tech, I have made friends with people from all over the world and communicated a lot with many people, which makes me feel very inspired in all aspects. I think CAMPUS Asia offers us a chance to know about the thoughts of young people in other countries.

Also, it is exciting to become a member of Murata Sensei's lab. I gained much knowledge about link mining and other related topics by attending their seminars and communicating with lab members. I also attended some member's final presentation for their master degree, and it was quite inspiring and interesting.

At last, I truly treasure this experience and the knowledge and friendship I got during my stay at Tokyo Tech!

TOKYO INSTITUTE OF TECHNOLOGY

International Student Exchange Division,
Student Service Department

Tel : +81-3-5734-2984 Fax : +81-3-5734-3677

E-mail : campusasia@jim.titech.ac.jp

2-12-1 Ookayama, Meguro-ku, Tokyo, Japan 152-8550 [Maps & Directions](#)

Student Activities

Student Testimonials

[2019](#) [2018](#) [2017](#) [2016](#) [2015](#) [2014](#) [2013](#)

Jangwon BAE

 Home University
 KAIST, South Korea

 Degree
 U3 (at the time of participation)
 Program
 CAMPUS Asia Summer Program
 2017 (Course-oriented)

CAMPUS Asia Program is a very valuable experience for me. It's been a year since I've been in the program, but I never forget the memories. I was able to test and improve my English and Japanese communication skills through the program. It was also good to experience and learn Japanese culture. After this program, my perspective has been broadened and more creative thinking has become possible. I could adapt easily to the school thanks to the support of Tokyo Tech and kind program organizers. The only thing I missed is that I participated in only four weeks because I was in course-oriented program. So, I'd like to join again as a research-oriented program student later if possible. Thank you again for giving me such a good opportunity.


Xiao HE

 Home University
 Tsinghua University, China

 Degree
 M2 (at the time of participation)
 Program
 CAMPUS Asia Summer Program
 2017 (Research-oriented)

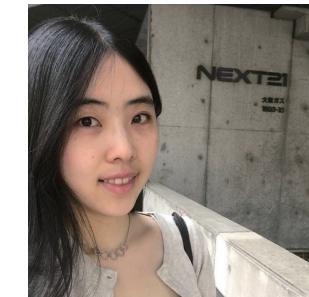
The summer at Tokyo Tech is the best summer I have ever experienced!

During the cooperation with an excellent supervisor, Tanaka Sensei, I learned a lot from the multidisciplinary research about biological turbulent flows, and I enjoyed the brainstorming at group seminars. Two months may be suitable for living experiences but may be too short for conducting a complete research topic. I really hoped I could focus on this research a little longer. This research experience helped my application to graduate schools and inspired my future research on turbulence, which I will always be appreciated.

The well-organized summer program greatly expands my horizons. By taking fascinating language and culture courses, joining site tours of research institutes and industries, and participating in the Tokyo orienteering campaign, I gained well-rounded understandings towards Japan society. I also miss the delicate box lunch near the Ookayama campus, the busy Tokyu Line I took every day, the magnificent Hanabi Taikai at the Skytree, the museums at the Ueno Park, and all the lovely people I met during the summer program.

I gave my highest-possible recommendation to the TKT CAMPUS Asia Program. It is indeed a life-long memory.

Prof. Hiroto TANAKA's Laboratory

 Website: http://www.tanakah.mech.e.titech.ac.jp/index_e.html

Zhejing CAO

 Home University
 Tsinghua University, China

 Degree
 D2 (at the time of participation)
 Program
 CAMPUS Asia Summer Program
 2017 (Research-oriented)

This program is highlight of my summer in 2017. It offers lots of academic trainings and Japanese cultural experiences to foreign students. Yukie is very forthcoming in helping us engaging in various activities and courses. I want to express my sincere gratitude to professor Asakura Yasuo from department of civil and environmental engineering for his kind mentoring and instructions on my research. One chapter of my doctoral dissertation is about the empirical studies of Tokyo transit system. Campus Asia program in Tokyo Tech provides me a bunch of opportunities to conduct comprehensive investigation in Tokyo and Japan. I also participated into 5-day summer seminar organized by Asakura lab in Hakone, quite impressed by the heated academic atmosphere and unique Japanese landscape. Not only do I make many Japanese friends, but I got a deeper understanding of academic environment and network in Japan. In 2018 winter vocation, I revisited Asakura lab for 1 month to continue my research in Tokyo Tech. And the research paper instructed by professor Asakura is now submitted to EPB journal for review.


Takhun KIM

 Home University
 KAIST, South Korea

 Degree
 M1 (at the time of participation)
 Program
 CAMPUS Asia Summer Program
 2017 (Research-oriented)

Research program in Tokyo Tech was a great chance for me. For introducing myself, I am majoring IT Management in KAIST College of Business in Seoul, Korea. Thanks to kind aid from staffs of Campus Asia in KAIST, Korea and TITECH, Japan while I stay during 1st July ~ 8th September, 2017.

I studied in laboratory of Professor SENOO DAI, who is very active with his research performance for Management such as Knowledge Management. I think that was a great part of this program because you can apply to the professor who fits best with you. Thanks to the professor and the program, even though 2 months is quite short to discuss and finalize the research project, I could get his advice and absorb philosophy. And I also had a good time with labmates by sharing the graduate student life together. Not only for the laboratory, course was good, too. It was the communication class helping Science and Engineering students (us) with public. We could meet high school students in Japan to communicate about our project. It was very precious chance that gave us experience to communicate friendly with local people we have never met.

Along with the all experiences above, Tokyo life for 2 months was just valuable. I even wanted more days to stay longer, but sadly time flew fast. After the program, I was born and lived in Korea but for another, a small version of life in Japan came and stays in my mind, happily. For the last, thanks to the Campus Asia provided me financially with subsidy/housing, and internally helped me to be safe and stably.



Jiawei DI

Home University
Tsinghua University, China

Degree
D3 (at the time of participation)

Program
Joint Educational Program

It is a great chance to participate the research program in Tokyo Tech. I learned quite much about molecular dynamics simulation of phase change in the laboratory of Professor Seiji OKAWA. Five months are enough to get preliminary understanding on the research topic and I can take a glance on the research field. The professor and students are friendly, and they helped me not only in study but also in daily life. During the five months, I have also visited many sites in Japan. I think it is a country mixed of modernization and traditional culture. When I took a view from Skytree or Tokyo tower, the city in sight is quite modern and developed; when I visited Fushimi Inari Shrine, I can sense the traditional culture. I appreciate the TKT CAMPUS Asia Program. All the activities are organized perfectly, and the five months in Japan can be an unforgettable experience in my life.



Jiyi LEE

Home University
KAIST, South Korea

Degree
M2 (at the time of participation)

Program
CAMPUS Asia Winter Program
2017 (Research-oriented)

Greetings! I am very happy to conclude my 9 weeks of Tokyo Tech life. The experience of TKT Campus Asia program at Tokimatsu sensei's lab became one of my stepping - stone which guides me the next goal to me. I appreciate that I could challenge myself to seek the topic that I have interested in. And I feel gratitude to my supportive professor Tokimatsu, the staffs of Campus Asia Program and the lab mates who inspired me in the daily life.

In Tokyo tech, I could spend time following my curiosity towards Aquaponics system and Life Cycle Thinking. The motivation was to figure out the appropriate level of aquaponics system for developing countries since I believe the aquaponics system combined hydroponics and aquaculture can solve food insecurity in the developing countries. With the supportive research atmosphere, I could keep find answers for my successive questions throughout literature reviews and commentary from professor. During the program, I could understand the challenges of the aquaponics system and discover the research opportunities regarded the topic: LCA and TEA on an aquaponics system. Greatfully, the professor Tokimatsu suggested me to apply for the Ecobalance 2018 conference. Although I have longer step to participate for the conference, I submitted the abstract last Feb. This would be my next motivation for me to conduct the research when I go back to Korea.

Moreover, cultural experience and learning Japanese were another interesting parts during the program. Even though both of Korea and Japan share South East Asia's common cultural background, still I could discover small and big spectrum differences. I got impression by Japanese sophisticated products and user friend designed service in Japan. On the other hand, I still have unsolved curiosity on IT Technology acceptance in Japan. Although Japan was one of the fastest industrialized country in Asia, I couldn't see the Uber, sharing bicycle, food delivery application which is now very widespread in China and Korea. I wondered the underneath background.

Lastly, I'd like to mention about my laboratory. Under the very liberal and diverse atmosphere in the lab with numerous international friends, I enjoyed the communication a lot with my lab mates. I could think about the sound attitude to the research, and learn how to encourage others. I'd like to express my last appreciation to my lab mates, Muhammad who were very willingness to encourage about my research, Takaki who was teaching me daily Japanese words, the great buddy Jo, Reza who provides considerate commentaries, Pai who became my best friend, Rico who is guidance of all Indonesian cuisine, and all the members I met in the lab.

Back in Korea, I brought the several future tasks from Japan, but I am very happy to take this responsibility and the chance of learning. Thank you! ありがとうございます！

TOKYO INSTITUTE OF TECHNOLOGY

International Student Exchange Division,
Student Service Department

Tel : +81-3-5734-2984 Fax : +81-3-5734-3677

E-mail : campusasia@jim.titech.ac.jp
2-12-1 Ookayama, Meguro-ku, Tokyo, Japan 152-8550 [Maps & Directions](#)

Student Activities

Student Testimonials

[2019](#) [2018](#) [2017](#) [2016](#) [2015](#) [2014](#) [2013](#)


Hua BAI

 Home University
 Tsinghua University, China

 Degree
 U3 (at the time of participation)

 Program
 CAMPUS Asia Summer School
 2018 (Course-oriented)

Participating CAMPUS Asia Program is a wonderful experience! All the organizers of CAMPUS Asia program are kind and warmly. In addition to courses and research, they organized a lot of activities to help our participants to be familiar with each other. As a course-oriented student, I took several courses here. It's difficult for you to imagine how amazing the courses are if you don't take part in this program. The course content is interesting and the professor is really nice. The course environment is relaxing and comfortable, and we had a lot of interaction with professors. Last but not least, I feel very lucky to take part in CAMPUS Asia program. During this program, I obtain chance to communicate with excellent university students from different countries. I made friends with them and we talked about not only academic knowledge, but also traditional culture. It is during this program when I change to be an outgoing guy from a shy boy. Thanks for CAMPUS Asia, I promote both my academic and social skills!



Cheuk Yin NG

 Home University
 Hong Kong University of Science
 and Technology

 Degree
 U3 (at the time of participation)

 Program
 CAMPUS Asia Summer School
 2018 (Course-oriented)

To learn, to make new friends, and to have fun may be the three greatest experiences in your college life and in Tokyo Tech CAMPUS Asia, you have them all concentrated in one Summer.

In the program you are meeting the future leaders in science and technology industries, who are probably in the group of most intelligent people on this planet. It could be a challenge to work with the elites among

elites but at the same time, once you fully engage in the event, you would definitely learn a lot from them. A quote from Confucius concludes all of this - "When I walk along with two others, they may serve me as my teachers." and it is even more true when you interact with such intellectuals.

Japan is a country never lack of fun and you are going to enjoy the time staying there travelling around with your new friends and exploring the appeal of Japanese culture. One of the ice-breaking orientation event in CAMPUS Asia 2018 is the trip to Hakone, in which you are getting impressed by natural beauty of one of local tourist attractions and enjoy the event together with your newly met friends.

As a chance of global networking, acquiring new knowledge and experiences, and travelling, you will definitely earn and enjoy a lot from CAMPUS Asia. So, what are you waiting for? Come and join!



Xihan YAO

 Home University
 Hong Kong University of Science
 and Technology

 Degree
 Finished U1 (at the time of
 participation)

 Program
 CAMPUS Asia Summer School
 2018 (Course-oriented)

The Tokyo Tech CAMPUS Asia summer program served as a precious opportunity for me to learn, think and get inspired. During the one month's course-oriented program, we learned a lot of latest scientific breakthroughs in green technology and industry in Japan through lectures, workshops, and many site visits. Besides of listening to complicated scientific terminologies from different professors all the time, we also engaged in a Japanese high school's educational self-research activity. With ordinary Japanese high school students, we taught them with some complex scientific ideas, which was quite challenging and very meaningful for both high school students and us. We experienced the process of introducing the science to the public. A future environmental scientist or engineer should also be equipped with the ability to engage the public in to contribute to the future sustainable living environment. This summer camp was also the very good chance for us to experience Japan culture and make friends with a lot of students from different cultural backgrounds. We hung out together to experience the unique Tokyo city and for sure this summer will leave us with unforgettable memorie.



Chao PAN

 Home University
 Tsinghua University, China

 Degree
 M1 (at the time of participation)

 Program
 CAMPUS Asia Summer School
 2018 (Research-oriented)

The ten-week summer program at Tokyo Institute of Technology is full of surprises and challenges. The traditional&modern site visit experience and various courses have brought me different understanding of the process of the development of modern Japanese technology. The research life in the laboratory was greatly assisted and supported by the supervisor and tutor. I have learnt novel research ideas and more efficient techniques. At the same time, we also experience thinking

collision, exchange of ideas and continuous innovation in different academic environments. Of course, the culture and attractions here must not be missed. I climbed up to the top of Mount Fuji with the groupmates in the lab and saw the beautiful sunrise. All experiences have created an unforgettable and worthwhile summer.



Huihui YANG

Home University
Tsinghua University, China

Degree
D4 (at the time of participation)

Program
CAMPUS Asia Summer School
2018 (Research-oriented)

I like the CAMPUS Asia program very much, also thankful for it. I have made friends with people from all over the world and learnt How to communicate well with them. They all have their strengths. I saw the difference between us college students from different countries, not only language but also thinking for society, so I must learn more in future.

I joined the Nishikata-Tada lab and carried out a research about electrochemistry combined my research in Tsinghua University. My professor and lab members are very knowledgeable and patiently helped me. Finally, I got the expected result.

In a word, the experience of life and research in Japan is very precious. All the activities are organized perfectly. Professor HARA, Yukie and Yoko are very nice and responsible.



Jaehoon KIM

Home University
KAIST, South Korea

Degree
M1 (at the time of participation)

Program
CAMPUS Asia Summer School
2018 (Research-oriented)

I really enjoyed this summer in Tokyo. This program includes course, research and trip. I could learn Japanese culture and their life during research period. I strongly recommend many people to catch this great experience.



Mahmoud BECHRAOUI

Home University
Arts et Métiers ParisTech
(ENSAM), France

Degree
M1 (at the time of participation)

Program
CAMPUS Asia Summer School
2018 (Research-oriented)

This program was an opportunity to accomplish something great and unique, balancing science and cultural diversity. I had the chance to work inside Tokyo Tech's laboratories for 10 weeks. Throughout this program, I had the chance to see wonderful people from all around the world especially from Asia. I really enjoyed the cultural interaction and having various backgrounds thriving together within the courses and the workshops alongside the research internship.

I believe that you would have no problem fitting to the Japanese culture. They were very welcoming and never hesitated to offer their help every time you needed them. In addition, since it was my first time in Japan (my first time in Asia actually) I took advantage of being there to visit Japan and the big cities around.

Overall it was very inspiring seeing a different way of living and thinking. It helped me broaden my knowledge. Indeed I gained essential keys for communicating and working within a multicultural team.

I would like to thank Campus ASIA Tokyo Tech and my lab for this incredible experience. I hope that I will get the chance to travel back to Japan and visit my friends in their countries as they are also welcome to visit mine.



Pedro Henrique
Machado Wigderowitz

Home University
University of York, UK

Degree
U4 (at the time of participation)

Program
CAMPUS Asia Summer School
2018 (Research-oriented)

Studying at the Tokyo Institute of Technology during the summer was nothing short of an unforgettable experience. I was able not only to get in touch with a whole new world of academia, but a vastly different culture as well.

I am really happy that I was able to have enough support from my research supervisor so that the studies I carried out in Japan enabled me to enhance further work at my home institution. Furthermore, I was warmly welcomed by student groups at the university, though I spoke little Japanese. I was able to meet a lot of new people and share many meaningful moments with some of them.

I am confident that I will carry the memories I have made throughout my stay in Japan for the rest of my life.

Student Activities

To
Tokyo Tech

Student Testimonials

[2019](#) | [2018](#) | [2017](#) | [2016](#) | [2015](#) | [2014](#) | [2013](#)

Hezi LIU

 Home University
 Tsinghua University, China

 Degree
 M2 (at the time of participation)

 Program
 CAMPUS Asia Summer School
 2019 (Research-oriented)

I am very honored to leave my words on the homepage of TKT. The 10 weeks spent here is the most memorable part of my life. Choosing to participate in this summer exchange program is a choice that will never be regretted.

I had great fun with other students from different countries and universities. Even taking classes was very interesting. My professor is approachable and cheerful, completely different from the imaginary Japanese professor. My lab members come from countries all over the world, but they are all warm and friendly, taking the initiative to talk to me and introduce themselves. Originally, I was an introvert. I didn't often communicate with people when I was in China. After that, I became much more cheerful and infected by everyone's enthusiasm.

Many thanks to everyone I met in Japan!
 Welcome to China!


Aoshuang DING

 Home University
 Tsinghua University, China

 Degree
 D1 (at the time of participation)

 Program
 CAMPUS Asia Summer School
 2019 (Research-oriented)

Tokyo Tech CAMPUS Asia Summer School is an excellent program, in which you can not only get Japanese friends, but also learn many things about Japan and the leading researches. The help from Tokyo Tech is always sufficient. We can get a free clean room and enough money for your daily living. What's more, the managers of this program is very friendly and quickly to answer questions about almost everything you are

concerned about. There are always enough events for us to walk close to Japanese culture. They are very impressive.

The classes and research in Tokyo Tech is also leading the world and the professors are very helpful for us to do some researches in this program. All of us can smoothly follow our research plans. Based on the knowledge of the classes, we can get enough survival skills to buy things or go around by ourselves.

In all, this program can provide enough help for each participant and you can learn many things about Japan and Tokyo Tech.

Yue ZHENG

 Home University
 Tsinghua University, China

 Degree
 D2 (at the time of participation)

 Program
 CAMPUS Asia Summer School
 2019 (Research-oriented)


Through teamwork with students from different countries and different cultures, my cooperation and communication skills have been enhanced. During my life in Japan, my Japanese listening and speaking skills have been rapidly improved. From the beginning, I cannot speak any word. Then after learning and practicing every day I can now carry out daily communication in my life freely. I know how to proceed garbage sorting and recycling. In addition, the most impressive feeling in Japan was the kindness, modesty, practicality, diligence and sincerity that the Japanese people generally be. I was deeply moved. Also by communicating with Japanese students in the laboratory, I learned that the attitude of the nation in the face of natural disasters, as well as the awe and cherish of life. All of these make me think more deeply about the meaning of life and the ideals of the future. I am very grateful to the school for giving me this precious opportunity to learn and exchange. This will be a valuable experience for me. I hope that this project can develop better and let more students get a valuable life experience.

Shiyan SUN

 Home University
 Tsinghua University, China

 Degree
 D3 (at the time of participation)

 Program
 CAMPUS Asia Summer School
 2019 (Research-oriented)


TKT CAMPUS Asia Summer School is an excellent program, which is well projected and implemented. Although it only lasted for ten weeks for research-oriented students, the compacted program has presented plenty of knowledge, language and culture and provided opportunities for communication and experience. In the first period for about one month, the advanced science and technology that universities, institutes and companies in Japan are researching and concerning is shown in courses and site visits. Japanese culture and society is fully experienced in the study tour to Kamakura and daily life, and communication cross-language, age and knowledge background is taking place all the time. In the second period, we focus on the research in our host supervisor's laboratory and feel every aspects of the society.

What impressed me most is the friendliness, carefulness, patience and concern shown by my supervisor,

the program professors and coordinators, friends in the program and the lab, and other Japanese people. When I encountered problems in the research, my supervisor always patiently discussed with me to analyze and solve them. His diligence still infects me. The teachers often cares about whether I have problems in my life and tries their best to help me. Thanks to the arrangement of the course Survival Japanese, we learned many useful conversations that can really save us in daily life. In addition to the above, life in Japan is comfortable, food is delicious, scenery is beautiful and architectural style is unique.

Although the ten weeks are very short, it will always shine in my life. I appreciate that Tsinghua University and Tokyo Institute of Technology provide me this opportunity. I wish the program better and better.

Do not hesitate to take part in the program. In just one summer, you can experience everything you can and cannot think of, which is out of your imagination.



Yang ZHANG

Home University
Tsinghua University, China

Degree
M2 (at the time of participation)

Program
CAMPUS Asia Summer School
2019 (Research-oriented)

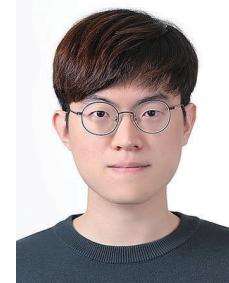
I feel utterly fortunate and grateful to be able to join the TKT Campus Asia 2019 Program and stay in Tokyo Tech for the past two months. This short period of time will be a life-long precious memory for me.

Tokyo Tech has carefully organized many activities that are both educational and recreational. During the courses in the first three weeks, I learned survival Japanese, visited RIKEN, and gained a more in-depth understanding of modern Japanese society. With the help of my professor in Tokyo Tech, I was able to finished a research that is focused on the heat island effect of Tokyo and Beijing. I outgrew myself both academically and culturally.

Thanks to the program, I was also able to experience the urban development of Tokyo in person. With the highly advanced metro system, garbage processing system, and convenient store system, Tokyo city kept me in constant shock every day. I was fortunate to able to visit one of the garbage incineration plant, and I was deeply surprised by how the efforts from both city government and city residents together can contribute to a zero-waste city. Tokyo is well-designed, human-centered, and multi-functional. I loved it deeply to study and live in Tokyo.

Last but not least, I was honore to become an active cultural "carrier" between different countries within this program. During the interaction and teamwork with my fellow colleagues, I not only started to learn more about other cultures, but also let them know more about my own culture and identity.

This is the best experience I could ever dream of.



Wanhee CHO

Home University
KAIST, South Korea

Degree
U4 (at the time of participation)

Program
CAMPUS Asia Summer School
2019 (Course-oriented)

TKT Campus Asia at Tokyo Tech was more than just an exchange program for me. It was the first time I studied while staying in a foreign country for a month, and also it was my first time making friends from various countries. Before the program, I planned to go to graduate school in Korea, but as I took classes at Tokyo Tech through Campus Asia, I thought it would be good to go on to master's degree in a foreign university, especially a Japanese university. Although it has been more than 2 months since I came to the United States for another exchange program as soon as the course-oriented program was over, I still can't forget the wonderful experiences in Japan, including the taste of ramen, sushi and Ministop bento. There is enough financial support, so if you have not lived abroad yet, I strongly recommend you to participate in this program and have a meaningful vacation.



Koki NARIMOTO

Home University
University of California Santa Barbara

Degree
U1 (at the time of participation)

Program
CAMPUS Asia Summer School
2019 (Course-oriented)

This past summer, I had the privilege of being selected as a participant in the TKT Campus Asia Course-Oriented Program at the Tokyo Institute of Technology. Through this program, I interacted with undergraduate and graduate students from around the world and learned about various concepts which correlated to the research and study conducted in Japan.

The Campus Asia program does an excellent job at exposing the participants to the Japanese culture through site visits to historically rich locations and interactions with Tokyo Tech students. Although this experience will change drastically based on the fellow participants one will be enrolled with, based off of my personal experiences, I can strongly say that, in regard to the social aspect, I had an extremely pleasant experience through this program. For instance, the participants and the Tokyo Tech students would organize events such as going to firework festivals and going to hot springs at least every weekend and sometimes throughout the week. Through these events I was able to strongly strengthen the connections I made with the friends I have made from this program.

Many potential applicants may be hesitant to apply to this program because of the huge uncertainties which are contained within the span of the program: what if the other participants aren't nice, what if I'm not able to blend into the Japanese lifestyle, what if I get homesick, etc. These are all valid reasonings behind backing out of this application. In fact, I pondered about the same exact questions; however, I decided to apply because I didn't want to regret my decision in the future. In hindsight, I am extremely glad that I decided to apply and participate in this program.

- 1. 事業概要
- 2. 運営体制、予算

3. 学生の受入

- 4. 学生の派遣
- 5. コロナ禍でのオンライン交流プログラム
- 6. 受入学生・派遣学生の交流
- 7. 21世紀型スキル教育への取組
- 8. 幹事校としての取り組み
- 9. 評価
- 10. フォトギャラリー

3-1 受入学生一覧

3-2 募集要項

3-3 Summer School Calendar

3-4 Summer School
サイトビジットレポート

3-5 Summer School 開催報告

3-6 留学体験談

3-7 参加学生
アンケート結果まとめ

3-8 受入指導教員
アンケート結果まとめ

3-9 修了証

CAMPUS ASIA QUESTIONNAIRE RESULTS

CAMPUS Asia Summer School 2018 & 2019
Course-Oriented/Research-Oriented

Responses 2018: 25 (out of 28 participants)

Course-Oriented 11, Research-Oriented 14

2019: 15 (out of 21 participants)

Course-Oriented 4, Research-Oriented 11

Responses to a 5 point scale

[5] strongly agree

[4] somewhat agree

[3] neutral

[2] somewhat disagree

[1] strongly disagree

II. 事務手続きや宿舎に関する満足度	2019	2018	2017
1. The online application and procedures were straight-forward and easy to follow.	4.40	4.56	4.39
2. The pre-arrival information was useful.	4.53	4.76	4.52
3. The orientation upon arrival was informative and easy to understand.	4.47	4.80	4.49
4. The administrative procedures (resident check-in, payment etc.) were conducted smoothly.	4.67	4.40	4.55
5. The accommodations met my expectations.	4.20	4.44	3.94

Negative

- The payment for the Senzokuike House was a bit of a mess in general: the payment instructions were not clear, and we ended up paying 4 months and a half of rent even though we only stayed for 2 months and a half. I learnt about how Japan interacts with other cultures and I was also able to undo this “perfect image” I had of the country. (2018)

Positive

- Accommodation is satisfying in general. We live in a very cosy area, peaceful and beautiful. (2018)
- The apartment equipment was good and helped me live happily here. (2019)

2018年度は、洗足池ハウスの料金支払いに関して、支払い方法の案内が不十分な点（現金振込しか方法がない）と、日割精算がなく、2日の滞在でも半月分の料金がかかる点についてクレームがあった。来年度への対策：日程を6月末～ではなく、7月頭からとする。もし学内寮を使用する場合は、支払い方法の連絡を徹底する。2019年度は、4.40から4.67にアップ。プログラム開始日を7月頭としたこと、全員を民間のシェアハウスへの入居としたことで、支払い等が混乱なくスムーズに行われた。

II. 授業等に関する満足度	2019	2018	2017
1. The Survival Japanese classes were very useful.	4.42	4.30	4.75
2. I was satisfied with the CSES course.	3.53	4.20	3.45
3. I was satisfied with the Modern Japan course.	4.00	3.88	
4. I was satisfied with the courses Environment and Energy 1.	3.67	4.60	
5. I was satisfied with the course Environment and Energy 2.	2.00	4.75	
6. I was satisfied with the course Earth & Life Science.	1.00	4.67	
7. I was satisfied with the course Advanced Materials Science & Engineering.	3.00	4.29	
8. I was satisfied with the course Engineering Design.	4.50	4.00	
9. I would like to transfer the credit(s) earned at Tokyo Tech to my home university.	3.52	3.52	3.75
10. The site visits were meaningful.	4.55		

Negative

- For courses, it could be better for course students to have a **courses strongly related to their own major**. Or, it could be better to **allocate more discussions** in any courses. (2019)

Positive

- Courses themselves were really interesting and easy to follow even if the topic was not part of your major. (2018)

2017年度の「授業に選択肢があると良い」という意見を受け、2018年度はパラレルセッションにしたことで、授業の満足度が高くなった（昨年度は授業全体で3.44）。2019年度も同じ選択科目を用意し、募集時にシラバスも公開していたが、Course-Orientedの参加学生自体が6名と少なく、科目の内容と参加学生の専門や興味がうまくマッチングしなかった結果、選択科目の満足度が大きく下がることになった。今後、Course-Orientedをどうしていくべきか考慮が必要である。

III. 研究等に関する満足度

	2019	2018	2017
1. I was satisfied with the site visit to RIKEN.	4.64	4.31	4.69
2. I was satisfied with the site visit to Railway Technical Research Institute (RTRI).	4.25	3.75	
3. I was satisfied with the site visit to Mitsubishi Minatomirai Industrial Museum.		3.33	
4. The atmosphere in my lab was good for conducting research.	4.55	4.64	
5. I was satisfied with the facilities and equipment available for my research at Tokyo Tech.	4.73	4.64	4.27
6. I was satisfied with the help provided by my tutor.	4.73	4.57	4.13
7. I was able to consult with my academic supervisor at Tokyo Tech when necessary.	4.73	4.64	4.67
8. My research topic was closely related to my studies at my home university.	3.91	3.50	3.87
9. My research level was enhanced.	4.36	4.50	4.67
10. My research project met my expectations.	4.36	4.43	3.80
11. I was satisfied with the balance between research, coursework and program activities.	4.45	4.57	3.85

Negative

- I wish that the program had been longer. As a research oriented student, the first month was focused on taking classes and the second month on research. I personally felt that one month of conducting research is not sufficient to generate significant results. (2018)

Positive

- I definitely outgrew myself during the research program. My topic is very related to my major in home university, and I learned something more than just my major. (2019)

研究に関する満足度は高い。最初の1か月は授業が多く、研究ができるのは1か月半のみと短いという声は複数の学生からあり、2020年度は必修科目を少なくし、研究にかける時間が増えるように調整をしていた（コロナの影響で2020年度の受入は中止）。

IV. プログラム全般・日本における生活に対する満足度

	2019	2018	2017
1. The trip to Hakone was enjoyable.	4.86	4.92	
2. The activities with Tokyo Tech students were enjoyable.	4.80	4.84	
3. The number of events planned for us was just right.	4.27	4.48	
4. I am satisfied with my life in Japan in general.	4.80	4.92	4.62
5. I will recommend this program to students at my home university.	4.80	4.92	4.62

Negative

- There is a tight schedule in trip to Hakone since there were 2 classes, long travel and site visit in two days. (2018)
- Presentation at Kamakura trip was too instant. It's better to remove presentation and group work, and replace it to introduction of each school and country. School trip have to contribute relationship between friends. (2019)

Positive

- Overall, I am very satisfied with the program. The trip to Hakone was very well planned out and we got a chance to explore outside of Tokyo. I was able to meet many new people and learn about Japanese culture. I was given the opportunity to expose myself to a new field of research. (2018)
- The Tokyo Tech students, who enjoyed the Kamakura trip, were awesome. I really want to say them thank you very much. (2019)

研修旅行（2018箱根・2019鎌倉）では、参加学生同士、さらには参加学生と東工大生との交流の機会として有効で、プログラム全体の満足度にもつながっていると感じる。授業を組み込んでいるため、交流だけでなく学修要素も多く、スケジュールがタイトになっている点は、改善の余地がある。

CAMPUS Asia Summer School 2018 参加学生アンケート集計 (前年度との比較)

	前年比	2018	2017
I. 事務手続きや宿舎に関する満足度			
1. The online application and procedures were straight-forward and easy to follow.	▲ 0.17	4.56	4.39
2. The pre-arrival information was useful.	▲ 0.24	4.76	4.52
3. The orientation upon arrival was informative and easy to understand.	▲ 0.31	4.80	4.49
4. The administrative procedures (resident check-in, payment etc.) were conducted smoothly.	▲ 0.15	4.40	4.55
5. The accommodations met my expectations.	▲ 0.50	4.44	3.94
II. 授業等に関する満足度			
1. The Survival Japanese classes were very useful.	▲ 0.44	4.30	4.75
2. I was satisfied with the CSES course.	▲ 0.75	4.20	3.45
3. I was satisfied with the Modern Japan course.		3.88	
4. I was satisfied with the courses Environment and Energy 1.		4.60	
5. I was satisfied with the course Environment and Energy 2.		4.75	
6. I was satisfied with the course Earth & Life Science.		4.67	
7. I was satisfied with the course Advanced Materials Science & Engineering.		4.29	
8. I was satisfied with the course Engineering Design.		4.00	
9. I would like to transfer the credit(s) earned at Tokyo Tech to my home university.	▲ 0.23	3.52	3.75
10. The site visits were meaningful.		4.55	
III. 研究等に関する満足度			
1. I was satisfied with the site visit to RIKEN.	▼ ▲ 0.38	4.31	4.69
2. I was satisfied with the site visit to Railway Technical Research Institute (RTRI).		3.75	
3. I was satisfied with the site visit to Mitsubishi Minatomirai Industrial Museum.		3.33	
4. The atmosphere in my lab was good for conducting research.		4.64	
5. I was satisfied with the facilities and equipment available for my research at Tokyo Tech.	▲ 0.38	4.64	4.27
6. I was satisfied with the help provided by my tutor.	▲ 0.44	4.57	4.13
7. I was able to consult with my academic supervisor at Tokyo Tech when necessary.	▲ 0.02	4.64	4.67
8. My research topic was closely related to my studies at my home university.	▼ ▲ 0.37	3.50	3.87
9. My research level was enhanced.	▼ ▲ 0.17	4.50	4.67
10. My research project met my expectations.	▲ 0.63	4.43	3.80
11. I was satisfied with the balance between research, coursework and program-sponsored	▲ 0.72	4.57	3.85
IV. プログラム全般・日本における生活に対する満足度			
1. The trip to Hakone was enjoyable.		4.92	
2. The activities with Tokyo Tech students were enjoyable.		4.84	
3. The number of events planned for us was just right.		4.48	
4. I am satisfied with my life in Japan in general.	▲ 0.30	4.92	4.62
5. I will recommend this program to students at my home university.	▲ 0.30	4.92	4.62

Positive

I. 事務手続きや宿舎に関する満足度

- Accommodation is satisfying in general. We live in a very cosy area, peaceful and beautiful.

- My tutor was very dedicated and amiable as a tutor for me. I was so glad that I was able to meet her. It was adorable to have a tutor here in Japan. Without her, I would not enjoy Japan and the program as much as I did.

II. 授業等に関する満足度

- I enjoyed the CSES class because we had the opportunity to work with high school students and help them present a topic in English.

- I really enjoyed the Modern Japan lectures, as all the speakers come from a very international background and they gave me a lot of interesting insights not only into Japan, but also the rest of the world. The lectures also allowed me to know more about how it is like to do research in different parts of the world, giving me some ideas on where I would like to go for my further studies or even beyond.

- Courses themselves were really interesting and easy to follow even if the topic was not part of your major.

III. 研究等に関する満足度

- I was very satisfied with the research I conducted at Tokyo Tech. The research topic was very interesting and I also liked the atmosphere of the lab. Everyone was very collaborative and friendly, so it provided a suitable learning environment for me.

- My supervisor and tutor are very helpful and earnest. And they help me to finish my research topic. The atmosphere in lab is good. Thus I could discuss with lab members and get help. I also attended activities in lab to know more culture.

2017 Course-Oriented

回答率	89%
人数	16名/18名
備考	キャンパスアシスタント: 6 サマープログラム: 9
2017 Researach-Oriented	
回答率	88%
人数	15名/17名
備考	Course-Oriented: 11 Research-Oriented: 14

Negative

I. 事務手続きや宿舎に関する満足度

- The payment for the Senzokuikai House was a bit of a mess in general: the payment instructions were not clear, and we ended up paying 4 months and a half of rent even though we only stayed for 2 months and a half. I learnt about how Japan interacts with other cultures and I was also able to undo this "perfect image" I had of the country (which I take as a good thing since I strongly believe that it's not good to romanticize ANY country...) - I think there is a tight schedule in trip to Hakone since there were 2 classes, long travel and site visit within two days.

- I wish that there would have been a kind of online tool like this questionnaire for some of the steps. Instead we used excel files for which I had to install Microsoft Office (Mac User).

- One thing that I wish is earlier payment of the scholarship. Some of us brought little money and had to take money from the ATM. We were given the money few days before departure, and had no time to spend.

II. 授業等に関する満足度

- Because I did not learn Japanese before the survival Japanese is little difficult to me. Besides Japanese varies a lot in different situation for the same meaning so it is difficult to understand Japanese in daily life after classes

- The material and the talk in Modern Japan course is not very helpful in my opinion. It does not provide any conclusion and the content is not organized.

- Even if Survival Japanese classes were useful, there wasn't much of a follow-up between classes: we didn't really feel obligated to study, and thus I feel like a lot of us didn't retain much of the information.

- For the Japanese class, you can add learning some letters in order to read a little. Because I struggled guessing products in the supermarket or guessing the menu in a restaurant who doesn't have pictures.

- I especially liked Earth and Life Sciences and didn't like Engineering and Design. The reason for the latter is that I didn't see the value of the activities we did. There was one museum visit which was really interesting but then we had to build a small exhibition model in the same style. I tried my best to participate but didn't see the correlation to design or engineering.

- For the visit, concerning the Mitsubishi, I was expecting more of a visit of the factory. It is true that the museum was good but it is open for everyone and anyone can go to the museum.

III. 研究等に関する満足度

- The research take a very long time to be achieve a little and to expect results. That is why I suggest either you extend the period to 3 months or the supervisor of the lab can prepare some of the topic and make easier for the student because he will need time to fully understand his topic.

CAMPUS Asia Summer School 2019 参加学生アンケート集計 (前年度との比較)

	前年比	2019	2018	2017	C	R	C + R
I. 事務手続きや宿舎に関する満足度							
1. The online application and procedures were straight-forward and easy to follow.	▼ ▲ 0.16	4.40	4.56	4.31	4.47	8.78	
2. The pre-arrival information was useful.	▲ 0.23	4.53	4.76	4.38	4.67	9.04	
3. The orientation upon arrival was informative and easy to understand.	▲ 0.33	4.47	4.80	4.31	4.67	8.98	
4. The administrative procedures (resident check-in, payment etc.) were conducted smoothly.	▲ 0.27	4.67	4.40	4.38	4.73	9.11	
5. The accommodations met my expectations.	▼ ▲ 0.24	4.20	4.44	3.75	4.13	7.88	
II. 授業等に関する満足度							
1. The Survival Japanese classes were very useful.	▲ 0.11	4.42	4.30	4.73	4.77	9.50	
2. I was satisfied with the CSES course.	▲ 0.67	3.53	4.20	3.44	3.47	6.90	
3. I was satisfied with the Modern Japan course.	▲ 0.12	4.00	3.88	0.00			
4. I was satisfied with the courses Environment and Energy 1.	▲ 0.93	3.67	4.60	0.00			
5. I was satisfied with the course Environment and Energy 2.	▲ 2.75	2.00	4.75	0.00			
6. I was satisfied with the course Earth & Life Science.	▲ 3.67	1.00	4.67	0.00			
7. I was satisfied with the course Advanced Materials Science & Engineering.	▲ 1.29	3.00	4.29	0.00			
8. I was satisfied with the course Engineering Design.	▲ 0.50	4.50	4.00	0.00			
9. I would like to transfer the credit(s) earned at Tokyo Tech to my home university.	▲ 0.00	3.52	3.52	3.75	3.75	0.00	
10. The site visits were meaningful.		4.55	0.00				
III. 研究等に関する満足度							
1. I was satisfied with the site visit to RIKEN.	▲ 0.34	4.64	4.31	4.69	4.69	9.38	
2. I was satisfied with the site visit to Kawasaki Thermal Power Station and Tsurumi Recycling.		4.25	0.00				
3. I was satisfied with the site visit to Mitsubishi Minatomirai Industrial Museum.		3.33	0.00				
4. The atmosphere in my lab was good for conducting research.	▼ ▲ 0.10	4.55	4.64	0.00			
5. I was satisfied with the facilities and equipment available for my research at Tokyo Tech.	▲ 0.08	4.73	4.64	4.27	4.27	4.27	
6. I was satisfied with the help provided by my tutor.	▲ 0.16	4.73	4.57	4.13	4.13	4.13	
7. I was able to consult with my academic supervisor at Tokyo Tech when necessary.	▲ 0.08	4.73	4.64	4.67	4.67	4.67	
8. My research topic was closely related to my studies at my home university.	▲ 0.41	3.91	3.50	3.87	3.87	3.87	
9. My research level was enhanced.	▼ ▲ 0.14	4.36	4.43	4.67	4.67	4.67	
10. My research project met my expectations.	▲ 0.06	4.36	4.43	3.80	3.80	3.80	
11. I was satisfied with the balance between research, coursework and program-sponsored	▼ ▲ 0.12	4.45	4.57	3.56	4.13	7.70	
IV. プログラム全般・日本における生活に対する満足度							
1. The trip to Kamakura (in 2019) was enjoyable.	▼ ▲ 0.06	4.86	4.92	0.00			
2. The activities with Tokyo Tech students were enjoyable.	▼ ▲ 0.04	4.80	4.84	0.00			
3. The number of events planned for us was just right.	▼ ▲ 0.21	4.27	4.48	0.00			
4. I am satisfied with my life in Japan in general.	▼ ▲ 0.12	4.80	4.92	4.31	4.93	9.25	
5. I will recommend this program to students at my home university.	▼ ▲ 0.12	4.80	4.92	4.38	4.87	9.24	

Positive

I. 事務手続きや宿舎に関する満足度

- The apartment equipments were good and helped me live happily here.

II. 授業等に関する満足度

- The site visits were very interesting. I discovered a new part of Japan I didn't know.

III. 研究等に関する満足度

- I definitely outran myself during the research program. My topic is very related to my major in home university, and I learned something more than just my major.

- I have got many times to talk with Professor Xiao about my project. His advice helped me learn quickly about the software OpenFoam. The research was smooth and there was enough time for me to enjoy the research and Japan life both.

IV. プログラム全般・日本における生活に対する満足度

- The Tokyo Tech students, who enjoyed the Kamakura trip, were awesome. I really want to say them thank you very much.

- I learned how to communicate with foreign lab members and friends in program. Living in Japan was really fun, and I want to come back someday. Thank you

2018

回答率	89%
人数	25名/28名
備考	Course-Oriented: 11 Research-Oriented: 14

2019

回答率	71%
人数	15名/21名
備考	Course-Oriented: 4 Research-Oriented: 11

Negative

I. 事務手続きや宿舎に関する満足度

- The residence is a bit unexpected, because a shared bathroom and kitchen somehow trouble people who are sensitive about their privacy.

II. 授業等に関する満足度

- Course work cost much time than I expected, so I felt hard to adapt in lab on first few weeks.

- For courses, it could be better for course students to have a courses strongly related to their own major. Or, it could be better to allocate more discussions in any courses.

- The arrangement of CSES is not creative and interesting. I don't understand why we were asked to teach high school students to make presentation, since everyone, as college students who have already been abroad, has already had basic communication skills.

- CSES is a course that benefited me somehow, although some activities were repetitive and time-wasting and there was not enough tutoring on how to communicate and present.

- I am not satisfied with the preparation of learning materials and the flow of some courses. Take E&E-2 as an example, I was totally frustrated on what we are going to learn from the very first class. The introduction part of the course content should be included in the first lesson, not the last one.

- For RIKEN site visiting, it would be better to separate team by field of interest, and then select laboratory which related to the field. I was really looking forward to visit RIKEN, but we only visited physics and chemistry laboratories.

III. 研究等に関する満足度

- I had no desk in my laboratory so I went researching in the Suzukakedai library almost everyday. Thus I haven't been able to really be part of the laboratory and to exchange with the other students.

IV. プログラム全般・日本における生活に対する満足度

- Presentation at Kamakura trip was too instant. I think it's better to remove presentation and group work, and replace it to introduction of each school and country. School trip have to contribute relationship between friends.

1. 事業概要
2. 運営体制、予算

3. 学生の受入

4. 学生の派遣
5. コロナ禍でのオンライン交流プログラム
6. 受入学生・派遣学生の交流
7. 21世紀型スキル教育への取組
8. 幹事校としての取り組み
9. 評価
10. フォトギャラリー

3-1 受入学生一覧

3-2 募集要項

3-3 Summer School Calendar

3-4 Summer School
サイトビジットレポート

3-5 Summer School 開催報告

3-6 留学体験談

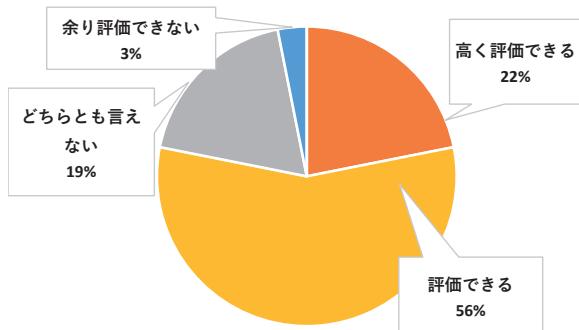
3-7 参加学生
アンケート結果まとめ

3-8 受入指導教員
アンケート結果まとめ

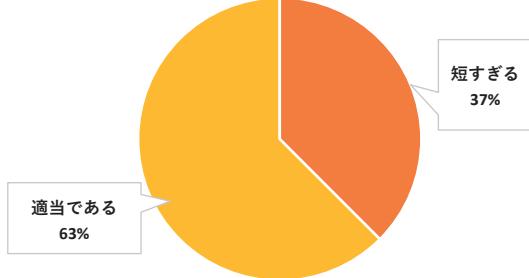
3-9 修了証

受入指導教員アンケート結果まとめ

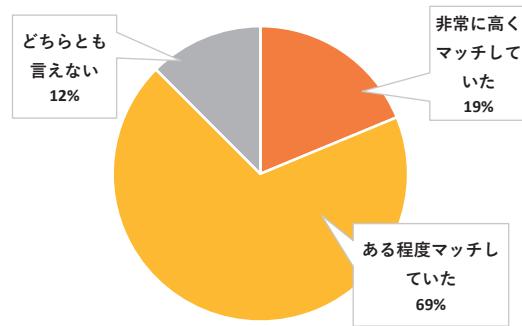
質問1. プログラムの全般的な評価



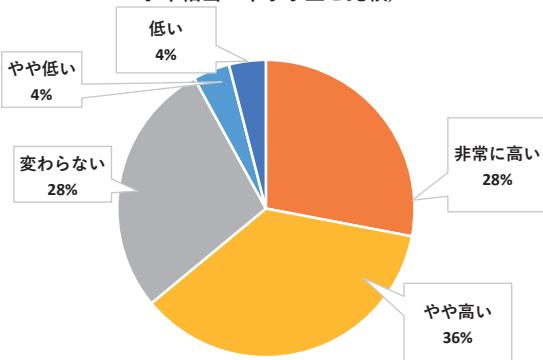
質問2. 受入れ期間について



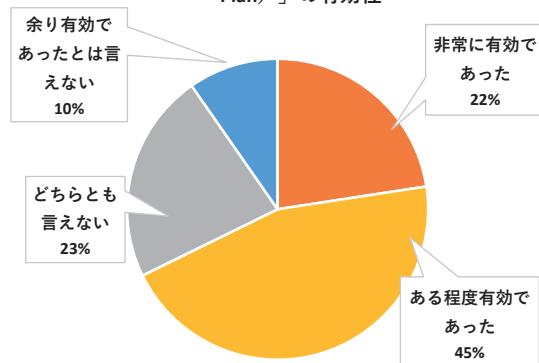
質問5a. 受入学生の研究テーマと研究室の研究テーマとのマッチングの度合い



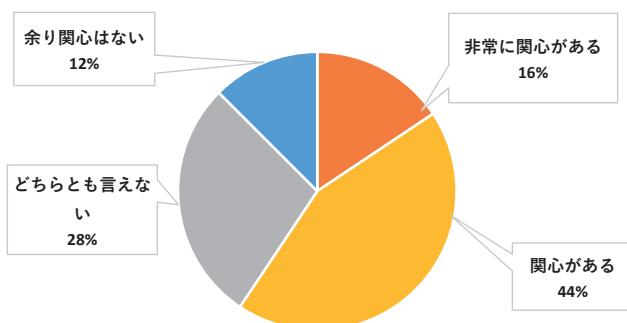
質問5b. 受入学生の研究能力や基礎学力（同じ学年相当の本学学生と比較）



質問6a. 「研究計画書（Study and Research Plan）」の有効性



質問7b. 今後、本プログラムの実施を通して、海外の相手大学との間で研究上の協力関係を構築することについて関心があるか。



受入教員からのコメント

【全体について】

Positive

- 試してみたかった研究内容を、必要な知識を持つ高レベルな学生が来てくれたおかげで、実施することができた；研究室に所属している日本人学生が、同世代の高レベルな学生と接して刺激となった。いかに優秀な学生を呼び込むか、受入側がそれに見合う課題を与えられるか、が肝要だと思います。（2017年度Summer School受入教員）
- 最初は照れていた日本人B4の学生も最後の方では積極的に英語で自分から話しかけるようになっていたのを見たときには大きな成果を得たと実感した。（2018年度Summer School受入教員）
- 修論、卒論ではテーマとしては軽い題材を、短期プログラムの学生にやらせて見て、徐々にレベルをあげることを考えていた、今回はその2回目に当たる。研究内容が少しづつ上がっていくことがわかり、次回への引き継ぎ資料なども本人に作ってもらい、研究室としての恩恵がある。（2018年度Summer School受入教員）
- 研究面を狭く捉えると、正直、影響はありません。ただ教育面では、影響は大にあると思います。影響された学生が将来、研究を頑張るかもしれないと考えると、上の選択肢になりました。非常に優秀で、積極的で、頑張り屋で、英語も達者で、すでに学部生時点で博士まで行くことを決めているような学生が同じアジアの中に普通にいることを見て、そして自分達が個人個人として完全に負けていることを実感して、うちの研究室の学生は、確実にショックを受けたことでしょう。そういう効果は大きいと思います。（2016年度Winter Program受入教員）
- 研究を行うには十分ではないが、交流という観点からみれば十分といえる。（2016年度Winter Program受入教員）
- 今後、受け入れた学生の母校の研究室との間での研究交流が期待される。（2018年度Summer School受入教員）
- 今、最も強く推進しているプロジェクトを進めてくれた点。（2019年度Summer School受入教員）

Negative

- マイナスの効果としては、学部生相当なので研究指導に時間を要するということです。これは仕方ないことだと思いますが、プラスの効果は、異なる視点からの議論（多様性）ができたことです。ある程度の研究成果が出たこともプラスの効果の1つでした。（2016年度Winter Program受入教員）
- 研究スケジュールが他の学生と異なっていたため、研究方法論についての個別指導が必要だった。（2017年度Summer School受入教員）
- 修士レベルの学生をボランティアで受け入れても、実験系でマンパワーが必要、といった事情でもなければ教育負担が増えるだけで、とくに大学内で評価されることもない。（2018年度Winter Program受入教員）
- このプロジェクトに関わる試薬や消耗品費等を補助して頂きたかった。（2019年度Summer School受入教員）

【受入期間・受入時期について】

- 滞在期間が短かく、少し慣れた段階で帰国になってしまい、活性化までいかなかった。（2016年度Winter Program受入教員）
- 最終発表会が修士論文発表会の裏番組になるのはちょっと辛いです。（2018年度Winter Program受入教員）
- 受入れの時期として、第4クオーターは外してもらいたい。（2018年度Winter Program受入教員）
- 年末年始をまたぐスケジュールは無駄が多いように感じた。（2018年度Winter Program受入教員）
- 受入期間がもう少し長くないと研究指導が中途半端になる。できれば6ヶ月は居てほしい。本学の学期と合わせた日程の方が、より交流が進むと思われる。（2017年度Summer School受入教員）
- 夏季休暇をはさむので、後、2週間長くても良かったと思う。（2019年度Summer School受入教員）
- 時期的に国際会議の季節なのでチューターをつとめる博士課程学生にはやや厳しい。（2019年度Summer School受入教員）
- 8月中は研究室の学生がみなインターンシップまたは帰省のため一時帰国しており学生同士の交流はほとんどなかった。（2019年度Summer School受入教員）
- 7月下旬はテスト期間、8月は研究室全体が夏休み、その後大学院入試の業務や会議があるため、留学生が学生と接する機会を作るのが難しく、プラスの効果が生まれにくい。（2019年度Summer School受入教員）
- お盆休み明け後8月中は研究室に学生がほとんどおらず、学生に聞いてもらしながら研究を進めることはできなかったので逐一教員が指導する必要があった。7月から研究室活動ができれば時間にもゆとりができ、研究室にも学生がいるので学生間の交流を図れると思う。（2019年度Summer School受入教員）
- そもそもサマースクールであるのでやむを得ないと思いますが、8月は期末試験、オープンキャンパス、夏季休暇、大学院入試などのために、学生を指導する時間が極めて確保にくいです。帰国時期をもう少し遅くしていただけると、研究の最後の追い込みができるような気がしました。（2019年度Summer School受入教員）

【Study and Research Plan 「修学・研究計画書」について】

- 受け入れた学生の興味を知ることができましたので、この書類は大変役に立ちました。実際、この書類の内容を踏まえて、研究テーマの候補をいくつか本人に提示することができました。ただ、研究テーマを決めたのは来日後に直接会ってからであり、それで十分間に合いました。数学分野においては、来日前に無理に細かいテーマを決めなくともよいと感じています。（2016年度Winter Program受入教員）
- 「修学・研究計画書」はある程度有効であったが、来日前にもっと研究計画について詰めておくべきであったので、計画書の提出だけでなく、もっと事前のコミュニケーションを図るべきである。（2016年度Winter Program受入教員）
- 研究室の分野とのマッチングには効果があると思うので、来日後に変更することを前提に書いてもらうくらいが良いのではないかと思います。（2018年度Summer School受入教員）
- 研究計画は、来日してから話し合って詰める必要があるので、来日後2週間程度経ってからある程度具体的に書かせた方が良いと思われます。（2019年度Summer School受入教員）

1. 事業概要
2. 運営体制、予算

3. 学生の受入

4. 学生の派遣
5. コロナ禍でのオンライン交流プログラム
6. 受入学生・派遣学生の交流
7. 21世紀型スキル教育への取組
8. 幹事校としての取り組み
9. 評価
10. フォトギャラリー

3-1 受入学生一覧

3-2 募集要項

3-3 Summer School Calendar

3-4 Summer School
サイトビジットレポート

3-5 Summer School 開催報告

3-6 留学体験談

3-7 参加学生
アンケート結果まとめ

3-8 受入指導教員
アンケート結果まとめ

3-9 修了証



No. 19R55533

修了証書
CERTIFICATE OF COMPLETION

所属大学

Home University:

氏名

Name:

生年月日

Date of Birth

清华大学

Tsinghua University

DING, Aoshuang

November 8, 1994

上記の者は本学海外交流学生として下記のとおりプログラム
を修了したことを証明する。

This is to certify that the above-named person has successfully
completed the following program at Tokyo Institute of Technology.

記

参加プログラム

Program:

CAMPUS Asia Summer School 2019

在籍期間

Period of Enrollment: July 1, 2019 – September 30, 2019

September 10, 2019

Kazuya Masu
President
Tokyo Institute of Technology



1. 事業概要
2. 運営体制、予算
3. 学生の受入

4. 学生の派遣

5. コロナ禍でのオンライン交流プログラム
6. 受入学生・派遣学生の交流
7. 21世紀型スキル教育への取組
8. 幹事校としての取り組み
9. 評価
10. フォトギャラリー

4-1 派遣学生一覧

4-2 募集要項・ポスター

4-3 留学フェア

4-4 留学体験談

4-5 ブログ

4-6 近況報告書

4-7 留学報告会

4-8 超短期派遣プログラムと 派遣学生の感想

PDF版の事業報告書では
参加学生一覧を掲載しておりません

1. 事業概要
2. 運営体制、予算
3. 学生の受入

4. 学生の派遣

5. コロナ禍でのオンライン交流プログラム
6. 受入学生・派遣学生の交流
7. 21世紀型スキル教育への取組
8. 幹事校としての取り組み
9. 評価
10. フォトギャラリー

4-1 派遣学生一覧

4-2 募集要項・ポスター

4-3 留学フェア

4-4 留学体験談

4-5 ブログ

4-6 近況報告書

4-7 留学報告会

4-8 超短期派遣プログラムと 派遣学生の感想

CAMPUS Asia Program 派遣概要 2019



清华大学
Tsinghua University



CAMPUS ASIA
TSINGHUA・KAIST・TOKYO TECH

- ◆ 日中韓3大学の双方向学生交流プログラム
- ◆ 理工系トップ大学での研究留学が可能



双方向型



授業料免除



宿舎無償
or 安価



奨学金支給



航空券支給
(一部プログラム)



清华大学
Tsinghua University

サマースクール【テーマ研究型】2名 2019年7月11日～7月24日

セメスターープログラム【授業受講／研究型】計5名 下記期間の3ヶ月以上 (開始日は固定)

◇秋：2019年9月4日～2020年1月14日 ◇春：2020年2月17日～6月22日



サマースクール【授業型】【研究型】計5名

◇【授業型】2019年7月1日～7月26日 (4週間)

◇【研究型】①2019年7月1日～7月26日 ②2019年8月12日～9月6日 (4週間)

夏休み
期間中!

研究プログラム 秋セメスターープログラムと合わせて計4名

◇2019年6月1日～2020年2月28日のうち、1か月以上の希望する期間 (原則毎月1日開始)

秋セメスターープログラム【授業型】【授業+研究型】【研究型】

◇2019年8月31日～2020年12月18日

公募前情報 文部科学省「大学の世界展開力強化事業」

TKT CAMPUS ASIA
TSINGHUA・KAIST・TOKYO TECH

★ 清華大学
派遣学生募集

「授業」
「研究」
「授業+研究」

「キャンパス・アジア」は、中国の清華大学並びに韓国科学技術院（KAIST）と協力し、質の高い最先端の科学技術を学び、また、国際社会で活躍できる総合力を身につけることを目的とした研究重視型教育プログラムです。

■プログラム概要

派遣先：清華大学（中国）

期間：2020年9月1日～2021年1月31日 ※仮日程

※9月1日開始の希望する期間（3か月以上～）

対象：「研究のみ」学士課程4年～修士／博士課程

「授業+研究」「授業のみ」学士課程3年～修士／博士課程

人数：5名

※新型コロナウイルス感染拡大の影響により、渡航中止になる可能性があります。ご了承の上、ご応募くださいますようお願いいたします。

■応募締切 2020年5月20日（水）11:00

面接：2020年5月22日（金）14:00-15:00 ZOOM等で実施予定。

※面接合格者には、5月下旬の指定日までに別途オンライン申請等をしていただきます。

■支援内容（費用）

授業料：免除

奨学金：学士・修士課程学生 月3,000元、修士号を有する学生 月3,500元

【注】奨学金受給のため、**最低3ヶ月**の滞在が必要。

宿舎：キャンパス内の宿舎を無料で提供

航空券：本学より往復航空券を支給

保険：本学負担で東工大指定の保険と危機管理サービスに要加入。

■応募資格

1) 原則として上記に記載した学年以上であること。

※いずれも、留学期間終了後、本学に戻り学業を継続する者。

2) 日本国籍を有し、かつ「東工大・清華大学院合同プログラム生」でない者。

3) TOEFL-iBT70点、もしくはTOEIC公開テスト625点以上の点数を取得している者。

4) 過去1年間（前年度）のGPAの平均が2.30以上。

5) 留学終了後、留学報告会、留学フェア等のプロモーションに積極的に協力できる者。

本プログラムの参加によって、グローバル理工人育成コース上級の修了要件の一部を満たすことができます（4週間以上の留学）。本プログラムの参加により、海外留学関連の単位付与を希望する方は別途ご相談ください。



留学体験談



プログラム紹介



学生ブログ

■提出書類 1)～5) を応募締切5/20（水）11:00までに提出

1) 東工大申請書（履歴書）：PDF

*アカデミックアドバイザー（B2・B3）／指導教員（B4～）による署名もしくは押印が必要

*清華大学で所属する研究室はご自身で探す必要があります。研究を希望する場合は、研究希望の場合、**渡航前までに**東工大の指導教員と相談の上、清華大学での受入研究室に受入許可をもらうこと。授業のみの場合、研究室を探す必要はありません。

http://www.tsinghua.edu.cn/publish/newthuen_cnt/faculties/faculties-1.html/index.html

2) 人物評価書：PDFを教員本人から直接キャンパス・アジア事務局にメールにて提出

*アカデミックアドバイザー（B4～）による記入が必要

3) Two Recommendation Letters（2名の教員からの推薦状）：PDF

4) 直近の1年度分（2019年度分）を含む成績証明書（英文）：PDF

学部生：「学業成績書」 大学院生：「学業成績証明書」

*教務Webシステムの「成績閲覧」画面をプリントアウトしたもの添付すること。

5) 語学能力証明書（TOEFL-iBT／TOEIC公開テスト／IELTS等）：PDF

*新型コロナウイルスの影響で英語の外部試験を受験できないためスコアをお持ちでない方は、ご相談ください。

◆書類・面接審査後、清華大学への推薦決定後5月下旬の指定日までに必要な手続き。

6) 中国政府奨学金申請用オンラインアプリケーション <http://www.csc.edu.cn/laihua/>

(オンライン登録の上、PDFで出力したものの署名をして原本を提出)

*Application online for international students" をクリック。カテゴリーはBを選択。

The code is '10003 (清華大学)'を入力してください。

7) 清華大学オンラインアプリケーション <http://intlstudent.cic.tsinghua.edu.cn/app/>

(オンライン登録の上、PDFで出力したものの署名をして原本を提出)

8) 在籍證明書（Certificate of Enrollment）（英文） 原本1部

9) Study Plan（学修計画書） 様式自由 1部

10) パスポートの写し（写真入りページ）1部

11) パスポートサイズの証明写真 5枚

申請書のダウンロード等は、

TKT CAMPUS Asiaのホームページでご確認ください。

【TKT CAMPUS Asia】で検索 ⇒ 「東工大からの留学」 ⇒ 「応募方法」

<http://www.ipo.titech.ac.jp/campusasia/japanese/dispatch/application.html>



■選考方法

提出された申請書に基づき、書類審査および面接を行い、相手大学に推薦します。なお、最終的な派遣の可否の決定は、相手大学の選考結果によります。選抜は、成績、語学力、学修（研究）計画を元に総合的に判断して行います。

■問い合わせ・書類提出先

キャンパス・アジア事務局

学務部留学生交流課交換推進第3グループ

（南6号館3階307B メールボックス・667ア）

Tel: 03-5734-2984 (内)7177

Fax: 03-5734-3677

Email: campusasia@jim.titech.ac.jp

★メールでの問合せの際は、件名を

『キャンパス・アジア派遣に関する問合せ』

としてください。



TKT CAMPUS Asia Consortium

<http://www.ipo.titech.ac.jp/campusasia/japanese/>



Ver.11



文部科学省「大学の世界展開力強化事業」
キャンパス・アジア × 協定校サマープログラム



本募集開始



KAIST(韓国) サマースクール

KAIST CAMPUS Asia International Summer School (KISS) 2019

Track 1: 授業型

July 1– 26

Track 2-1: 研究型

July 1– 26

※June28にオリエン有。
参加必須です。

Track 2-2: 研究型

Aug. 12– Sept. 6

多国籍での
授業受講

それとも

海外研究体験?

夏休み
期間中!



応募締切 : 5月17日 (金) 17時

プログラム紹介



応募方法・様式



公募前情報

文部科学省「大学の世界展開力強化事業」キャンパス・アジア



清华大学
派遣学生募集

世界大学ランキング
2019 QS 17位



「授業」
「研究」
「授業+研究」

- ◆双方向型プログラムだから渡航前に清華大生と東工大で情報交換ができる
- ◆経済的サポートが厚く、少ない自己負担で留学が可能

派遣先 : 清華大学 Tsinghua University

期間 : 2019年9月1日～2020年1月31日 (仮日程)

※9月1日開始の希望する期間 (3か月以上~)

○対象 : 「研究のみ」 学士課程4年～修士／博士課程
「授業のみ」 「授業+研究」 学士課程3年～修士／博士課程

○人数 : 日本国籍の本学学生 5名 GPA2.30以上

○語学 : TOEFL-iBT70点/TOEIC625点以上 (中国語学習歴は不問)

○授業料 : 免除 ○宿舎 : 無料 ○往復航空券 : 本学より支給

○給付型奨学金 : 中国政府より支給 月額3,000元 = 49,893円

注) 海外旅行保険は各自加入のこと (2019.04.03現在)



双方向型



授業料免除



宿舎無償



奨学金支給



航空券支給



応募締切日 : 2019年5月17日 (金) 17:00

面接 : 2019年5月22日 (水) 15:00 (大岡山キャンパス南6号館1階)

興味があればお気軽にお問合せください。

学務部留学生交流課

大岡山南6号館3階307B号室

campusasia@jim.titech.ac.jp



留学体験談 学生ブログ プログラム紹介

1. 事業概要
2. 運営体制、予算
3. 学生の受入

4. 学生の派遣

5. コロナ禍でのオンライン交流プログラム
6. 受入学生・派遣学生の交流
7. 21世紀型スキル教育への取組
8. 幹事校としての取り組み
9. 評価
10. フォトギャラリー

4-1 派遣学生一覧

4-2 募集要項・ポスター

4-3 留学フェア

4-4 留学体験談

4-5 ブログ

4-6 近況報告書

4-7 留学報告会

4-8 超短期派遣プログラムと
派遣学生の感想

2019.5.8 [Wed] 12:15-17:30

東工大 留学 フェア

2019.5.8 [Wed] 12:15-17:30

- 参加費 無料
- 事前登録 不要
- 途中入退場 自由

開催場所 | 東工大蔵前会館 (Tokyo Tech Front)

中継配信 | すずかけ台キャンパスに中継配信

開催日時 | 2019年5月8日 (水) 12:15-17:30

国際教育推進機構 (海外派遣留学)・留学生交流課派遣担当
tel : 03-5734-7645 e-mail : hakenryugaku@jim.titech.ac.jp
url : www.titech.ac.jp/enrolled/abroad/events/list.html#fair



東工大 留学フェア



Programs

- ホールでの全体説明会
- 各国・留学プログラム別個別相談ブース
- 短期留学プログラム説明会

各種海外留学プログラムの説明、留学経験者による相談、外國政府関係団体による情報提供、外国语学修相談ブースなど、さまざまなプログラムを実施。

2019.5.8 [Wed] 12:15-17:30

Study Abroad Fair 2019 Programs

イベントロケーション

海外留学を考えているみなさんのための「東工大留学フェア2019」を開催いたします。
「海外留学してみたい!どんなプログラムがあるの?」「留学って実際のところどうなんだろう?」など、
ぜひ参加して、留学に対する疑問をこの機会に解消し、自身の留学のイメージをふくらませてください。
みなさんの参加をお待ちしています。

01 全体説明会

東工大の留学プログラムをダイジェストで紹介。
留学経験者の体験談を聞いてみよう。



02 短期プログラム説明会

超短期(1週間)~2、3ヶ月のプログラムも充実しています。



03 相談ブース

国別、プログラム別相談ブースで相談してみよう。



04 すずかけ台キャンパスへ中継配信

各種説明会はすずかけ台キャンパスへ中継配信します。
すずかけ台キャンパスの会場は決まり次第(4月上旬決定予定)HPでお知らせします。
すずかけ台キャンパスから各ブースへSkypeで相談できます。



開催場所: 東工大蔵前会館 (Tokyo Tech Front) 中継配信: すずかけ台キャンパスに中継配信
開催日時: 2019年5月8日 (水) 12:15-17:30 主催: 国際教育推進機構 (海外派遣留学)・留学生交流課派遣担当
tel : 03-5734-7645 e-mail : hakenryugaku@jim.titech.ac.jp url : www.titech.ac.jp/enrolled/abroad/events/list.html#fair



01 Tokyo Tech-AYSEAS
ハノイ工科大学
ベトナム

02 キャンパス・アジア
プログラム
韓国科学技術院
韓国

不安で悩んでいるよりも、
早く決断して不安要素を取り除く
努力に時間を割く方が賢明だと実感。

理学院 物理学系 野村 基平さん
派遣時学年 AYSEAS: 学士課程2年 8~9月
キャンパス・アジア: 学士課程3年 8~9月

Gyohei Nomura

初めての留学は濃密で充実感に満ちたものに

初めての留学は、学士課程2年生の夏に参加したTokyo Tech-AYSEASというプログラムでした。アジア諸国からの学生が毎年ひとつつの国に集まり10日間行動を共にするというものです。その年は東工大生13名でベトナムのハノイへ行きました。日中は現地企業や政府機関、工場を見学し、夕方からは一人ひとりグループで最終日のプレゼンに向け、選択した社会問題の解決策についてディスカッションをして考えていきました。トトナムが抱える課題を知ることができたうえに各国の学生たちと友達になれ、今でも頻繁に連絡を取っています。この経験が非常に濃密で充実感に満ち、10日間があっという間に過ぎたので、もう少し長い期間で、個人の留学ができるプログラムに参加したいと思いました。社会問題をテーマにしたプログラムは国内外でいくつか参加してきました。次は専門分野を学べるプログラムがいいなと調べるうちに出会ったのがキャンパス・アジアでした。一ヵ月間、韓国科学技術院(KAIST)の研究室に所属して研究活動を行える点、金銭面のサポートが他のものと比べて非常に充実していた点から参加を決めました。

事前準備で研究もスムーズに

今までに触れたことがない分野の研究室を選択し

たたみ渡航前は不安でしたが、いざ行ってみると研究室の学生はみんなやさしく、いつでも夜遅くまで私の質問に付き合ってくれ、次第に不安も薄れていきました。渡航前に因習で本を借りたりネットで関連論文を探して読んだりと、その分野での基礎的な内容や英単語は勉強していました。日中は現地企業や政府機関、工場を見学し、夕方からは一人ひとりグループで最終日のプレゼンに向け、選択した社会問題の解決策についてディスカッションをして考えていきました。セミナーでは聞いたこともないような物理現象についての話であったため、ついつい必死でしたが、何とか大きな流れはつかめるように意識していました。ミーティングでは、研究室メンバーが行っている研究内容の話がとても面白く、個別質問にも丁寧に答えてもらっていたり刺激をもらいました。また、最終週には自分が一ヵ月間行った研究について発表する機会をもらいました。メンバーから様々な質問が飛びましたがそれへの受け答えなどを含めて非常にいき楽勝ができました。

文化に触れるしきみも充実

研究以外にもField Tripというものが含まれていた、同じプログラムでKAISTに来ていた清華大学の学生3人と私とコーディネーターさんとで大田市から車で1時間ほど別の駅へ行きました。いくつかの博物館へ行き歴史的な作品を見たり、韓国の伝統的な衣装を身に着けたり、伝統的な提灯を作ったりと韓国ならではの経験ができ、とても楽しい思い出となりました。同じプログラムに参加している学生でも、普段は別々の研究室にいたためなかなか会う機会がなかったのですが、この機会を通じて親密になることができました。清華大学の学生から中国についての話を聞くことができ、非常に充実した留学になりました。

Advice 得るものの方が多い
きっと後悔はないはず

今回の留学を通して、不安になってしまったようか悩んでいるよりも、早く決断をしてその不安要素を取り除く努力をする方が賢明や芳であると改めて実感しました。何から始めるときは不安で躊躇しがちですが、そこは思い切って一歩踏み出してみてください!

1日のスケジュール (韓国科学技術院)

6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24
起床	シャトルバス KAISTのキャンパスに到着	研究室へ	研究室のメンバーと食事	研究	研究室のメンバーと食事	研究	研究室のメンバーと食事											

これが通すと30分歩かないわけない(笑)

やばい韓国料理はおいしいです

遠くに日本は韓国の方へ

遠くに日本は韓国の方へ

最終は研究室へ

研究室終了 シャトルバスに到着

ルームメイトと会話

一日の中の会話がこの時間のみなので

Field Tripでの韓国の伝統的提灯作り

大学周りは自然がいっぱいです

大学の体育館でボルダリング!

1. 事業概要
2. 運営体制、予算
3. 学生の受入

4. 学生の派遣

5. コロナ禍でのオンライン交流プログラム
6. 受入学生・派遣学生の交流
7. 21世紀型スキル教育への取組
8. 幹事校としての取り組み
9. 評価
10. フォトギャラリー

4-1 派遣学生一覧

4-2 募集要項・ポスター

4-3 留学フェア

4-4 留学体験談

4-5 ブログ

4-6 近況報告書

4-7 留学報告会

4-8 超短期派遣プログラムと
派遣学生の感想

終了報告書

(報告年月日)

2018年8月20日

留学プログラム名	Campus Asia
所属(本学)	物質理工学院 応用化学系
現在の学年	修士2年
留学先国	大韓民国
留学先大学	Korea Advanced Institute of Science and Technology
留学期間	2018年4月1日～2018年7月31日

報告書の内容

下記の①から⑪の内容が含まれるようにしてください。
(※公開してよい写真があれば、是非報告書に貼り付けてください)

① 留学先大学の概略

KAIST (Korea Advanced Institute of Science and Technology)は、1971年に設立された韓国の国立特殊大学で、科学技術省が一流研究者の育成などを目的として設立した国立大学である。メインキャンパスは、大田広域市儒城区にあり、他にソウルにも存在する。イギリスの国際高等教育情報機関クアクアレリ・シモンズ(Quacquarelli Symonds)によるアジア大学評価ランキングでは、2014年調査で2位。

② 留学前の準備

在学期間の延長を想定して、留学を申し込みました。そのため、就職活動・卒業が1年間先延ばしになります。学部時代に、大学のプログラムを利用して短期留学に参加していましたが、次は長期で留学したいと考えていました。留学による1年の延長は人生にとってプラスであると考えています。

③ 留学中の勉学・研究

○研究室

化学専攻の bio-inspired materials 研究室に所属した。基本的に博士課程までのコースを取るひとが多く、研究室のメンバーは全員私よりは学年が上の方々で、ポストドクターの方もいた。与えられたテーマは研究室の中で全く新しいもので、博士課程の2人の女性学生に実験の指導をしていただいた。生体適合性を持つ新しい材料の開発を目的としていたため、基礎的な実験や様々な測定を行った。今まで触れてきていない生体をベースとした研究内容や、これまでと異なる実験方針で戸惑うことも多かったが、先輩にディスカッションを持ちかけたり話すことを大切にした。教授や先輩とのディスカッションの他にも、だいたい月一で行われる研究室のゼミで研究報告を行い、他の先輩方からもアドバイスをいたいたりする機会があった。KAISTの教授の多くは会社を持っていて、そのため私が所属した研究室の教授もとても忙しく直接話す機会は数回しかなかったが、学会への同行やチェジュ島でのミーティングに参加するなど、様々なサポートをしていただきたくさんの経験をすることができた。



○授業

Researchのみのプログラムだったため、KAIST内のLanguage Centerで韓国語の授業を取得した。会話がメインの3時間の授業であったため、かなり身につくと思う。初めはハングル自体もろくに読めなかつたが、最後は買い物や寮母さんとの会話も自分だけですべて日常での簡単な内容は伝えることができるようになった。また、長期の学生向けに、KI(KAIST International) houseで週1回1:1の授業も受けていた。



留学中に行った勉学・研究以外の活動

○旅行

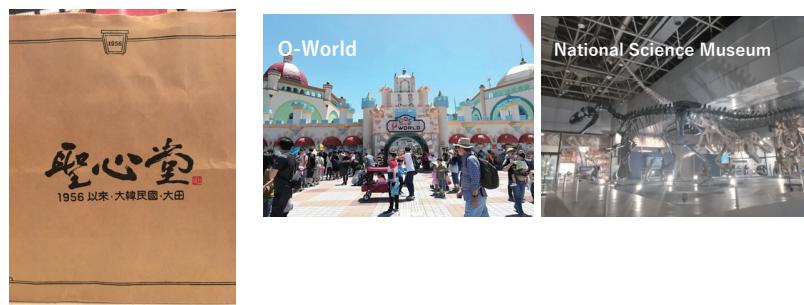
・ソウル



・釜山



・大田



・慶州

青雲橋・白雲橋



ISSS イベント

・Temple stay

KAIST の ISSS (International scholar and student services) 主催の留学生向けのイベントに参加した。KAIST からバスで 40 分の Musangsa で 1 泊し、お寺の修行体験を行った。留学生たちと共に朝 3 時半に起床して、瞑想や詠唱を体験した。



Summer culture class

韓国の国技である Taekwondo を経験してみたいと思い、7 月に Summer culture program の Taekwondo クラスに参加した。週 2 回夜の 9 時半～11 時まで KAIST の Taekwondo 部の方々がコーチとして基礎の構えやキックの仕方を教わった。



日本語会

私が滞在していた期間で日本人学生は私のみで、これまで KAIST に日本人学生は稀だそう。しかし、韓国人の学生だけでなく留学生でも日本に興味があり日本語を勉強していたり日本のアニメなどの文化が好きな人が多かった。そのため、グループを作り、みんなでご飯を食べに行ったり、ソジュを飲んだり言語交換の場を共有した。

⑤ 留学を終えて、自分自身の成長を実感したエピソード

留学中は KAIST 内の寮の 2 人部屋に滞在していたが、4 ヶ月間に中国人とカザフスタン人の 2 人の学生と生活をともにした。文化や習慣が異なる人と、文化や習慣が異なる場所で生活することは、想像していた以上に大変で面白いものであった。私も 2 人も韓国は初めてで、まして長期の海外生活も初めてであったので、何かあればお互いに助け合い、話し合ってお互いの生活をすり合わせていった。朝晩や休日でも一緒にいることが多かったので、それぞれの国の話や、個人的な話まで女子会のように深い話で盛り上がった。密度を濃い時間を過ごしたおかげで、これからも永く続く大切な友達になった。

⑥ 留学費用

Campus Asia より渡航費と奨学金が毎月 8.8 万円の支給があり、寮費をそこから引いても十分な支給額(だいたい 7.5 万?)であった。保険料が 4 ヶ月分で約 4 万は自費。

⑦ 留学先での住居

KAIST 内の寮に滞在。学期の途中から渡航したため、大学外の寮の可能性もあったが、運良く大学内の寮を用意していただけた。初めは 2 人部屋を 1 人で使用していたが、途中一ヶ月中国人学生と後半の一ヶ月半はカザフスタンの学生がルームメイトであった。部屋にはトイレとシャワールームがある。



⑧ 留学先での語学状況

研究室でも生活でも基本的に英語によるコミュニケーションであった。理系の専門用語には少し苦労した。韓国的学生は、日本語を話せるまたは知っている人が多く、日本語も時々使用した。移動手段としてタクシーをよく使用するがタクシーのおじさんやお店の人、寮母さんは韓国語のみのため、片言の韓国語も覚えて会話した。

⑨ **単位認定、在学期間**

認定はせず、在学期間延長の予定

⑩ **就職活動**

就職活動を一年先に伸ばしたため、留学中は先輩より紹介していただいたインターンシップを申し込んだ。書類等はインターネットにより提出し、面接は skype により行うことができた。

⑪ **留学先で困ったこと(もしあれば)**

⑫ **留学を希望する後輩へアドバイス**

留学に行きたいと思って、行動することができればそれだけの価値があるのではないかと思っています！ただ、私の場合は、短い期間で決断し渡航したので、就活や修論も含めて準備して計画できたらもっとよかったですなと思いました。

終了報告書(3ヶ月以上用)

報告年月日 2019 年 1 月 17 日

留学プログラム名	TKT CAMPUS ASIA		
所属学院等 (学院/類/学部/研究科)	環境・社会理工学院 融合理工学系		
所属系・コース等 (系・コース/学科/専攻)	地球環境共創コース		
卒業予定	2019 年 9 月	帰国時の学年	学士/修士/博士 2 年
留学先国	中華人民共和国		
留学先大学等	清華大学		
留学期間	2018 年 9 月 8 日 ~ 2019 年 1 月 15 日		
留学中に受給した奨学金	受給の有無: <input checked="" type="checkbox"/> 無	種別: <input checked="" type="checkbox"/> 給付/ <input type="checkbox"/> 貸与	月額/一括 3000 人民元
	奨学金名称: 中国政府奨学金		

報告事項

① 留学先大学(機関)の概略
② 留学前の準備

・学士課程で留学した場合:

研究室配属、学士論文研究、学士特定課題研究、就職活動または大学院入試と留学との兼ね合いを含め、卒業までの計画をどう立てたか。

・大学院課程で留学した場合:

就職活動、修士・博士論文などとの兼ね合いを含め、修了までの計画をどう立てたか。

・その他

留学情報の入手方法、専門分野・語学の準備方法、留学先の研究室に所属した場合は、留学先大学の指導教員との準備、ビザ取得方法、住居の探し方など。

③ 留学中の勉学・研究

授業登録の有無、授業や研究方法についての感想。

④ 留学中に行った勉学・研究以外の活動

ボランティア、インターンシップ、旅行、スポーツなど、幅広く体験を記入してください。

⑤ 留学を終えて、自分自身の成長を実感したエピソード

他国の人々との交流、海外における勉学・研究等の学校生活や日常生活を経験して、自身の成長を実感したことと思います。留学前に立てていた目標に対する達成度や苦労話など、自身の成長を実感した中で一番記憶に残っているエピソードを記入して下さい。

⑥ 留学費用

渡航費、生活費、住居費、保険料、奨学金の有無など。

⑦ 留学先での住居

寮の有無、申し込み方法、ルームメイト、その他。

⑧ 留学先での語学状況

例えば、授業、研究には〇〇語が必須だが、生活は〇〇語を利用。留学前の TOEFL 等語学試験は、〇〇だったが、十分であった(最初の2, 3ヶ月は苦労した)など。

⑨ 単位認定(互換)、在学期間

留学中に取得した単位の認定(互換)を東工大で行ったか(行う予定か)。在学期間の延長を行ったか。

⑩ 就職活動

留学先で行ったこと、また帰国後どのように活動する(予定)など。

⑪ 留学先で困ったこと(もしあれば)

⑫ 留学を希望する後輩へアドバイス

報告内容

① 今回留学したのは清華大学です。世界大学ランキングで毎回上位にランクインしているので、ほとんどの方は聞いたことがあると思います。一応総合大学という事になっていますが、理系重視とも言われています。中国では理系の清華、文系の北京大学と言われています。面白いことに、北京大学と清華大学は道を挟んですぐ隣に位置しており、お互いの学生がお互いの授業を聞きに行くこともあるそうです。大学は五道口という、東京で言う高田馬場のように大学が集まっている場所に位置しています。主に飲み屋やショッピングモール、美容院、病院などありとあらゆる物が揃っています。大学の面積は東京ドーム 87 個分もあり、大学内をバスが走っています。また、学生は基本的に一人一台自転車を持っていて、授業の時間になると自転車が滝のようにならぶっています。道を渡るのも一苦労です。

前述した通り、大学が非常に広く大学外に出るのも一苦労です。そのため、大学内にはスーパー・マーケットや床屋、音楽ホールまで存在します。大学外に行くのは友達と飲みに行く時くらいでした。

寮について。学生の数が非常に多く、中国人学生は主に4人部屋で生活をしているようです。ただ大学院生になると、3人部屋になったり、部屋が広くなったりと多少住みやすくなるみたいです。

② 留学の準備について。

元々帰国してから就職活動を始めようと思っていたため、特に留学により就職活動へ影響が出るといったことはありませんでした。留学先では研究室に所属しました。自分の研究テーマと関わりのありそうな研究室の教授にメールをしました。二人に送り、一人から返信があり最終的にその教授から受け入れ許可を頂き所属が決定しました。中々、交換留学で受け入れ先を探すのは大変かもしれません、根気強く探すのが良いと思います。元々東工大での研究テーマが中国であったため、現地の研究室でも同じテーマで研究していました。

③ 留学中の勉強、研究について

元々、研究室には所属せず授業のみの留学を予定していましたが、出発直前に受け入れ研究室が決まったため、研究中心の留学に変更しました。ただ、最初の内は、中国語の授業なども聴講という形で参加させて頂きました。全て中国語で行われるため、もし中国語の授業を受ける予定ならば、事前に中国語の学習を進めていくことを強くお勧めします。

研究室の活動としては、毎週木曜日にゼミがあり全員発表することが義務付けられています。中々東工大で毎週進捗をメンバーの前で発表するということは無いかもしれません。最初の方は毎週研究とゼミの資料作りに追われかなり忙しく感じました。ただ、段々と慣れてきたので最後の方は特に問題を感じませんでした。私が所属するまでは中国語でゼミを行っていたようですが、教授の方針として全員が英語で発表を行うようになりました。ただ、せっかく中国に留学したので最終週には中国語で発表させていただきました。

④ 特に清華大学のサークルなどには参加しませんでした。また今回はキャンパスアジアのプログラムで留学させていただきましたが、東工大のようにキャンパスアジア生向けの交流会などは一切ありませんでした。ただ、偶然 KAIST から留学していた韓国人のキャンパスアジア生と知り合えたので自分から探せば交流が出来ると思います。

また旅行にも行きました。嬉しいことに日本から友達が訪中してくれて上海、そして北京観光などしました。また一人で土日を使い、成都、重慶にも旅行しました。

⑤ まず、清華大学の学生は非常に勤勉だと感じました。土日も研究室に来ており時間が空けば研究しているような感覚です。また、修士の修了要件として、論文をジャーナルに投稿しなければならず、修士論文とジャーナル用の論文を同時平行して行うなど非常に忙しそうに感じました。

た。私も東工大生として留学している以上、しっかりと研究活動に打ち込みました。日本にいる時以上に研究したように感じられ、研究内容についても満足のいく結果が得られたように感じます。

中国人の日本への感じ方について。12月13日は南京大虐殺が起った日と言われています。実際その日、黙祷の意を込めて中国全土でサイレンが鳴るようです。やはり中国人にとって忘れてはならない日であるよう皆黙祷していました。ただ、友達から、君は南京大虐殺についてどのように思うのか、日中戦争についてはどうなのか、日本はこれからどのようになるのかなどと歴史問題について色々質問を受けました。ある程度私は中国の歴史について興味があったので色々と話し合いましたが、あまり詳しくない人は事前に調べておいたほうが良いと思います。彼らとの話を通じて、より中国の歴史や中国人の考え方など色々と知識を深められたかなと感じています。

また中国では現地の人はあまり英語を話しません。そのため、一歩大学の外に出ると中国語オンリーの生活になるため、全く中国語がわからないと非常に困ると思います。私は留学前から東工大で中国語の授業を取っていたためある程度の会話は特に問題になりませんでしたが、専門的な話になると話がついていけなくなっていました。ただ、4ヶ月中国に生活して最終的には中国語で自分の研究を発表できるようになるなど、中国語も相当上達したと感じました。

⑥ 留学費用について。往復航空券はキャンパスアジアから支給されました。寮費に関しては免除という扱いです。また生活費として、中国政府から毎月3000元振り込まれました。大学内でご飯を食べる分には、一食100円程度で済むためむしろ余るくらいでした。また、地下鉄なども一回乗って100円もしないので非常に安く出かけることが出来ました。通信費として、学生限定のSIMカードを買うと毎月1000円程度でデータ通信使い放題になります。保険は、東工大指定の保険に入りました。およそ6万円程度でした。去年から清華大学に留学する際は、中国政府が指定した医療機関での健康診断書提出が義務付けられ、その費用として3万円程度負担しました。ちなみに私は代々木の日中友好病院で受診しました。

⑦ 寮は大学内にあり、徒歩1分でスーパーマーケット、食堂があり非常に便利でした。部屋は二つ、リビングが一つ、そして共有のトイレ、シャワーがあります。一応個室とはなっていますが、壁が非常に薄いため、隣人の声などさく感じた時もありました。外国人と中国人のルームシェアと決まっているらしく、私のルームメイトは東北出身の博士課程の中国人でした。

⑧前述した通り、ゼミでは英語を用いて発表をしていました。特に問題は感じませんでした。私の研究の特徴として、中国語の論文を読まなければならず、辞書片手に必死に読んでいました。そのためにも、中国語の学習は必須だと感じました。

⑨留学中履修登録をしていなかったので単位交換はありません。また在学期間の延長もありません。

⑩他の学生たちと同じように3月から就職活動を始める予定です。

⑪一度、大学の外で羊肉串を食べた時、恐らく生焼けだったらしく帰り道から腹痛、吐き気が始まり、寮に帰った時には、下痢嘔吐でトイレから出られない状態が続きました。その次の日も症状は続き、ベッドから立ち上がれない状態でした。そしてその次の日病院に行き薬の処方、そして点滴を打ってもらい、段々と症状は回復してきました。飲食店での衛生状況は場所によっては非常に劣悪でしっかり焼けているかどうか確認してから食べたほうが良いと思います。

⑫キャンパスアジアのプログラムで派遣していただきましたが、未だに韓国に留学する人が多く感じます。恐らく語学の問題による事だと思いますが、清華大学でも英語の授業が開講されているため、英語だけでも留学することは可能です。日中友好のためにももっとたくさんの学生に中国留学してもらいたいと思います。

1. 事業概要
2. 運営体制、予算
3. 学生の受入

4. 学生の派遣

5. コロナ禍でのオンライン交流プログラム
6. 受入学生・派遣学生の交流
7. 21世紀型スキル教育への取組
8. 幹事校としての取り組み
9. 評価
10. フォトギャラリー

4-1 派遣学生一覧

4-2 募集要項・ポスター

4-3 留学フェア

4-4 留学体験談

4-5 ブログ

4-6 近況報告書

4-7 留学報告会

4-8 超短期派遣プログラムと
派遣学生の感想



TKT CAMPUS Asia

日中韓先進科学技術大学教育環高度化プログラム

TOP | TKT CAMPUS Asiaとは | NEWS | BLOG | 東工大からの留学 | 東工大への留学 | JAPANESE | ENGLISH

キャンパス・アジア採択校ウェブサイトへ □

【KAIST】KAISTでのはじめの二週間

BLOG

2019.08.27

現在KAISTのサマープログラム（研究型）に参加しております野村亮平です。

私は現在物理学科のスピントロニクスを主に扱っている研究室に配属させていただいている。研究室のメンバーはPhD & Master integrated courseの大学院生がほとんどです。彼らはみんな優しく、私が質問をしてもわかるまで教えてくださり助けています。充実したライフを過ごせています。

平日は10時ころから夜まで研究室で過ごしています。研究とは別に、韓国語の授業を週に2日間、夜に二時間受けています。毎度新しい単語がたくさん出てきて覚えるのは苦労しますが、新しい単語を日常で使うように心がけて忘れないようにしております。昼ごはんや夜ご飯は基本的に研究室のメンバーで近くの食堂で食べています。たまに寮でできた新しい友達などと待ち合わせして食べることもあります。

週末は韓国国内の他の都市でかけたり、Campus Asiaのプログラムの一つのField Tripでプログラムのメンバーと共に歴史的な建物や博物館に行ったりしました。

あっという間に残すところ二週間となりましたが、KAISTでの生活を楽しみながら研究を進めたいと考えています。



東京工業大学 CAMPUS Asia 事務局(学務部留学生交流課)

〒152-8550 東京都目黒区大岡山 2-12-1 アクセス TEL:03-5734-2984 FAX:03-5734-3677 E-mail: campusasia@jim.titech.ac.jp



TKT CAMPUS Asia

日中韓先進科学技術大学教育環高度化プログラム

TOP | TKT CAMPUS Asiaとは | NEWS | BLOG | 東工大からの留学 | 東工大への留学 | JAPANESE | ENGLISH

キャンパス・アジア採択校ウェブサイトへ □

【清華大学】11月の1ヶ月について振り返ります。

BLOG

2019.11.30

環境社会理工学院土木環境工学系土木工学コースの大久保雄真です。

11月の1ヶ月について振り返ります。

11月には日本の冬並みの寒さまで冷え込みました。実際夜には-5°Cになっており手が悴んで自転車に乗れないほどでした。しかし外はそんな寒さですが、屋内は集中暖房システムがあり半袖半ズボンで過ごせるほど暖かいです。研究室や部活の人から「今月は去年より寒い冬になるよ。去年は雪が降らなかったけど今年は降りそう。」という話を聞きました。

実際に11月の最後には北京で雪が降り清華大学でも積もりました。翌日が暖かかったため昼過ぎには溶けてしまましたが、とても美しい学内でした。残り1ヶ月半の生活ですが寒さに負けずしっかり頑張ります。



東京工業大学 CAMPUS Asia 事務局(学務部留学生交流課)

〒152-8550 東京都目黒区大岡山 2-12-1 アクセス TEL:03-5734-2984 FAX:03-5734-3677 E-mail: campusasia@jim.titech.ac.jp

1. 事業概要
2. 運営体制、予算
3. 学生の受入

4. 学生の派遣

5. コロナ禍でのオンライン交流プログラム
6. 受入学生・派遣学生の交流
7. 21世紀型スキル教育への取組
8. 幹事校としての取り組み
9. 評価
10. フォトギャラリー

4-1 派遣学生一覧

4-2 募集要項・ポスター

4-3 留学フェア

4-4 留学体験談

4-5 ブログ

4-6 近況報告書

4-7 留学報告会

4-8 超短期派遣プログラムと
派遣学生の感想

近況報告書

- 1) 朝晩は凍える寒さです。
- 2) 森田 裕平
- 3) 修士二年
- 4) 環境・社会理工学院融合理工学系地球環境共創コース花岡研究室
- 5) 清華大学
- 6) 2018年9月8日～2019年1月21日
- 7) 研究室に所属したので、研究室の様子

清華大学での生活も一ヶ月半が過ぎ、落ち着いてきました。10月に入り、朝晩は非常に寒くなっていました。あっという間の秋だった気がします。ただその分、大学内での紅葉は非常に綺麗なもので外部の観光客たちも写真を撮っているのを良く見かけます。

大気汚染についてなのですが、ここ最近毎週のように大気汚染が酷い日があり、北京中靄がかかるって、高層ビルの上層部は靄で見づらくなってしまうほどです。ただ、そのような日であっても、雨が降り、風が吹くことによって一応改善はされます。そのような日は外にいるだけで、目が痛くなったり頭痛が激しくなったりします。元々頭痛持ちなので、薬は持つてきているのですが、冬になるにつれ大気汚染がより酷くなると聞いていますので、そういう日はなるべく家から出ないなど対策をしていきたいと思います。

先月は、東工大の益学長一行が清華大学にお越しになり、今清華大学に留学している日本人学生と、これから東工大に留学する中国人学生とも交流会も開かれました。その後は、北京工業会との懇親会もあり、日本ではなかなか経験できないことで非常に嬉しく思いました。

意外に時が過ぎるのが早いもので残り三ヶ月を切りました。残りの時間無駄にせず、中国生活を楽しみたいと思います。

近況報告書

- 1) 残り一週間です。
- 2) 森田 裕平
- 3) 修士二年
- 4) 環境・社会理工学院融合理工学系地球環境共創コース花岡研究室
- 5) 清華大学
- 6) 2018年9月8日～2019年1月15日
- 7) 海外で初めて年を越しました。

人生で初めて海外で年を越すということを経験しました。また、中国では新年は基本的に旧正月の方を指すため、1月1日の正月は特に祝うということをしていませんでした。学内では基本的に留学生が祝っているといった感覚でした。ただ、一応12月30日、31日、1月1日は休みということになっていましたが、1月2日からは試験期間ということで元日も図書館は学生で一杯だったようです。

今週になり、学生のテストも段々と終わり始め、留学生たちが続々と帰国していきます。数ヶ月だけの付き合いでしたが、やはり別れというのは悲しいものだと痛感させられました。

また12月の週末を使って、成都と重慶に行ってきました。事前に言われたとおり、写真撮影は一切行っておりませんので、ご安心ください。

今週で研究室生活も終わりになりますが、木曜日の最終発表、最後まで満足のいくように準備したいと思います。

1. 事業概要
2. 運営体制、予算
3. 学生の受入

4. 学生の派遣

5. コロナ禍でのオンライン交流プログラム
6. 受入学生・派遣学生の交流
7. 21世紀型スキル教育への取組
8. 幹事校としての取り組み
9. 評価
10. フォトギャラリー

4-1 派遣学生一覧

4-2 募集要項・ポスター

4-3 留学フェア

4-4 留学体験談

4-5 ブログ

4-6 近況報告書

4-7 留学報告会

4-8 超短期派遣プログラムと
派遣学生の感想

TKT CAMPUS Asia

日中韓
先進科学技術大学教育環
高度化プログラム

JAPAN 東京工業大学
TOKYO Tech

日中韓先進科学技術大学教育環
高度化プログラム

TKT CAMPUS Asia
世界トップレベルの
理工系
3大学が連携

KOREA KAIST
韓国科学技術院 (KAIST)

CHINA Tsinghua
清华大学

■お問い合わせは
TKT CAMPUS Asia 事務局
〒152-8551 東京都目黒区大字山ノ2-2-1
東京工業大学大岡山キャンパス内
学務部留学生交換課 事務担当グループ
電話: 03-5734-2884 事務: 717 メールボックス: SB-7
メール: campusasia@im.titech.ac.jp
URL: <http://www.ipm.titech.ac.jp/campusasia/japanese/>

派遣留学から帰国した学生の体験談を
聞いてみませんか?
CAMPUS Asiaは、費用面でのサポート
が手厚いプログラムです。

CAMPUS Asia 留学報告会

2019年10月1日(火) 12:30-13:10@HUB-ICS
(大岡山キャンパス西9号館1階)

12:30-12:35 プログラム紹介
12:35-13:10 派遣学生による留学報告
KAIST学生によるKAIST紹介
Q&A

- 1) 野村さん : KAISTサマースクール研究留学
(理学院 物理学系)
- 2) Jungさん (KAIST生) : KAIST紹介
(工学院 機械系 / Department of Mechanical Engineering)
- 3) 三山さん (清华大学サマースクール留学)
(環境・社会理工学院 土木環境工学系)
- 4) 藤井さん (清华大学研究留学)
(物質理工学院 応用化学系)

『TKT CAMPUS Asia』で検索→『東工大からの留学』

CAMPUS Asia 留学報告会

派遣留学から帰国した学生の
体験談を聞いてみませんか?
CAMPUS Asiaは、
費用面でのサポートが手厚い
プログラムです。

2019年10月1日 (火)
12:30-13:10
@HUB-ICS
(大岡山キャンパス西9号館1階)

事前申し込み不要。
昼食を食べながら参加できます。
お気軽にどうぞ！

お問い合わせは 留学生交流課 CAMPUS Asia事務局 (南6号館307B号室)

『TKT CAMPUS Asia』で検索→『東工大からの留学』

CAMPUS Asia

派遣先 Tsinghua University (中国)
清華大学

期間 2020年2月17日開始の
3か月以上、
最長2020年6月22日まで

対象 学士課程3年～修士課程／博士課程
(日本国籍の本学学生)

資格 GPA2.30以上、
TOEFL-iBT70点／TOEIC625点以上

募集人数 4名 授業料 免除

奨学金 あり (約4.7万円／月)

航空券 往復航空券と海外旅行保険を支給

宿舎 無料提供

応募〆切 10/23 (水) 正午

CAMPUS Asia

派遣先 KAIST
Korea Advanced Institute of Science and Technology
韓国科学技術院 (韓国)

期間 2020年2月開始または3月開始の
いずれも1か月以上

対象 学士課程3年～修士課程／博士課程
(日本または中国国籍の本学学生)

資格 GPA2.00以上、
TOEFL-iBT70点／TOEIC625点以上

募集人数 4名 授業料 免除

奨学金 あり (約7万円／月)

航空券 往復航空券と海外旅行保険を支給

宿舎 安価で提供

応募〆切 2月開始は10/17 (木) 17:00
3月開始は11/18 (月) 17:00

Mail - CAMPUS Asia Office

1. 事業概要
2. 運営体制、予算
3. 学生の受入

4. 学生の派遣

5. コロナ禍でのオンライン交流プログラム
6. 受入学生・派遣学生の交流
7. 21世紀型スキル教育への取組
8. 幹事校としての取り組み
9. 評価
10. フォトギャラリー

4-1 派遣学生一覧

4-2 募集要項・ポスター

4-3 留学フェア

4-4 留学体験談

4-5 ブログ

4-6 近況報告書

4-7 留学報告会

4-8 超短期派遣プログラムと
派遣学生の感想



CAMPUS Asia Program 超短期派遣：韓国

最終募集
12/14(金)
〆切

CAMPUS Asia Programの連携大学であるKAIST（韓国科学技術院）を中心に
ソウル大学、浦項工科大学（POSTECH）、梨花女子大学を訪問します。

将来、韓国の大学に留学してみたいという方におすすめです！



■日程：2019年3月12日（火）～3月19日（火）7泊8日 ※日程が3月8日～3月15日から変更になりました

■訪問先：KAIST／ソウル大学／浦項工科大学（POSTECH）／梨花女子大学

■対象学年：学士課程学生／修士課程学生

■募集人数：1名

■奨学金：JASSO 奨学金（7万円）

■費用：約9万円～12万円（航空券4万～7万、宿泊費約4万、現地高速鉄道代約1万）

■単位付与：グローバル理工人研修入門1（1単位）またはグローバル理工人研修1（1単位）

■応募締切：2018年12月14日（金）17時

書類提出・問い合わせ窓口：留学生交流課 CAMPUS Asia事務局（南6号館307B号室）

メール campusasia@jim.titech.ac.jp メールボックス S6-7

応募資格・応募方法など

応募資格：

- 1) 東工大正規課程学生（学士課程および修士課程）
- 2) 日本国籍を有すること
- 3) 現地で英語授業を聽講する程度の英語力を有していること
- 4) 過去1年間のGPAの平均が2.3以上（JASSO奨学金受給のため）

提出書類：

- 1) 東工大申請書 原本 1部

*アカデミックアドバイザー／指導教員の署名か押印が必要

- 2) 過去1年分の成績証明書の写し（日文） 1部

- 3) 語学能力証明書の写し（TOEICもしくはTOEFL-iBT） 1部

申請書様式：CAMPUS Asia ウェブサイトでダウンロード

<http://www.ipo.titech.ac.jp/campusasia/japanese/dispatch/>



KAIST図書館上からの眺め（派遣学生撮影）

提出方法：原本が必要なものは持ち込みか学内便、写しで良いものはメールでの提出も可

書類提出先：CAMPUS Asia 事務局 大岡山キャンパス南6号館307B室 メールボックス S6-7
メールアドレス campusasia@jim.titech.ac.jp 内線 7177 外線 03-5734-2984



選考方法：応募者から提出された申請書に基づき、書類審査・面接を行い選考します。
選抜は、成績、語学力、志望理由等を元に総合的に判断します。

（注）

1. 学士課程1年生および2年生の参加については、「グローバル理工人研修入門1」の単位が付与される（1単位）。
2. 学士課程3年生及び4年生、また修士課程の学生の参加については、「グローバル理工人研修1」の単位が付与される。
学士課程4年生及び修士課程の参加については、以下の条件を満たす必要がある。
 - ① 当該海外派遣プログラムによる得られる単位の有無にかかわらず、卒業できる見込みがある。
 - ② 卒業あるいは大学院進学認定（学士課程4年生の場合）に必要な手続きに支障を及ぼさない。
3. 事前事後学習を含めたプログラム全体に主体的に参加すること。
4. 安全上の理由によりプログラムが渡航延期、中止される場合があり、その際キャンセル料については原則自己負担となる。



CAMPUS Asia 韓国超短期派遣プログラム報告書

Report of ultra-short-term studying program in Korea

2019.3.12 ~ 2019.3.19

東京工業大学 留学生交流課 CAMPUS Asia

目次

1. キャンパス・アジアプログラムについて	3
2. 派遣プログラム日程	3
3. 韓国全体の概要	5
3-1. 人口, 面積, 宗教, 政治体制, 産業などの基礎情報, 地理	
3-2. 歴史	
3-3. 人物	
4. 浦項工科大学校(POSTECH)について	6
4-1. 大学概要	
4-2. POSTECH周辺	
4-3. 宿泊施設	
4-4. キャンパスツアーと講義受講	
4-5. 研究室訪問	
5. 韓国科学技術院 (KAIST)について	11
5-1. 大学概要	
5-2. キャンパス概要	
5-3. 研究室訪問	
5-4. 学生交流	
5-5. その他	
6. ソウル大学(SNU)について	15
6-1. キャンパスの概要	
6-2. 起源	
6-3. 開校期	
6-4. 研究室訪問	
7. 梨花女子大学(Ewha Womans University)について	17
7-1. キャンパスの概要	
7-2. 研究室訪問	
7-3. その他	
8. その他 Others	18
8-1. 食事 Korean food	
8-2. 町の様子 look of town, Korean life	
8-3. 韓国での観光について	
8-4. その他 Others	
9. 個人所感(派遣プログラムで得たこと, 感じたこと, 将来に向けての展望)	20

1. キャンパス・アジアプログラムについて

キャンパス・アジアプログラムは、平成23年度より文部科学省の「大学の世界展開力強化事業」として運営されている留学生交換プログラムです。東工大で推進している TKT CAMPUS Asia Consortium は、東工大 (Tokyo Institute of Technology), 韓国の KAIST (韓国科学技術院) (The Korea Advanced Institute of Science and Technology), 中国の清华大学 (Tsinghua University), という世界トップレベルの理工系3大学間で、学生交流を通じ、それぞれの大学の国際化を推進しつつ、国際的な舞台で活躍できる人材の育成を目指しています。また、3大学の協力の下、単位の相互認定や成績管理等の質の保証を図りながら、協働して教育・研究を行っています。(TKT CAMPUS Asia HP より引用)

今回の韓国超短期派遣では、CAMPUS Asia Program の連携大学である KAIST (韓国科学技術院) を中心にソウル大学、梨花女子大学、浦項工科大学 (POSTECH)、漢陽大学校 (Hanyang University) を訪問しました。将来、KAIST をはじめとする韓国の大学に留学してみたいという方におすすめです。また、プログラムによっては、往復航空券・奨学金支給があり、少ない自己負担で、理工系トップ大学である KAIST・清华大学で、研究・授業受講ができるチャンスです。

2. 派遣プログラム日程

日付	主な行動内容	宿泊先
3/12 (火)	羽田空港→GIMPO International Airport →Pohang Station (by A'REX & KTX)	POSCO International Center (POSTECH のゲストハウス)
3/13 (水)	① POSTECH 訪問 Pohang Station →Daejeon Train Station(by KTX)	Daedeok Innopolis Guesthouse (KAIST のゲストハウス)
3/14 (木)	② KAIST 訪問	
3/15 (金)	② KAIST 訪問 Daejeon Train Station→Seoul Station(by KTX)	Seoul 市内のホテル
3/16 (土)	Seoul Town Walk	
3/17 (日)	Seoul Town Walk	
3/18 (月)	③ Hanyang University & ④ Seoul National University 訪問	
3/19 (火)	⑤ Ewha Womans University 訪問 GIMPO International Airport→羽田空港	

3. 韓国全体の概要

3-1. 人口、面積、宗教、政治体制、産業などの基礎情報、地理

韓国の正式名称は大韓民国といい、ハングルでは 대한민국と記載します。人口は約 5000 万人であり、そのうちソウル市に全体の約 20%である 1000 万人が住んでいます。また、面積は 10 万 km² であり、これは日本の約 4 分の 1 です。このことから、日本に比べて人口密度が高いことがわかります。主要な宗教については、仏教が 23%、プロテスタンが 18%、カトリックが 11% で、実際に現地を歩いていると多くの教会を目にすることができます。非常にキリスト教が根付いていることがわかりました。一方で、実際に接する機会があった現地の学生は信仰を持っていない方が多い印象を受けました。

産業は Samsung や Hyundai などによる集積回路や自動車などが成長しており、それらの企業が大学に対して研究資金の投資を積極的に行っていることも成長の一因であると考えられます。また、韓国には徴兵制もあり、軍服を着た若い方々をソウルの街でたくさん目にし、生活の中で徴兵制を感じられる場面が多々ありました。彼らは常に軍服を着用することを強いられているため、高い意識を持って行動しているのではないかと予想されます。

韓国にはチョゴリという名称の伝統的な韓国の服装があります。プログラムの 5、6 日目の Seoul Town Walk に同行していただいた現地の学生の提案によって、実際にチョゴリを体験することができました。図 3-1 はそのときの集合写真であり、男性の韓服でさえ色も柄も様々です。韓国に行った際にはぜひ体験してみてはどうでしょうか。



図 3-1：チョゴリ体験中の集合写真（景福宮にて）

また、気候に関しては、北部のソウルは新潟と同緯度であるため、東京に比べると少し気温は低いですが、あまり大きな違いはなかったと思います。ちなみに3月中旬ですと、最高気温が15°Cくらいはあったと思います。

3-2. 歴史

中世はチンギスハンを長とするモンゴル帝国の侵攻を受けて、6度の襲来によりモンゴル帝国の支配下になりました。その後も、日本を天下統一した豊臣秀吉が征服目的に2度の遠征をしてくるなど他国に脅かされる歴史が繰り返されました。20世紀初めの近代においては、日本軍による併合を伊藤博文が反対していましたが、彼が暗殺されたことにより、大日本帝国の侵略が加速され、韓国併合がなされました。その後、第二次世界大戦の終決とともに日本軍の朝鮮半島からの撤退が実現されました。しかし、これにより北緯38度線の朝鮮分裂が起り、冷戦の縮小版である朝鮮戦争に繋がってしまいます。現在では、南北首脳会談なども行われており、平和に向かって加速中であります。

3-3. 人物

ムンジェインは現大統領であり、南北首脳会談を3度実施しました。今まで南北朝鮮がいがみ合っていた中で、昨年だけで3度もの会談を実現したことは奇跡であると考えられ、米朝首脳会談が実現される中で不可欠な行事であったと思われます。また、先ほど紹介したHyundaiですが、この現代財閥の創始者はチョンジュヨンであり、彼は創業者であるとともに政治活動にも介入しており、五輪の誘致活動も積極的に行うことで国内だけでなく、国際的にも影響力を持った人物であります。

次に紹介するのは申師任堂であり、彼女は韓国の紙幣で最も高い50000ウォンの紙幣に載っている女性です。彼女は16世紀の諸画家であり、韓国最高の女性画家と言われております。また、全ページにキリスト教の割合が多いことを紹介しましたが、キリスト教が広まるのに欠かせない人物としてジョン・ロスが挙げられます。彼は韓国に新約聖書を持ち込んだ人物であり、朝鮮語に初めて聖書を翻訳したと伝えられています。

また、韓国はサッカーが人気であり、その中で世界でも有名な韓国人選手が孫興民です。彼はイングランドのトップリーグのピッククラブで活躍する選手であり、コンスタントに結果を出し続け、今シーズンも大活躍中であります。

4. 浦項工科大学校(POSTECH)について

2019年3月12日の夕方から13日の夕方まで滞在。

4-1. 大学概要

- ・1986年に設立
- ・学部生(undergraduate):1400人 大学院生(graduate):2100人
(東工大 学士課程:4828人 大学院生 修士:3947人 博士課程後期:5384人)
- ・キャンパス敷地面積:1,600,000m²

(東工大 大岡山キャンパス:244,643m² すぐかけ台キャンパス:225,244m²)

- ・学生一人当たりの年間教育支出:75000\$

・主な功績

2010年 World University Rankings (THE) 28位

2012-2014年 World's 100 Best Universities Under 50 Years Old (THE) 1位

2016年 Asia University Ranking (THE) 8位

2017年 World's Best Small University Rankings (THE) 3位



図4-1: POSTECH内にあるメインキャンパスと時計台の様子

4-2. POSTECH周辺

3月12日の昼過ぎに、Seoul駅からKTXという韓国の新幹線を使って、POSTECHの最寄り駅であるPohang(浦項)駅に向かった。KTXから見える道中の景色は、ソウル市付近から離れるごとに山に囲まれた田舎町の景色に変わり、特に印象的だったことは、それぞれの田舎町の中にポツンと高層マンションが建っていたことだ。韓国では、アパートやマンション

などの集合住宅に住むのが一般的で、首都ソウルでは、人口の 6 0 %がアパートに居住しており、一戸建て住みは非常に贅沢であること。目的地の浦項駅付近でも、居住施設がマンション以外に見当たらないという見慣れない風景（図 4-2）があった。



図 4-2：浦項駅から見た風景

浦項市は朝鮮半島の南東部に位置し、事前調査によると、工業都市や海産物の名地として知られている。観光客からも注目されている都市であるが、浦項駅周辺は、風車（写真左奥）などの発電機があったりと地方都市的な印象を受ける一方で、近くにはマンションが多く存在する都市的な印象を受け大きなギャップを感じた。

Pohang(浦項)駅で Prof. J. W. Park さんからの歓迎を受けた後、タクシーで POSTECH の宿泊施設に向かった。POSTECH の周辺にも学生寮としてマンションが多く立ち並んでいた。事前学習によるとキャンパス内に同様の学生寮が 24 個あり、学生は水道代と光熱費以外の負担を免除されている。



図 4-3：POSTECH 周辺の学生寮の様子

4-3. 宿泊施設

初日の宿泊施設は POSCO International Center という 5 階建てガラス張りの大学付属の施設（図 4-4）で、キャンパスから徒歩で行ける距離に位置する。宿泊施設の 1 階には国際会議用のカンファレンスセンター、5 階には来客用のレストランなど、来客用の施設が完備されており、来客者への環境に関して東工大と大きな違いを感じた。



図 4-4：POSCO International Center の外観



図 4-5：部屋の様子

4-4. キャンパスツアーと講義受講

キャンパスツアーでは、ビジターセンターと図書館を訪れた。ビジターセンターには来客者に大学の紹介をするための大きなビデオ室があり、そこで大学に関する簡単な紹介をしていただいた。図書館は、学生用のグループ学習室と文献が豊富な 6 階建てで、中央が吹き抜けとなっている円形の巨大な建物であった。二つの建物のツアー後には、Chemistry 部門の建物内で、Prof. Sungjee Kim さんの Nano-Chemistry に関する講義を英語で受講した。受講していた学生は 15 人程度で、学生数に比べると大きな教室で講義を受けたが、後の昼食時に、通常は小規模の教室で講義を行っているとの話を聞いた。講義中には、学生が自然と質問をしたり、講師が生徒が理解するまで説明を行ったりと、学生と講師の距離が非常に近く、学生が能動的に講義に参加し、質の高い教育を受けられていることを実感した。



図 4-6：講義終了後の Prof.J.W.Park さん（右から 3 番目）と Prof.Sungjee Kim さん（右から 4 番目）との昼食の様子

4-5. 研究室訪問

昼食後には再び Chemistry 部門の建物を訪れ、5 つの研究室を見学した。



図 4-7：Chemistry の研究棟の入り口 (Prof.Sungjee Kim さん (左から 1 番目))

見学した研究室 at CHEMISTRY Building

- ① Chemical Biology Lab (Room407) (Prof. Hyun-Suk Lim),
- ② Inorganic and Organometallic Lab (Room315) (Prof. Eunsung Lee)
- ③ Sensor & Molecular Bioimaging Lab (Room322) (Prof. Young Tae Chang)
- ④ Catalysis & Organic Synthesis Lab (Room232) (Prof. Seung Hwan Cho)
- ⑤ Biomedical & polymer Chemistry Lab (Room316) (Prof. Wong Jong Kim)

上記の 5 つの研究室を見学し、所属する学生が研究室全体の研究の内容を紹介してくださいました。

④の Catalysis & Organic Synthesis Laboratory を案内してくださった Ph.D 課程 4 年目の Woohyun Jo さんは過去に日本の東京大学に留学していたことがあり、冒頭の挨拶を日本語で挨拶していた。説明の中では、研究室の他のメンバーの研究についても触れており、内容を詳細ではないものの把握し、説明している姿が印象的であった。

また⑤の Biomedical & polymer Chemistry Laboratory の Prof. Wong Jong Kim さんは 2001 年と 2004 年に東京工業大学で M.S. と Ph.D 課程を修了した経歴を持つ非常に身近な人物であり、実験設備の撮影依頼にも日本語で快く承諾してくださった。図 4-8 は⑤の Biomedical & polymer Chemistry Laboratory の見学の際の写真である。M.S. 課程中の TaeJeong Kim さんが紹介してくださった。

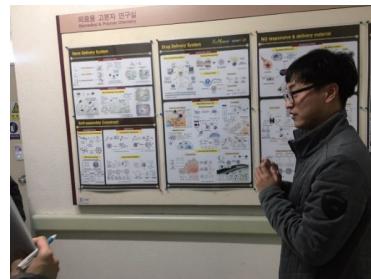


図 4-8：Biomedical & polymer Chemistry Lab での見学の様子 (TaeJeong Kim さんがガイド)

見学した研究室は自分と異なる専攻であり、理解できない説明や装置もあったが、東工大派遣チームのメンバーによると、東工大には 1 台程度しかない非常に高価な実験設備が複数台設置されており、学生は非常に潤沢な環境で研究を行っていることが様々な場所でわかった。しかしそれ以上に、東工大派遣チームと同世代の POSTECH の学生たちが、流暢な英語で研究室全体の研究内容を紹介する姿から学生や研究者としてのプロ意識や、大学の技術を社会に還元しようとする姿勢が感じ取れた。

5. 韓国科学技術院 (KAIST)について

2019年3月13日の夕方から15日の昼まで滞在。

5-1. 大学概要

1971年に設立。

2017年の時点で、入学者11583人。内訳：学士課程4540人、修士課程2872人、修士博士合併課程1269人、博士課程2902人。

卒業生58389人。内訳：学士課程16482人、修士課程30176人、博士11731人。

KAIST収益：727.7 million USD。

2017年Asia's Most Innovative University 1位。

2016年World's Most Innovative University 6位。

2017年QSランキング41位。(東工大56位¹⁾)

KAISTの学生は兵役が免除される。また、授業料も免除される。

5-2. キャンパス概要

キャンパスはテジョンとソウルに位置し、テジョンがメインキャンパス(図5-1)です。キャンパスは非常に広く、セグウェイでキャンパス内を移動する学生を多数見ました。



図5-1：KAISTでの集合写真

5-3. 研究室訪問

14日の午前にDepartment of Bio and Brain EngineeringのProf. PARK ji-Hoの研究室を見学した後、午後はDepartment of Biological SciencesのProf. KIM Hak-SungとDepartment of Mechanical EngineeringのProf. KIM Jungの研究室を見学しました。Prof. KIM Jungの研究室見学では、研究室の学生が、普段使っている研究室から作業場まで紹介してくださいました。博士課程の学生が多く、日本では見たことがないような独創的な研究を紹介していただいたことが印象に残っています。

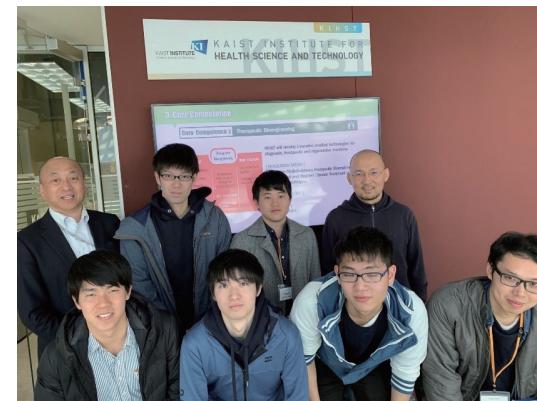


図5-2：Prof. PARK ji-Hoの研究室見学での集合写真

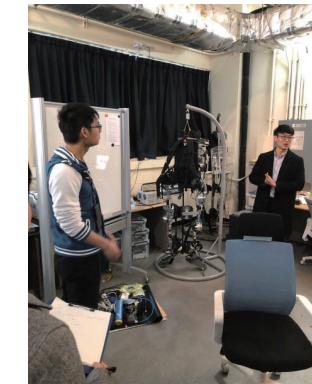


図5-3：Prof. KIM Jungの研究室見学の様子

その後、School of Business and Technology Management の Prof. HAN Seung-Hun にお会いし、日本と韓国の大の研究方針の違いや韓国の大の大学における学生による起業のお話を聞くことができました。



図 5-4 : Prof. HAN Seung-Hun さんとのお話を様子

15日の午前にDepartment of Chemical and Biomolecular Engineering の Prof. KIM Shin-Hyun と研究室の学生、KAIST の学生に対し、私たちがショートプレゼンテーションを行った後、Prof. KIM Shin-Hyun の研究室に伺いました。



図 5-5 : Prof. KIM Shin-Hyun と研究室の学生へのプレゼンと集合写真

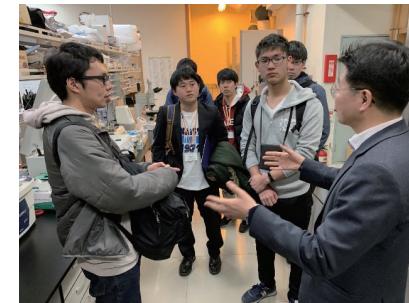


図 5-6 : Prof. KIM Shin-Hyun の研究室見学の様子

5-4. 学生交流

14、15日の昼食時にKAIST の学生と交流しながら食事を楽しみました(図 5-7)。今回の韓国超短期派遣では短期間での滞在にも関わらず、現地の学生と交流する場面がいくつか用意されており、その多くの学生が CAMPUS Asia プログラムを使って日本に行ったことがある、もしくは行くことを考えている学生だったので、自然と打ち解けることができ、非常に親切に対応をしていただきました。



図 5-7 : KAIST の学生との交流

5-5. その他

14、15日の両日の朝、ホテルから KAIST まで送迎バスを出していただきました。また、朝食、昼食もご馳走していただきました。ありがとうございました。

KAIST は大学というよりも企業に近い印象を受けました。大学院生は、豊富な奨学金を受給でき、研究室に就職している社会人のように扱われるそうです。

参考文献

1) <https://www.topuniversities.com/universities/tokyo-institute-of-technology#331315>

6. ソウル大学(SNU)について

2019年3月18日の昼から18日の夕方まで滞在。

6-1. キャンパスの概要



ソウル大学のモニュメント（門）



校章



ソウル大学校工科大学

図 6-1：キャンパスの概要

ソウル大学校（英称: Seoul National University）は、ソウル市冠岳区冠岳路1に本部を置く大韓民国の国立大学である。1946年に設置された。しばしばSNUと略される。キャンパスは郊外の山に位置している。

6-2. 起源¹

19世紀末、高宗は自力近代化のための教育事業を積極的に推進しながら、複数の近代高等教育機関を最初に導入して、ソウル大学校設立の基盤を提供した。1904年には、農業と商業を教える農商工学校を開校し、農商工学校は分化と再編を繰り返しながら、国立ソウル大学農科大学で、ソウル大学農業生命科学大学につながった。

6-3. 開校期¹

ソウル大学校は、試練を経験し誕生した。1945年11月に「朝鮮教育審議会」が旧京城帝国大学の建物を利用して、国立の総合大学を立てるよう提案した。米軍政府ハクムグクで働いていた韓国人の管理者がこの提案に呼応して、1946年7月13日「国立ソウル大学校案」を発表し、8月22日に「国立ソウル大学設立に関する法令」が公布された。朝鮮戦争により、釜山に大学を避難させたあと1950年9月薬学大学を設立し、1953年4月には、芸術大学を美術大学と音楽大学に分化させ、農科大学獣医部獣医学に昇格させた。その結果、ソウル大学は12の単科大学に1つの大学院の総合大学となった。

参考URL

[1] 서울대소개 역사 <http://www.snu.ac.kr/history>

6-4. 研究室訪問

今回のプログラムでは3月18日に様々な方々のご厚意でソウル大学校において工学部学部長Kookheon CHAR教授への表敬訪問と研究室見学が行われた。工学部学部長との会談は良好な雰囲気の下で行われ、学生にも気さくに話して下さることで話しやすい環境を作っていた。ソウル大学校の概要については各学科のDae-Hyeong KIM教授とYoung-Chang JOO教授によって各学科の説明が行われ、ソウル大学校の韓国社会・産業への貢献の大きさを知ることが出来た。中でも印象に残ったのがKAISTやPOSTECHの教授の約半分はソウル大学校出身だということである。これはいかにソウル大学校が研究において韓国で重要な立ち位置を占めているかを表している。

また、研究室見学ではそれぞれ化学生物工学部と材料工学科の研究室を見学した。超臨界CO₂を利用したバイオマスの利活用（Youn-Woo LEE教授）や自動車三元触媒の貴金属使用量節減（Do Heui KIM教授）等環境を意識した研究も盛んに行われていた。また、組織工学等バイオテクノロジーの研究室（Byung-Soo KIM教授）もあり、明確な目的のもと研究が行われていた。他に印象に残っているのはいくつかの研究室では学部3年の学生実験用に教授自身が作成した実験器具・装置用が置いてある部屋を所有していたことである。仕組み等も図示されており、より研究を意識した内容になっていた。研究とはどのようなことをするのかそのイメージを研究室に所属する前から獲得するのは難しいが、それを支援する仕組みが学部3年の段階から準備されているのは驚いた。



図 6-2：研究室見学の様子

7. 梨花女子大学(Ewha Womans University)について

2019年3月19日の昼から19日の夕方まで滞在。

7-1. キャンパスの概要

梨花女子大学はソウル特別市西大门区梨花女子道に本部を置く、私立女子大学である。世界最大規模の女子大学であり、あらゆる学部を網羅している。キャンパス内には Institute for Basic Science (IBS) の研究機関の一つである Center for Quantum Nanoscience (QNS) も存在する。1946年に韓国内で初めて韓国政府に認定された大学であり、ヒュンダイ財閥の現会長やサムスン創設者の娘で新世界百貨店の会長など卒業生も数多く活躍している。正門近くの下り坂が有名。



図 7-1：キャンパスの様子

7-2. 研究室訪問

今回の訪問では Center for Quantum Nanoscience (QNS) を訪れた。QNS は、Institute for Basic Science (IBS) という韓国政府からの資金をもとに基礎科学にフォーカスしている研究機関のうちの 1 つの研究所であり、本研究所は原子や分子の表面の振る舞いについてナノスケールで研究している。主に、物質をより細かく見る、触る、移動させるための様々な種類の顕微鏡(主に STM: Scanning Tunneling Microscopy)の開発を行っている。

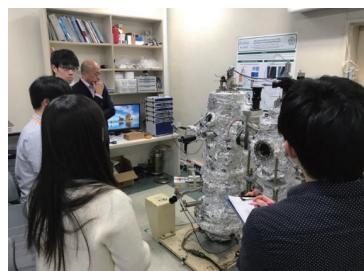


図 7-2：研究室訪問の様子

- 17 -

7-3. その他

研究室を訪問したのち、研究室のディレクターである Andreas Heinrich 氏のオフィスを訪問し、1時間程度に渡り、研究を含めた様々なテーマについて会話を交わした。韓国と日本の研究に対する姿勢の違い、研究以外にプライベートを充実させることについて、企業で働くときと政府関連の研究施設で働く時のマインドセットの違い、など話は多岐に渡り、我々一同は大いに刺激を受けた。



図 7-3：Andreas Heinrich 氏との写真

8. その他 Others

8-1. 食事 Korean food

私たちは韓国でビビンバ、サムギョプサル、チーズタッカルビ、韓国風チキン、サムゲタン、ユッケ、およびブルコギ等の有名な料理を食べた。これらの料理は日本の料理と比較して辛い傾向にあった。また、飲食店に行くと、基本的にキムチ等のお通しがおかわり自由で提供されるのが特徴的であった。特に日本において、ユッケは 2011 年に起きた O-111 の影響で、現在制限されているので、貴重な経験となった。

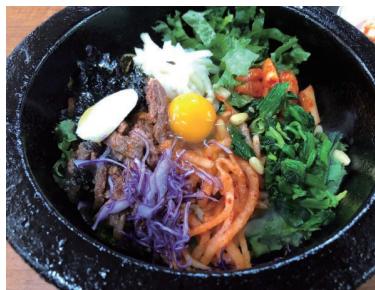


図 8-1：ビビンバ



図 8-2：チーズタッカルビ

- 18 -

8-2. 町の様子 look of town, Korean life

私たちは、ソウル、大田、および浦項に行った。ソウルは韓国の首都であり、東京と同じくらい非常に栄えていた。大田は KAIST を中心とした科学技術都市という印象であった。浦項は POSCO があり、工場都市のような雰囲気であった。

8-3. 韓国での観光について

ソウルを KAIST の学生ソンさんに案内して頂き、3/12、および 13 の 2 日間観光した。韓国の伝統的な衣装を着て、北村韓屋村、および景福宮を訪れた。そこでは、韓国の歴史を体感した。また、ロッテタワーに登った。ロッテタワーは高さ 555m であり、世界第 5 位の高さを誇る。



図 8-3：北村韓屋村



図 8-4：景福宮

8-4. その他 Others

ソウル市内では地下鉄、およびバスで使用できる交通カード T-money を使用するのが便利であった。また、トイレでは紙を流せない、および水道水は飲めないこと等日本との違いもあった。

9. 個人所感 (派遣プログラムで得たこと、感じたこと、将来に向けての展望)

物質理工学院材料系 修士 2 年

今回のプログラムは3月12日から19日まで行われ、ソウル大学校の他にPOSTECH（浦項工科大学校）、KAIST（韓国国立科学技術院）、漢陽大学校、梨花女子大学校も訪問した。3/18はソウル大学の好意により研究内容の紹介やラボツアーが開催された。プログラムを通して日本と韓国の研究に対する取り組みの違いについて理解することが出来た。韓国では全体的に企業と連携している場合も多かった。どのように世の中に発展・応用させるか、そのために何が出来るか確り考えているように感じた。また、英語で自分の研究の背景、目的、手法等を説明出来る学生が多くいた。質疑応答も英語で出来ており、日本の大学院生との明確な違いを感じた。韓国では自分の研究を母国語の異なる学生に伝えるための必須のツールとして使っているようだった。

現地の学生とは研究内容等を英語で伝え合い、かなり興味を持ってくれることもあった。分野が異なるから伝えたいことが思うように伝えられないときもあったが、全体を通して自分の伝えたい芯の部分は伝えることが出来たと感じた。なぜなら、研究内容を聞いてくれた学生や研究者は皆興味深いと言ってくれたからである。言語的な障壁を取り除くためには相手が何を知りたいのか意識し、それに応じて論理的にときには諧謔を交えながら伝えることが大切であると思った。

今回のプログラムは全体として学生交流も活発に行われ、大いに盛り上がった。今回のプログラムで学んだことは多い。学んだことを何に生かせるのか確りと考え、今後の研究等に生かしていきたい。そして、韓国の学生が来たときは、私達にしてくれた以上におもてなしをしたいと思う。

また、韓国語を独学で 1 ヶ月間週に 1 回程度勉強したが、予想以上に自分の話す韓国語が言葉として通じることが分かった。韓国は隣国であるにも関わらず残念ながら自分の周りには韓国語を読める人も話せる人もいない。まずは周辺国の文化に関心を持つことで日本がアジアの中にいることを再認識し、西洋の文化と練り合せることで東アジア独自の新たな価値観や文化を醸成することに繋がるのではないかだろうか。

物質理工学院応用化学系 修士 1 年

私がこのプログラムで得られたことは大きく二つあります。

一つは、韓国と日本の大学での目的の違いがあり、韓国の学生の考え方も大切であると分かったことです。韓国内の企業が資金を提供し、学生が利用する実験設備や図書館などの学習環境が充実していました。具体的には各研究室が所有する分析機器、実験機器が多く、不自由なく実験に取り組んでいました。他にも、図書館でのオープンスペースが多く、学生間での交流や意見交換を促進させる環境がありました。また、リラックスできるスペースもあり、隙間時間での休息をとることも可能な環境がありました。そのようなサポートもあり、

韓国の学生の研究目的としていかに社会の問題解決につながるかを考えているので、その考えは実際に自分自身が起業や製品を作製するスタートアップにつながっていました。

もう一つは、一緒に参加した日本人学生との交流です。大学内において、研究室や部活動などの限定したコミュニティしか所属していなかったので、大学生活で関わる人がごく一部でありました。しかし、このプログラム内で他学科、他学年の学生と会話することで、彼らの研究生活やキャリアの考えなどを聞くことができました。私は現在就職活動中であったため、昨年6月から自分と向き合って進路のことを考えるようになりましたが、学年的には下の彼らがさらに詳細なビジョンをもって生活していることに驚くとともに刺激になりました。この出会いから、詳細なビジョンを持ち、それを実行するための手段を考え、実践することの大切さを知りました。

将来の展望としては、現時点では2020年の4月に就職することを考えていますが、再び博士課程として戻ってくるのか、転職を視野に入れるのかなどといったことも考えて生活していきたいです。

物質理工学院応用化学系 修士1年

私は、現在大学院1年生であり、学生生活も残り1年となった現在、グローバルな視点を獲得したいという目的を持って今回の派遣プログラムに参加した。

私は研究室に所属して、留学生と触れ合う機会が増えて、国籍が異なると、文化の違いにより、コミュニケーションを取ることが難しいと感じた。その後、私は英語を重点的に学習して、留学生と積極的にコミュニケーションを図るようになり、自分も留学して様々な価値観や視点を手に入れたいと思うようになった。そこで、私は韓国超短期派遣に参加することを決意した。

上記の目的を持ち、今回派遣プログラムに参加した、私が感じたことは、POSTECH、KAIST、ソウル大学、および梨花女子大学全ての学生に共通して自分の研究に対する熱意、および英語で自分の意思を相手に伝える能力が私を含めた日本人学生と比較して非常に高いと感じた。また、私は韓国の大学の学生と互いの国の事、および趣味について英語を用いてコミュニケーションを取る際、相手の意図は理解できたが、自分の伝えたいことは上手に伝えることができないという課題もあった。

このように、私にとって、課題ばかりが目立つ韓国超短期派遣であったが、私は今回積極的にこのプログラムに参加したことによって、自分に足りない点を認識できたことが収穫だと考えている。

私はこれから後一年となった学生生活において、積極的に行動して、自分の意見を日本語・英語問わず、発信していく能力を伸ばしていきたい。同時に、英語は就職後も必要になってくると思うので、現在のリスニング・ライティング能力を中心とした勉強だけでなく、スピーチング能力を鍛えていきたい。

私は初めに目的として設定したグローバルな視点は一朝一夕には獲得できないというこ

とが分かった。そのため、学生生活の間だけでなく、就職後も私はこのグローバルな視点というものを意識し続ける必要があると感じた。

工学部機械宇宙学科 学部4年

行く前から予想はしていたが、日本と韓国は想像以上に似ていた。儒教をもととした価値観、言語、交通システム、産業構造、あるいは労働過多の問題や男女平等の問題まで、共通点をあげべきりがない。1週間の滞在の中で、あまり不自由なく日本と似たような環境で暮らすことができた。

しかし、両国が似ているとはいえる、一旦大学のキャンパスに足を踏み入れると、その違いに驚く。特にKAISTやPOSTECHといった韓国トップクラスの理工系大学が提供する環境は日本のそれとは全く違う。学部1年から英語で行われる授業、起業家精神の養成、授業料やスタートアップに関する充実した金銭的サポート、キャンパス内のありとあらゆるところにある学生の福利厚生を意識したカフェ、そして何より研究室に所属する学生たちの自分の研究に対する誇りとプロフェッショナル意識。韓国の大学の躍進を肌で感じることができた。

私はこれで今回の超短期派遣を含め、中国や韓国やフィリピンに行ったことになるが、改めてアジアの人々や社会が持つエネルギーに魅力を感じた。今後アジアの国々がさらに発展し、「アジアの世紀」が到来するということを踏まえると、将来はアジアを拠点にグローバルなスケールで働きたいと強く感じた。そのため今後は、今回のような機会があれば再び利用してシンガポールやインドといった国々にも訪れたいし、一方で、今度は韓国や中国のような国に長期留学をすることで短期派遣では得られないものを感じたい。

生命理工学部生命工学科 学部4年

16、17日は、Moojune Songさんがソウルを案内して下さいました。16日は景福宮、国立民族博物館、北村韓屋村、明洞、17日はロッテタワー、カンナム、ホンデに行きました。

ソウルは日本人や海外の人の観光客が非常に多かったです。ソウルの景福宮、明洞は日本人など海外の人が観光としてよく行くスポットだそうです。また、お土産を買うなら明洞が最適で、服を買いたい時は、ホンデが安くおすすめだそうです。

Moojune Songさん、本当に楽しい時間を過ごさせていただき、ありがとうございました。

日常生活について韓国は、食事にはほとんどキムチが出てくること、トイレはトイレットペーパーをそのまま便器に流さず、ゴミ箱に入れること、電車は全て1つの会社で統合されており、値段が安く一定額であるものの、急行が少ないと、コンビニには弁当が売っているところと売っていないところがあること、車は赤信号でも右折はしてもいいことなど、日本との違いが分かり、とてもいい経験でした。

大学についてはまず、KAIST や POSTECH、ソウル大学はとにかく規模が大きいです。そして、韓国の大学はビジネスとして確立しており、あたかも企業のようでした。例えば、POSTECH、KAIST では大学内の技術を用いて実用化された工業製品が展示されており、その製品について宣伝する環境が整っていました。これが東工大を始めとし、日本の大学との大きな差異であると感じました。

加えて私が特に印象に残っていることは、KAIST の Seung Hun Han 教授と議論させていただいた際に、「KAIST の急成長の大きな理由の 1 つとして工業化を念頭に置いた応用研究が盛んに行われていることが挙げられる。一方で、日本の大学は工業化に繋がる研究は少なく、基礎研究が盛んである」という意見が出たことです。日本は技術力があっても韓国の大学に比べて規模が小さく、成長速度が遅いのはこのことが原因であると私も考えます。

もちろん、基礎研究も非常に重要です。そのため、応用研究と基礎研究のバランスを整えることが、今後の日本の発展のために非常に重要な課題であると思いました。

工学院機械系 学部 3 年

私は、今回の韓国超短期派遣を通して韓国と日本の大学の違いについて知りたいと考え、今回のプログラムに参加した。結果としては、予想を上回るほど韓国の教育システムは日本と異なっていた。過去に一ヶ月間アメリカの大学に留学したことがあり、その際アメリカの大学のスケールや教育の質、そして学生が勉学に臨む姿勢などに圧倒されたことがあった。その経験や東工大でも徐々に進んでいるグローバル化から、欧米諸国の優れた教育体制を各國が徐々に真似しているという認識があった。しかし、実際には、学生が研究に集中するための援助やキャンパスの充実した設備、そして海外から優秀な研究者を受け入れようとする働きなど、非常に優れたシステムを隣のアジアの国の韓国がすでに実践できていることに非常に驚き、日本が世界的に遅れているということを実感した。その一方で、日本の良いところも知ることができた。技術の社会還元を目指す韓国と異なり、日本の大学では、学生の研究援助が未発達であることによって会社のような側面が小さく、学生の自由な研究が実現し、国内では競争も比較的激しくないと考えることができる。各國の良いところと悪いところを知れた今回の機会を生かして、今後の進路を考えていきたい。

また、今回のプログラムでの研究室見学では、自分と専攻が異なる研究室が多かったが、それぞれの研究室での社会への貢献を目指した方針や学生たちの話を聞くことで、自分の専攻について考えさせられる部分もあった。研究室選択をしているこの時期にこのプログラムに参加できたことは非常に大きな価値を持つこととなった。そして今回の留学で得た友人たちに負けないように、自分の専攻についても頑張っていきたい。

1. 事業概要
2. 運営体制、予算
3. 学生の受入
4. 学生の派遣

5. コロナ禍での オンライン交流プログラム

6. 受入学生・派遣学生の交流
7. 21世紀型スキル教育への取組
8. 幹事校としての取り組み
9. 評価
10. フォトギャラリー

5-1 参加学生一覧

5-2 募集要項

5-3 パンフレット

5-4 開催報告

5-5 参加学生アンケート結果まとめ

PDF版の事業報告書では
参加学生一覧を掲載しておりません

1. 事業概要
2. 運営体制、予算
3. 学生の受入
4. 学生の派遣

5. コロナ禍での オンライン交流プログラム

6. 受入学生・派遣学生の交流
7. 21世紀型スキル教育への取組
8. 幹事校としての取り組み
9. 評価
10. フォトギャラリー

5-1 参加学生一覧

5-2 募集要項

5-3 パンフレット

5-4 開催報告

5-5 参加学生アンケート結果まとめ



TKT CAMPUS Asia

Online Winter Camp

January 18-20 (Mon-Wed), 2021



Program Overview

Based on the Trilateral Cooperation Vision 2020 that was adopted between the governments of China, Japan and Korea, the TKT CAMPUS Asia Consortium was established in 2012 among the following universities: Tsinghua University (China), KAIST (South Korea) and Tokyo Institute of Technology (Japan).

Participating students will:

- Have an opportunity to listen to special lectures by professors at Tsinghua University, KAIST, and Tokyo Tech.
- Improve team discussion, presentation and communication skills
- Get to know other students from three nations
- Deepen the understanding of cultures of other countries
- Feel a sense of accomplishment at the end of the camp

Benefits of Participation

- A certificate with the project leaders of the three universities will be issued to all participating students after having successfully completed the program
- The best presentations will be awarded prizes
- Students will deepen their understanding of the cultures and peoples of the three dominant East Asian countries

Eligibility

- Students enrolled at Tsinghua University, KAIST and Tokyo Tech
- Priority will be given to students who have been accepted to CAMPUS Asia program or former CAMPUS Asia participating students.



Camp Schedule

DAY 1 Jan. 18, Mon		DAY 2 Jan. 19, Tues		DAY 3 Jan. 20, Wed	
9:30-10:40 (70)	CAMPUS Asia Introduction Ice Breaking Activity Student Introduction	10:00-10:40 (40)	<CSES 4> Special Lecture 2 Special Lecture 3 Prof. BAE (KAIST) Prof. HITOSUGI (Tokyo Tech)	10:00-10:40 (40)	<CSES 7> Team Project Team Discussion
10:40-12:20 (100)	<CSES 1> Team Project Announcement General Lecture	10:40-12:20 (100)		10:40-12:20 (100)	<CSES 8> Team Presentation
12:20-13:20 (60)	Lunch Break Communication Time	12:20-13:20 (60)	Lunch Break Communication Time	12:20-13:20 (60)	Lunch Break Communication Time
13:20-14:10 (50)	Cultural Activity 1 Virtual Tokyo Tech Tour	13:20-14:10 (50)	Cultural Activity 2	13:20-14:10 (50)	Presentation of Awards
14:20-16:00 (100)	<CSES 2> Special Lecture 1 Prof. ZHU (Tsinghua)	14:20-16:00 (100)	<CSES 5> Team Project Team Discussion	14:20-16:00 (100)	Communication Time
16:15-17:55 (100)	<CSES 3> Team Project Team Discussion	16:15-17:55 (100)	<CSES 6> Team Project Team Discussion	16:15-17:55 (100)	CAMPUS Asia Alumni Party

CSES: Communicating Science and Engineering in Society

Time is in Japan Standard Time (JST).

This schedule is subject to change without prior notice.

Registration Period

CAMPUS Asia Students: **November 11-15, 2020**

Non-CAMPUS Asia Students: **November 16-23, 2020**

Registration Form ↗ <https://reas3.ouj.ac.jp/reas/q/67615>

Please click the link and complete the registration form.



1. 事業概要
2. 運営体制、予算
3. 学生の受入
4. 学生の派遣

5. コロナ禍での オンライン交流プログラム

6. 受入学生・派遣学生の交流
7. 21世紀型スキル教育への取組
8. 幹事校としての取り組み
9. 評価
10. フォトギャラリー

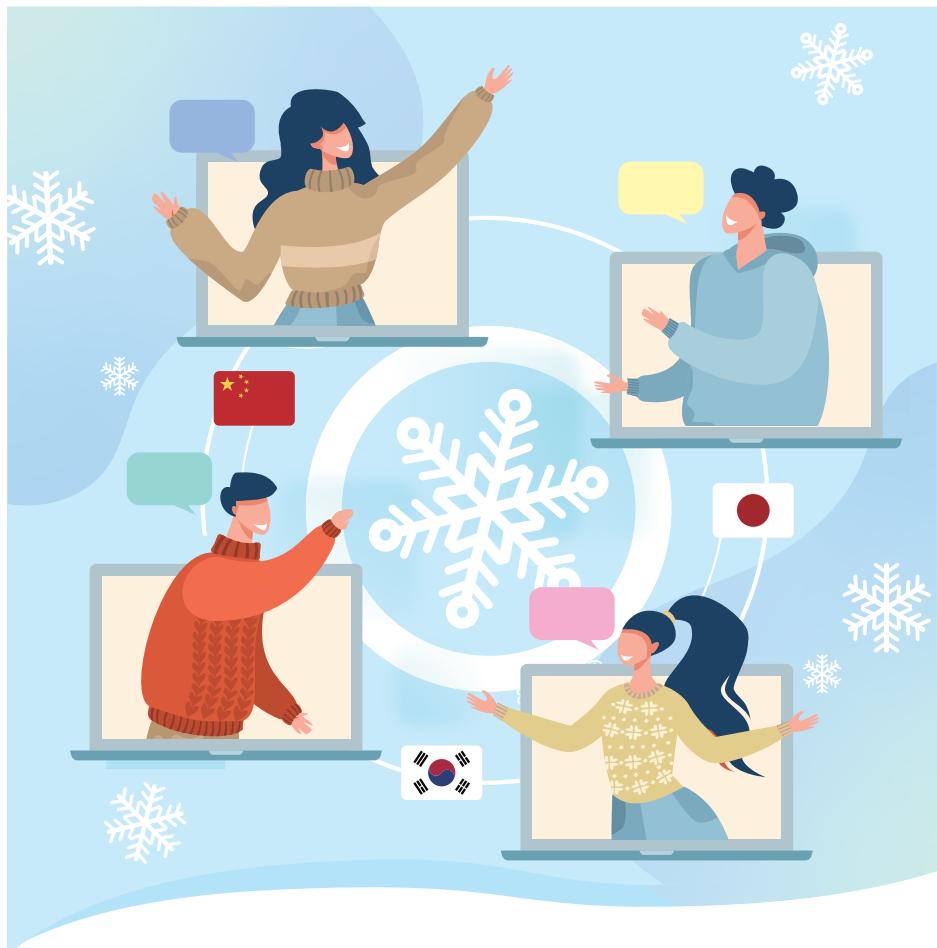
5-1 参加学生一覧

5-2 募集要項

5-3 パンフレット

5-4 開催報告

5-5 参加学生アンケート結果まとめ



TKT CAMPUS Asia Online Winter Camp

January 18-20, 2021



Joint Welcome Message from Project Leaders

Dear CAMPUS Asia students,

The COVID-19 pandemic has created a new reality, something that none of us could have imagined. We are sorry that the pandemic meant that some of you, even if you were qualified, were not allowed to participate in offline exchange. We appreciate your understanding and patience. In these unprecedented times, Tsinghua University, KAIST and the Tokyo Institute of Technology have come together to offer our second virtual camp "TKT CAMPUS Asia Online Winter Camp" to our beloved students.

The camp will include team projects, special lectures, virtual Tokyo Tech campus tour, and cultural activities that are all online and yet active and lively. Although your experiences will be different from those you might have had in offline exchange programs, we hope your participation in the camp will broaden your personal and academic perspectives and be a chance to hone the skills you will need as future global leaders. In this camp, you will expand your network, understand the cultures of neighboring countries and meet new friends with whom you can share a diversity of knowledge. These will be three very special days.

We sincerely thank you for your participation and wish you an enjoyable and exciting time in the online learning environment. Welcome to the TKT CAMPUS Asia Online Winter Camp.

Prof. Meng LI

Project Leader, Advanced
TKT CAMPUS Asia Consortium



Prof. Shin-Hyun KIM

Project Leader, Advanced
TKT CAMPUS Asia Consortium



Prof. Masahiko HARA

Project Leader, Advanced
TKT CAMPUS Asia Consortium



About Advanced TKT CAMPUS Asia Consortium

■ Overview

Based on Trilateral Cooperation Vision 2020 adopted between the governments of China, Japan and Korea, the TKT CAMPUS Asia Consortium was established in 2011 among the following universities: Tsinghua University (China), KAIST (South Korea) and Tokyo Institute of Technology (Japan). The consortium universities offer three types of exchange programs for graduate and under-graduate students.

- Semester-long Exchange Program
- Summer Program
- Research-oriented Joint Education Program

These programs were designed to promote cooperation between the universities and offer valuable opportunities for students to be exposed to various technologies and cultures, while engendering social networks among the students of participating nations.

■ Advanced TKT CAMPUS Asia Consortium Project Leaders



Dr. Meng LI

Associate Professor,
School of Civil Engineering
Tsinghua University, China



Dr. Shin-Hyun KIM

Associate Professor,
Department of Chemical and
Biomolecular Engineering
KAIST, Republic of Korea



Dr. Masahiko HARA

Professor, School of Materials
and Chemical Technology
Tokyo Institute of Technology, Japan

About TKT CAMPUS Asia Online Winter Camp

Date January 18 - 20, 2021

Participants Students from
Tsinghua University, KAIST, and Tokyo Institute of Technology

Tsinghua University, KAIST, and Tokyo Institute of Technology offer their second virtual camp "TKT CAMPUS Asia Online Winter Camp" to students of the three universities.

This three-day intensive winter camp consists of lectures, cultural activities, a virtual campus tour, and team projects. Through this TKT CAMPUS Asia online winter camp, students — while maintaining proper social distance from each other and coming together virtually in the era of COVID-19 — will meet new friends from the three nations and work together as teams, thereby gaining an opportunity to expand their networks both professionally and personally.

Special lectures delivered by expert faculty members will help students gain insights into current and social issues and the ways in which technology and science can help. Additionally, students will learn about crowdfunding, a practice of raising money from a large number of people via internet, and how it works to enable people to reach their desired goals. This special online camp aims to create the same vibe and quality of offline exchange programs and demonstrate that physical distancing need not be a barrier to the continuation of international cooperation.

After successfully completing the camp, students will receive a certificate co-signed by the three universities.



Camp Schedule

DAY 1 | Monday, 18 January

Seoul / Tokyo	Beijing	
09:30-9:35	08:30-8:35	Introduction Moderator: Prof. Masahiko HARA, Tokyo Institute of Technology
09:35-9:40	08:35-8:40	Opening Remarks Prof. Shin-Hyun KIM, KAIST
09:40-10:40	08:40-9:40	Student Self-Introduction CAMPUS Asia Students
10:40-10:50	09:40-9:50	« CSES 1 » Team Project Announcement Naoko YANAGIHARA, Culture & Communication Consultant
10:50-11:20	09:40-10:20	« CSES 1 » Introduction to CSES Naoko YANAGIHARA, Culture & Communication Consultant
11:20-12:00	10:20-11:00	« CSES 1 » Introduction to Crowdfunding Tomomi SAITO, READYFOR
12:00-12:20	11:00-11:20	« CSES 1 » Team Project Introduction
12:20-13:20	11:20-12:20	Lunch Break (Communication Time)
13:20-14:10	12:30-13:10	Cultural Activity 1 Origami Making Class
14:10-14:20	13:10-13:20	Break
14:20-16:00	13:20-15:00	« CSES 2 » Special Lecture 1 Prof. Junming ZHU, Tsinghua University
16:00-16:15	15:00-15:15	Break
16:15-17:55	15:15-16:55	« CSES 3 » Team Project

DAY 2 | Tuesday, 19 January

Seoul / Tokyo	Beijing	
10:00-11:05	09:00-10:05	« CSES 4 » Special Lecture 2 Prof. Tae-Hyun BAE, KAIST
11:05-11:15	10:05-10:15	Break
11:15-12:20	10:15-11:20	« CSES 4 » Special Lecture 3 Prof. Taro HITOSUGI, Tokyo Institute of Technology
12:20-13:20	11:20-12:20	Lunch Break Virtual Tokyo Tech Campus Tour Tokyo Tech CAMPUS Asia Students
13:20-14:10	12:20-13:10	Cultural Activity 2 [DIY] Miniature Bibimbap Making Class
14:10-14:20	13:10-13:20	Break
14:20-16:00	13:20-15:00	« CSES 5 » Team Project
16:00-16:15	15:00-15:15	Break
16:15-17:55	15:15-16:55	« CSES 6 » Team Project



Camp Schedule

DAY 3 | Wednesday, 20 January

Seoul / Tokyo	Beijing	
10:00-11:00	09:00-10:00	« CSES 7 » Team Project
11:00-11:15	10:00-10:15	Break
11:15-11:20	10:15-10:20	Introduction Prof. Masahiko HARA, Tokyo Institute of Technology
11:20-11:40	10:20-10:40	« CSES 8 » Team Project Presentation: Team 1 Gu Hong MIN, Sachika KUROKAWA, Ke ZHAN, Longlong XU, Jingxuan REN, Gyusang YU
11:40-12:00	10:40-11:00	« CSES 8 » Team Project Presentation: Team 2 Chee Eun AHN, Dohoon LIM, Licheng SHI, Xinyi PAN, Yang BAI, Boya DU
12:00-12:20	11:00-11:20	« CSES 8 » Team Project Presentation: Team 3 Hanbo GAO, Yu Sung KIM, Suhee CHO, Kento YOSHIMURA, Nianpo SU, Aoshuang DING
12:20-13:20	11:20-12:20	Lunch Break (Communication Time)
13:20-13:50	12:20-12:50	Presentation of Awards
13:50-14:00	12:50-13:00	Closing Remarks Prof. Meng LI, Tsinghua University
14:00-14:10	13:00-13:10	Group Photo
14:10-15:00	13:10-14:00	Communication Time
15:00-15:30	14:00-14:30	Registration to the TKT CAMPUS Asia Online Alumni Assembly
15:30-17:00	14:30-17:00	TKT CAMPUS Asia Online Alumni Assembly

Special Lectures

Special Lectures will be delivered by three selected faculty members from Tsinghua University, KAIST, and Tokyo Institute of Technology. Through these lectures, students will obtain a deeper understanding of the ways in which science and engineering can contribute to the solving of current social issues.

Special Lecture 1 Monday, January 18 14:20-16:00 (Seoul/Tokyo) | 13:20-15:00 (Beijing)

Special Lecture 2 Tuesday, January 19 10:00-11:05 (Seoul/Tokyo) | 09:00-10:05 (Beijing)

Special Lecture 3 Monday, January 18 11:15-12:20 (Seoul/Tokyo) | 10:15-11:20 (Beijing)

Special Lecture 1

“Development and the Environment”



Dr. Junming ZHU

Dr. Junming ZHU is an Associate Professor at the School of Public Policy and Management at Tsinghua University and a co-Editor-in-Chief of the Journal of Industrial Ecology. His research focuses on evaluation of environmental and resource policies, environmental governance, and industrial ecology. His research has been supported by the National Natural Science Foundation of China, the US National Science Foundation, Tsinghua University, and Yale University. His research appears on journals like Nature Communications, Regulation & Governance, and Environmental Science & Technology. Prior to joining the Tsinghua faculty, Junming worked at the School of Forestry and Environmental Studies at Yale University, at the School of Public Policy and Urban Affairs at Northeastern University, and at the Center for Integrative Environmental Research at the University of Maryland. He received his B.S. and M.S. in environmental science and engineering at Tsinghua University, and his Ph.D. in Policy Studies at the University of Maryland, College Park.

Special Lectures

Special Lecture 2

“Membrane technology for sustainable water management”



Dr. Tae-Hyun BAE

Dr. Tae-Hyun BAE is an Associate Professor at the Department of Chemical and Biomolecular Engineering at KAIST (joined in May 2019). He received his B.Sc., M.Sc., and Ph.D. degrees from the School of Biological Resources and Materials Engineering of Seoul National University. Then, he moved to the USA and earned his second Ph.D. in Chemical Engineering at Georgia Institute of Technology in 2010. Following a postdoctoral experience at the University of California, Berkeley, he had worked at Nanyang Technological University (NTU), Singapore, from 2013 to 2019 as an Assistant Professor of Chemical Engineering. While he was staying in NTU, he also served as the cluster leader at the Singapore Membrane Technology Centre as well as the assistant chair of research at School of Chemical and Biomedical Engineering. Dr. Bae has extensive research experience in membrane technology used in various chemical and environmental engineering processes including water treatment, gas separation and waste management. He has published about 90 research papers in reputable journals.

Special Lecture 3

“How artificial intelligence and robotics change the way of our research?”



Dr. Taro HITOSUGI

Dr. Taro HITOSUGI is a Professor in the School of Materials and Chemical Technology at the Tokyo Institute of Technology (Tokyo Tech). He also serves as a Deputy Director of the Tokyo Tech Academy for Convergence of Materials and Informatics (TAC-MI). His research interests involve surfaces and interfaces of materials for electronics and energy applications. He has recently succeeded in autonomous materials synthesis by machine learning and robotics, aiming to accelerate materials science research. He is an editorial advisory board member of APL Materials and an associate editor of Science and Technology of Advanced Materials (STAM). He has published more than 150 refereed papers in leading academic journals.

Introductory Lectures

Introduction to CSES



Naoko YANAGIHARA

Culture & Communication
Consultant

By communicating fact-based information to others based on their expertise, scientists and engineers can help solve social issues. The Communicating Science and Engineering in Society (CSES) lectures will focus on the essential communication skills that many students will need for their future careers. Students will work together in teams, focusing on the topic of SDGs. They will be able to explain some current social issues, share ideas on how science and technology can help solve them, plan a crowdfunding campaign, and communicate clearly with students from other cultures and academic fields.

Introduction to Crowdfunding



Tomomi SAITO

Curator, Social team, Curation
Division, READYFOR

Crowdfunding, a way of raising money from large numbers of people via the internet, has enabled many people to reach their desired goals. This lecture is designed to provide a basic understanding of what crowdfunding is while highlighting the essentials for a successful campaign. Students will gain a better understanding of how crowdfunding works, learn how to prepare for a successful project, and understand how to promote the project, including how much money to seek.

Mentors



Dr. Olaf KARTHAUS

Professor, Department of Applied
Chemistry and Bioscience,
Chitose Institute of Science and Technology, Japan



**Dr. Maria Vanessa Cases
BALOIS**

Innovative Photon Manipulation
Research Team, RIKEN Center for
Advanced Photonics, RIKEN, Japan



Dr. Yuhei HAYAMIZU

Associate Professor, School of
Materials and Chemical Technology
Tokyo Institute of Technology, Japan

Advisors



Dr. Haiwon LEE

Distinguished Professor,
Department of Chemistry,
Hanyang University, Republic of Korea



Dr. Masashi SHIRABE

Professor, Institute for Liberal Arts
(Scientometrics; Science and
Technology Studies),
Tokyo Institute of Technology, Japan



Dr. Yasunori AIZAWA

Associate Professor, School of Life
Science and Technology (Cell Biology),
Tokyo Institute of Technology, Japan

Team Project

Topic

Students will work together in teams under the topic of the SDGs. Selecting more than one of the 17 goals, each team will work together to generate ideas for how science and technology can help solve a social issue related to their selected SDGs. Each team will propose both a project and a plan for a crowdfunding campaign to fund it.

Team members

Each of the three teams will comprise students from Tsinghua, KAIST and Tokyo Institute of Technology

Team 1

Name	Home University	Nickname	Major
Gu Hong MIN	KAIST	Placid	Electrical Engineering / Computer Science
Sachika KUROKAWA	Tokyo Tech	Sachika	Industrial Engineering and Economics
Ke ZHAN	Tsinghua	Sean	Materials Science and Engineering
Longlong XU	Tsinghua	XU Longlong	Materials Science and Engineering
Jingxuan REN	Tsinghua	Ruby Ren	Humanities / English Major
Gyusang YU	KAIST	Peter	Mechanical Engineering

Team 2

Name	Home University	Nickname	Major
Chee Eun AHN	KAIST	Chee Eun	Industrial Design
Dohoon LIM	KAIST	Dohoon	Mechanical Engineering
Licheng SHI	Tokyo Tech	Peter	Computer Science
Xinyi PAN	Tsinghua	Xinyi	Material Science and Engineering
Yang BAI	Tsinghua	Alex	Instrument and Meter Engineering
Boya DU	Tsinghua	Bryanna	Hospital Management

Team 3

Name	Home University	Nickname	Major
Hanbo GAO	Tsinghua	Hanbo	Environmental Engineering (Global Environment Program)
Yu Sung KIM	KAIST	Edward	Innovation and Technology Management
Suhee CHO	KAIST	Sue	Bio and Brain Engineering
Kento YOSHIMURA	Tokyo Tech	Ken	Mathematical and Computing Science
Nianpo SU	Tsinghua	Nianpo	Foreign Languages and Literatures / Japanese Language
Aoshuang DING	Tsinghua	TingTing	Engineering Thermophysics

Participants

Tsinghua University



Aoshuang DING 1
<TingTing>
Energy Engineering



Xinyi PAN 3
<Xinyi>
Chemical Engineering
Material Science and Engineering



Ke ZHAN 5
<Sean>
Material Science and Engineering



Boya DU 7
<Bryanna>
Hospital Management



Hanbo GAO 9
<Hanbo>
Environmental Engineering



Jingxuan REN 11
<Ruby Ren>
Foreign Languages and Literatures (English)



Longlong XU 13
<XU Longlong>
Material Science and Engineering



Nianpo SU 15
<Nianpo>
Foreign Languages and Literatures (Japanese)



Yang BAI 17
<Alex>
Instrument and Meter Engineering

Participants

KAIST



Yu Sung KIM 18
<Edward>
Innovation and Technology
Management



Dohoon LIM 16
<Dohoon>
Mechanical Engineering



Gu Hong MIN 14
<Placid>
Electrical Engineering / Computer
Science (Double Major)



Suhee CHO 12
<Sue>
Bio and Brain Engineering



Gyusang YU 10
<Peter>
Mechanical Engineering



Chee Eun AHN 8
<Chee Eun>
Industrial Design

Tokyo Institute of Technology



Sachika KUROKAWA 6
<Sachika>
Industrial Engineering and
Economics



Licheng SHI 4
<Peter>
Computer science



Kento YOSHIMURA 2
<Ken>
Mathematical and Computing
Science

Cultural Activities

Embrace your inner artist while learning the cultures of neighboring countries

Cultural Activity 1 Origami Making Class



Date January 18, 2021 Duration 50 minutes

Origami is the traditional art of paper folding, often associated with Japanese culture. Various objects, such as animals, plants, and other patterns, can be created from pieces of paper using folding techniques. In this cultural activity, students will learn to make origami shuriken (throwing stars) together. Three kinds of origami are included in the welcome kit. Tokyo Tech students will lead the activity.

Cultural Activity 2 [DIY] Food Miniature Bibimbap Making Class



Date January 19, 2021 Duration 50 minutes

Bibimbap, a traditional Korean food, is a dish that combines rice, assorted vegetables, meat, gochujang, and sesame oil in a single bowl. Instead of cooking actual bibimbap, students will make a miniature bibimbap using polymer clay. Through this cultural activity, students will learn about the kinds of food that go into bibimbap and how to present this Korean dish on the table. All the materials needed to make the miniature bibimbap as shown in the picture are included in the kit.

Virtual Campus Tour of Tokyo Tech



Welcome to Tokyo Tech! During the lunch break, Tokyo Tech students will lead Winter Camp participants on a virtual tour of Tokyo Tech Ookayama campus. Walk through the newly built TAKI Plaza, take in the "Cheese Cake," see the cafeteria and, if the sky is clear, maybe see Mt. Fuji! Please enjoy your virtual experience in Tokyo!

1. 事業概要
2. 運営体制、予算
3. 学生の受入
4. 学生の派遣

5. コロナ禍での オンライン交流プログラム

6. 受入学生・派遣学生の交流
7. 21世紀型スキル教育への取組
8. 幹事校としての取り組み
9. 評価
10. フォトギャラリー

5-1 参加学生一覧

5-2 募集要項

5-3 パンフレット

5-4 開催報告

5-5 参加学生アンケート結果まとめ

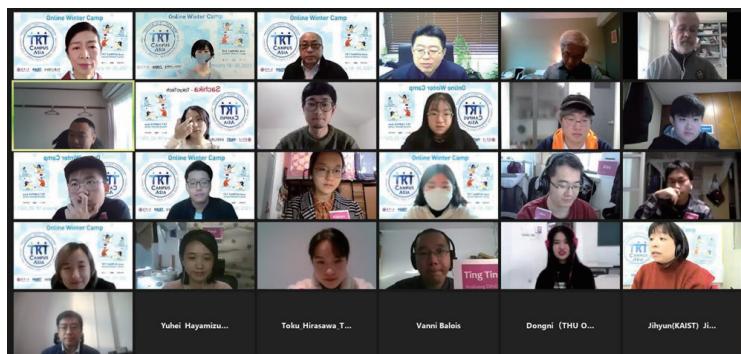
【開催報告】TKT CAMPUS Asia Online Winter Camp

2021年1月18日～1月20日の期間、キャンパス・アジアのオンラインプログラム「TKT CAMPUS Asia Online Winter Camp」が開催され、清华大学、韓国科学技術院（KAIST）、東京工業大学から計18名の学生が参加しました。



Winter Campでは、3日間をかけて講義、文化体験、バーチャルキャンバストア、チームプロジェクト、チームプレゼンテーションがオンラインで行われました。今回、本学がメインホストを務めましたが、本学だけでなく、清华大学・韓国科学技術院（KAIST）も企画段階から関わり、スペシャルレクチャーを提供するなど、三大学の参加学生それぞれ多様な経験ができる機会となるように構成されました。

1月18日朝のオープニングセレモニーには、18名の参加学生、三大学のプロジェクトリーダー（清华大学のMeng LI准教授、韓国科学技術院（KAIST）Shin-Hyun KIM准教授、本学物質理工学院の原正彦教授）、ファシリテーター、メンター、アドバイザー、スタッフが参加し、開会宣言のち、アイスブレークを兼ねた学生の自己紹介タイムが始まりました。この自己紹介では、「次に自己紹介をする人と自分の共通点を見つけて組み込む」というお題が与えられており、学生はまず、Zoomのブレイクアウトルーム機能を利用して1対1で3分間話し、お互いの共通点を探り合うところからスタート。1対1で話すうちに緊張が少しづつほぐれていき、二人とも音楽が好き、泳ぐことが好き、など、共通点を交えた自己紹介が進んでいきました。



Self-Introduction

Winter Campのメインは、参加学生がチームに分かれて行うチームプロジェクトとチームプレゼンテーションです。プロジェクトをスムーズに、より充実した内容にするため、チームプロジェクトに必要な基礎知識を提供する2つのIntroductory Lectureと、問題解決の種となる三大学教員による3つのSpecial Lectureを用意しました。

Introductory Lecture 1: Introduction to CSES

柳原なほ子氏（カルチャー＆コミュニケーションコンサルタント）

最初の講義として、チームプロジェクトのファシリテーターを務める柳原なほ子氏によるIntroductory Lectureが行われました。この講義では、参加学生はチームプロジェクトで取り組む内容やそのプロセス、トピックとなるSDGsについて学びました。

*Winter Campのチームプロジェクトは、本学の集中授業CSES（Communicating Science and Engineering in Society）をベースとしており、本学学生は履修申請することで単位取得が可能。チームプロジェクトのテーマ：

17のSDGsの中から取り組むテーマを選び、問題提起、解決策、5年間ロードマップを提示する。さらに、必要な資金を想定し、クラウドファンディングの形でアウトプットする。

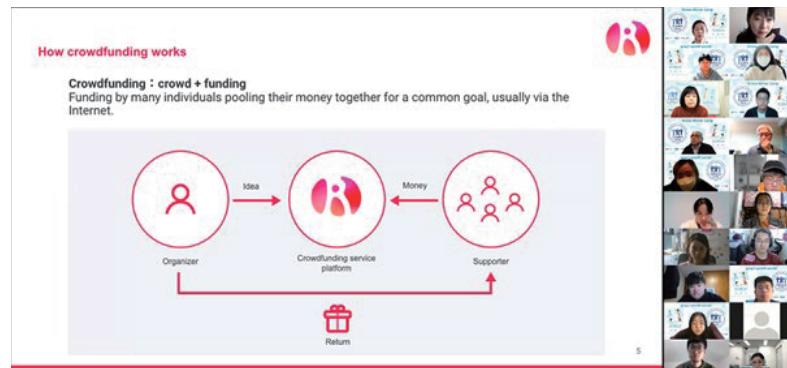


Introductory Lecture: Introduction to CSES

Introductory Lecture 2: Introduction to Crowdfunding

齋藤智美氏（READYFOR株式会社／キュレーター）

2つ目のIntroductory Lectureでは、クラウドファンディングサービスを提供するREADYFOR株式会社より齋藤智美氏を招き、クラウドファンディングの講義が行われました。今回のチームプロジェクトでは、問題の提起・解決方法、プロセスの考案に加え、クラウドファンディングの形でアウトプットをするというテーマが与えられており、参加学生はこの講義の中で必要な基礎知識を学びました。*Winter Campでは実際にクラウドファンディングによる資金調達は実施しません。

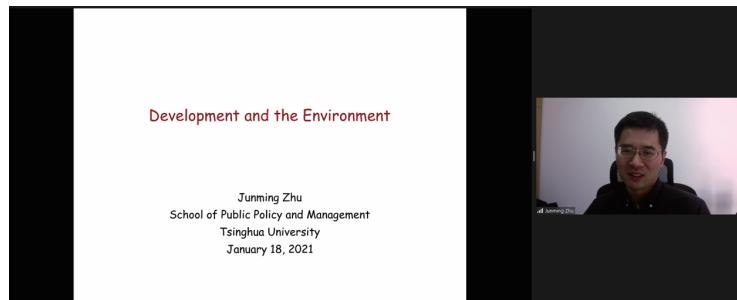


Introductory Lecture: Introduction to Crowdfunding

○Special Lecture 1 : "Development and Environment"

ZHU Junming 准教授（清華大学）

清華大学の ZHU Junming 准教授による Special Lecture 1 では、開発と環境保全をテーマに講義が行われました。まず、現代において、開発・成長と環境保護・保全はどちらも重要で、この2つを調和しながら進めていくことが求められていることを共有した上で、開発や成長と環境への影響の関係性について、統計や仮説、学術研究を用いて説明がされました。例えば、所得と環境への関心との関係性は、1人当たりの所得増加につれて初めは汚染が増大し、一定レベルに達して自身が豊かになると空気汚染など環境への要求が高まる「環境クズネット曲線」が紹介されました。参加学生にとって、より広い視野でこの問題を捉え、理解を深める機会となりました。

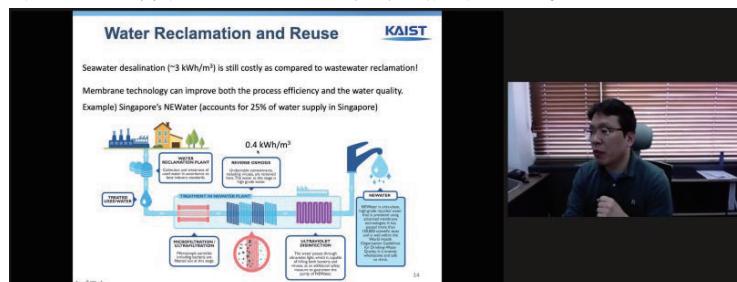


清華大学の ZHU 准教授による Special Lecture 1

○Special Lecture 2 : " Membrane technology for sustainable water management "

BAE Tae-Hyun 准教授（韓国科学技術院（KAIST））

韓国科学技術院（KAIST）の BAE Tae-Hyun 准教授による Special Lecture 2 では、膜技術（membrane technology）による持続可能な水の管理をテーマに講義が行われました。BAE 准教授は冒頭、淡水で、かつきれいな水は世界に存在する水の1%以下しかないこと、水の需要がどんどん高まっていること、水不足がアジアで大きな問題となっていることを挙げ、きれいな水を確保することの重要性について共有しました。参加学生は、膜技術が、たとえば海水の淡水化において質の向上やプロセスの効率化を進める重要な技術となっていることや、節水が自分たちも取り組める大切な環境保全となることなどを学び、理解を深めました。



KAIST の BAE 准教授による Special Lecture 2

○Special Lecture 3 :

"How artificial intelligence and robotics change the way of our research??"

HITOSUGI Taro 教授（東京工業大学）

東京工業大学の一杉太郎教授による Special Lecture 3 では、AI やロボットが従来型の科学研究の進め方にどんな変化をもたらすかをテーマに講義が行われました。一杉教授は「自分の生活中で AI を感じることは?」「人間の強みとは?」など、学生に問いかながらインタラクティブに講義が進んでいました。参加学生は、AI と Robot、人間のそれぞれの強みを学んだ上で、高度化した AI と Robot を活用することにより精密かつ高速に実験を計画・実施することで、研究者の「気づき」を生み出す時間が大幅に増えるという未来型の科学研究の進め方について知り、理解を深める機会となりました。



東京工業大学の一杉教授による Special Lecture 3

○Cultural Activities "Origami Making Class" "[DIY] Mini Bibimbap Making Class"

今回のWinter Camp では、講義とチームプロジェクトのほか、日韓の文化体験や東工大生によるバーチャル東工大キャンバスツアーが行われました。文化体験では、折り紙での手裏剣づくり（日本）と韓国のビビンバのミニチュア製作（韓国）に挑戦しました。オンラインのため、製作に必要な材料は事前に参加学生にウェルカムキットとして送付し、チームに分かれて、ミニビビンバ製作は KAIST、折り紙は東工大の参加学生が先生となり、レクチャーする形で進められました。オンラインプログラムでは一緒にご飯を食べて話をするというようなフリータイムがなかなかありません。プロジェクトや講義を離れたアクティビティで、同じ空間にいなくても、画面越しに、細かな作業を教え教わり、時に雑談を交えながら同じ作品を仕上げていく中で、親睦を深める貴重な時間となりました。



Japanese Cultural Activity: Origami Making Class



Korean Cultural Activity: [DIY] Mini Bibimbap Making Class

○Virtual Campus Tour of Tokyo Tech

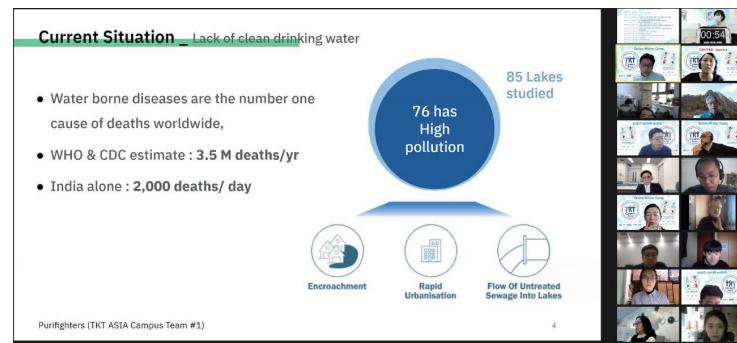
2日目のお昼時間を利用し、東工大からの参加学生によるバーチャルキャンバストゥアーが行われました。当初、東工大生が実際にキャンバス周辺を巡りながら生中継する予定でしたが、コロナによる緊急事態宣言のため来校ができず、急遽スタッフが撮影した学内の映像に合わせて、参加学生が生案内をする形で行われました。大岡山駅から正門を入り、Taki Plaza 横を抜けて図書館方面へ。ウッドデッキ、富士見坂、本館、食堂をぐるりと巡りました。冬には見られないウッドデッキの桜や銀杏並木は、季節の写真で紹介し、KAISTと清華大学の学生にキャンバスの様子を伝えました。次は実際にキャンバスに来てもらえますように。



東京工業大学の学生による Virtual Campus Tour of Tokyo Tech

○Team Project and Team Project Presentations

18名の参加学生がチームに分かれ、「17のSDGsの中から取り組むテーマを選び、問題提起、解決策、5年間ロードマップを提示する。さらに、必要な資金を想定し、クラウドファンディングの形でアウトプットする」というトピックでチームプロジェクトに取り組みました。三大学の学生の混合チームで、取り組むSDGsの選定、チーム名、解決策の考案、資金の計算、広報の方法、支援者へのリターン考案など、最終日のプレゼンテーションに臨むべく、すべてオンラインで準備を進めました。各チームには、キャンパス・アジア関係教員がメンターとして1名ずつ入り、チームが迷った時には熱くサポートし、チームプロジェクトの質をさらに押し上げました。3日間のうち、グループワークに使える時間は約6時間。限られた時間ながら素晴らしいまとめられた各チームのプレゼンテーションは、専用の評価フォームを使用し、三大学の教授、メンター、アドバイザーにより評価され、表彰が行われました。Winter Campは、参加学生全員がプログラムを修了し幕を閉じました。全員で撮影したグループフォトには笑顔が溢れています。



Team Project Presentation



Award Ceremony



Group Photo (CAMPUS Asia の "C"でポーズ)

○参加学生の声

 I think everything was good about the camp. Especially, I liked "Team Project". Thanks to the project, I could talk with students from KAIST and THU. It was what I really wanted to do.

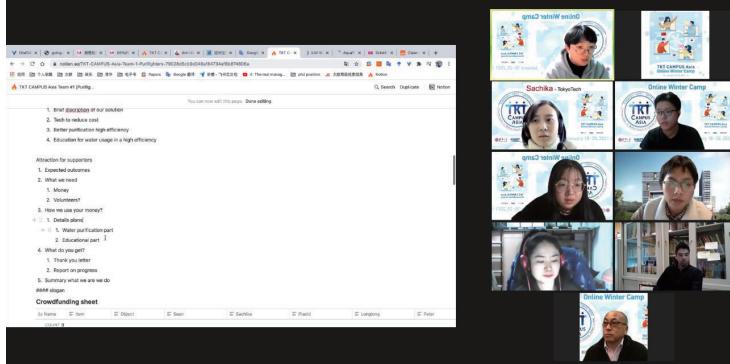
 The lectures were impressive, and we learned a lot from the team project. Cooperation with the team was also very good, despite us being separated.

 Informative lectures given by professor from different fields; and talented students from different cultures and universities. I've broaden my academic perspectives enormously and inspired a lot by the interdisciplinary thinking. Also, I've cooperated with all kinds of outstanding young people. It is amazing that they can still propose the most creative and impressive ideas even if under huge pressure and in such a short time. I've learnt a lot from these prodigies.

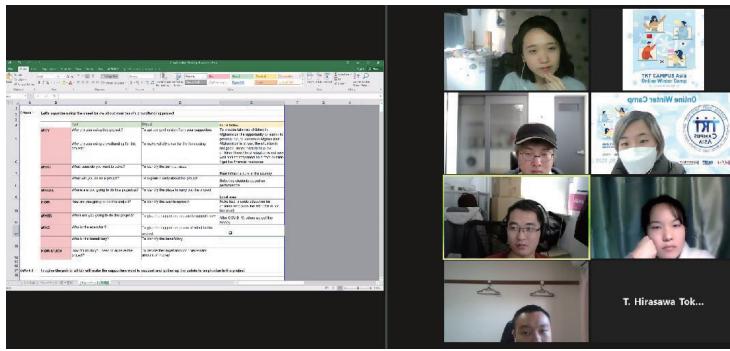
 In fact, I liked every part of the Winter Camp, especially the well-designed special lectures and culture activities.

 Despite being done online, all of the team projects went smoothly without any critical issues. I loved the cultural activity sessions because it provided us the chance to break the ice and get to know each other a bit better. Doing the cultural activities helped us to become more close and friendly. Special lecture inspired me and broaden my horizons a lot.

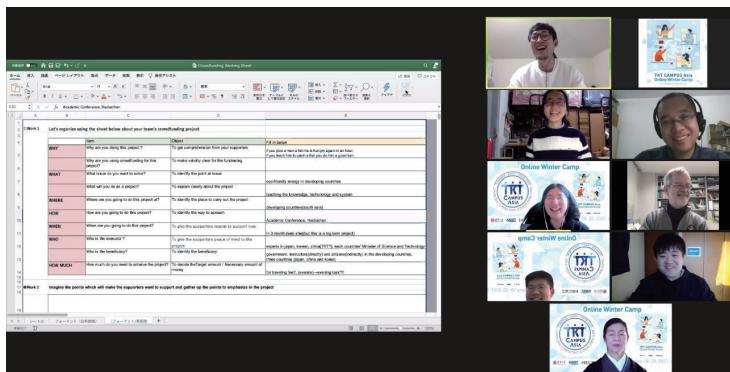
 Project targeting SDGs give me the first chance to finish a project plan with teammates, helping me understand humanity and technology in another perspective. Also, I really met great teammates and mentors.



Team 1 "Purifighters"



Team 2 "TOP"



Team 3 "EWB (Engineer Without Borders)"



参加学生全員がプログラムを修了



Certificate of Completion



Certificate of Achievement

Project Leaders of TKT CAMPUS Asia Consortium



Prof. KIM Shin-Hyun
(KAIST)



Prof. LI Meng
(清华大学)



Prof. HARA Masahiko
(東京工業大学)

Special Thanks to the Mentors and advisors

Mentors



Dr. Olaf KARTHAUS
Professor, Department of Applied
Chemistry and Bioscience,
Chitose Institute of Science and Technology, Japan



Dr. Maria Vanessa Cases
BALOIS
Innovative Photon Manipulation
Research Team, RIKEN Center for
Advanced Photonics, RIKEN, Japan



Dr. Yuhei HAYAMIZU
Associate Professor, School of
Materials and Chemical Technology
Tokyo Institute of Technology, Japan

Advisors



Dr. Haiwon LEE
Distinguished Professor,
Department of Chemistry,
Hanyang University, Republic of Korea



Dr. Masashi SHIRABE
Professor, Institute for Liberal Arts
(Scientometrics; Science and
Technology Studies),
Tokyo Institute of Technology, Japan



Dr. Yasunori AIZAWA
Associate Professor, School of Life
Science and Technology (Cell Biology),
Tokyo Institute of Technology, Japan

以上

- 1. 事業概要
- 2. 運営体制、予算
- 3. 学生の受入
- 4. 学生の派遣

5. コロナ禍での オンライン交流プログラム

- 6. 受入学生・派遣学生の交流
- 7. 21世紀型スキル教育への取組
- 8. 幹事校としての取り組み
- 9. 評価
- 10. フォトギャラリー

5-1 参加学生一覧

5-2 募集要項

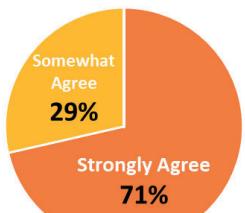
5-3 パンフレット

5-4 開催報告

5-5 参加学生アンケート結果まとめ

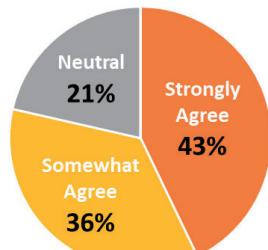
Student Feedback

1. Did TKT CAMPUS Asia Online Winter Camp meet your expectations?



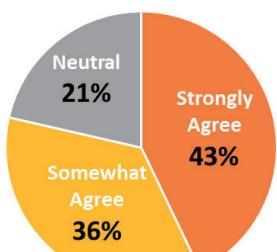
■ Strongly Agree ■ Somewhat Agree ■ Neutral ■ Somewhat Disagree ■ Strongly Disagree

2. I was satisfied with [Special Lecture 1].



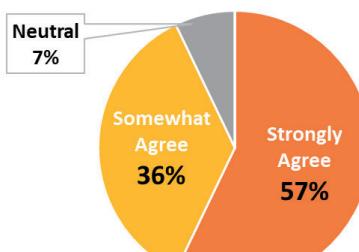
■ Strongly Agree ■ Somewhat Agree ■ Neutral ■ Somewhat Disagree ■ Strongly Disagree

3. I was satisfied with [Special Lecture 2].



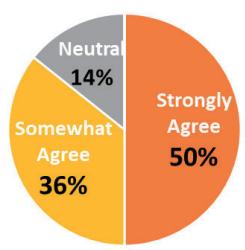
■ Strongly Agree ■ Somewhat Agree ■ Neutral ■ Somewhat Disagree ■ Strongly Disagree

4. I was satisfied with [Special Lecture 3].



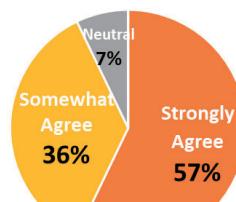
■ Strongly Agree ■ Somewhat Agree ■ Neutral ■ Somewhat Disagree ■ Strongly Disagree

5. I was satisfied with [Introductory Lecture to CSES and SDGs].



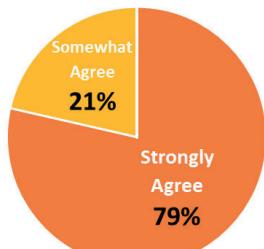
■ Strongly Agree ■ Somewhat Agree ■ Neutral ■ Somewhat Disagree ■ Strongly Disagree

6. I was satisfied with [Introductory Lecture to Crowdfunding].



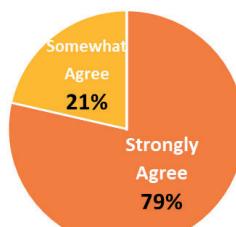
■ Strongly Agree ■ Somewhat Agree ■ Neutral ■ Somewhat Disagree ■ Strongly Disagree

7. I was satisfied with [Team Project].



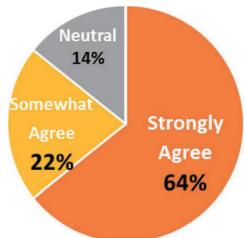
■ Strongly Agree ■ Somewhat Agree ■ Neutral ■ Somewhat Disagree ■ Strongly Disagree

8. I was satisfied with [Cultural Activity: Origami Making Class].

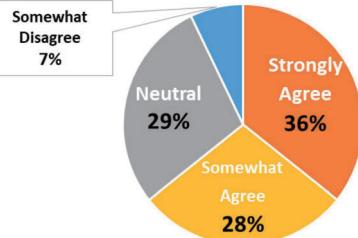


■ Strongly Agree ■ Somewhat Agree ■ Neutral ■ Somewhat Disagree ■ Strongly Disagree

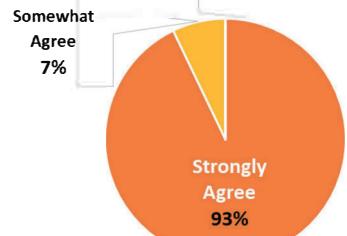
9. I was satisfied with [Cultural Activity: Mini Bibimbap Making Class].



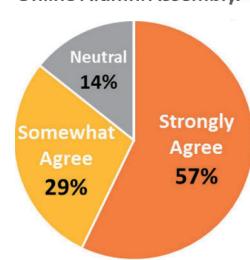
10. I was satisfied with [Virtual Campus Tour of Tokyo Tech].



11. Overall, I am pleased that I participated in the Winter Camp.



12. Overall, I am pleased that I participated in the Online Alumni Assembly.



(TKT CA Online Winter Camp 参加学生の声)

Testimonial Essay ~TKT CAMPUS Asia Online Winter Camp~

I enjoy this TKT CAMPUS Asian Winter Camp very much and I sincerely recommend it to you. The teachers prepared everything carefully from the early contact to the follow-up after the camp to ensure the colorful, fruitful and pleasant communication process. In addition to listening to cutting-edge lectures by knowledgeable Professors, each group had a mentor who participated in the whole discussion, giving us many inspirations. Although the schedule was tight, the teachers also arranged experiential activities such as origami and so on, which made me yearn for the culture of Japan and Korea more. What's more, I appreciated the etiquette and language expression of different countries in the communication with my partners and teammates. Looking back on my reasons for joining the TKT CAMPUS (learning more about Japanese culture and universities, practicing oral English, getting to know peers etc.), I think I have gained a lot.

(Boya DU, Tsinghua University)

In this hard time when traveling is severely discouraged, it's been quite surprising and pleasing to gain the opportunity to interact and make friends with students from other top universities in Asia. During the three-days of the online campus, I am impressed by interesting lectures, amusing cultural activities especially the Origami (I have been a big fan of it for a while~), and the virtual tour in Tokyo Tech (make it up for my canceled traveling plan last summer). But of all, the most exciting part is the teamwork on crowdfunding. Five of us got familiar with each other, decided the theme on the basis of team wisdom, searched information accordingly, and then finally assembled all the materials into one well-organized, convincing presentation to attract potential investments. And that's all been done in just 2 half days by 5 laymen through online communication. At first, it's hard, but as long as I keep going and remain confidence, though it's a little tough limited by the ways of communicating, but things gradually became friendly and clear in a nature way. Learn by doing and be confident, that's the wisdom I have learnt from the online campus.

(Ke ZHAN, Tsinghua University)

In the winter camp, I have learned about the AI technology, material science and global goals by UN. Based on these courses, I have expanded my horizons and improve my English Language. Apart from learning knowledges, I have also enjoyed the Japanese culture by learning Origami and got much help from the teachers in Tokyo Tech, especially Ms. Yukie. Thus, I think the winter camp is very successful in providing enough chances for students from Japan, Korea and China to exchange different cultures and learn advanced technologies online.

(Aoshuang DING, Tsinghua University)

It's my great honor to be engaged in Campus Asia program. Actually, it is my second time to join in this program. Last year I had a great time with friends from KAIST and Tokyo Tech. All the experiences have broadened my personal and academic perspectives enormously, such as attending informative lectures given by professors, working together with members from other cultures and so on. Prior to joining in this program, I have no idea that our peers could achieve so much. Some of them are good at English, Chinese, Japanese or Korean at the same time. Some of them have the most creative and impressive ideas on frontiers of science even if they are undergraduates. I've gained a lot through the communication and cooperation with these prodigies.

Even though we were separated by the COVID-19, the online camp was still perfect and amazing. Circumstance permitting, I would like to apply for this program once again. Please do come and join in Campus Asia program if you have the chance. I'm sure it will be the last thing you would ever regret about.

(Xinyi PAN, Tsinghua University)

1. 事業概要
2. 運営体制、予算
3. 学生の受入
4. 学生の派遣
5. コロナ禍での
オンライン交流プログラム

6. 受入学生・派遣学生の交流

7. 21世紀型スキル教育への取組
8. 幹事校としての取り組み
9. 評価
10. フォトギャラリー

6-1 Summer School 研修旅行
パンフレット

6-2 Joint Educational Program
ランチ交流会 開催報告

6-3 TKT CAMPUS Asia
Online Alumni Assembly
ポスター、参加学生の声



Trip to Hakone (June 30 – July 1)

CAMPUS Asia Summer School 2018



Hakone Shrine



The Old Tokaido Road

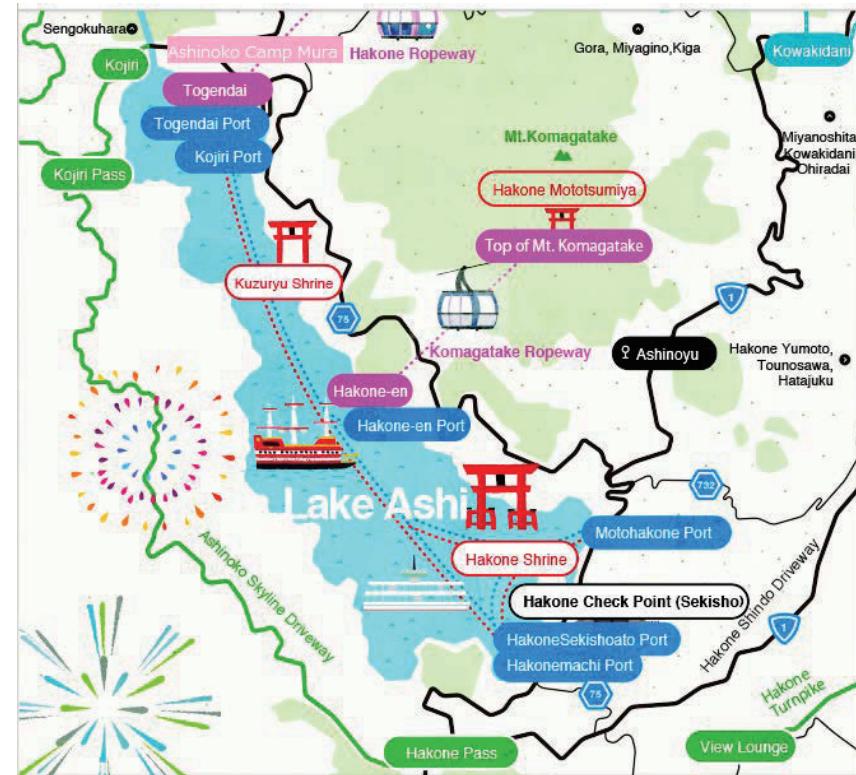


Hakone Sekisho (Hakone Checkpoint)



Onshi-Hakone-Koen Park

About Hakone and Lake Ashi



The Lake Ashi was originally formed as a crater lake about 400,000 years ago. Almost all hotels in this area insure views of Lake Ashi. There are also a lot of historical sites., namely Hakone Sekisho (Hakone Check Point), Hakone Jinja Shrine, the remains of an imperial detached places and Cedar Avenue. Ashinoyu Onsen is a quiet hot spring area at the foot of Mt. Komagatake. It is located along Hakone Kyukaido Road. The area has many obvious traces of past history with various historical sites throughout.

[CAMPUS Asia Summer School] Itinerary for the trip to Hakone

Date	Time	Schedule	Remarks
June 30th Sat	8:45	Meet-up: West Bldg. 9 at Ookayama Campus	<p>In case of Emergency: call: 090 2930 3829 (Yukie Watanabe) 090 6433 8105 (Yoko Handa)</p> <p>The trip includes the followings:</p> <ul style="list-style-type: none"> -Chartered bus -Group admission fee for Komagatake Ropeway -Meals (6/30 dinner, 7/1 breakfast) -Accommodation <p>The trip does NOT include:</p> <ul style="list-style-type: none"> -Lunch on 6/30, 7/1 <p>Stay at: Fun space Ashinoko Camp Mura Lake-Side Villa 164 Motohakone, Hakonecho, Ashigarashimogun, Kanagawa-ken Tel: 0460-84-8279</p>    
July 1st Sun	7:30-9:00	Breakfast	
	9:30	CSES Workshop starts	
	11:00	CSES Workshop ends	
	11:05	Bus departs	
	11:30	Arrival in Motohakone	
		Lunch (on your own)	
	12:30	Excursion starts	
		Hakone Sekisho(checkpoint), Onshi-Hakone-Koen Park, Hakone shrine, The Old Tokaido Road.	
	16:30	Excursion ends	
	16:35	Bus departs	
	19:00	Arrival in Ookayama Campus	
		Dismissal	
			*Arrival time is subject to change depending on the traffic

Please make sure to;
Meet us in front of West Bldg.9
(Ookayama Campus) by 8:45am

The bus will be leaving at 9:00)

- Bring cash for lunch.

Stay at: Fun space Ashinoko Camp Mura Lake-Side Villa
<https://www.hakone.or.jp/en/254>

Amenities: Face towel, two-in-one shampoo, body soap.
 (You can borrow a hair dryer at the counter, but the number is limited.)

Things to bring:

Bath towel, shampoo & conditioner (if you have your favorite ones), toothbrush, toothpaste, pajamas.

Shoes:

Wear sneakers or flat shoes that cover your toes (DO NOT WEAR sandals/slippers).

Transportation to Hakone:

Will head for Hakone by bus on June 30. It will take about 2.5 to 3 hours and includes some winding roads. If you think you get motion sickness easily, we recommend you to bring medicines for it.

Weather and temperature in Hakone:

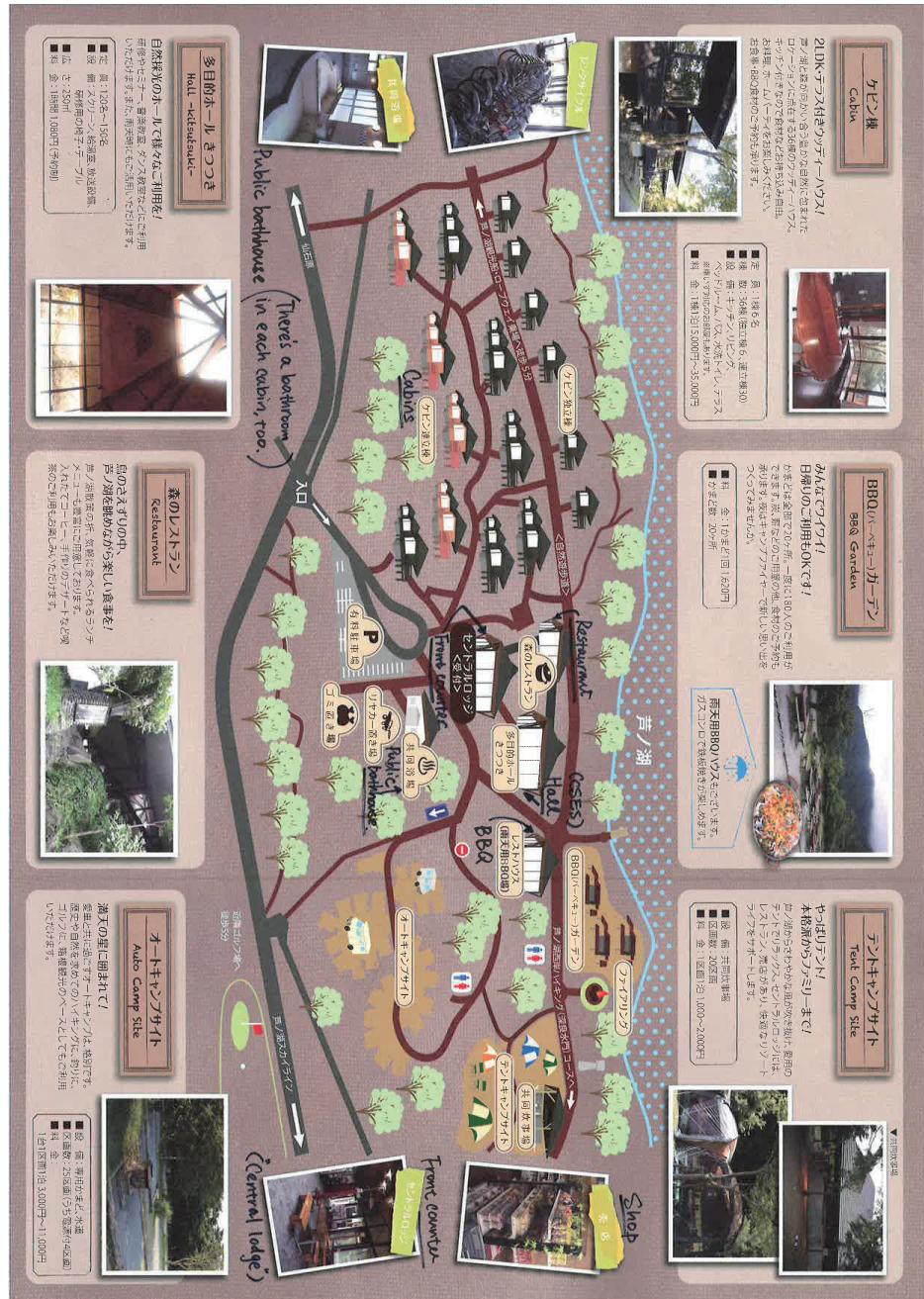
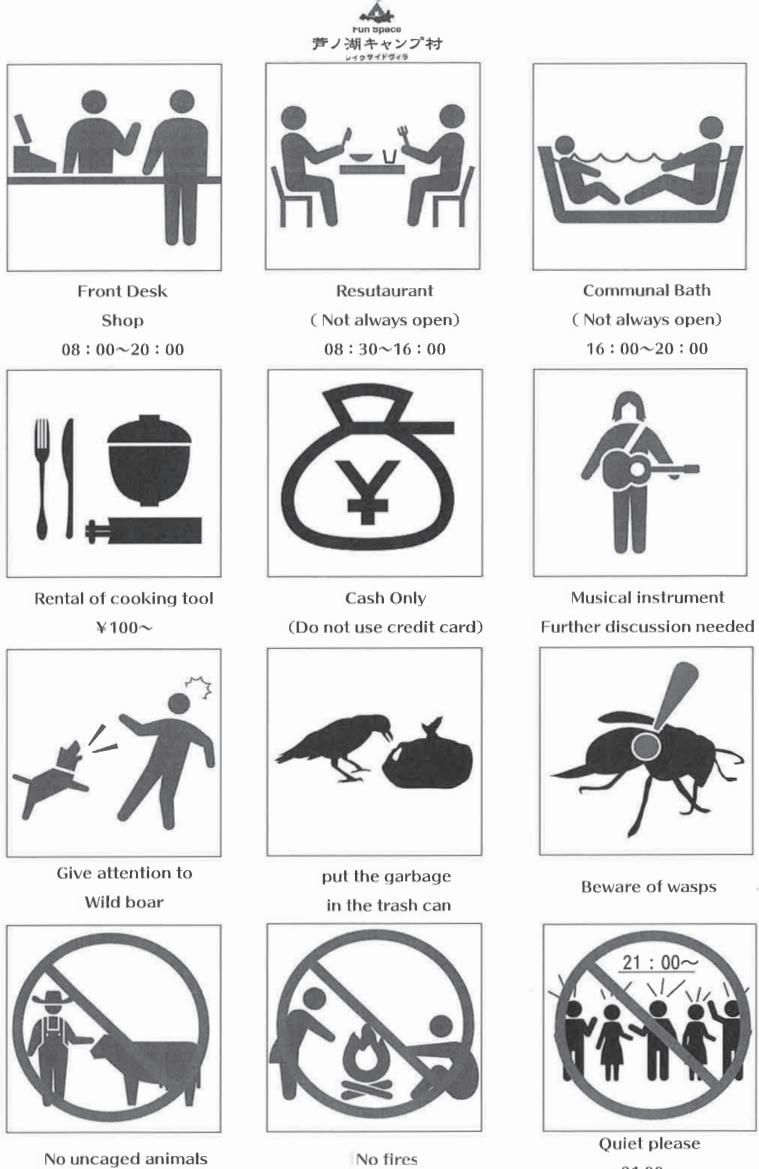
5 degrees cooler than Tokyo. <https://explore-hakone.com/hakone-info/temperature/>

CAMPUS Asia Participants and Tokyo Tech Supporters :

Seven Tokyo Tech students are coming to the camp as supporters!

Please refer to the participants list for the CAMPUS Asia participants and supporters.

House Rules
Fun space Ashinoko Camp Mura Lake-Side Villa





Trip to Kamakura 鎌倉

CAMPUS Asia Summer School 2019
July 6 – July 7, 2019



About KAMAKURA

p.1

Outline of the region

Which city comes to mind when you think of Japan - Tokyo, Osaka, Kyoto or Nara? Relaxing, peaceful Kamakura is located just near Tokyo. Kamakura, one of the oldest cities in Japan, has a warm climate and offers tourist attractions similar to those in Nara and Kyoto. Moreover, Kamakura is located next to Enoshima, one of the sites of the 2020 Olympics and Paralympics. Abundant seafood from the Pacific Ocean and fresh Kamakura vegetables are available across the city. Surrounded by mountains on three sides and facing the sea on one side, Kamakura also offers a harmonious blend of mountains, the sea and historical culture.

History and culture

Kamakura is an ancient city that has produced its own, original culture. Once it was a political capital along with Nara and Kyoto, and was also the birthplace of Japan's first samurai government, the "Kamakura shogunate."

Kamakura began flourishing as a temple town in the 17th century. From the 19th century, it became popular for beaches, resort areas, and residential districts. Kawabata Yasunari, a writer who was awarded the Nobel Prize for Literature, lived and wrote many works in Kamakura. Blessed with the natural beauty of the ocean and surrounding green hills, Kamakura today attracts a large number of tourists.

Map of Kamakura





宝戒寺 Hokaiji



Optional

報國寺 Houkokuji temple

One of the Zen temple famous for beautiful bamboo garden. Established in 1334 to commemorate Ashikaga Shogun.



長谷寺 Hase dera



In 736 AD, the Hasedera temple was established to enshrine the Kannon statue. "Eleven-headed Kannon" measured 9.18 m tall is one of the largest wooden Buddhist statues in Japan. Hasedera is famous for flowers throughout the year. Especially Hydrangea is very popular. You can have a nice view of the pacific sea from the temple's observatory.

净妙寺 Jomyoji temple



This temple was founded in 1188. Ranked fifth among the five great Zen temples of Kamakura. You can enjoy a traditional green tea with a beautiful Japanese rock garden at a teahouse.

Kikori shokudou



WeBase Kamakura



The Brief History of Hokaiji

This temple belongs to the Tendai school of Buddhism and is named Kinryuzan – Shakumanin – Endon – Hokaiji. Hokaiji was constructed in 1335 by order of Emperor Godaigo (1288-1339) , and founded by priest Enkan·Echin·Jii (1281-1356) , preceptor of five emperors.

This site was where the Komachi residence of the Hojos , for nine generations to Takatoki Hojo , had been located until this regent family of the Kamakura government fell in May , 1333.

Emperor Godaigo ordered Takaaji Ashikaga to build this temple in order for the repose of deceased Hojos.

Jii held a Kaidanin here , a school of the Lotus doctrine , the Tendai esoteric Buddhism , the Zen meditation. the Hahyana precept and Vinaya practices. The Kaidanin was well known as one of the four scattered in the country – three others were in Yakushiji of Kaga – Hakusan , Tomyoji of Iyo and Chinkoji of Tsukushi.

Yuiken , who succeeded Jii , enshrined a Kankitenson – Buddhist image of harmony . He also developed learning methods at the Kaidanin and prayed exclusively for peace of the country.

In 1538 , all the edifices burned down . Tenkai , founder of Kaneiji , requested Shogun Ieyasu Tokugawa in the beginning of the Edo era that Hokaiji being an important temple of the Tendai school in the eastern part of the country should be officially supported and maintained .

At present , Hokaiji continues to play its important role of being a place for learning the Buddhist teachings .

To Our Visitors



Main hall is open to visitors. Take the hats off and join your hands in prayer silently. If you have a backpack, hold it in your arms. Photography and video recording are prohibited inside the main hall.

Please make sure to;

- **Meet us by 8:45am, July 6 (Saturday)**
- **Inside the ticket gate of Ookayama station.**

Bring PASMO (CHARGED) and cash for lunch for two days.

Do not go out of the ticket gate!

Accommodation:

Community Hostel WeBase KAMAKURA

<http://we-base.jp/kamakura/?lang=en>

Amenities:

Bath towels and slippers are provided for each person. For amenities such as toothbrush, hairbrush, earplug, razor, skin care products, etc., you can buy at the front desk. You can use shampoo, conditioner and body soap which are equipped in common bathroom and shower room.

<http://we-base.jp/kamakura/en/facility.html>

Transportation to Kamakura:

We will take trains together from Ookayama station to Kamakura area.

Shoes:

Wear sneakers or flat shoes that cover your toes (You can bring sandals to walk on the beach).

Zen meditation at Hokaiji temple/ Tea Ceremony at Jomyoji temple:

There will be no air-conditioner in both temples. Please wear comfortable clothes, not too tight to keep sitting in a posture. No short pants or tank tops.

CAMPUS Asia Participants and Tokyo Tech Supporters :

Five Tokyo Tech students are coming to the trip as supporters!

Please refer to the participants list for the CAMPUS Asia participants and supporters.

The trip includes the followings:

- Admission fee for Hase dera Temple, Kotokuin Temple, zen meditation at Hokaiji Temple, and tea ceremony at Jomyoji Temple. (Hokokuji Temple is optional.)
- Meals (dinner on July 6, breakfast on July 7)
- Accommodation

The trip does NOT include:

- Lunch on July 6 and July 7, transportation fee.

Japan Transit Planner

O-Okayama - Hase(Kanagawa)		07/06/2019 09:00 Depart
Route 1	09:05 → 10:16	Time 1 hr 11 min Ticket 780 yen
MG 06	O-Okayama	
	Ticket / 250 yen (For Yokohama)	
MG Private Railway		
MG 13	Tokyu Meguro Line Express (For Hiyoshi)	11min
	Transfer	
TY 13	09:16 Hiyoshi(Kanagawa)	
	TY Private Railway	
TY 13	09:18 Hiyoshi(Kanagawa)	12min
	TY Private Railway	
TY 21	Tokyu-Toyoko Line Express (For Motomachi-Chukagai)	
	Transfer	
JO 21	09:30 Yokohama	12min
	JO Transfer	
JO 13	09:44 Yokohama	24min
	JO Ticket / 340 yen (For Kamakura)	
JO JR		
JO 07	Yokosuka Line (For Kurihama)	
	Transfer	
JO 15	10:08 Kamakura	4min
	JO Ticket / 190 yen (For Hase(Kanagawa))	
EN Private Railway		
EN 12	Enoshima Dentetsu Line (For Fujisawa)	4min
	Transfer	
EN 12	10:16 Hase(Kanagawa)	

Copyright (c) Jorudan Co., Ltd.



1. 事業概要
2. 運営体制、予算
3. 学生の受入
4. 学生の派遣
5. コロナ禍での
オンライン交流プログラム

6. 受入学生

7. 21世紀型スキル教育への取組
8. 幹事校としての取り組み
9. 評価
10. フォトギャラリー

・派遣学生の交流

6-1 Summer School 研修旅行
パンフレット

6-2 Joint Educational Program
ランチ交流会 開催報告

6-3 TKT CAMPUS Asia
Online Alumni Assembly
ポスター、参加学生の声

日中韓ランチ交流会 開催報告

いいね！ 41

シェア

ツイート

[国際交流](#)[開催報告](#) RSS

公開日: 2018.01.17

2017年12月25日、大岡山キャンパス 大岡山西1号館1階ラウンジで日中韓ランチ交流会を開催しました。このランチ交流会は、キャンパス・アジアプログラムにより韓国のKAIST（韓国科学技術院）と中国の清华大学から本学に短期留学をしている留学生と、同大学への派遣経験者および派遣予定者が交流する目的で企画したものです。

当日は、東工大生10名、留学生10名の計20名が参加し、各自ランチを持参して、お互いの情報交換の場として活発な交流を行いました。



キャンパス・アジアプログラム構想責任者の原正彦教授による参加者紹介



日中韓ランチ交流会の様子

キャンパス・アジアプログラムは、文部科学省「大学の世界展開力強化事業」の支援を受けて実施する、留学生の受け入れと東工大生の派遣を行うプログラムです。中国の清华大学・韓国のKAIST・本学が連携して、留学生を受け入れ、同時に東工大生を派遣します。

キャンパス・アジアプログラム派遣には、以下のプログラムがあります。

KAISTへの派遣（世界大学ランキング2018 QS41位 THE95位）

研究型: 学士課程3年目以降博士後期課程までの学生が、KAISTにおいて1ヶ月以上1セメスターの期間、研究を中心とした留学をするプログラム

授業型: 学士課程3年目以降から博士後期課程までの学生が、KAISTにおいて1セメスターの期間、授業を中心とした留学をするプログラム

サマースクール: 学士課程2年目以降の学生が夏休み期間を利用して、授業受講または研究をするプログラム

清华大学への派遣（世界大学ランキング2018 QS25位 THE30位）

研究型: 学士課程3年目以降博士後期課程までの学生が、清华大学において3ヶ月以上1セメスターの期間、研究を中心とした留学をするプログラム

授業型: 学士課程3年目以降から博士後期課程までの学生が、清华大学において1セメスターの期間、授業を中心とした留学をするプログラム

参加学生からのコメント

竹之下眞央子さん（東京工業大学 生命理工学部 生命科学科 3年）

私は2017年夏、研究型プログラム（Research Oriented Program）で韓国のKAISTに留学しました。このプログラムに応募するまでは、欧米の国々を巡るばかりで、日本以外のアジアを訪れる機会はありませんでした。今回、韓国への留学を決意したのは、新しい世界に飛び込み、韓国やアジアに対する理解を深めたいと思ったからです。また、留学生や海外の友人たちと出会うなかで、多様な環境に身を置き、広い視野を持って世界を知ることの大切さを学んできました。

交流会では、KAISTで出会った友人と再会することができ、日中韓の新しい友達も増えました。KAISTに留学していた台湾の友人も、サプライズで日本へ遊びに来てくれ、本当に嬉しかったです。アジアの人々とのコネクションがさらに広がり、強まりました。

今回の留学を通して、自ら道を切り拓いていくことの大切さ、新たな一步を踏み出す勇気、そして新しい仲間や環境に出会う楽しさを学びました。ここで得た経験は、今後の学生生活や人生をより豊かにし、かけがえのない財産となると思います。これからも人々との絆を大切にし、学業にもより一層励んでいきたいと思います。

ソン・ムジンさん（韓国KAISTからの留学生）

東工大への留学を選んだ理由は、韓国と距離が近く、文化も似ている日本の科学研究が知りたいという気持ちがありました。日本有数の理工系大学である東工大の研究室に直接留学ができる、経済的な支援が充実しているキャンパス

ス・アジアプログラムの研究型プログラム(Research Oriented Program)に参加しました。このプログラムに参加する以前に、同じキャンパス・アジアプログラムで私の大学(KAIST)に留学していた、東工大の竹之下さんと渋谷さんに会つたことがあります。僕は、KAISTで留学生の生活面などを支援する「バディ」として、竹之下さんと渋谷さんと一緒にバディプログラムの旅行に参加したり、韓国料理を食べたりするなどして仲良になりました。その後、今回のランチ交流会で2人と再会することができました。韓国で「また会いたいですね」と言ったことが実現し、ついに会えた時には本当にうれしかったです。

日本と韓国の学生が留学を通じて友達になれるのは本当にいい機会だと思います。今後も竹之下さん、渋谷さんや日本で会った学生たちと交流を続け、研究も熱心に進め、最高の留学にしたいと思います。



左から竹之下さん、ムジュンさん、渋谷さん



国立台湾大学留学生2名との喜びの再会

左から渋谷さん、国立台湾大学留学生2名、

竹之下さん、KAIST留学生

今回の交流会は、昼休みを利用した1時間という短い時間でしたが、双方の学生らによる積極的な交流が続き、終了の時間になっても帰ることなく、名残惜しそうにする学生の姿がみられました。学生からは、「久しぶりの再会で懐かしい気持ちになった」といった声や、派遣を探している学生からは「とても親切な現地学生との交流により、派遣がますます楽しみになった」など、様々な感想を聞くことができました。最後にはお互いの連絡先を交換し、また、KAISTからの留学生が中心となつてSNSグループを作り、より一層、交流を深めようとしていました。

キャンパス・アジアプログラムでは、今後も学生交流の機会を作っていく予定です。



原正彦教授との集合写真

[TKT CAMPUS Asiaウェブサイト](#)

お問い合わせ先
学務部留学生交流課
E-mail : campusasia@jim.titech.ac.jp
Tel : 03-5734-3785

1. 事業概要
2. 運営体制、予算
3. 学生の受入
4. 学生の派遣
5. コロナ禍での
オンライン交流プログラム

6. 受入学生

7. 21世紀型スキル教育への取組
8. 幹事校としての取り組み
9. 評価
10. フォトギャラリー

・派遣学生の交流

6-1 Summer School 研修旅行
パンフレット

6-2 Joint Educational Program
ランチ交流会 開催報告

6-3 TKT CAMPUS Asia
Online Alumni Assembly
ポスター、参加学生の声

TKT CAMPUS Asia

Online Alumni Assembly

Student presentations, Free communication time

Date: January 20, 2021 (Wed.)

Time: 15:30-17:00 (KST/JST)
14:30-16:00 (CST)

Registration deadline: **December 15, 2020**

Please click the link below and complete the form.

<https://reas3.ouj.ac.jp/reas/q/68313>

Organizer: Tokyo Institute of Technology
Co-organizers: Tsinghua University, KAIST

TKT CAMPUS Asia

Online Alumni Assembly

Agenda

Date: 15:30-17:00 (KST/JST) 14:30-16:00 (CST) <by Zoom>
Participants : CAMPUS Asia Alumni students, TKT Project leaders, TKT Program staff

15:00-15:30 Registration

15:30 Opening Remarks

Project Leaders of Advanced TKT CAMPUS Asia Consortium
Prof. Meng LI (Tsinghua University, China)
Prof. Shin-Hyun KIM (KAIST, Republic of Korea)
Prof. Masahiko HARA (Tokyo Institute of Technology, Japan)

15:40-16:15 Student Presentations (5 min: 6 students)

<Presenters>

From THU to TIT: Xiao HE (Tokyo Tech Summer Program 2017) *pre-recorded
From TIT to KAIST: Maoko TAKENOSHITA (KAIST Fall Research-Oriented Program 2017)
From KAIST to THU/TIT: Taehyeong NOH (Tsinghua Semester Program 2018 / Tokyo Tech JEP 2017)
From THU to KAIST: Dandan SHEN (KAIST Summer Program 2018)
From TIT to THU: Hiroshi HARA (Tsinghua Semester Program 2014-2015)
From KAIST to TIT and DD: Woo Seok JUNG (Tokyo Tech Summer School 2018, DD 2019)

16:15-16:55 Free Communication Time

16:55 Closing Remarks

Prof. Masahiko HARA (Tokyo Institute of Technology, Japan)

Group Photo

17:00 End of the Assembly

Comments from Students ~TKT CAMPUS Asia Online Alumni Assembly~

I liked how we were able to **hear presentations about what some of the alumni are doing after finishing the program.** I also liked how we got some communication time to talk to each other! (KAIST student)

The sharing and chatting with alumni showed me the possibility of people in my age and make me look forward to the coming summer research journey I may participate in. (Tsinghua student)

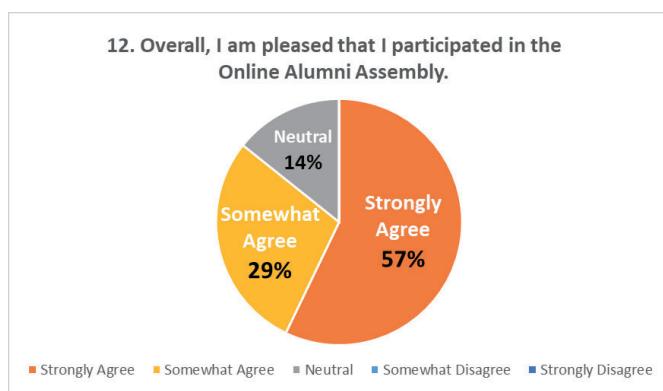
I could talk with students from KAIST and THU. It was what I really wanted to do. It was to be able to **talk with the senior members.** (Tokyo Tech student)

The only program that I knew which is held by TKT campus Asia was winter camp, but I **learned that there's many other informative and rewarding program.** (KAIST student)

I liked the **story sharing parts** and they were very impressive. (Tsinghua student)

It was really impressive. **I have no idea that our peers could achieve so much before I attended in this Alumni Assembly.** I'm really happy to communicate with and learn from them. (Tsinghua student)

Good to know the stories of participants in the past years, and it's good to have a look at the camp offline. (Tsinghua student)



1. 事業概要
2. 運営体制、予算
3. 学生の受入
4. 学生の派遣
5. コロナ禍での
オンライン交流プログラム
6. 受入学生・派遣学生の交流

7. 21世紀型スキル教育への取組

8. 幹事校としての取り組み
9. 評価
10. フォトギャラリー

7-1 21世紀型スキル教育セミナー
ポスター

7-2 21世紀型スキル教育セミナー
開催報告

7-3 Global Competence Workshop
at Tsinghua University
アジェンダ

キャンパス・アジア・プログラム レクチャーシリーズ#1

Literacy

2/13(月)
10:30-15:30
一部のみの参加も可

21世紀型スキルセミナー



Competencyって何？から伝えるレクチャーシリーズ第一弾。
コミュニケーションスキルを専門とする経験豊かなお二人の講師を迎えてお贈りします。ぜひご参加ください。(Lectures in English)

レクチャーホール会場：H103（大岡山キャンパス本館）

交流ランチ会も開催！（12:15-13:45）会場：生協第一食堂2階



Lecture 1 (10:30-12:00) Lecturer: Mr. David W. Fingerote

Title: **Critical Thinking & Implementation Strategies**

Work Experience:

- International Freelance Educational Consultant · ELS Language Centers
- Malaysian Ministry of Education (SMR ELT) - Perak, Malaysia
- Korean International School Philippines - Manila, Philippines
- E.P.I.K. Certified Teacher - Cheongju, South Korea



Lecture 2 (14:00-15:30) Lecturer: Mr. Matthew Melville

Title: **Negotiating Difficulties and Moving Forward**

Work Experience:

- BBC Radio, London.
Responsible for researching and producing radio programs and documentaries.
- Senior Linguistic Consultant for various companies such as Mitsui Corporation.
- Qualified IELTS examiner for both speaking and written tests.
- Senior Copy Consultant for the Aquarius water brand (a subsidiary of Coca Cola).
- Senior Brand Consultant for Henry Poole Bespoke Tailoring.

キャンパス・アジアでは、最先端科学技術の素養とグローバルな視点を持つだけではなく
コミュニケーション力、チームワーク力、創造的思考と問題解決力など、最先端の科学技術
を基礎として、**個の力を社会に活かせる総合力**を持つことが重要だと考えています。

ぜひこのセミナーを、**Competency**を身に付ける、第一歩としてもらえればと思います。
キャンパス・アジア・プログラム主査 原 正彦（物質理工学院・教授）



参加希望はこちらまで☞ campusasia@jim.titech.ac.jp

キャンパス・アジア プログラム レクチャーシリーズ#3

21世紀型スキルセミナー

3/21(火)

14:30-16:00

一部のみの参加も可

会場：大岡山キャンパス南6号館409A
(テレビ会議室)

職員のための 英語コミュニケーション スキルアップセミナー

21世紀型スキルレクチャーシリーズ第三弾は、留学生対応や留学コーディネートを担当する職員を対象に、シチュエーションごとのEveryday Communicationをメインテーマに開催します。また、サブテーマとして、メールでの実践的コミュニケーションについても教えていただきます。ぜひご参加ください。(Lectures in English)



Lecturer: Mr. Matthew Melville (beo)

Work Experience:

- BBC Radio, London.
Responsible for researching and producing radio programs and documentaries.
- Senior Linguistic Consultant for various companies such as Mitsui Corporation.
- Qualified IELTS examiner for both speaking and written tests.
- Senior Copy Consultant for the Aquarius water brand (a subsidiary of Coca Cola).
- Senior Brand Consultant for Henry Poole Bespoke Tailoring.

主な内容（予定）

メインテーマ：大学でのシチュエーションをベースに、留学生対応の様々なタイプ（フォーマル・インフォーマル、適切なトーンや言葉の選択など）について学びます。

サブテーマ：メールでのコミュニケーションについて、実際の業務の中で感じる を事前に募り、講師による解説をします。また、「簡潔かつ早くレスポンスが得られるメールのポイント」など、実践的なスキルについて学びます。

参加希望はこちらまで☞ campusasia@jim.titech.ac.jp

21st Century Skills Seminar # 5

Literacy & Competency

Jan.16 (TUE.) 11:30-15:00 ELSI Hall



What is competency? What are 21st century skills?

Why do we need communication skills as a scientist or engineer?

Venue: ELSI Hall, 1F, ELSI-1 Bldg. (Ishikawadai Bldg. 7), Okayama Campus

Registration: Please register by email campusasia@jim.titech.ac.jp

(Please also cc your academic supervisor if you belong to a laboratory for us to make sure s/he has approved your participation in this seminar.)



11:30-12:00 Prof. Masahiko Hara(Tokyo Tech)

Research Scientist at RIKEN (1985) and has served as Deputy Head of Exotic Nano-Materials (1991-99), Head of Local Spatio-Temporal Functions (1999-2007) and Emergent (Flucto-Order) Functions (2007-13) Laboratories, and Director of RIKEN-HYU Collaboration Research Center in Seoul, Korea (2009-13). Now professor of Materials and Chemical Technology and Chemical Evolution Lab Unit at Earth-Life Science Institute, Adjunct Professor of Hanyang University, Korea, and Senior Visiting Scientist of Global Research Cluster, RIKEN.



13:30-15:00 Mr. Matthew Melville (beo)

Work Experience:

- BBC Radio, London. Responsible for researching and producing radio programs.
- Senior Linguistic Consultant for various companies such as Mitsui Corporation.
- Qualified IELTS examiner for both speaking and written tests.
- Senior Copy Consultant for the Aquarius water brand (a subsidiary of Coca Cola).
- Senior Brand Consultant for Henry Poole Bespoke Tailoring.

Our project aims to nurture internationally competitive human resources. As future leaders in Asia and the global community, these students will develop the specialized knowledge and 21st Century Skills to contribute scientific and technological solutions to global issues.
(Project leader: Professor Masahiko Hara)

21st Century Skills Seminar # 6 By TKT CAMPUS Asia Program



サイマル現役プロ通訳者が教える

大学職員のための 英語窓口対応セミナー



●日程：3月1日（木） 初級クラス 14:00-16:00 (2時間)

3月8日（木） 中級クラス 14:00-16:00 (2時間)

●会場：大岡山キャンパス南6号館4階 409A (テレビ会議室)

●定員：各回10名 ※先着順

●対象：東工大職員（常勤・非常勤【教務支援員、事務支援員】）※留学生対応業務に従事していないなくても

大丈夫です。

●推奨レベル：初級クラス TOEIC600点～750点未満

中級クラス TOEIC750点～900点程度

●講師：日本人講師

●使用教材：サイマルオリジナル教材

●セミナーの流れ

「パラフレージング（言い換え）」演習を行い、シンプルで的確に表現するためのコツを学習します。外国人学生対応で使えるUseful Expressionや多文化で集う際のマナーや注意点を学習した後、英語での窓口対応を想定したロールプレイ演習を行います。

【学習内容例】

●聞き手に的確に伝えるための「パラフレージング」

情報や意見を「直訳」していませんか？単純に直訳した文章は、たとえ文法・語彙が正しくとも相手に的確に伝わっているとは限りません。文章や単語を、別の言葉で言い換えることを「パラフレージング」といいます。「パラフレージング」を使用し、複雑な情報を端的にわかりやすく表現する演習を行います。このトレーニングにより情報や意見を的確に発信する力を身に付けます。

●Useful Expressionsの学習

留学生窓口対応の様々な状況で使用するフレーズを学びます。また、相手に感謝などの感情を伝える表現テクニック、多文化の参加者が集う際の注意点なども学習します。

●模擬留学生窓口対応ロールプレイ演習

学習した内容をふまえ、留学生窓口対応を想定したロールプレイ演習を行います。

参加申込み切：2月21日（水）12:00（正午）※先着順

参加希望はこちらまで✉ campusasia@jim.titech.ac.jp

氏名、所属、参加希望のクラス（初級・中級）を明記の上お申し込みください。
メール件名は「英語研修参加希望」としてください。

主催：学務部留学生交流課キャンパスアジア事務局

21st Century Skills Seminar # 8

Literacy & Competency

Jan.16 (WED.) 15:00-16:30 @S224



By TKT CAMPUS Asia Program

What is competency? What are 21st century skills?

Why do we need communication skills as a scientist or engineer?

Date: 15:00-16:30 January 16 (Wed.) , 2019

Venue: S224, 2F, South Bldg. 2, Okayama Campus

Language: English

Registration: Register by email. campusasia@jim.titech.ac.jp

(Please also cc your academic supervisor if you belong to a laboratory for us to make sure s/he has approved your participation in this seminar.)

Admission free



Title: Living in 21 Century of Exponential Change

Lecturer: Naoko Yanagihara

Profile

Culture and Communication Consultant

Worked for Huawei (2014 – 2018) and Intel (1999 – 2013) as a CSR manager to help develop talents in 21st century where technology brings tremendous change.



Our project aims to nurture internationally competitive human resources. As future leaders in Asia and the global community, these students will develop the specialized knowledge and 21st Century Skills to contribute scientific and technological solutions to global issues.

[TKT CAMPUS Asia Program Project leader: Professor Masahiko Hara]

1. 事業概要
2. 運営体制、予算
3. 学生の受入
4. 学生の派遣
5. コロナ禍での
オンライン交流プログラム
6. 受入学生・派遣学生の交流

7. 21世紀型スキル教育への取組

8. 幹事校としての取り組み
9. 評価
10. フォトギャラリー

7-1 21世紀型スキル教育セミナー
ポスター

7-2 21世紀型スキル教育セミナー
開催報告

7-3 Global Competence Workshop
at Tsinghua University
アジェンダ

CAMPUS Asia 21st Century Skills Seminar

On February 13, 2017, a 21st Century Skills Seminar was held at the Okayama Campus and 36 students and two staff participated. Not only CAMPUS Asia students from KAIST and Tsinghua University studying at Tokyo Tech, but also Tokyo Tech students who have previously participated or will participate in the outbound program. Moreover, Tokyo Tech students who are interested in communication skills attended the seminar, too. We have invited two lectures, Mr. David W. Fingerote and Mr. Matthew Melville from beo.

The morning lecture by Mr. Fingerote focused on effective office communications, conflict resolution, negotiation skills, and an overarching awareness of the many variations of professional-cultures experienced worldwide. He also referred to the importance of professional journaling, which allows us to look back and explore ourselves on what happened today and share the ideas in our heads.

After having "Communication Lunch" together, Mr. Melville gave a seminar workshop in the afternoon. Students worked in groups and discussed on given themes such as "What makes you difficult to communicate in English?" "What does language fluency really mean?" Students thought, shared ideas and learned how to communicate in English better.



CAMPUS Asia 21st Century Skills Seminar

2017年2月13日に大岡山キャンパスにて、株式会社 beo から David W. Fingerote 先生と Matthew Melville 先生を迎えて、21世紀型スキル教育セミナーが開催されました。本セミナーには、現在キャンパス・アジアプログラムで東工大に留学中の KAIST 及び清华大学の学生、過去に本プログラムで留学した、もしくは留学予定の東工大生、コミュニケーションスキルの向上に興味を持つ東工大生および教職員 36名が参加しました。

午前中は Fingerote 先生が職場での効果的なコミュニケーションや問題解決術、交渉術、そして世界中の様々な professional cultures についてレクチャーを行いました。また、その日一日の取組を振り返る "Professional journaling" の

2015年11月20日（金）大岡山キャンパスにて、本学におけるキャンパス・アジアの構想責任者である原正彦教授によるキャリア形成セミナーが開催されました。過去にキャンパス・アジアプログラムに参加した東工大生、現在東工大に来ている KAIST 及び清华大学の学生、そしてチューターの学生を含め 7名の学生が参加しました。

大学・大学院卒業後、様々なステージにおいてリテラシー (Literacy) とコンピテンシー (Competency) の割合がどのように変化していくか、コンピテンシーとは具体的にどのようなものなのか、ご自身の経験を交えて話をしてくださいました。またこれからの社会を生き抜くために必要な 21世紀型スキル (21st C Skills) についても解説いただきました。21世紀型スキルの中でコアとなるスキルは、コミュニケーション (Communication)、コラボレーション (Collaboration)、クリティカル・シンキング (Critical thinking)、クリエイティビティ (Creativity) の 4Cs であり、中でもコミュニケーションの重要性について話していただきました。



1. 事業概要
2. 運営体制、予算
3. 学生の受入
4. 学生の派遣
5. コロナ禍での
オンライン交流プログラム
6. 受入学生・派遣学生の交流

7. 21世紀型スキル教育への取組

8. 幹事校としての取り組み
9. 評価
10. フォトギャラリー

7-1 21世紀型スキル教育セミナー
ポスター

7-2 21世紀型スキル教育セミナー
開催報告

7-3 Global Competence Workshop
at Tsinghua University
アジェンダ

TKT CAMPUS Asia Consortium Global Competence Workshop at Tsinghua University

1. Purpose

To provide a platform for faculty and staff of Tsinghua University, KAIST and Tokyo Tech to discuss the future of international collaboration, the advancement of Asia's science and technology in the global community, and how to cultivate students with global competence.

2. Title

Workshop on CAMPUS Asia Consortium – “How to Cultivate Students with Global Competence”

3. Time & Place

March 15-16, 2018 at Tsinghua University, Beijing

4. Workshop Details

March 15, 2018 – Travels from Japan and Korea to Beijing

Check in: Jiasuo and Jinchunyuan Guesthouses on Tsinghua Campus

March 16, 2018 – ① Moring Session: Global Competence

(9:00~11:30, No.1 Conference room, Jiasuo Guesthouse)

* 9:30-10:30am Speaker: Prof. Zhong Zhou, Institute of Education, Tsinghua

* 10:30-11:30am Speaker: Ms. Zhang Ji, Senior Project Manager on Global Competence, Office of International Education, Tsinghua University

* 45 mins of presentation & 15mins of Q&A (total: 60 mins for each speaker)

* English

* Lunch: Boxed working lunch

* 11:30-11:45 Group photo

② Afternoon Session: Joint Meeting: TKT Campus Asia Consortium

(13:30~15:45pm, No.1 Conference room, Jiasuo Guesthouse)

* Three chair professors give introduction on the program development and future plan of Campus Asia.

* Group Discussion & Discussion topics :

* English

* 16:00-17:30pm Campus tour

* 18:00-19:30pm; Dinner: Xichunyuan Restaurant

Topics: Group Discussion

1. What did you learn/do you expect to learn from the TKT CAMPUS Asia Consortium?
2. How to cultivate young researchers with Global Competence?
3. What steps can we take in the Asian context to create a new culture that encourages international collaboration? What kind of contribution do you think you can make to improve the communication among the three universities/countries?

Participants:

Tsinghua University:

- 1、XING Xinhui, Chair professor of TKT Campus Asia, Tsinghua University.
- 2、MENG Bo, Deputy Dean, Office of International Cooperation and Exchange.
- 3、ZHONG Zhou, Speaker on Global Competence, Deputy Dean, Office of International Cooperation and Exchange, Associate Professor of Institute of Education, Tsinghua University.
- 4、ZHANG Ji, Speaker on Global Competence, Senior Project Manager on Global Competence, Office of International Education, Tsinghua University.
- 5、LI Hongyu, Director of Study abroad, Office of International Cooperation and Exchange.
- 6、BI Na, Program manager, TKT Campus Asia for incoming students, Academic Affairs Office.
- 7、LIU Dongni, Program manager, TKT Campus Asia for outgoing students, Office of International Cooperation and Exchange, Tsinghua University.

KAIST:

- 1、Kim Shin-Hyun, Chair professor of TKT Campus Asia, KAIST.

Tokyo Tech:

- 1、HARA Masahiko, Chair professor of TKT Campus Asia, Tokyo Tech.
- 2、SHIRABE Masashi, Professor, Tokyo Tech.
- 3、HAYAMIZU Yuhei, Associate Professor, Tokyo Tech.
- 4、SHIMOZONO Kenichi, Group Leader, Tokyo Tech.
- 5、LI Xianglan, Administrative Staff, Tokyo Tech.
- 6、KONDO Yumiko, Administrative Staff, Tokyo Tech.
- 7、WATANABE Yukie, Administrative Staff, Tokyo Tech.
- 8、HANDA Yoko, Administrative Staff, Tokyo Tech.

1. 事業概要
2. 運営体制、予算
3. 学生の受入
4. 学生の派遣
5. コロナ禍での
オンライン交流プログラム
6. 受入学生・派遣学生の交流
7. 21世紀型スキル教育への取組

8. 幹事校としての取り組み

9. 評価
10. フォトギャラリー

8-1 採択校連絡会
アジェンダ、席次表

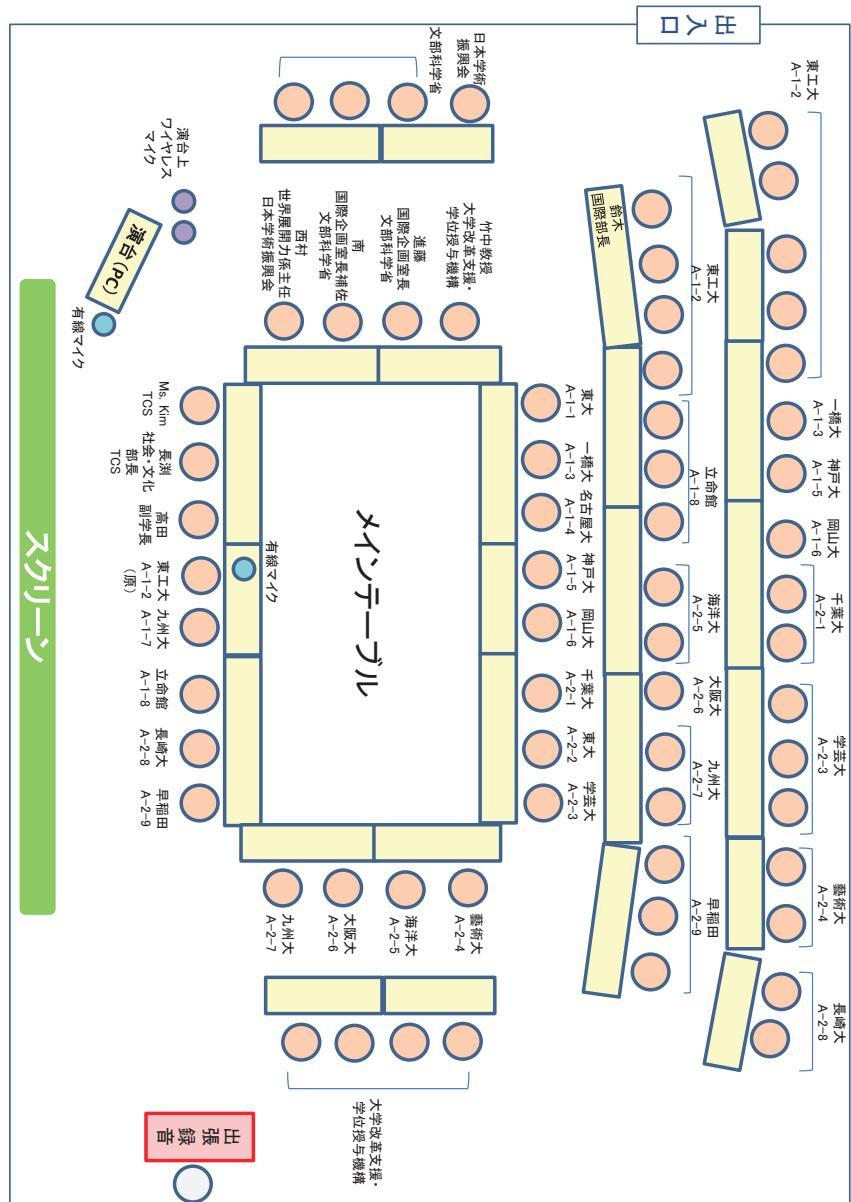
8-2 「日中韓大学間交流・連携推進会議」委員
本学訪問
アジェンダ、報告記事

8-3 採択校 ウェブサイト

8-4 キャンパス・アジア 紹介動画

キャンパス・アジア採択校連絡会 座席レイアウト表

2019年5月21日(火)14:00-17:00
ELSI-1 MISHIMA HALL



大学の世界展開力強化事業（キャンパス・アジアプログラム） 2019年度採択校連絡会

開催議事次第

○日 時 : 2019年5月21日(火) 14:00~17:00 (意見交換交流会 17:00~18:00)

○場 所 : 東京工業大学 大岡山キャンパス
地球生命研究所 (ELSI-1 (石川台7号館)) 1階ホール (三島ホール)

○参加機関 : 文部科学省、Trilateral Cooperation Secretariat (TSC)
大学改革支援・学位授与機構、日本学術振興会
平成28年度大学の世界展開力強化事業採択校:
(A-1) 東京大学、一橋大学、名古屋大学、神戸大学、岡山大学、九州大学、立命館大学、東京工業大学
(A-2) 千葉大学、東京大学、東京学芸大学、東京藝術大学、東京海洋大学、大阪大学、長崎大学、九州大学、早稲田大学

○司会進行 : 原 正彦 東京工業大学物質理工学院 教授

○議事次第 :

(1) 14:00~14:10 開会の挨拶
・高田 潤一 東京工業大学副学長(国際担当)
・進藤 和澄 文部科学省高等教育局高等教育企画課国際企画室長

(2) 14:10~14:20 本連絡会開催趣旨について(10分)
・進藤 和澄 文部科学省高等教育局高等教育企画課国際企画室長

(3) 14:20~14:35 キャンパス・アジアに対する日中韓三国協力事務局(TCS)の取組み(説明10分、質疑応答5分)
・長渕 憲二 Trilateral Cooperation Secretariat (TCS) 社会・文化部長

(4) 14:35~15:10 キャンパス・アジアの今後の方向性: モード3に向けて
・採択17プログラムによる意見共有(各大学2分程度×17校 約35分)

(5) 15:10~15:45 キャンパス・アジアの今後の方向性: モード3に向けた意見交換(35分)

(6) 15:45~16:00 休憩(15分)

(7) 16:00~16:10 採択校によるASEAN諸国等との交流事例紹介(各大学5分程度×2校 10分)
・九州大学、東京工業大学

(8) 16:10~16:55 採択校によるASEAN諸国等との交流の可能性に関する意見交換(45分)

(9) 16:55~17:00 閉会の挨拶
・鈴木 規子 東京工業大学国際部長

(10) 17:00~18:00 意見交換交流会

以 上

2020年度 大学の世界展開力強化事業 キャンパス・アジアプログラム採択校連絡会

開催議事次第

○日 時 : 2020年11月6日（金） 13:30～15:30

○開催方法 : Zoom (ホスト: 東京工業大学)

○参加機関 : 文部科学省、日中韓三国協力事務局 (Trilateral Cooperation Secretariat :TCS)

大学改革支援・学位授与機構

平成28年度大学の世界展開力強化事業採択校 :

(A-1) 東京大学、一橋大学、名古屋大学、神戸大学、岡山大学、九州大学、立命館大学、東京工業大学

(A-2) 千葉大学、東京大学、東京学芸大学、東京藝術大学、東京海洋大学、大阪大学、長崎大学、九州大学、早稲田大学

○司会進行 : 原 正彦 東京工業大学物質理工学院 教授

○議事次第 :

- (1) 13:30～13:35 開会の挨拶
 - ・高田 潤一 東京工業大学副学長（国際連携担当）
- (2) 13:35～13:45 コロナ禍における国際交流の影響と第3モードに向けた動きについて（10分）
 - ・佐藤邦明 文部科学省高等教育局主任大学改革官・国際企画室長
- (3) 13:45～13:55 TCS' Role in Trilateral Education Cooperation and CAMPUS Asia Program（10分）
 - ・KIM Min-jeong 日中韓三国協力事務局（TCS）社会・文化部長
- (4) 13:55～13:57 キャンパス・アジアモニタリング関係刊行物及び
 - 高等教育資格承認情報センター（NIC-Japan）のご案内
 - ・村上壯一 大学改革支援・学位授与機構評価事業部国際課長
- (5) 13:57～14:07 情報共有シートからの共通の課題等について（10分）
- (6) 14:07～14:47 コロナ禍での国際交流・留学について／モード2について：意見交換（40分）
- (7) 14:47～15:27 モード3に向けて：意見交換（40分）
- (8) 15:27～15:30 閉会の挨拶
 - ・鈴木 規子 東京工業大学国際部長

以上

1. 事業概要
2. 運営体制、予算
3. 学生の受入
4. 学生の派遣
5. コロナ禍での
オンライン交流プログラム
6. 受入学生・派遣学生の交流
7. 21世紀型スキル教育への取組

8. 幹事校としての取り組み

9. 評価
10. フォトギャラリー

8-1 採択校連絡会
アジェンダ、席次表

8-2 「日中韓大学間交流・連携推進会議」委員
本学訪問
アジェンダ、報告記事

8-3 採択校 ウェブサイト

8-4 キャンパス・アジア 紹介動画

日中韓大学間交流・連携推進会議メンバー来訪について

日 時：9月5日（木）15:00-17:00

場 所：大岡山キャンパス地球生命研究所(ELSI) MISHIMA ホール

使用言語：英語

来訪予定者：30名

（内訳）中国：2名（内 委員1名）

韓国：13名（内 委員5名）

日本：12名（委員：五十嵐JXリサーチ社長、
NIAD-QE：竹中研究開発部・教授 他、
文科省：松永主任大学改革官、佐藤国際企画室長 他）

TCS：3名

本学出席予定者：水本理事・副学長

藤野理事・副学長・事務局長

鈴木国際部長

キャンパス・アジア部会関連教員

参加予定学生：[受入学生]

清華大学生 3名

KAIST 学生 3名

[派遣学生]

KAIST 留学経験学生 3名

内容案：①本学概要（水本理事）10分

②プログラム概要（原教授）10分

③本プログラム関連学生との意見交換

- ・学生のプレゼン（各国1名） 5分×3名
(清華大学留学経験者4名ビデオ 5分)
- ・ポスターセッション 45分

④キャンパスツアー：ELSI

- ・概要説明（廣瀬所長） 10分
- ・施設見学 15分

Delegation's Visit Agenda

The Japan-China-Korea Committee for Promoting Exchange and Cooperation among Universities

Date: Thursday, September 5, 2019

Time: 15:00-17:00

Venue: MISHIMA HALL (Earth-Life Science Institute (ELSI))

Moderator: Project Leader & Prof. Masahiko HARA,
School of Materials and Chemical Technology

1. Opening Address & General Introduction of Tokyo Tech (15:00-15:10)

Prof. Tetsuya MIZUMOTO
Executive Vice President for Education, Tokyo Tech

2. Outline of Tokyo Tech TKT CAMPUS Asia Consortium (15:10-15:20)

Prof. Masahiko HARA
School of Materials and Chemical Technology

3. Presentations by Program Participating Students (15:20-15:40)

Program Participating Students from KAIST, Tsinghua, & Tokyo Tech

4. Poster Session with Program Participating Students (15:40-16:25)

5. Outline of the Earth-Life Science Institute (ELSI) (16:30-16:40)

Prof. Kei HIROSE
Director, Earth-Life Science Institute (ELSI)

6. Tour of the Earth-Life Science Institute (ELSI)-1 Building (16:40-16:55)

Dr. Yamei Li
Research Scientist, Earth-Life Science Institute (ELSI)
Dr. Ruiqin YI
Research Scientist, Earth-Life Science Institute (ELSI)

「日中韓大学間交流・連携推進会議」委員 が東京工業大学を訪問

いいね！ 38
シェア
ツイート

RSS

国際交流
来訪者

公開日：2019.11.01

9月5日、「日中韓大学間交流・連携推進会議」の委員が、本学を訪問しました。同会議は、2009年の日中韓サミットでの合意に基づく質の保証を伴った大学間交流推進の一環として、日本、中国、韓国の政府、大学、質保証機関、産業界等から成る有識者会議です。

東京工業大学では、日中韓の大学間交流構想(CAMPUS Asia: Collective Action for Mobility Program of University Students in Asia)の一つとして、2011年度以降、大学の世界展開力強化事業に採択された学生交流プログラムである「日中韓先進科学技術大学教育環」(第一期)、2016年度からは「日中韓先進科学技術大学教育環高度化プログラム」(第二期)を、東京工業大学、清華大学、韓国科学技術院(KAIST)との間で実施してきました。



会場の様子



サマースクール参加学生によるプレゼンテーション

今回の訪問は、第7回日中韓大学間交流・連携推進会議の東京開催に併せ、日中韓の大学間交流構想の一つである本学の活動を視察したものです。

水本哲弥理事・副学長の挨拶に続いて、構想責任者の原正彦教授から取組みの概要説明を行った後、同プログラムのサマースクールに参加していた清華大学、KAISTの学生、及び清華大学、KAISTへ留学経験のある東京工業大学の学生によるプレゼンテーションが行われました。その後のポスターセッションでは、委員が各参加学生のポスターを訪れ、学生の留学体験や学んだこと、自身の経験を元にしたプログラムへの意見や改善点を聞き、意見交換を行いました。

ポスターセッション後は、地球生命研究所(Earth-Life Science Institute: ELSI)の見学が行われました。廣瀬敬所長から施設概要の説明を受けた後、実験室の見学をし、各種装置を間近に見るなど、本学における最先端の研究活動の一端を体感する機会となりました。



ポスターセッション



地球生命研究所(ELSI)見学

日中韓ランチ交流会 開催報告 | 東工大ニュース

「日中韓大学間交流・連携推進会議」委員が東京工業大学を訪問 | 東工大ニュース

TKT CAMPUS Asia 日中韓先進科学技術大学教育環高度化プログラム

第7回日中韓大学間交流・連携推進会議(於:東京)における合意内容について | 文部科学省

お問い合わせ先
留学生交流課 キャンパス・アジア事務局
E-mail : campusasia@jim.titech.ac.jp
Tel : 03-5734-2984

© Tokyo Institute of Technology. All rights reserved.

Delegation from Japan-China-Korea Committee for Promoting Exchange and Cooperation among Universities visits Tokyo Tech

[Global](#) [Visitors](#)[RSS](#)

Published: November 1, 2019

On September 5, 2019, Tokyo Tech welcomed a delegation from the Japan-China-Korea Committee for Promoting Exchange and Cooperation among Universities, an intergovernmental expert committee established in 2010 to lead the Collective Action for Mobility Program of University Students in Asia (CAMPUS Asia) Initiative.

Tokyo Tech, Tsinghua University in China, and Korea Advanced Institute of Science and Technology (KAIST) have been implementing joint activities as the [TKT Campus Asia Consortium](#) since 2011. The aim of CAMPUS Asia is to promote exchange and cooperation with quality assurance among universities in Japan, China, and Korea in order to strengthen the competitiveness of universities and nurture the next generation of outstanding talent in Asia.



Briefing on CAMPUS Asia activities at Tokyo Tech



Presentation by CAMPUS Asia Summer School participants

After attending the 7th Meeting of the Japan-China-Korea Committee for Promoting Exchange and Cooperation among Universities, which was held in Tokyo earlier the same day, the delegation visited Tokyo Tech to meet students participating in the CAMPUS Asia Summer School.

Following welcome remarks by Executive Vice President for Education Tetsuya Mizumoto, TKT CAMPUS Asia Project Leader Professor Masahiko Hara from the School of Materials and Chemical Technology introduced student exchange activities underway at Tokyo Tech. Since 2011, Tokyo Tech has accepted 136 students from KAIST and Tsinghua, and has sent 77 students to the two universities.

Tsinghua and KAIST students participating in the CAMPUS Asia Summer School at the Institute and Tokyo Tech students dispatched in recent years to Tsinghua and KAIST gave presentations on their experiences. A poster session then provided delegates an opportunity to exchange ideas with each student and to solicit their direct feedback on the exchanges under CAMPUS Asia.

At the conclusion of their visit, the delegation toured the [Earth-Life Science Institute \(ELSI\)](#), where they received an overview from Director Kei Hirose and introductions to the institute's facilities and laboratories by ELSI research scientists.

Like 27

Share

Tweet



Committee members engage with students at poster session



Tour of Earth-Life Science Institute (ELSI)

● Delegation from the Japan-China-Korea Committee for Promoting Exchange and Cooperation among Universities visits Tokyo Tech | Tokyo Tech News

■ TKT Campus Asia Consortium

■ Tsinghua University

■ Korea Advanced Institute of Science and Technology (KAIST)

Contact

CAMPUS Asia Program Office, International Student Exchange Division
Email campusasia@jim.titech.ac.jp
Tel +81-3-5734-2984

© Tokyo Institute of Technology. All rights reserved.



1. 事業概要
2. 運営体制、予算
3. 学生の受入
4. 学生の派遣
5. コロナ禍での
オンライン交流プログラム
6. 受入学生・派遣学生の交流
7. 21世紀型スキル教育への取組

8. 幹事校としての取り組み

9. 評価
10. フォトギャラリー

8-1 採択校連絡会
アジェンダ、席次表

8-2 「日中韓大学間交流・連携推進会議」委員
本学訪問
アジェンダ、報告記事

8-3 採択校 ウェブサイト

8-4 キャンパス・アジア 紹介動画

キャンパス・アジアプログラム採択校ウェブサイト

日本語版 <http://www.ipo.titech.ac.jp/campusasia/all-programs/>

文部科学省「大学の世界展開力強化事業」

キャンパス・アジア

キャンパス・アジアとは 採択事業一覧 参加学生の声 キャンパス・アジア同窓会

Japanese | English

文部科学省「大学の世界展開力強化事業」

キャンパス・アジア

● 日本 中国 韓国

が連携して実施する留学生交換プログラム

連携大学数 39 交流学生数 9,656 プログラム数 17

※交換学生数 (2011年度～2019年度)

●: キャンパス・アジア参加大学所在地

NEWS 2020.12.22 ウェブサイトをリニューアルいたしました！ [ニュース一覧 >](#)



英語版 <http://www.ipo.titech.ac.jp/campusasia/all-programs/english/>

CAMPUS Asia

About CAMPUS Asia Consortia Student Voices Alumni Network

Japanese | English

CAMPUS Asia

● Japan 中国 韩国

The student exchange program framework established jointly by the governments of Japan, China, and Korea.

Universities 39 Students 9,656 Consortia 17

*Number of exchange students (AY2011-AY2019)

●: Location of participating universities

NEWS 2020.12.22 This website has been renewed! [View more >](#)



1. 事業概要
2. 運営体制、予算
3. 学生の受入
4. 学生の派遣
5. コロナ禍での
オンライン交流プログラム
6. 受入学生・派遣学生の交流
7. 21世紀型スキル教育への取組

8. 幹事校としての取り組み

9. 評価
10. フォトギャラリー

8-1 採択校連絡会
アジェンダ、席次表

8-2 「日中韓大学間交流・連携推進会議」委員
本学訪問
アジェンダ、報告記事

8-3 採択校 ウェブサイト

8-4 キャンパス・アジア 紹介動画

CAMPUS Asia Introductory Movie

(キャンパス・アジア採択校ウェブサイト内)

https://www.youtube.com/watch?v=8ND7_Vo0wmM



1. 事業概要
2. 運営体制、予算
3. 学生の受入
4. 学生の派遣
5. コロナ禍での
オンライン交流プログラム
6. 受入学生・派遣学生の交流
7. 21世紀型スキル教育への取組
8. 幹事校としての取り組み

9. 評価

10. フォトギャラリー

9-1 中間評価調書（文科省）

9-2 国際評価パネル 評価項目

大学の世界展開力強化事業（平成28年度採択）中間評価結果

大学名	東京工業大学
整理番号	A-①-2
事業名	日中韓先進科学技術大学教育環高度化プログラム

大学の世界展開力強化事業プログラム委員会における評価

(総括評価)	これまでの取組を継続することによって、事業目的を達成することが可能と判断される。
--------	--

(コメント)

本プログラムは、平成23年度から5年間進めてきた本事業のキャンパス・アジアパイロットプログラムの取組や成果を踏まえ、世界最高の理工系総合大学の実現という長期的国際戦略の下で構想され実施されている。

中国・韓国のみならず、シンガポールなどアジアの大学や欧米の大学との連携を進め、他大学の学生の参加を可能とするよう体制を整備するとともに、派遣・受入の双方の大学の教員が留学の前後に学生の活動内容を精査するための修学計画書を活用するなど、質保証を伴う取組を適切に実施している。特に、留学生受入のための在籍管理やアドバイザー制度、チューター制度等の組織的な支援体制の拡充と強化を進めており、語学力や交流学生の数値目標も達成している点は評価できる。

一方で、ダブル・ディグリーなど共同学位に関しては、2国間での合意形成に一定の成果は見られるものの、学生が参加しやすい環境整備等が求められる。また、21世紀型スキル教育に向けた取組は、教職員を含め展開しており評価できるが、今後は21世紀型スキルの定義、評価のための指標や手法について、3大学間で合意を深化させていくことが望まれる。加えて、研究重視型教育についても、現状では2大学間の研究中心の短期滞在型共同教育が中心となっていることから、3国間で新たな授業や研究プロジェクトを共同で開発することや、日本人学生の長期留学への参加を促進していくこと等が課題として挙げられる。研究重視型教育の促進、共同学位の拡充、21世紀型スキル教育の確立など、高い目標の実現に向けて更なる尽力を期待したい。

最後に、今後も補助期間終了後の継続的な実施を見据えた事業計画の策定と安定的な財源確保に努め、学内及び関係機関との質保証を伴う国際教育連携の推進と将来の我が国が更なる発展に向け、積極的に事業を展開していくことが期待される。

大学の世界展開力強化事業プログラム委員会における評価 <大学限り>

(特記事項)

<留意事項>

- 研究重視型教育については、研究室への短期滞在型教育に加えて、単位互換を前提とする日中韓共同教育を進める環境を整備していくことが期待される。
- 21世紀型スキル育成に関しては、言葉の定義や教育プログラムだけでなく、成果目標、評価手法についても3か国での合意を深化させることが望まれる。

- ダブル・ディグリーなどの共同学位について、学位を取得するまでのカリキュラム・モデル等を明示して、学生が参加しやすい環境整備を図っていくことが望まれる。

<参考意見>

- 本プログラムを持続可能な取組へと発展させるとともに、成果の公表を期待する。

- 学生の危機管理については、国内外を問わず不断に最新情報を収集・分析し、大学として常に学生の安全・安心を確保すること。

- 国からの補助期間終了後の継続的な実施を見据え、大学自らの財源確保など、今から取組や検討を進めていくこと。

大学の世界展開力強化事業 中間評価調書

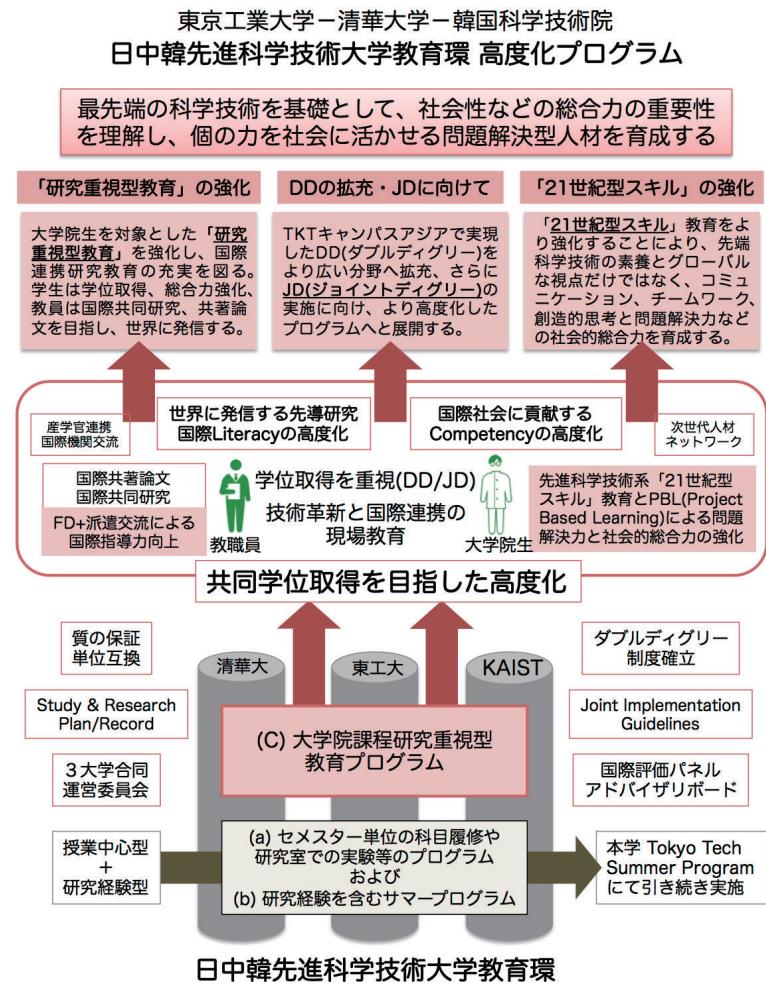
大学等名 (○が代表大学)	東京工業大学		整理番号	A-①-2
主たる交流先	A-① キャンパス・アジア(CA)事業の推進 <CAパイロットプログラムでの実績をベースにさらに高度化した取組を行うもの>			
事業名	日中韓先進科学技術大学教育環高度化プログラム			
学長名	益一哉			
事業責任者	(氏名) 原正彦 (職名) 物質理工学院・教授 (交替年月日)			
取組学部・研究科等名	全学[理学院、工学院、物質理工学院、情報理工学院、生命理工学院、環境・社会理工学院]			
相手大学名 (国名)	①	清华大学	(中国)	
	②	韓国科学技術院(KAIST)	(韓国)	
	③	()		
	④	()		
	⑤	()		
	⑥	()		
	⑦	()		
	⑧	()		
	⑨	()		
	⑩	()		
	⑪	()		
	⑫	()		
	⑬	()		
	⑭	()		
	⑮	()		
参考資料一覧	資料名		備考	
	1			
	2			

事務担当者	(氏名) 下園健一	(職名) 学務部留学生交流課交流推進第3グループ長
連絡先	(住所) 〒152-8550 目黒区大岡山2-12-1	
	(電話番号) 03-5734-3027	(E-mail) ryu.kor3@jim.titech.ac.jp

※中間評価調書の内容等について連絡可能な事務担当者を記入してください(複数名の担当者がいる場合でも代表者1名を記入してください)。また、連絡先E-mailについては、複数人で確認が可能なメールアドレスを記入してください。

事業の目的・概要及び交流プログラムの内容										
① 事業の目的・概要等 (計画調書からの転載) 【1ページ以内】										
【事業の目的及び概要】 事業名: 日中韓先進科学技術大学教育環高度化プログラム 英語名: Advanced TKT CAMPUS Asia Consortium 本学は「世界最高の理工系総合大学の実現」を長期的目標としている。このためには、世界の最高水準の理工系大学との連携協力が不可欠であり、平成23年度から5年間、大学の世界展開力強化事業「日中韓先進科学技術大学教育環 (TKTキャンパスアジア)」を通じて、東アジアの最高水準の理工系大学である中国の清华大学、韓国の韓国科学技術院 (KAIST)との間で人材の育成を目的とした教育研究プログラムを実施してきた。本事業は、それらの経験と実績に基づき、下記の人材像を養成するために、以下の3点を目的として、より高度化したプログラムへと展開する。										
1) 共同研究指導体制による「研究重視型教育」の強化 学部生を対象とした専門に応じて基礎から最先端までを修得する「授業中心型教育」と大学院生(又は学部4年生以上)を対象とした「研究重視型教育」の交流プログラムを強化し、異なる視点を横断する、より高度化した国際連携研究に基づく共同学位取得を目指す、目的のより明確な枠組みを持つプログラムとする。特に派遣と受入の両教員の理解のもとで学位取得を目指す学生を共同指導し、その成果である学術技術の先導研究を世界に発信する。										
2) ダブルディグリーの拡充とジョイントディグリーに向けたプログラムの強化 TKTキャンパスアジアで実現した、教育制度の異なる大学間におけるダブルディグリーをより広い分野へと拡充し、それらの最適化プロセスの中で、ジョイントディグリー(JD)の実施に向けた試行を行い、日中韓3カ国間の理工系大学の質の保証を伴う、より高度化したプログラムへと展開する。										
3) 日中韓からアジアの先進科学技術系「21世紀型スキル」教育の強化 最先端の科学技術の修得を基礎として、さらにグローバルに社会貢献する問題解決型人材育成を目的として、先進科学技術系「21世紀型スキル」教育を強化し、アジアの科学技術教育において共通して求められるスキルとして広く発信する。また、産業界や関係諸機関との連携を深め、技術革新と国際連携の現場教育ならびにグローバル人材ネットワークの形成を推進する。										
【養成する人材像】 卓越した最先端科学技術の素養とグローバルな視点を持つだけではなく、アジアや世界を問題解決型の科学技術で結び、社会に貢献するトップリーダーに向けたキャリアパスを自ら展開出来る人材を育成する。また、本事業で先進科学技術系「21世紀型スキル」教育をより強化することにより、科学技術の知識(Literacy)と同時に、社会性などの総合力(Competency)の重要性を理解し、それらを実践出来る人材を育成する。特に、コミュニケーション力、チームワーク力、創造的思考と問題解決力など、最先端の科学技術を基礎として、個の力を社会に活かせる総合力を身につけた人材を養成する。 本事業に参加した学生から、アカデミアのみならず、産業界や関係諸機関において、技術革新と国際連携を推進する人材が輩出されることが期待される。										
【本事業で計画している交流学生数】※各年度の派遣及び受入合計人数(交流期間、単位取得の有無は問わない)										
	平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度		平成32年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
合計人数	5人	5人	10人	10人	10人	10人	10人	10人	10人	10人
申請時の計画調書記載人数	5人	5人	10人	10人	10人	10人	10人	10人	10人	10人
海外相手大学追加調書分	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人

② 事業の概念図（計画調書からの転載）【1ページ以内】



③ 国内大学等の連携図（計画調書からの転載）【1ページ以内】

(該当なし)

【公表】

【公表】

進捗状況の概要 【1ページ以内】

本補助金事業では、中国の清华大学、韓国の韓国科学技術院（KAIST）との間で、人材育成を目的としたプログラムを実施してきた。平成28年度、平成29年度の主な活動としては、**学生交流プログラム（受入・派遣）の実施、ダブルディグリー拡充の可能性調査、21世紀型スキル教育の強化**が挙げられる。専任スタッフの雇用、三大学の関連教職員が会する合同運営委員会の実施、スカイブリーディングを通じて事業が円滑に推進されるようにした。

学生交流プログラム（受入・派遣）の実施

- 外国人留学生の受入：平成28年度に10名、平成29年度に20名の計30名（清华大学 13名、KAIST 17名）を受け入れた。平成28年度は、1か月～5か月の「研究重視型教育」プログラムでの受入を行った。平成29年度は、サマープログラムを開催した。

「授業中心型教育」プログラムでは、主に学部生を対象とし、専門に応じて基礎から最先端までの知識を修得する集中授業を受講した。平成29年度は、別プログラムの欧米大学からの留学生も一緒に授業を受講した。「研究重視型教育」プログラムでは、主に大学院生（又は学部4年生以上）を対象とし、派遣・受入大学両教員の理解のもと研究を行った。プログラムの一貫として、最先端の研究所や企業の見学等、日本の科学技術の現場を体感できる機会を盛り込んだ。また、日本語講義や茶道・書道等の文化体験を実施し、日本語の基礎と日本文化について学ぶ機会を提供した。さらに、派遣学生もしくは所属研究室の学生がチューターとなり生活支援を行うことで留学生と東工大生の交流を図った。

秋以降は、2か月～5か月の「研究重視型教育」プログラムでの学生受入を行った。

- 日本人学生の派遣：平成28年度に6名、平成29年度に11名の計17名（清华大学 2名、KAIST 15名）を派遣した。

清华大学では、約5か月間の留学期間中、中国語や専門分野の授業の受講、研究室に所属しての研究を行った。KAISTでは、1か月間のサマースクールの中で、授業の受講や研究室所属型体験をするとともに、フィールドトリップ等を通して韓国の文化体験やKAISTおよび他大学の留学生との交流する機会が提供された。秋以降は、1か月以上の希望の期間、研究室に所属して研究を行った。

受入・派遣に共通する取組として「修学計画書」がある。この「修学計画書」に基づき、派遣先・派遣元の両教員が学生の取り組む修学計画を理解し、共通認識を持って指導にあたることで、短期間でも学生にとって有意義な時間とすることができた。

ダブルディグリー拡充の可能性調査

平成28年度は、三大学の関係教職員が会した合同運営委員会での可能性調査に加え、KAIST-東工大間で各分野の教員により、さらに具体的な可能性について協議を行った。平成29年度は、KAISTより経営工学系の教員を招聘し、共同指導と学生交流の可能性について議論した。また、東工大の生命系の教員がKAISTを訪問し、さらなる協働体制についてディスカッションを行った。ダブルディグリーの分野拡充がされれば、学生にとって双方の大学での修学がより有効で効果的なものになり、教育効果が高まると期待される。今後はより具体的な拡充について意見交換を進めていく。

21世紀型スキル教育の強化

平成29年度までに、学生向けには5回の「21世紀型スキル」教育の講義を行い、留学生および本学学生が科学技術の知識のみならず、コミュニケーションスキルの重要性を理解するきっかけを提供することができた。また、留学生対応業務に従事する事務職員対象のセミナーを2回実施し、異文化間コミュニケーションをよりスムーズにするための機会となった。さらに、「グローバルコンピテンスワークショップ」を清华大学にて開催、三大学の教職員が参加し、清华大学が全学をあげ取り組む21世紀型スキル教育について学んだ。

【本事業における中間評価までの交流学生数の計画と実績】

平成28年度		平成29年度	
派遣	受入	派遣	受入
計画※	実績	計画※	実績
5人	6人	5人	10人
10人	11人	10人	20人

※海外相手大学を追加している場合は、追加による交流学生数の増加分を含んでいる。

特筆すべき成果（グッドプラクティス） 【1ページ以内】

運営・事業全体

- 日中韓学長フォーラム開催後すぐに三大学の教職員によるキックオフミーティングを行い、事業運営や基本方針について共有することができた。また、実際に顔を合わせることで、コンソーシアムとしての一体感が増し、さらなる協力体制を築くことに繋がった。
- 専任のスタッフが連携大学であるKAISTと清华大学を訪問し、派遣学生が滞在する宿舎や食堂等を視察したり、実際に公共交通機関を利用したりした。現地の生活を知ることにより、実感を持って派遣学生向けのオリエンテーションを行うことができた。

学生交流プログラム（受入・派遣）の実施

- 滞日中は、専門の近い本学学生をチューターに指名し、生活支援を行った。これにより、言語や文化の違いで起る不便さを軽減した。
- 受入学生滞在中に、派遣予定学生および派遣経験学生との交流会を開催し、自由に意見交換が出来る場を設けた。これにより、受入学生・派遣学生双方に「キャンパス・アジア生」というチーム意識が生まれ、友好を深める機会となった。特に、これから留学する本学学生にとっては、事前に受入大学の学生と情報交換が出来る貴重な機会となった。
- 派遣学生向けの事前学習として、派遣先でのマナーや基礎的な現地の言葉に関する勉強会を行った。これにより、言語や文化の違いに対する不安を軽減した。
- 平成29年度サマープログラムにおける授業中心型教育プログラムでは、座学だけでなく授業テーマに関連した企業や研究施設へのサイトビズットも盛り込むことで、受入学生が日本の科学技術の現場を体感する機会を提供することが出来た。

ダブルディグリー拡充の可能性調査

- 平成28年度に、KAISTと本学の間で、物質理工、情報理工、環境・社会理工、の教員、ならびに事業推進者の分野毎のダブルディグリー会合を行い、若手教員を中心に、窓口となる担当教員を指名し、それぞれの分野で可能性の議論を行った。
- 生命理工分野では、平成28年度に東工大で、平成29年度にはKAISTにて、関係教員と大学院生による合同ワークショップを行い、分野内で連携可能な教員を選定し、本プログラムを通じた学生交流の基礎を確立した。
- また、社会理工分野においても、合同ワークショップを行い、教員同士の連携の可能性を調査した。
- 平成29年度までに、物質理工、情報理工、環境・社会理工の担当教員を通じた連携を確認し、それらの連携研究に基づく今後の学生の受入と派遣の計画と、ディグリー取得に対して解決すべき要件の抽出を行った。

21世紀型スキル教育の強化

- 平成29年度までに、学生向けに5回、職員向けに2回の「21世紀型スキル」教育のセミナーを開催した。いずれの回も学外からコミュニケーションスキルを専門とした講師を呼び、学生にとって短時間でも有意義な時間になるようにした。
- 30年3月には、清华大学で「グローバルコンピテンスワークショップ」を開催、三大学の教職員が参加し、清华大学が全学をあげ取り組む21世紀型スキル教育について学んだ。

その他

- 学生の滞在中に困難なことが生じた場合や事前の準備の際に、事業を推進する教員ならびに事務職員が、3大学間で、メールだけではなく、ネットワークTV会議を開催するなど、日中韓の関係者のより親密な顔が見える意思疎通を行うことによって、問題点や解決方法の共有がより綿密に行われるようになった。これは、修了要件や規定やシステムの最適化と共に、3カ国の差異や共通課題をより理解し、円滑に推進する原動力となっている。

1. 取組状況	
① 交流プログラムの内容 【3ページ以内】	
申請時の事業計画	事業計画の実施状況
<p>【実績・準備状況】</p> <p>大学の世界展開力強化事業「日中韓先進科学技術大学教育環」(TKTキャンパスアジア)を通じて、中国の清華大学、韓国の韓国科学技術院(KAIST)と連携し、以下のような実績をあげた。</p> <p>○日中韓3大学による交流プログラムの確立</p> <p>(a) セミナー単位の科目履修や研究室での実験等のプログラム</p> <p>(b) 研究経験を含むサマープログラム</p> <p>(c) 大学院課程研究重視型教育プログラム</p> <p>○教育内容に関する情報共有とダブルディグリーの実現</p> <p>派遣と受入れの両大学教員が確認する修学・研究計画書／記録報告書である「Study and Research Plan/Record」と「秘密保持契約書」の導入などを通じて、KAISTとのダブルディグリーの実現に至った。</p> <p>○質の保証を実現するガイドライン「Joint Implementation Guidelines」の策定</p> <p>日中韓3大学の運営体制や教育制度等の詳細について明示した文書を作成し、それらの理解と合意のもとで、質の保証を実現し、日中韓の交流・連携プログラムを確立した。</p> <p>○合同運営委員会 (Joint Committee) と国際評価バネル・アドバイザリーボードの実施</p> <p>3大学の構想責任者、並びに本事業の教職員からなる合同運営委員会 (Joint Committee) を設置し、毎年数回に及ぶ委員会を実施した。また、海外の大学と企業から評議委員を招聘し、年度末に3大学の構想責任者からの報告に対して、国際評価を実施した。</p> <p>○卓越した科学技術の素養を持つグローバル人材育成、トップリーダーに向けたキャリア形成教育の実施</p> <p>3大学の教員の連携による教育指導から、グローバルな視野を持つ問題解決型人材を育成するプログラムを実施し、さらに、科学技術の知識と同時に、社会性やコミュニケーション力などの総合力の重要性を議論する「21世紀型スキル」教育を導入した。</p> <p>【計画内容】</p> <p>1) 共同研究指導体制による「研究重視型教育」の強化</p> <p>TKTキャンパスアジアのプログラム設計と質の保証を伴う共同教育指導体制の構築、ならびにその実施経験に基づき、学部生を対象とした専門に応じて基礎から最先端までを修得する「授業中心型教育」と大学院生(又は学部4年生以上)を対象とした「研究重視型教育」の交流プログラムを強化する。3カ国との協力のもと、種々の異なる視点を横断する、より高度化した国際連携研究に基づく共同学位取得を目指す、目的のより明確な枠組みを持つプログラムとする。特に、派遣と受入れの両教員の理解のもとで、学位取得を目指す</p>	<p>【平成29年度末までの取組状況】</p> <p>本学では、第2期事業採択後、円滑な事業推進のためにプログラムの専任スタッフの雇用、キャンパス・アジアプログラム部会の設置を行った。部会はプログラム主査のもと、各年度に4~5回開催し、学生の交流計画やプログラムの内容等を協議している。</p> <p>また、三大学間の連携強化のため、年に2~3回程度、直接顔を合わせて合同運営委員会を開催し、現状や課題を共有し、その後の活動について検討を行っている。事務担当者レベルの細かな確認は、メールやスカイプミーティングを通して密に連絡を取り合い、行き違いや誤解を防いでいる。</p> <p>平成28年度~29年度までの学生交流数としては、外国人留学生の受入が平成28年度に10名、平成29年度に20名の計30名(清華大学13名、KAIST17名)、日本人学生の派遣は平成28年度に6名、平成29年度に11名の計17名(清華大学2名、KAIST15名)であった。平成28年度は、1か月~5か月の「研究重視型教育」プログラムでの受入を行った。平成29年度は、サマープログラムを開催した。以下に受入・派遣それぞれの内容について記す。</p> <p><u>外国人留学生の受入</u>：平成29年度の「授業中心型教育」プログラムでは、主に学部生を対象とし、専門に応じて基礎から最先端までの知識を修得する集中授業を用意した。この授業は、別プログラムの欧米大学からの留学生も一緒に受講した。「研究重視型教育」プログラムでは、主に大学院生(又は学部4年生以上)を対象とし、派遣・受入大学両教員の理解のもと研究を行った。プログラムの一貫として、最先端の研究所や企業の見学等、日本の科学技術の現場を体感できる機会を盛り込んだ。また、日本語講義や茶道・書道等の文化体験を実施し、日本語の基礎と日本文化について学ぶ機会を提供した。さらに、派遣学生もしくは所属研究室の学生がチーチャーとなり生活支援を行うことで留学生と東工大生の交流を図った。秋以降は、2か月~5か月の「研究重視型教育」プログラムでの学生受入を行った。</p> <p><u>日本人学生の派遣</u>：平成28年度に6名、平成29年度に11名の計17名(清華大学2名、KAIST15名)を派遣した。清華大学では、約5か月間の留学期間中、中国語や専門分野の授業の受講、研究室に所属しての研究を行った。KAISTでは、1か月間のサマースクールの中で、授業の受講や研究室所属型体験をするとともに、フィールドトリップ等を通して韓国の文化体験やKAISTおよび他大学の留学生との交流する機会が提供された。秋以降は、1か月以上の希望の期間、研究室に所属して研究を行った。</p> <p>次に、第2期事業として目指す以下の3点について29年度までの取り組みを記す。</p> <p>1) 共同研究指導体制による「研究重視型教育」の強化</p> <p>パイロットプログラム期には、夏季開催のサマープログラムにおいて、「授業中心型教育」と「研究重</p>

(大学名：東京工業大学) (主たる交流先：清華大学、韓国科学技術院(KAIST))

中間評価までのアクティビティ 【1ページ以内】	
<p>第1回部会を開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主査の原正彦教授をはじめとする本学の部会委員が会し、事業概要の共有およびプログラムの詳細について打ち合わせを行った。 	
平成28年11月	平成28年12月
平成28年7月 平成29年1月	平成29年2月 平成29年1月~3月
平成29年3月	平成29年3月
平成29年4月	平成29年7月
平成29年7~8月	平成29年7~9月
平成29年9月	平成29年9月~12月
平成29年9月	平成30年1月
平成30年1月	平成30年1月~2月
平成30年2月	平成30年2月
平成30年3月	平成30年3月

<p>学生の修士論文や博士論文を共同指導し、さらに共著論文などを通じて、科学技術の先導研究を世界に発信する。また、その基礎となる「授業中心型教育」では、本学が導入したクオーター制度を活かした教育プログラムに改良する。</p> <p>2) ダブルディグリーの拡充とジョイントディグリーに向けたプログラムの強化</p> <p>TKTキャンパスアジアでは、KAISTと本学との間で機械工学の分野においてダブルディグリーを締結したが、さらに物質系、生命系、情報系など、より幅広い分野でのダブルディグリーへと拡充する。また、KAISTと清華大学の間でも工学分野におけるダブルディグリーを締結し、既に確立されている清華大学と本学の間でのダブルディグリーと合わせて、教育制度の異なる3大学間におけるダブルディグリーをより広い異なる分野へと拡充し、それらの最適化プロセスの中で、ジョイントディグリー(JD)の実施に向けた試行 (JDパイロットプログラム) を行い、日中韓3カ国間の理工系大学の質の保証を伴う、より高度化したプログラムへと展開する。</p> <p>3) 日中韓からアジアの先進科学技術系「21世紀型スキル」教育の強化</p> <p>最先端の科学技術の修得を基礎として、さらにグローバルに社会貢献する問題解決型人材育成を目的として、先進科学技術系「21世紀型スキル」教育を強化し、アジアの科学技術教育において共通して求められるスキルとして広く発信する。</p> <p>卓越した科学技術の素養を持つグローバル人材の育成、さらにトップリーダーに向けたキャリアの形成のためには、いわゆる「21世紀型スキル」教育が重要である。すなわち、先進科学技術系における「21世紀型スキル」教育では、最先端の科学技術の知識 (Literacy) だけではなく、同時に、社会性などの総合力 (Competency) の重要性を理解し、PBL (Project Based Learning)などを通じてコミュニケーション力、チームワーク力、創造的思考と問題解決力などを兼ね備え、最先端の科学技術を基礎として、個の力を社会に活かせる問題解決力と社会的総合力を身につけた人材を養成する。</p> <p>さらに、産業界や関係諸機関との連携を深め、技術革新と国際連携の現場教育ならびにグローバル人材ネットワークの形成を推進し、「世界に発信する先導研究、国際Literacyの高度化」と「国際社会に貢献するCompetencyの高度化」を実現する。</p> <p>また、3大学以外の学生も聴講可能な公開講座やアーカイブ等を企画し、アジアにおける先進科学技術系「21世紀型スキル」教育を発信する。</p>	<p>視型教育」を組み合わせた1プログラムのみを実施していた。第2期では、目的により明確な枠組みを持つプログラムとするため、学部生を対象とした専門に応じて基礎から最先端までを修得する「授業中心型教育」(4週間)と、大学院生(又は学部4年生以上)を対象とした研究室に所属して活動を行う「研究重視型教育」(10週間)の2つのプログラムを実施した。秋以降は、「研究重視型教育」プログラムを実施し、本学の第3・4クオーターにあたる9月～2月の最長5か月間に渡り学生を受け入れた。</p> <p>2) ダブルディグリーの拡充とジョイントディグリーに向けたプログラムの強化</p> <p>平成28年度は、三大学の関係教職員が会した合同運営委員会での可能性調査に加え、KAIST-東工大間で各分野の教員により、さらに具体的な可能性について協議を行った。平成29年度は、KAISTより経営工学系の教員を招聘し、共同指導と学生交流の可能性について議論した。また、東工大の生命系の教員がKAISTを訪問し、さらなる協働体制についてディスカッションを行った。</p> <p>3) 日中韓からアジアの先進科学技術系「21世紀型スキル」教育の強化</p> <p>平成29年度までに、学生向けには5回の「21世紀型スキル」教育の講義を行い、留学生および本学学生が科学技術の知識のみならず、コミュニケーションスキルの重要性を理解するきっかけを提供した。一部の講義の模様はWEB上で公開し、受入学生および本学学生以外も聴講できるようにした。また、留学生対応業務に従事する事務職員対象のセミナーを2回実施し、異文化間コミュニケーションをよりスムーズにするための機会となった。さらに、「グローバルコンピテンスワークショップ」を清華大学にて開催、三大学の教職員が参加し、清華大学が全学をあげて取り組む21世紀型スキル教育について学んだ。</p> <p>【取組状況における課題点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際評価パネル・アドバイザリーボードの実施 <p>平成29年度末までに実施予定であった自主的国際評価(国際評価パネル・アドバイザリーボード)を平成30年度に実施することとした。これは、第1期に実施していた国際評価について、アドバイザリ委員を各國から招聘する予算が不十分となり(本プログラムを実施するにあたり、年度を通して必要不可欠となる予算の確保を確認した後)報告書によるメールレビューを実施することに変更した。また、第2期に導入された新しい目標に適したアドバイザリの選定と合意に時間がかかり、平成30年度の実施へと順延した。</p> <p>【今後の展望】</p> <p>平成30年度前半年度で自主的国際評価メールレビューを実施する。</p>
---	---

(大学名：東京工業大学) (主たる交流先：清華大学、韓国科学技術院 (KAIST))

- 9 -

② 質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成 【(1)、(2)合わせて3ページ以内】	
申請時の事業計画	事業計画の実施状況
(1) 交流プログラムの質の保証について	
【実績・準備状況】	【平成29年度末までの取組状況】
○質の保証に関する3大学間の取り組み	○質の保証を伴う共同教育指導体制から、アジアの科学技術を先導する共同研究につながる「研究重視型教育」への拡充
上記合同運営委員会 (Joint Committee)などを通じて、質の保証を伴う連携教育と単位互換、さらにはダブルディグリーを目指した連携運営体制を確立した。また、具体的な学生の交流を行う中で、課題を洗い出し、繰り返し改善策と最適化を議論し、それらを実行に移し、高い質の保証を実現した。	平成29年度までに、物質理工、情報理工、環境・社会理工の担当教員を通した連携を確認し、それらの連携研究に基づき、今後の「研究重視型教育」を目指した学生の受入と派遣の計画と、ディグリー取得に対して解決すべき要件の抽出を行った。また、生命理工分野においては、本学とKAISTにて教員と大学院生による合同ワークショップを実施した。
○双方の大学の教員による共同指導体制の確立	○他大学の学生の参加
ひとりひとりの学生に対し、派遣側、受入れ側双方において指導教員が指名され、派遣と受入れの両指導教員が深く関与することで、交流の成果の高度化を推進した。このため、教員と事務職員が協力し、限られた期間内で受入れる学生とその指導教員マッチングを適切に行うための制度を整えた。	平成29年度の「授業中心型」サマープログラム開講科目は、同時に開催していた別プログラムでの受入学生や東工大生にもオープンにし、本コンソーシアム以外の大学の学生も多く参加した。また、同様に、企業見学や日本文化体験のアクティビティも他プログラムと合同開催するなどして、受入学生が他大学の学生と交流ができるようにした。さらに、平成30年度に開催するサマースクールについては、香港科技大学や南洋理工大学をはじめとするその他アジアおよび欧米大学の学生も応募ができるようにし、他大学の学生の参加を可能とすると同時に、本コンソーシアムの学生がさらに国際的な環境で教育プログラムに参加できる体制を整えている。
○「Study and Research Plan/Record」の導入	○フェカルティデベロップメント (FD) の強化、ならびに国際公募による国際連携を推進する教員の強化
全ての参加学生に対し「Study and Research Plan/Record」の提出を義務付けた。この書式は単に履修科目の承認を目的として事前に学生と教員双方が確認する「ラーニングアグリーメント」だけでなく、双方の大学の教員が共同で、計画段階から終了時まで一貫した教育指導を行うという長所を持つ。	本学では、大学院の一部のコースでは90%以上の専門科目が英語で開講されている。全般的にも平成31年度にはすべての大学院コース専門科目が英語で開講される計画となっており、本プログラムの担当教員も十分な英語による教育経験を有する。FD実施に関しても、平成27年度に、全学的なFD研修を総括実施する教育革新センターが設置され、同センターおよび各部局において、教育技術向上や認識共有のための各種FDを行い、専任教員の63%にあたる656人が参加した(平成29年度 専任教員FD 研修参加人数 779人 / 1,037人)。また、本プログラムとしては、平成30年3月に「グローバルコンピテンスワークショップ」を清華大学にて開催した。三大学の教職員が参加し、清華大学が全学をあげて取り組む21世紀型スキル教育について学んだ。
○学生の履修への配慮と質を保証した成績管理と単位互換の実績	【取組状況における課題点】
本プログラムに参加した学生に対しては、プログラムに対する満足度のアンケートとは別に、派遣終了後の成果を確認することを目的とした調査を行った。その結果、平成24年度より最終年度まで本学から派遣を行った学生、清華大学12名、KAIST27名の内、清華大学派遣学生6名、KAIST派遣学生13名が帰国後、滞在先で履修した科目的単位認定を本学で申請し、単位互換が認定された。また本学が受け入れた学生では、サマープログラムにおいて、清華大学学生13名、KAIST学生20名、すなわちサマープログラム参加留学生全員が、本学の単位認定を受け、大学院課程研究重視型教育プログラムでは、清華大学学生17名の内10名、KAIST学生14名の内10名の単位認定が行われた。さらに参加学生の将来の学位取得への貢献やキャリア形成に向けた効果の検証も行ったが、本学が受け入れた学生の大半が、本プログラムが、学位取得や将来のキャリア形成に有効であった、さらにはアジアと世界に視野を広げる初めての経験であった、と回答している。	・機械工学分野のダブルディグリーの微調整 ダブルディグリーについて、本プログラムで既に設定された機械工学分野において、本学の教育改革(組織改編)とカリキュラムの見直しから、新しいシステムに沿った微修正が必要である。
○KAISTとの「ダブルディグリープログラム」の覚書の締結	
本学は平成16年以降、清華大学との間で合同学位プログラムを実施しており、修士課程におけるダブルディグリーのパイロットプログラムを遂行している。本プログラムでは、本学とKAIST、KAISTと清華大学との間で、ダブルディグリープログラムの縮結を推進するために、平成26年度に各2大学間でJoint Education Programを推進する協定にサインし、最終年度である平成27年度には、機械工学の分野で、KAISTと本学との	

(大学名：東京工業大学) (主たる交流先：清華大学、韓国科学技術院 (KAIST))

- 10 -

<p>間でダブルディグリープログラムの覚書を締結した。同じく平成27年度には、KAISTと清华大学の間でダブルディグリープログラムが確立し、教育制度の異なる3大学間におけるダブルディグリー体制が構築された。</p> <p>○教員に対するフェカルティデベロップメント(FD)の実施 専門の講師を招聘し、英語でのプレゼンテーションにおける口頭発表術や発表の形態からスライドの作り方まで、さらに講義における教授法について、フェカルティデベロップメント(FD)研修を行った。また、教員のみならず事務職員の国際化にも取り組み、国内外で機会のある毎に、国際交渉現場に同席してもらい、事務職員の国際的視野の拡大も推進した。</p> <p>【計画内容】 ○質の保証を伴う共同教育指導体制から、アジアの科学技術を先導する共同研究につながる「研究重視型教育」への拡充 3カ国での構想責任者と担当教職員からなる合同運営委員会（Joint Committee）の構築や、同委員会のもとで合意を得た「Joint Implementation Guidelines」や「Study and Research Plan/Record」は、質の保証を伴う教育の連携指導体制を実現することを目的としていた。また、派遣と受入の学生は、自身の国際経験を積むことを主たる目的として、それらを支援する共同教育指導体制は、TKTキャンパスアジアで確立されたと言える。今後は、それらの教育指導体制を基盤に、アジアの科学技術を先導する研究につながる「研究重視型教育」へと強化する。すなわち、学生は、2国間ないし3国間の共同指導の下、自身の研究が受け取られる存在であるという立場を理解することによって、将来のトップリーダーに向けたキャリア形成の開始点に位置することになる。また、教員は短期間留学生を受入れて研究室での研究を経験させるだけではなく、派遣大学の教員との連携を（例えば教員の派遣と受入なども視野に）強化することによって、共著の学会発表や論文発表に向けた共同研究への展開とジョイントディグリーが可能となるような枠組みを構築する。</p> <p>○他大学の学生の参加 TKTキャンパスアジアで実施したサマープログラムには、日中韓の3大学以外の教員や学生から、参加することが出来ないかという問合せが毎年複数あった。それらの大学の教育内容、研究活動状況、世界的な大学間ネットワークへの加盟実績など、質の保証を担保として、日中韓の他大学の学生の参加が可能となるような枠組みを構築し、参加学生の多様化とプログラムの質の高度化へと展開する。</p> <p>○フェカルティデベロップメント(FD)の強化、ならびに国際公募による国際連携を推進する教員の強化 基本的に教員の英語力に問題はないと言っているが、英語による教授法や涉外活動について、さらに強化する必要があり、引き続き、フェカルティデベロップメント(FD)を強化拡充する。また、教員のみならず事務職員の国際化にも取り組み、相手国への短期滞在などを通じて、教職員の国際的視野の拡大を推進する。さらに、国際公募により海外での教育や国際連携研究の経験を有する教員を配置し、本プログラムの推進強化を図る。</p>	<p>【今後の展望】 ダブルディグリー・ジョイントディグリーへの展開について、教員による共通研究課題抽出が進んでいるが、さらに分野（本学の学院）毎に修了要件などの詳細を検討し制度設計へと展開する。</p>
--	--

（大学名：東京工業大学）（主たる交流先：清华大学、韓国科学技術院（KAIST））

- 11 -

<p>進強化を図る。</p> <p>（2）相手大学（相手国）のニーズを踏まえた大学間交流の展開</p> <p>【実績・準備状況】 3大学では、構想責任者と関係教員、並びに事務担当者で、合同運営委員会（Joint Committee）を設置し、各大学のアカデミックカレンダー、授業時間割、受入学生の身分、単位制度、他大学で取得した単位の認定制度、単位認定を取り扱う部署と認定手順、成績評価、GPA、卒業・修了要件の相違点等の情報を共有する「Joint Implementation Guidelines」とその附属文書を策定し、質の保証を伴う連携教育と単位互換に対して柔軟な対応を可能とする連携運営体制を確立し、ダブルディグリープログラムを実現した。</p> <p>【計画内容】 本事業では、本学が導入したクオーター制度を活用し、「授業中心型教育」プログラムでは1クオーターである7~8週間で単位取得につながる講義を強化し、一方、その基礎学力を基本とした「研究重視型教育」プログラムでは、学生の滞在のみならず、学生の帰国後も教員同士の共同研究を通じて、学位取得を目指した長期的交流が続けられる枠組みを作り、科学技術を先導する連携プログラムへと強化する。</p> <p>また、応用と実用を重視した韓国の技術開発志向と基礎を重視した日本の研究展開から、それぞれの人材育成ニーズに対して相補的に高度化する連携指導体制を強化し、両国間の国際共同研究へと展開推進する枠組みを構築する。さらに、本学が力を入れている環境やエネルギーに関する研究と教育は、中国の入材育成ニーズのみならず、アジアや世界の国々でも問題解決型人材強化への展開が期待されており、日本の基礎科学技術が日中韓に留まらず、世界に貢献する大きな契機になると期待される。</p>	<p>【平成29年度末までの取組状況】 平成29年度開催のサマープログラムの「授業中心型教育」では、計画内容にある7~8週間より短い4週間で単位取得が出来る科目を立ち上げた。講義のデータとしては、本学が力を入れている日本の環境エネルギー（Environment & Energy）のほか、本事業の柱の一つである21世紀型スキル等を取り上げた。また、平成30年度はそれらの科目に加えて、新たに、本学の地球生命研究所の教員が講義を担当するEarth & Life Scienceや、理化学研究所の研究員によるAdvanced Materials & Scienceを立ち上げ、受講科目を選択できるようにし、参加学生のさらなるニーズに応えられるようにしている。「研究重視型教育」においては、Study and Research Planを通して、本学の受入指導教員と派遣元大学の教員が学生の学修計画を確認している。また、帰国後は、本学指導教員署名済のStudy and Research Recordにより、留学中の成果を派遣元大学の指導教員と共有することで、教員同士の連携に繋がるようにしている。</p> <p>【取組状況における課題点】 ・新しいJoint Implementation Guidelinesの策定から、ダブルディグリーにつながる、学生が派遣される大学での滞在期間や単位互換の最適化を進める。担当教員を中心と共同研究を推進すると共に、共著論文へと展開する。</p> <p>【今後の展望】 問題解決型人材教育への展開をさらに強化し、本プログラム修了学生のその後に進路についても、教員による指導と調査を実施する。</p>
--	---

（大学名：東京工業大学）（主たる交流先：清华大学、韓国科学技術院（KAIST））

- 12 -

③ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備 【(1)～(3)合わせて3ページ以内】	
申請時の事業計画	事業計画の実施状況
(1) 外国人学生の受入のための環境整備	
<p>【実績・準備状況】</p> <p>○キャンパス・アジアバイロットプログラムにおいて、外国人受入学生の一元的在籍管理、出願手続きのオンライン化、留学アドバイザー及びチーフによる生活指導、質の保証を考慮した研究指導、グローバル企業による英語によるインターンシップの試行など、当初計画に沿った組織的な支援体制の拡充と受入環境の整備が実現した。</p> <p>○来日する外国学生に対してチーフー学生を指名して、事前説明会を開催し、専任のプログラムコーディネーターによるチーフー教育を実施した。地震対策などの危機管理についても、全て必要文書の英文化を整え、口頭説明と共に、留学生の日常生活での留意点の理解も徹底された。さらに、宿舎担当の教育研究支援員を置き、民間宿舎について比較検討の上、大学が賃貸借契約（アウトソーシング）を行うことにより、留学生に対して奨学金支給と併せて宿舎（シェアハウス）の提供を実現した。</p> <p>○各大学のアカデミックカレンダー、授業時間割、受入学生の身分、単位制度、他大学で取得した単位の認定制度、単位認定を取り扱う部署と認定手順、成績評価、GPA、卒業・修了要件、等の情報を共有し、それらの制度を前提としたプログラムの枠組みの構築を行った。授業の履修登録期間の開始や授業日程の変更等は随時対象学生全員にメール配信を行った。</p> <p>【計画内容】</p> <p>留学生の一元的在籍管理、出願手続きのオンライン化、留学アドバイザー及びチーフーによる生活指導について、組織的な支援体制の拡充と強化を推進する。例えば、宿舎担当の窓口を設置し、日常の生活支援や危機管理体制を強化する。また、日本人学生と連携した研究発表会やアカデミックツアなどを企画し、授業と研究室での活動以外の交流の環境整備を強化する。</p> <p>TKTキャンパスアジアでは、企業から招聘した評議委員を含む国際評議会・アドバイザリーボードや、産業界などからのコメントを頂く有識者座談会を開催し、また、産業界からの講師の招聘とアカデミックツアーや連携を強化するなど、産業界との連携を推進する体制を構築してきた。本プログラムでは、さらに産業界との連携を強化し、各大学の卒業生や本事業の経験者との情報共有の高度化と共に、企業や研究所などの連携教育を企画する。また、インターンシップや留学生を採用する企業リストを作成し、参加学生に公開する。さらに、プログラム修了後の学生と定期的に連絡を取り、グローバル人材へのキャリアアップ状況を把握することにより、アジアの学生に対するキャリア教育のあり方を広く提示する。</p>	<p>【平成29年度末までの取組状況】</p> <p>留学生の一元的在籍管理、出願手続きのオンライン化、留学アドバイザー及びチーフーによる生活指導については、バイロット期に整備した内容を継承しつつ、組織的な支援体制の拡充と強化を推進している。受け入れた外国人学生には、日常生活での不便を軽減し、学修に専念ができるよう、1名につき一人のチーフーを付けた。チーフーとしては、「授業中心型教育」の学生には、過去に本プログラムに参加した本学学生や、KAIST・清華大学に留学予定の学生を、研究室での活動時間が長い「研究重視型教育」の学生には同じ研究室の学生を担当とした。</p> <p>また、現地学生との交流機会を望む声に応え、受入学生滞在中に、派遣予定学生および派遣経験学生との交流会を開催し、自由に意見交換が出来る場を設けた。これにより、受入学生・派遣学生双方に「キャンパス・アジア生」というチーム意識が生まれ、友好を深める機会となった。受入学生にとってだけでなくこれから留学する本学学生にとっても事前に受入大学の学生と情報交換が出来る貴重な機会となった。</p> <p>さらに、夏季にはプログラムの一貫として、最先端の研究所や企業の見学等、日本の科学技術の現場を体感できる機会を盛り込んだ。それに加え、日本語講義や茶道・書道等の文化体験を実施し、日本語の基礎と日本文化について学ぶ機会を提供した。</p> <p>経済的支援に関しては、所属キャンパスから出来るだけ近いエリアの大学の宿舎もしくは民間のシェアハウスをプログラムで手配した。また、JASSOの海外留学支援制度（協定受入）を活用して奨学金支給し、留学中に過度の経済的負担が生じないよう配慮している。平成29年度には、JASSO支援人数枠を超える応募者があり、本人の希望と大学間での合意のもと、数名が奨学金支給無しの条件で参加した。また、滞在中の海外旅行保険加入、キャンパス内の身分の付与、図書館やwi-fi利用者登録等、日本での滞在に支障がないように配慮している。</p> <p>企業や学外の組織との連携としては、平成30年度のサマースクールにおいて、理化学研究所の研究者を講師に迎えての授業を企画しているほか、高校生科学コンテストである「つくばサイエンスエッジ」や「グローバルスリンクシンガポール」に参加する高校生を交えてのグループワークを行う予定である。</p>
<p>【取組状況における課題点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業や学外の組織との連携において、本プログラムへの支援を視野に入れ、協力関係を構築したい。 <p>【今後の展望】</p> <p>企業や学外の組織からの経済的かつ人的支援を得られるような可能性を議論する。</p>	

(大学名：東京工業大学) (主たる交流先：清華大学、韓国科学技術院 (KAIST))

- 13 -

<p>(2) 日本人学生の派遣のための環境整備</p> <p>【実績・準備状況】</p> <p>○キャンパス・アジアバイロットプログラムにおいて、留学中の日本人学生には、月報などの現状報告の提出を義務づけ、メールにより国際部との間で定期的に連絡をとり、安否確認、修学・生活上の各種相談に応じた。また、学生から多く寄せられる質問への情報を集約して専用webサイトを通じて的確に情報提供が出来るようにした。</p> <p>○留学前オリエンテーションの実施や個別相談対応等を通じて、留学先での修学計画等、これまで指導教員や学生本人の自助努力に委ねられていた部分についても、質の保証の観点から、積極的な指導を行った。学生の語学力向上については、外国语研究教育センターの協力を得て、英語集中講義（英語塾に相当）や短期語学留学プログラム等を実施した。</p> <p>○各大学のアカデミックカレンダー、授業時間割、受入学生の身分、単位制度、他大学で取得した単位の認定制度、単位認定を取り扱う部署と認定手順、成績評価、GPA、卒業・修了要件、等の情報を共有し、それらの制度を前提としたプログラムの枠組みの構築を行った。</p> <p>○「東工大生のための安全な海外渡航の手引き」と「派遣留学・研修等の危機管理対応マニュアル」を用いて一層充実した内容で周知徹底を図ると共に、全学で危機管理サービスに加入し、派遣学生個人のみならず、大学組織として海外で発生する危機管理に迅速に対応できるように整備した。</p> <p>○国内外でのインターンシップ等による企業体験プログラムは各部局レベルから提供されており、TKTキャンパスアジアでは産業界から講師や評議委員を招聘して、産業界との連携を図った。</p> <p>【計画内容】</p> <p>学生の語学力向上は引き続き強化すべき項目であり、英語集中講義や短期語学プログラム等の他に、留学生と日本人学生が英語と日本語を共有するBuddy制度や日常的に英語を使うキャンパスの環境を整備する。留学中の支援については、メールやネットワークを通じての定期的な連絡体制をさらに強化し、特に危機管理や健康管理、安全対策などについては、24時間危機管理サービスの拡充も含めて迅速に対応できるように環境を強化する。</p> <p>また、引き続き産業界との連携を強化し、アカデミックツアーやインターンシップなどを通じて、企業の研究開発現場での経験やキャリア形成教育の高度化を図る。さらに、プログラムの可能な部分については、産業界とのタイアップを視野に、企画推進を図る。</p>	<p>【平成29年度末までの取組状況】</p> <p>本事業専用ウェブサイトでの情報発信のほか、全学的な学生のサポート体制が整えられており、日本人学生の海外留学支援、留学中の安全確認体制が整備されている。また、緊急事態の連絡体制が整備されており、学生が海外においてトラブルに遭遇した際、保険会社、危機管理サービス会社とともに危機管理体制を構築し、情報収集から救助等の対応が迅速に行える体制を整えている。</p> <p>事前学習として、中韓に滞在経験を有する教職員や派遣経験学生等による現地語の基礎や文化・社会的慣習に関する派遣前講習会を通じ、滞在のための予備知識を深め、現地での円滑な交流を可能にするための取り組みを実施した。</p> <p>また、受入学生滞在中に、派遣予定学生および派遣経験学生との交流会を開催し、自由に意見交換が出来る場を設けた。これにより、受入学生・派遣学生双方に「キャンパス・アジア生」というチーム意識が生まれ、友好を深める機会となった。特に、これから留学する本学学生にとっては、事前に受入大学の学生と情報交換が出来る貴重な機会となった。</p> <p>【取組状況における課題点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・渡航までの事前の準備など、参加する学生への指導と学生間の情報交換は進んでいるが、より多くの日本人学生が留学に興味を持つように、その参加学生の経験を広く周知することを推進したい。 ・産業界や学外機関との連携について、プログラムの中に学外の研究開発現場での経験やキャリア形成教育を導入するなど、産業界や学外機関と連携して推進する企画を議論する。 <p>【今後の展望】</p> <p>派遣を経験した学生の情報共有を推進する。また、産業界や学外機関との連携方策の議論を進め、より多くのグローバル人材を輩出するようなプログラムへと展開する。</p>
(3) 関係大学間の連絡体制の整備	

(大学名：東京工業大学) (主たる交流先：清華大学、韓国科学技術院 (KAIST))

- 14 -

<p>【実績・準備状況】</p> <p>○キャンパス・アジアバイロットプログラムの対象大学である清華大学とKAISTとは、これまでに豊富な交流実績を有しており、国際担当部署の間で組織的な連携体制と教員同士の連絡・情報共有体制は十分に整備されている。</p> <p>○外国人留学生の全学的な同窓会組織を立ち上げ、本プログラム修了生に対しても本同窓会組織に参画することで継続的に教育研究上の情報提供や意見交換の機会が得られた。また、プログラムに参加した学生の協力により、新たに本学へ留学を希望する学生に対して窓口教員を介して情報を提供するなど、修了生との連携は実効的に機能している。</p> <p>○万一に備えでは、派遣学生には海外旅行保険に加入させ、学生が留学先において24時間体制のサポートが受けられる危機管理体制を構築している。留学生には、入学時のオリエンテーションで有事の際の行動や連絡先について伝えるとともに、メールニュースで防災情報など生活に重要な情報も提供している。</p> <p>【計画内容】</p> <p>3大学の構想責任者と関係教員、並びに事務担当者で設置した、合同運営委員会（Joint Committee）を強化する形で、修了生が参加する会合を設置し、現在、学生間で個別に行われている情報交換などを一元化した同窓会を立ち上げ、卒業・修了後のキャリアアップに貢献する情報ネットワーク機能を構築する。リスク管理についても、そのネットワークを通じて、常に情報の授受と共有が可能なシステムを構築強化する。また、先進科学技術「21世紀型スキル」教育などの新しい試みについて、卒業・修了後も聴講出来るようにアーカイブをwebプラウザ上で公開し、キャリア形成について継続的なサポート体制を強化構築する。</p>	<p>【平成29年度末までの取組状況】</p> <p>本事業では、三大学間の連携強化のため、年に2~3回程度、直接顔を合わせて合同運営委員会（Joint Committee）を開催し、現状や課題を共有し、その後の方針について検討を行っている。これにより、定期的に三大学が本事業の方向性を確認し、学生にとってより良い交流プログラムとするための意見交換を可能としている。また、事務担当者レベルの細かな確認は、メールやスカイプミーティングを通して密に連絡を取り合い、行き違いや誤解を防ぐよう努めている。</p> <p>プログラムの修了生の同窓会組織としては、平成28年度にLinkedInでCAMPUS Asiaのページを立ち上げ、プログラム修了生が登録できるコミュニティサイトを作成した。</p> <p>【取組状況における課題点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本プログラムを経験した3カ国の学生の同窓会組織として、どのような体制が良いかを議論し、卒業・修了後のキャリアアップに貢献する情報ネットワーク機能を構築する。 <p>【今後の展望】</p> <p>「21世紀型スキル」教育を推進し、プログラム修了生の効果測定を実施すると共に、「21世紀型スキル」の重要性を、本プログラム参加学生や関係教員以外にも周知していく。</p>
--	--

（大学名：東京工業大学）（主たる交流先：清華大学、韓国科学技術院（KAIST））

- 15 -

④ 事業の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及 【(1)～(4)合わせて3ページ以内】	
申請時の事業計画	事業計画の実施状況
(1) 事業の実施に伴う大学の国際化	
【実績・準備状況】	【平成29年度末までの取組状況】
<p>○キャンパス・アジアバイロットプログラムにおいて開始したサマースクールには、3大学の学生に加え、本学協定校から派遣された学生も参加できる取組が設けられるなど、柔軟で発展的なものとなっている。平成27年度のサマースクールでは国内のキャンパスアジア3プログラム合同のスペシャルレクチャー「Technology of Tomorrow」を主催。TV会議システム経由も含め、3プログラムの学生と教員、さらにASPIRE（Asian Science and Technology Pioneering Institutes of Research and Education）リーグや欧米の大</p>	<p>東工大では平成28年度から日本の大学で初めて学部と大学院を統一し、「学院」を創設した。これにより、学士課程と修士課程、修士課程と博士課程の教育カリキュラムが継ぎ目なく設計され、入学時から大学院修了までを見通すことができ、留学を含めた多様な選択が可能となった。さらに、平成28年度から導入されたクオーター制学事歴により、日本側の学生が短期留学しやすい講義環境を準備できた。</p>
<p>○清華大学とKAISTは、本学の国際室を中心とした長年の国際化活動と教員同士の教育研究連携活動を通じて主導的にアジアの主要理工系大学を集結させたASPIREリーグに所属する大学である。特に、清華大学とは修士課程ダブルディグリープログラムが、KAISTとはISPS拠点大学交流等の共同研究に基づく大学院学生の相互交流が、長年にわたり継続している。両大学とは学生交流に係る授業料不徴収協定も締結されており、こうした豊富な実績を背景として、清華大学、KAISTそれぞれの国際担当部署との密接な連携のもと、本事業における学生交流も、事前の合意に沿って順調に進められた。</p>	<p>また、類似の短期交流プログラムを複数実施しており、正規課程での交換留学のみならず、多彩な交換留学の実績が積み重ねられている。特に、平成28年度より開始したTokyo Tech Summer Program/Winter Programでは海外協定校より、それぞれ30名（夏）、10名（冬）が参加し、こうした訪問学生の増加を見込んだ学生寮の増築や職員の英語力強化といった国際化の取り組みを進めている。</p>
<p>【計画内容】</p>	<p>本事業としては、平成30年度の夏、香港科技大学や南洋理工大をはじめとするその他アジアおよび欧米大学も学生受入を行う。</p>
○大学の国際化：「世界最高水準の理工系大学ネットワーク」の強化	【取組状況における課題点】
<p>本学の将来構想の中に、大学の国際化戦略として「世界最高水準の理工系大学ネットワーク」の構築があり、キャンパスアジアはその実現に向けた取組みの重要なプログラムの一つと位置づけられている。本学と、清華大学、KAISTの日中韓キャンパスアジア3大学に加えて、香港科学技術大学とシンガポール南洋理工大学の5大学で形成したASPIREリーグを基軸に、ヨーロッパの主要理工系大学コンソーシアムであるIDEAリーグと米国のトップクラスの理工系大学などと、リーグ間の交流事業を企画し、キャンパスアジアを世界最高水準の理工系大学のネットワークをアジアで結ぶハブ機能へと強化する。</p>	<p>・本プログラムを、清華大学とKAIST以外の中国、韓国の大学、さらにASEAN諸国の大学への周知を進めると同時に、質の保証について、3大学で議論を行う。</p>
	【今後の展望】
<p>また、清華大学とKAIST以外の日中韓の大学との交流、さらにASEAN諸国へ広げた場合の可能性の検討、ならびに産業界や研究開発法人等の基礎科学技術研究所との連携を強化する。</p>	<p>ASPIREリーグに所属する香港科技大学や南洋理工大との連携も強化し、また中国、韓国とのそれぞれの大学で実施しているサマープログラムなどへの日本人学生の派遣を推進する。</p>

（大学名：東京工業大学）（主たる交流先：清華大学、韓国科学技術院（KAIST））

- 16 -

<p>(2) 事業体制の強化</p> <p>【実績・準備状況】</p> <p>○キャンパス・アジアハイロットプログラムは全学のプログラムであることから、全学の国際部と連携しつつ実施した。構想責任者が総括し、カリキュラム策定を行う国際連携プランナー、運営実務を担当するプログラムコーディネーター、学生の派遣と受け入れを担当する留学アドバイザー及び宿舎と特別講義を担当する教育研究支援員から構成された。なお、最後の2年間は計65回に及ぶ本事業推進会議を実施し、綿密な打合せと準備のもと、種々の業務を実施し、本事業の目的を達成した。</p> <p>○本プログラムの実施にあたっては、英語能力と国際経験のある専任のコーディネーターを置き、国際連携プランナー（特任准教授）や事務員、教育研究支援員とともに、プログラムの円滑な運営を遂行した。</p> <p>【計画内容】</p> <p>引き続き全学のプログラムとして、全学の国際部が担当部署となり、韓国、中国の担当者とも連携して事務局機能を強化する。また、事務職員に対するスタッフデベロップメント（SD）を実施する。さらに、3大学間の本事業担当事務職員を中心に、それぞれの大学に短期滞在し、事務体制や手続きなどの研修を行い、職員の国際的対応能力の強化と、日中韓の事務レベルでの連携運営体制を推進する。</p>	
<p>【平成29年度末までの取組状況】</p> <p>ハイロットプログラム期から引き続き全学のプログラムとして、専任のスタッフが事業全体の窓口となり、各種連絡調整、問い合わせ対応、プログラム部会、三大学間の情報共有、意思疎通を図り、プログラムの推進と予算執行を担当している。スタッフは、外国人教員や留学生との円滑な意思疎通が可能な英語能力を持ち、コミュニケーションには問題がない。このほか、本学では平成29年6月にローカルルールを廃止し、教員員や学生の出張手続きを簡略化した。これにより、教員出張や招聘、学生交流時の旅行手配がより効率的に実行できるようになった。</p> <p>また、平成29年度までに、本学の担当事務職員が連携大学であるKAISTと清華大学を訪問し、派遣学生が滞在する宿舎や食堂等を視察、公共交通機関の利用の利用等を通して、現地での生活を体験した。それにより、派遣学生が対峙するであろう課題をふまえ、経験をベースとした実感を伴った派遣学生向けのガイダンスの実施が可能となった。</p> <p>【取組状況における課題点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予算が減少傾向にあり、事務支援員の人事費とプログラム実施経費の確保が難しくなりつつある。 <p>【今後の展望】</p> <p>事務体制の強化は必須であり、引き続き事務職員に対するスタッフデベロップメント（SD）を実施するが、同時に、事務支援員の人事費の確保について、全学レベルで検討する必要がある。</p>	

<p>(3) 事業の実施、達成・進捗状況の評価体制</p> <p>【実績・準備状況】</p> <p>○平成24年度より毎年年度末に国際評価パネル・アドバイザリーボード委員会を開催し、それに回答する形で改善策を実施してきた。外部評価委員は①英国サザンブロント大学：Mizuta教授、②米国ニューヨーク州立大学：Nakamura教授、③英国ケンブリッジ大学：Soga教授、④韓国漢陽大学：Im教授、⑤慶應大学：小尾教授（委員長）、⑥中国清華大学：Qu日本研究センター長、⑦韓国フルヤメタル：Ha CEOの7名からなる。また第1回には米国ジョージア工科大学Woodall教授とスタンフォード大学Horvat教授がオブザーバーとして参加した。</p> <p>【計画内容】</p> <p>引き続き、国際評価パネル・アドバイザリーボード委員会を開催し、評価コメントを頂き、それに答える形で次年度の事業内容の改善を実施する。また理工系関係者に限らない有識者会議を開催し、さらに産業界や基礎科学研究所との連携を強化して、多角的な視点から評価を頂く。</p>	
<p>【平成29年度末までの取組状況】</p> <p>平成29年度末までの段階で、事業実績を整理して評価を依頼する段階に至っていないため、委員会自体は開催できていない。ただし、教員員同士の打ち合わせ時や合同運営委員会実施時には、連携大学側からの改善案を検討し、可能な限り反映できるよう取り組んでいる。</p> <p>本事業での交流プログラムでは受入学生に、ファイナルプレゼンテーションでの発表、企業見学時や21世紀型スキル講義後のレポート提出を義務付けているほか、学生本人によるプログラムへの満足度や達成度についてのアンケートの調査による手法を取り入れ、プログラム内容の総合的な評価を実施している。清華大学・KAISTからは毎回採択予定人数を超える応募があり、学生にとって満足度の高いプログラムとなっていることを示唆している。</p> <p>【取組状況における課題点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上述のように国際評価パネル・アドバイザリーボード委員会のメールレビューを実施する。 <p>【今後の展望】</p> <p>評価コメントなどから、プログラム終了後の継続の可能性について、議論を始める。</p>	

（大学名：東京工業大学）（主たる交流先：清華大学、韓国科学技術院（KAIST））

- 17 -

<p>(4) 国内外への情報提供の方法・体制</p> <p>【実績・準備状況】</p> <p>○本学のwebサイトは日英同等内容を原則に構築され、本事業の全ての行事、取組み、成果についても広く国内外に情報提供を行った。さらに、プログラム独自のwebサイトを構築し取組内容を翻訳web上で公開した。またサマースクールの講義内容も閲覧することができる。</p> <p>○本学のwebサイトには、公表が望まれる項目として、教員数（含外国人教員数）、学生数（含留学生数）、海外大学との連携等国際連携情報や、宿舎等生活情報等の基本情報が日本語、英語で公表されている。</p> <p>○本事業の取組成果について、プログラム独自のwebサイトにて日英同等内容で発信している。また、本事業のホームページのみならず、CAMPUS Asia Research Reviewというキャンパス・アジア全10プログラムの最新のニュースをまとめた情報発信webサイトを英語で開設し、国内外へのプログラムの情報提供を強く推進した。</p> <p>【計画内容】</p> <p>○キャンパス・アジア全プログラムの情報発信webサイトの強化</p> <p>TKTキャンパスアジアにて構築した、キャンパス・アジアの全プログラムの最新情報を1ストップで集約する情報発信webサイトであるCAMPUS Asia Research Reviewを強化し、ニュース性のある編集を行うことで、参加する教員の活動の「見える化」とアジアの研究と教育の最新の情報発信力を推進する。</p> <p>○他大学の学生との交流、理工系と文系が融合する「21世紀型スキル」合同事業の強化</p> <p>本学は、今までにキャンパス・アジアの理工系3プログラムに参加する12大学の学生交流を推進するため、国内のキャンパス・アジア3プログラム合同のスペシャルレクチャー「Technology of Tomorrow」などを主催してきた。その試みは、1つのプログラムの中に留まることなく、他のプログラムの学生や教員との交流、ならびに成果の普及と共有から、さらなる相乗効果が期待され、今後も、例えば「21世紀型スキル」教育を基軸とした、理工系と文系が融合する合同事業を推進し、広い視野を持つグローバル人材の育成を他大学の教員と連携して強化推進する。</p>	
<p>【平成29年度末までの取組状況】</p> <p>本事業では、ハイロットプログラム期から独自のウェブサイトを設置し、本学の国際交流ページ内のリンクからもアクセス可能である。同ウェブサイトでは、事業概要および活動内容、学生募集要項等を英語、日本語で掲載し、国内外へ情報提供している。また、平成28年度には、キャンパス・アジア採択大学の取り組みを継続したウェブサイトCAMPUS Asia Research Reviewとのリニューアルを行い、関係教員の情報などを学内外へ発信している。</p> <p>他大学の学生との交流に関しては、平成29年度の「授業中心型」サマープログラム開講科目において、同時期に開催していた別プログラムでの受入学生や東工大生にもオープンにし、本コソーシアム以外の大学の学生も多く参加した。さらに、平成30年度に開催するサマースクールについては、香港科技大学や南洋理工大学はじめとするその他アジアおよび歌米大学の学生にも門戸を開き、受け入れられる体制を整えている。</p> <p>「21世紀型スキル」の講義は、すべての受け入れ学生にとって参加が必須としており、本学内の教員だけでなく、外部よりコミュニケーションスキルを専門とする講師を迎え、広い視野を持つグローバル人材の育成の強化を進めている。</p> <p>【取組状況における課題点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報発信をより効果的に行う方策を考える。 ・「21世紀型スキル」の講義内容を議論し、問題解決に向けた議論が出来る人材教育を推進する。 <p>【今後の展望】</p> <p>情報発信により、プログラムのみならず、教育者、研究者としての教員自身のプロモーションを推進する。</p>	

（大学名：東京工業大学）（主たる交流先：清華大学、韓国科学技術院（KAIST））

- 18 -

⑤ 留意事項への対応 【1ページ以内】	
審査結果表【留意事項（改善を要する点、留意すべき点）】※経費面を含む	留意事項への対応状況
<p>○ Competency を涵養するための「21世紀型スキル」教育についてより明確にすることが必要である。</p>	<p>【平成29年度末までの取組状況】*お伝えしている場合は、その背景や事情等を説明すること。 本プログラムの「21世紀型スキル」におけるCompetencyとは、最先端の科学技術を基礎として、コミュニケーション力、チームワーク（コラボレーション）力、創造的思考と問題解決力などを兼ね備え、個の力を社会に活かせる問題解決力と社会的総合力などを意味している。 「21世紀型スキル」教育を行う授業やワークショップでは、専門を乗り越えた課題を与え、それをその場で初めて構成されたグループで役割分担から問題解決の議論とそのまとめと報告までを実行するPBL（Project Based Learning）を実施している。また、社会に出た時の価値観の多様性、自身の価値観の基準を柔軟に持つことの重要性などを理解する教育を設計している。すなわち、学術的な素養のみならず、それをどのように効果的に社会に活かしていくかを身に付ける教育を、学生のみならず教職員にも浸透するように事業を遂行している。 本事業では、平成29年度末までに、学生対象に5回、事務職員対象に2回、教職員対象に1回、計9回の「21世紀型スキル」教育の講義を実施した。学生向けには、留学生および本学学生が科学技術の知識のみならず、コミュニケーションスキルの重要性を理解するきっかけを提供した。留学生対応業務に従事する事務職員向けには、異文化間コミュニケーションをよりスムーズにするためのコンテンツ中心の講義とした。教職員向けに清華大学で開催した「グローバルコンピテンスワークショップ」では、三大学の教職員が参加し、清華大学が全学をあげて取り組む21世紀型スキル教育について学んだ。</p> <p>【今後の展望】 アジアにおける「21世紀型スキル」教育のスタンダードモデルとしての情報発信に務める。</p>

（大学名：東京工業大学）（主たる交流先：清華大学、韓国科学技術院（KAIST））

- 19 -

2. 目標の達成状況	
① 中間評価までの達成目標 【(1)～(4)合わせて3ページ以内】	
申請時の事業計画	事業計画の実施状況
(1) 養成しようとするグローバル人材像について	
<p>(i) 事業計画全体の達成目標（事業開始～平成32年度まで）</p> <p>卓越した最先端科学技術の素養とグローバルな視点を持つだけではなく、アジアや世界を問題解決型の科学技術展開で結び、社会に貢献するトップリーダーに向けたキャリアパスを自ら展開出来る人材を育成する。すなわち、自身の5年後10年後のビジョンを持ち、現在の問題を科学技術と世界情勢の両方の観点から長期的展望を持ってリーダーとして解決していくスキルを身につける。</p>	<p>(ii) 中間評価までの達成目標（事業開始～平成29年度まで）</p> <p>【平成29年度末における目標の達成状況】</p> <p>本事業では、29年度末までの間、「21世紀型スキル」講義をすべての受入学生にとっての必修講義とし、専門の授業や研究室での活動で得られる科学技術（Literacy）と同時に、社会性などの総合力（Competency）の重要性を理解し、実験できる人材の育成に取り組んできた。特に、サーマープログラムでは、「Communicating Science and Engineering in Society」の講義を必修科目とし、全受入学生が受講した。この講義は、専門知識を持たない高校生に科学技術の専門知識について説明し、理解を促し、最終的に高校生が与えられたテーマに関するプレゼンテーションを行えるように指導するという内容であり、コミュニケーション力、チームワーク力、創造的思考と問題解決力等が必要となる。</p> <p>また、この講義は派遣学生の参加も推奨しており、高校生と外国人学生の橋渡し役として、積極的にコミュニケーションをとる必要のある環境となっている。</p> <p>【目標の達成状況における課題点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本プログラムに参加した学生には、コミュニケーション力やチームワーク力について、明らかに進歩が見られるが、その重要性を多くの学生に周知する。 <p>【今後の展望】</p> <p>本プログラムに参加していない学生や教員に対しても、グローバル人材像とその教育プログラムを提示し、広く共通認識のもとでリーダー教育を推進する。</p>

（大学名：東京工業大学）（主たる交流先：清華大学、韓国科学技術院（KAIST））

- 20 -

(2) 学生に修得させる具体的能力のうち、一定の外国語力基準をクリアした学生数の推移について

(i) 本事業計画において定める外国語力基準及び同基準をクリアする学生数に関する達成目標

外国語力基準	達成目標	
	中間評価まで (事業開始～平成29年度まで)	事業計画全体 (事業開始～平成32年度まで)
【参考】本事業計画において海外に留学する日本人学生数	15人（延べ数）	45人（延べ数）
1 帰国後、TOEFL iBTで70点以上を取る、もしくは、派遣前から5点以上上昇させた者	15人（延べ数）	45人（延べ数）
2 受入指導教員から、研究室における英語力として支障がないと評価された者	15人（延べ数）	45人（延べ数）

(ii) 外国語力基準を定めた考え方

(※(i)において、複数の外国語力基準を設けている場合は、それぞれについて明示すること)

TKTキャンパスアジアペイロットプログラムの募集要項では、派遣前の語学力基準をTOEFL iBT65点以上（TOEIC600点以上）と定めている。また、留学先の受入指導教員から、研究室における英語力として支障がないとの評価を得ているため、今回も同様のスコアを語学力基準とする。

派遣後については、TKTキャンパスアジアペイロットプログラムにおいて、留学初期に顕著な語学力の上昇が見られ、その後は穏やかな上昇を示したことから、今回は、留学先での滞在期間に関わらず、帰国後のTOEFL iBTで65点（TOEICで約40点）のスコアアップを目標とする。

(iii) 事業計画全体の目標達成に向けたプロセス（事業開始～平成32年度まで）

(※(i)において複数の外国語力基準を設けている場合は、それぞれについて目標を明示すること)

○本事業に参加した学生で、帰国後、TOEFL iBTで70点以上を取る、もしくは、派遣前から5点以上、上昇させた者の数

○なお、全参加学生が、受入れ先指導教員から語学力において支障がないとの評価を得ることを基準とする

(iv) 中間評価までの目標達成に向けたプロセス（事業開始～平成29年度まで）

(※(i)において複数の外国語力基準を設けている場合は、それぞれについて目標を明示すること)

○本事業に参加した学生で、帰国後、TOEFL iBTで70点以上を取る、もしくは、派遣前から5点以上、上昇させた者の数

○なお、全参加学生が、受入れ先指導教員から語学力において支障がないとの評価を得ることを基準とする

(i) 本事業計画において定める外国語力基準及び同基準をクリアした学生数に関する達成状況

【平成29年度末における目標の達成状況】

外国語力基準	達成状況 (単位:人)				
	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
海外に留学した日本人学生数 (平成28～29年度の実績合計)	17人				
上記のうち外国語力基準を達成した合計人数	6人	11人			
帰国後、TOEFL iBTで70点以上を取る、もしくは、派遣前から5点以上上昇させた者	5人	10人			
受入指導教員から、研究室における英語力として支障がないと評価された者	6人	11人			

(iv) 中間評価までの目標達成に向けたプロセス（事業開始～平成29年度まで）

【平成29年度末における目標の達成状況】

平成28～29年度に派遣した本学学生17人全員が、受入指導教員から研究室における英語力として支障がないと評価された。帰国後のTOEFL iBTで70点（TOEIC換算650点）以上を取る、もしくは、派遣前から5点（TOEIC換算40点）以上上昇させた者は、17人中15人だった。内1名は、平成30年6月に帰国した者で、9月にTOEICを受験予定である。平成28～29年度の派遣学生は、高い英語力が高く、応募時の外国語力がすでにTOEFL iBT70点（TOEIC換算650点）以上を超えていた学生がほとんどであり、留学を志す学生の英語レベル自体が向上していることがわかる。

【目標の達成状況における課題点】

・点数の変化と合わせて、英語によるコミュニケーション力の向上を評価する企画を考える。

【今後の展望】

留学を経験した学生は、英語によるコミュニケーションの重要性を認識しているので、帰国後も留学生との交流の場を設け、さらなるスキルの向上が目指せるような環境を設定する。

（大学名：東京工業大学）（主たる交流先：清华大学、韓国科学技術院（KAIST））

- 21 -

(3) 学生に修得させる具体的能力のうち、「(2)」以外について

(i) 事業計画全体の達成目標（事業開始～平成32年度まで）

科学技術を基礎として、「21世紀型スキル」教育を通じて4Cスキル、すなわちCommunication, Collaboration, Critical Thinking, Creativityを兼ね備えた能力を持ち、問題解決に向けて企画、立案、実行が出来る能力。

(ii) 中間評価までの達成目標（事業開始～平成29年度まで）

1つのプログラムの中に留まることなく、他のプログラムの学生や教員との交流、ならびに成果の普及と共有から、さらなる相乗効果が期待され、「21世紀型スキル」教育を通じて、理工系と文系が融合する合同事業を推進し、広い視野を持つグローバル人材の育成を他大学の教職員と連携して強化推進する。

(ii) 中間評価までの達成目標（事業開始～平成29年度まで）

【平成29年度末における目標の達成状況】

平成29年度のサマープログラムでは、別プログラムの留学生との授業受講、日本文化体験、最先端の研究所や企業の見学等、本コンソーシアムの大学間交流にとどまらず、世界中の大学からの留学生と交流できる機会を盛り込んだ。また、「21世紀型スキル」講義では、外部企業や海外連携大学の教員を講師に迎え、幅広い視野を持つグローバル人材の育成を行った。

【目標の達成状況における課題点】

・積極的に参加する学生・教職員と、それ以外に特に積極的ではない学生・教職員とで、本来はその後者に参加を促したい。

【今後の展望】

教室形式だけではなく、現場で使える「21世紀型スキル」教育も推進する。

(4) 質の保証を伴った大学間交流の枠組みの形成及び拡大に向けた具体的な取組について

(i) 事業計画全体の達成目標（事業開始～平成32年度まで）

本学の所属するASPIREリーグ参加大学から、香港科学技術大学とシンガポール南洋理工大学の学生と教員との連携教育ならびに連携研究を実行し、アジアにおける質の保証を伴った大学間交流の枠組みの形成及び拡大を検討する。また、日中韓の3カ国以外のASEAN諸国理工系大学に本プログラムの取組みを発信し、質の保証を担保とした拡大の可能性を評価検討する。

(ii) 中間評価までの達成目標（事業開始～平成29年度まで）

日中韓の3大学以外の教員や学生の参加を考慮し、それらの大学の教育内容、研究活動状況、世界的な大学間ネットワークへの加盟実績など、質の保証を担保として、日中韓の他大学の学生の参加が可能となるような枠組みを構築し、参加学生の多様化とプログラムの質の向上強化へと展開する。

(ii) 中間評価までの達成目標（事業開始～平成29年度まで）

【平成29年度末における目標の達成状況】

平成29年度のサマープログラムでは、別プログラムの留学生との授業受講等、本コンソーシアムの大学間交流にとどまらず、世界中の大学からの留学生と交流できる機会を盛り込んだ。また、平成30年度の夏、香港科技大学や南洋理工大学をはじめとする他のアジアおよび米国大学も学生受入を行う予定である。

【目標の達成状況における課題点】

・質の保証を担保するプログラムの強化を図りたい。

【今後の展望】

清华大学とKAISTとの協議から、AEARU (The Association of East Asian Research Universities) 東アジア研究型大学協会に参加する大学への周知を視野に、制度設計を試みる。

（大学名：東京工業大学）（主たる交流先：清华大学、韓国科学技術院（KAIST））

- 22 -

② 本事業計画において海外に留学する日本人学生数の推移 【2ページ以内】					
平成27年5月1日現在／本事業の取組単位（学部等）の人数	35人				
(i) 日本人学生数の達成目標					
事業計画全体の達成目標（事業開始～平成32年度まで）	45人（延べ数）				
うち申請時の事業計画全体の達成目標（海外相手大学追加調書分がある場合のみ記載）	一人（延べ数）				
中間評価までの達成目標（事業開始～平成29年度まで）	15人（延べ数）				
うち申請時の中間評価までの達成目標（海外相手大学追加調書分がある場合のみ記載）	一人（延べ数）				
[上記の内訳]					
	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
合計人数	5人	10人	10人	10人	10人
申請時の計画調書記載人数	5人	10人	10人	10人	10人
海外相手大学追加調書分	人	人	人	人	人
(ii) 目標を設定した考え方及び達成までのプロセス（事業計画全体、中間評価までの双方について）					
本構想に基づき交流する学生の数は、三大学の副学長会議において決定されたが、その理由は、各大学が本構想の下で実施する各プログラムにおいて質の高い教育研究機会を提供するために適正な参加学生数であること、三大学間の派遣、受け入れ学生数のバランスが取れていること、の二点である。					
本学からは、毎年中国および韓国に計10名を派遣する（初年度は5名）。これにより、中間評価までの期間に計15名、本構想期間を通して計45名の本学の学生を派遣する予定である。					
清華大学については、サマープログラムを実施していないことから、セメスター単位の交流のみとなるが、KAISTについては、本構想においてサマープログラムが実施されており、これに参加した後、引き続き秋学期を履修する者が含まれる予定である。					
「研究重視型教育」は、既にASPIREリーグの共同プログラム（サテライトラボ）等により三大学の研究室の間で共同研究が実施されており、今まで開催されたASPIREリーグ学生ワークショップへの参加実績などがあることから、これらを含む幅広い大学間交流に基づき派遣を行う予定である。					
【平成29年度末における目標の達成状況】					
本事業で派遣する日本人学生は、中間評価までに15人としていたが、実際には16人を派遣した。初年度である平成28年度は、5人の派遣予定数に対し実際の派遣者数6人であった。2年目となる平成29年度も、予定者数10人に対し、実際の派遣人数11人と目標を上回る結果となった。派遣先大学別に見ると、KAISTが15名、清華大学が2名と差が出ている。これは、KAISTではほぼ全ての授業が英語で行われる一方、清華大学では現地語での授業が多く、事前の語学学習が必須となる場合が多いことが理由の一つと考えられる。					
【目標の達成状況における課題点】					
・先方の大学で受け入れ教員を選定するプロセスで、それぞれの部局で温度差がある。					
【今後の展望】					
派遣学生を受け入れて頂く教員について、それぞれの大学の留学生担当事務局と情報共有を強化する。また、他の派遣プログラムとの情報共有を進め、より効果的な留学派遣体制を構築する。					

（大学名：東京工業大学）（主たる交流先：清華大学、韓国科学技術院（KAIST））

- 23 -

③ 本事業計画において受け入れる外国人学生数の推移 【2ページ以内】					
平成27年5月1日現在／本事業の取組単位（学部等）の人数	1,332人				
(i) 外国人学生数の達成目標					
事業計画全体の達成目標（事業開始～平成32年度まで）	45人（延べ数）				
うち申請時の事業計画全体の達成目標（海外相手大学追加調書分がある場合のみ記載）	一人（延べ数）				
中間評価までの達成目標（事業開始～平成29年度まで）	15人（延べ数）				
うち申請時の中間評価までの達成目標（海外相手大学追加調書分がある場合のみ記載）	一人（延べ数）				
[上記の内訳]					
	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
合計人数	5人	10人	10人	10人	10人
申請時の計画調書記載人数	5人	10人	10人	10人	10人
海外相手大学追加調書分	人	人	人	人	人
(ii) 目標を設定した考え方及び達成までのプロセス（事業計画全体、中間評価までの双方について）					
本構想により受け入れる学生の数は、上記「④本構想において海外に留学する日本人学生数の推移」において記したとおり、教育研究の質と三大学間のバランスの観点から決定された。					
毎年中国および韓国から計10名を受け入れる（初年度は5名）。これにより、中間評価までの期間に計15名、本構想期間をとおして計45名の学生を清華大学およびKAISTから受け入れる予定である。					
「研究重視型教育」については、上記のように、既にASPIREリーグの共同プログラム（サテライトラボ）等により三大学の研究室の間で共同研究が実施されており、今まで開催されたASPIREリーグ学生ワークショップへの参加などの実績があることから、これらを含む幅広い大学間交流の一環として学生を受け入れる予定である。					
【平成29年度末における目標の達成状況】					
本事業で中間評価までに受け入れる学生数は15人を目標としており、平成28年度、29年度ともにこれを大幅に達成した。平成28年度は、清華大学から30人、KAISTから13人の応募があったが、派遣プログラムとの人數的・予算的なバランスを考慮した結果、上記の人数となった（清華大学5人、KAIST5人）。平成29年度も、目標とする10名を超える応募があり、結果的に20名（清華大学8名、KAIST12名）の学生を受け入れた。通常、受け入れ学生にはJASSOからの奨学金支給と宿舎の無償提供を行っているが、KAISTからの受け入れ学生のうち4人は、KAISTからのリクエストのもと、本学からは宿舎費のみ支給（奨学金はKAIST支給）という条件で来日した。					
【目標の達成状況における課題点】					
・派遣元大学による応募学生の優先順位について					
清華大学とKAISTについては、送り出し大学の方で成績などを評価して、希望学生の優先順位をつけて来ている。予定人数以上の希望学生については、その順位を鑑み、学内で審議しているが、清華大学とKAIST以外の大学からの希望学生については、本学学内で評価している。					
【今後の展望】					
本プログラムを3大学、3カ国以外に広く展開することについて、改めて、質の保証を担保する基準を、3大学で協議し、外国人留学生数の向上に貢献したい。					

（大学名：東京工業大学）（主たる交流先：清華大学、韓国科学技術院（KAIST））

- 24 -

- 25 -

(大学名: 東京工業大学) (タイプ: A)

(単位:千円)

補助期間における各経費の実績【年度ごとに1ページ】				
(単位:千円)				
計画調書に記載した年度毎の各経費の明細及び平成29年度までの実績報告書に基づき、平成28年度までの実績を記載。【年度ごとに1ページ】				
<平成28年度> 経費区分	補助金額(a)	大学負担額(b)	支出実績(a+b)	備考
【物品費】	2,331	0	2,331	
①設備備品費	1,277	0	1,277	
・		0	0	
②消耗品費	1,053		1,053	
・教育用品等			0	
・		0	0	
・		0	0	
【人件費・謝金】	3,664	0	3,664	
①人件費				
・コーディネーター	1,668		1,668	
・事務補佐員	713		713	
・事務補佐員	410		410	
②謝金				
・外部講師	225		225	
・21世紀型スキルセミナー ビデオ編集業務	300		300	
・OB-OEコミュニケーションサイト制作	348		348	
【旅費】	1,476	0	1,476	
・外国旅費	1,256		1,256	
・外国人招聘旅費	100		100	
・教職員国内出張	120		120	
・		0	0	
【その他】	12,530	0	12,530	
①外注費				
・ホームページ開設、広報媒体	6,715		6,715	
・サーバー保守、セキュリティ対策(9~3月)	162		162	
・空港ピックアップサービス	65		65	
・バス借り上げ	280		280	
②印刷製本費				
・派遣学生用パンフレット作成	1,098		1,098	
・パンフレット作成	361		361	
・ポスター作成	194		194	
③会議費				
・「21世紀型スキル」講義に伴う交流ランチ	40		40	
・「TITECH-KAIST Joint Workshop」に伴う交流会	45		45	
・		0	0	
④通信運搬費				
・データ通信料(海外出張時)	7		7	
・郵便代	7		7	
⑤光熱水料				
・		0	0	
⑥その他(諸経費)				
・派遣学生航空券	759		759	
・受入学生宿舎借り上げ	1,586		1,586	
・受入学生宿舎管理費	290		290	
・派遣学生TOEIC受験料	6		6	
・コピー機レンタル	211		211	
・派遣学生海外旅行保険	35		35	
・コピー機レンタル	324		324	
・返納	344		344	
平成28年度	合計	20,000	0	20,000

(大学名:東京工業大学)(主たる交流先:清華大学・韓国科学技術院(KAIST))

(前ページの続き)

<平成29年度> 経費区分	補助金額(a)	大学負担額(b)	支出実績(a+b)	備考
【物品費】	663	0	663	
①設備備品費				
・			0	
②消耗品費				
・教育用品等	663		663	
・		0	0	
・		0	0	
【人件費・謝金】	6,938	0	6,938	
①人件費				
・コーディネーター	4,479		4,479	
・事務補佐員	2,139		2,139	
・非常勤講師(日本語)	140		140	
②謝金				
・外部講師謝金(21世紀スキル) 学生向け	65		65	
・外部講師謝金(サマー授業)	30		30	
・招聘教員謝金	30		30	
・サマープログラム受入学生補助、授業補助	56		56	
・	0		0	
【旅費】	2,113	0	2,113	
・外国旅費	1,617		1,617	
・外国人招聘旅費	490		490	
・教職員国内出張	6		6	
・	0		0	
・	0		0	
・	0		0	
・	0		0	
【その他】	8,287	0	8,287	
①外注費				
・サーバー保守、セキュリティ対策(4~3月)	961		961	
・ホームページ更新	918		918	
・オンラインアプリケーション	216		216	
・空港ピックアップサービス	84		84	
・21世紀型スキルセミナー講義	250		250	
②印刷製本費				
・			0	
③会議費				
・会議用お弁当	9		9	
・サマープログラム開講式に伴う交流ランチ	36		36	
・サマープログラム修了式(授業中心)に伴う交流ランチ	38		38	
・サマープログラム修了式(研究中心)に伴う交流ランチ	40		40	
・21世紀型スキルセミナー交流ランチ会	45		45	
④通信運搬費				
・郵便代、データ通信料(海外出張時)	18		18	
・	0		0	
・	0		0	
⑤光熱水料				
・	0		0	
・	0		0	
⑥その他(諸経費)				
・派遣学生航空券	670		670	
・受入学生宿舎借り上げ	3,976		3,976	
・派遣学生TOEIC受験料	52		52	
・コピー機レンタル	336		336	
・バス借り上げ	195		195	
・派遣学生保険料	24		24	
・つくばサイエンスエッジ	324		324	
・返納	96		96	
平成29年度	合計	18,000	0	18,000

(大学名:東京工業大学)(主たる交流先:清華大学・韓国科学技術院(KAIST))

1. 事業概要
2. 運営体制、予算
3. 学生の受入
4. 学生の派遣
5. コロナ禍での
オンライン交流プログラム
6. 受入学生・派遣学生の交流
7. 21世紀型スキル教育への取組
8. 幹事校としての取り組み

9. 評価

10. フォトギャラリー

9-1 中間評価調書（文科省）

9-2 国際評価パネル 評価項目

2020 年度 キャンパス・アジア国際評価パネル 評価項目

東京工業大学 TKT CAMPUS Asia Consortium

＜記述式＞

5. サマースクール、サマーキャンプ、ウインターハイキングなどのカリキュラムの整備について、お気づきの点がありましたらコメントをお願いします。

以下の評価項目について、五段階による評価とコメントをお願いします。

- 5 非常に優れている
- 4 優れている
- 3 普通
- 2 劣っている
- 1 非常に劣っている

6. 留学生に配慮した環境の整備について、足りない点などありましたらコメントをお願いします。

7. 優れている点

＜五段階評価＞

1. プログラムの円滑な実施体制、並びに三大学間の交流活動が進んでいるか？

1 2 3 4 5

8. 改善すべき点

2. 今後 3カ国以外へも公開する際に魅力的なプログラムが用意されているか？

1 2 3 4 5

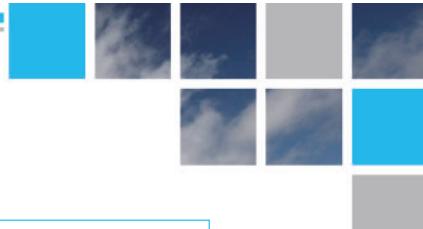
9. その他、自由記述（特に、今後、第3期に向けた ASEAN への展開、ならびに自立したプログラムへ展開する際のアドバイスをお願いします。）

3. 事前情報ならびに修了前後のフォローアップ体制の整備が進んでいるか？

1 2 3 4 5

4. web ならびに配布物などの広報体制の整備が進んでいるか？

1 2 3 4 5



Tokyo Institute of Technology

Advanced TKT CAMPUS Asia Consortium

文部科学省「大学の世界展開力強化事業」キャンパスアジア
日中韓先進科学技術大学教育環高度化プログラム

Masahiko Hara

Tokyo Institute of Technology
masahara@echem.titech.ac.jp



国際評価パネル 資料一覧

- 1 キャンパス・アジア採択事業一覧
- 2-1 【受入】Summer School概要（パンフ、カレンダー、研修旅行リーフレット）
- 2-2 【受入】Summer School参加学生アンケート（サマリー版、詳細版）
- 3-1 【派遣】派遣プログラム概要・参加学生報告書
- 3-2 【派遣】韓国超短期派遣募集要項・参加学生報告書
- 4-1 【オンライン】TKT CA Online Summer Campパンフ・参加学生アンケート
- 4-2 【オンライン】TKT CA Online Research Symposiumポスター・募集要項
- 4-3 【オンライン】TKT CA Online Winter Campパンフ・参加学生アンケート
- 4-4 【オンライン】TKT CA Online Summer Camp & Winter Camp 開催報告
- 5 【同窓会】TKT CA Online Alumni Assemblyポスター・アジェンダ
- 6-1 【21世紀型スキル教育】学生・スタッフ向けセミナーポスター
- 6-2 【21世紀型スキル教育】清華大主催TKT CA Global Competence Workshop
- 7-1 【幹事校業務】CA採択校連絡会議事次第（2019年度、2020年度）
- 7-2 【幹事校業務】「日中韓大学間交流・連携推進会議」委員 本学来訪アジェンダ
- 7-3 【幹事校業務】CA採択校ウェブサイト、キャンパス・アジア紹介動画
- 8-1 【広報】東工大CAウェブサイト、パンフ、ポスター
- 8-2 【広報】全学サイト 東工大ニュース掲載記事
- 9 Implementation Guidelines 2020
- 10 2015年度国際評価パネルに対する対応



国際評価パネル 評価項目

1. プログラムの円滑な実施体制、並びに三大学間の交流活動が進んでいるか？
2. 今後3カ国以外へも公開する際に魅力的なプログラムが用意されているか？
3. 事前情報ならびに修了前後のフォローアップ体制の整備が進んでいるか？
4. webならびに配布物などの広報体制の整備が進んでいるか？
5. サマースクール、サマーキャンプ、ウインターフィルムなどのカリキュラムの整備について
6. 留学生に配慮した環境の整備について
7. 優れている点
8. 改善すべき点
9. 今後、第3期に向けたASEANへの展開、ならびに自立したプログラムへ展開する際のアドバイスをお願いします



国際評価パネル 資料一覧

1 キャンパス・アジア採択事業一覧	CAMPUS Asia Overview
2-1 【受入】Summer School概要	TKT CAMPUS Asia Overview
2-2 【受入】Summer School参加者	Participants in Academic Year 2016-2020
3-1 【派遣】派遣プログラム概要	受入プログラム
3-2 【派遣】韓国超短期派遣募集要	Summer School & Summer Camp
4-1 【オンライン】TKT CA Online	派遣プログラム
4-2 【オンライン】TKT CA Online	On-Line Summer & Winter Camp
4-3 【オンライン】TKT CA Online	On-Line Alumni Assembly
4-4 【オンライン】TKT CA Online	On-Line Symposium & Meetings
5 【同窓会】TKT CA Online Alum	21st Century Skills Seminar
6-1 【21世紀型スキル教育】学生・	
6-2 【21世紀型スキル教育】清華大	
7-1 【幹事校業務】CA採択校連絡会	
7-2 【幹事校業務】「日中韓大学間	採択校連絡会(幹事校業務)
7-3 【幹事校業務】CA採択校ウェブ	日中韓大学間交流・連携推進会議
8-1 【広報】東工大CAウェブサイト	On-Line Alumni Network
8-2 【広報】全学サイト 東工大二	
9 Implementation Guidelines 202	Implementation Guidelines 2020
10 2015年度国際評価パネル	2015年度国際評価パネル指摘・提案事項から



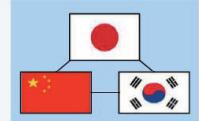
CAMPUS Asia Overview

文部科学省「大学の世界展開力強化事業」キャンパスアジア

キャンパス・アジア (CAMPUS Asia*)

日中韓の政府・質保証機関・大学が協力して、大学の国際競争力を共に向上させるために質の保証を伴った大学間交流を展開する事業

*Collective Action for Mobility Program of University Students in Asia



日中韓サミット

2009年10月 第2回 (中国・北京)

我が国より、**三国間で質の高い大学間交流**を行うことを提言、合意



日中韓大学間交流・連携推進会議

2019年9月 第7回 (日本・東京)

第3モードの枠組について大筋合意



5



CAMPUS Asia Overview

キャンパス・アジアの採択プログラム一覧 (第2モード)

(1) パイロットプログラムからの継続

No.	大学名			プログラム名称
	日本	中国	韓国	
1	・東京大学	・北京大学	・ソウル大学校	北京-ソウル-東京 (BESETO) ダブル・ディグリー・プログラム：国際・公共政策共同研究
2	・東京工業大学	・清華大学	・韓国科学技術院	日中韓先進科学技術大学教育環高度化プログラム
3	・一橋大学	・北京大学	・ソウル大学校	アジア・ビジネスリーダー・プログラムⅡ (アドバンスト)
4	・名古屋大学	・中国科学院 ・清華大学 ・上海交通大学	・成均館大学校 ・ソウル大学校	東アジア「ユス・コムーネ」(共通法) 形成にむけた法的・政治的認識共同体の人材育成
5	・神戸大学	・復旦大学	・高麗大学校	東アジアにおけるリスク・マネジメント専門家養成プログラム
6	・岡山大学	・吉林大学	・成均館大学校	東アジア高等教育圏を見据えた中核的高度実践人=アジアンクレット育成プログラム
7	・九州大学	・上海交通大学	・釜山大学校	エネルギー環境理工学グローバル人材育成のための大学院協働教育プログラム-ダブルディグリー・プログラムの高度化と定着・恒常化 -
8	・立命館大学	・広東外語外貿大学	・東西大学校	東アジア人文学リーダー養成のための、日中韓共同運営移動キャンパス

6



CAMPUS Asia Overview

(2) 2016年度からの新規採択

No.	大学名			プログラム名称
	日本	中国	韓国	
1	・千葉大学	・清華大学 ・浙江大学	・延世大学	植物環境イノベーション・プログラム
2	・東京大学	・北京大学	・ソウル大学校	日中韓教養教育アライアンスによる高度教養教育の充実と「協創型人材」の育成
3	・東京学芸大学	・北京師範大学	・ソウル教育大学校	東アジア教員養成国際大学院プログラム
4	・東京藝術大学	・中国伝媒大学	・韓国芸術総合学校	国際アニメーションコース創設に向けた日中韓Co-workカリキュラム
5	・東京海洋大学	・上海海洋大学	・韓国海洋大学校	「日中韓版エラスムス」を基礎とした海洋における国際協働教育プログラム
6	・大阪大学	・北京大学 ・清華大学 ・上海交通大学 ・天津中医药大学	・延世大学校	世界的健康問題の解決に向けた医学研究グローバルリーダー育成プログラム
7	・九州大学	・同済大学	・釜山大学校	アジア都市・建築環境の発展的持続化を牽引する人材育成のための協働教育プログラム
8	・長崎大学	・山東大学	・成均館大学校	日中韓の大学間連携によるインフラストラクチャーを支える人材育成事業
9	・早稲田大学	・北京大学	・高麗大学校	多層的紛争解決・社会変革のためのグローバルリーダー共同育成プログラム

7



TKT CAMPUS Asia Overview

文部科学省「大学の世界展開力強化事業」キャンパスアジア

第1モード：2011年度～2015年度

「日中韓先進科学技術大学教育環プログラム」

TKT CAMPUS Asia Consortium

第2モード：2016年度～2020年度

「日中韓先進科学技術大学教育環高度化プログラム」

Advanced TKT CAMPUS Asia Consortium

第3モード：2021年度～

(キャンパスアジアプラス、アジア高等教育共同体(仮称))

T: Tsinghua Univ (中国、清華大学)

K: KAIST (韓国、韓国科学技術院)

T: Tokyo Tech (日本、東京工業大学)

8

ASPIRE League

Asian Science and Technology Pioneering Institutes of Research and Education



清华大学
Tsinghua University

Tsinghua University
Student Population
Undergraduate Students 14,608
Graduate Students 17,035
Total 31,643

KAIST

Korea Advanced Institute of Science and Technology
Student Population
Undergraduate Students 4,362
Graduate Students 5,268
Total 9,630



東京工業大学
Tokyo Institute of Technology

Tokyo Institute of Technology
Student Population
Undergraduate Students 14,608
Graduate Students 17,035
Total 31,643

Asian Science and Technology Pioneering Institutes of Research and Education
since 2009

The Hong Kong University of Science and Technology

Student Population
Undergraduate Students 6,010
Graduate Students 3,505
Total 9,515



THE HONG KONG UNIVERSITY OF SCIENCE AND TECHNOLOGY



NANYANG TECHNOLOGICAL UNIVERSITY

Nanyang Technological University

Student Population
Undergraduate Students 23,576
Graduate Students 10,169
Total 33,745

"CAMPUS Asia"
Collective Action for Mobility Program
of University Students in Asia
since 2011

9



東京工業大学
Tokyo Institute of Technology

Participants in Academic Year 2016-2020

●受入 (KAIST・清华大学から東工大へ)

年度	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	合計
計画	10	10	10	10	5	10	10	10	10	45
実績	15	20	21	17	10	20	36	22	32	120
KAISTから	8	11	12	11	5	12	10	8	12	47
清华大学から	7	9	9	6	5	8	12	8	20	53
他大学から	-	-	-	-	-	-	14	6	-	20
オンライン	-	-	-	-	-	-	-	-	32	32

●派遣 (東工大からKAIST・清华大学へ)

年度	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	合計
計画	10	10	10	10	5	10	10	10	10	45
実績	11	10	12	6	6	11	16	6	16	55
KAISTへ	7	6	9	5	6	9	9	4	-	28
清华大学へ	4	4	3	1	0	2	1	2	-	5
韓国超短期派遣	-	-	-	-	-	-	6	-	-	6
オンライン	-	-	-	-	-	-	-	-	16	16

●2020年度実施 オンラインプログラム参加学生数 (三大学合同企画)

プログラム名	清华大学	KAIST	東工大	合計
Summer Camp	11	6	8	25
Winter Camp	9	6	3	18
Symposium	8	7	1	16
Tsinghua Global Summer School	-	-	3	3
Tsinghua Fall Semester Program	-	-	1	1
実績	28	19	16	63

Summer CampとWinter Campは三大学合同企画のため、清华大学生とKAIST生を受入でカウント

東工大生はいずれのプログラムも派遣でカウント

10



受入プログラム

-Call for Applications 2020-

Under the CAMPUS Asia Initiative of the governments of Japan, China and South Korea, Tokyo Tech is an active participant in and contributor to the TKT CAMPUS Asia Consortium, a joint education and research program with Tsinghua University and KAIST. In summer 2020, as part of the Consortium's activities, Tokyo Tech offers a CAMPUS Asia Summer School Research-oriented Program. Tokyo Tech will also host a Joint Educational Program (JEP) to provide students with the opportunity to participate in a longer-term lab-based research project while taking some courses.

Detailed information about the programs can be found on the TKT CAMPUS Asia website.

Introduction: <http://www.ipo.titech.ac.jp/campusasia/index.html>

CAMPUS Asia Program Tracks and Scheduling

There are three different CAMPUS Asia programs or tracks:

A) Summer School <Research-Oriented Program>

June 22, 2020 – August 7, 2020 (7 weeks)

B) Joint Educational Program (JEP)

Late September, 2020 – Early February, 2021

C) Summer School <Research-Oriented Program> + Joint Educational Program (JEP)

June 22, 2020 - Early February, 2021



11



Summer School & Summer Camp

Tokyo Tech

Tokyo Tech CAMPUS Asia SUMMER SCHOOL 2018

For SDGs (Sustainable Development Goals)

A) COURSE-ORIENTED

June 29 -July 27 (4 weeks)

B) RESEARCH-ORIENTED

June 29 – Sept. 6 (10 weeks)



Tokyo Tech

Tokyo Tech CAMPUS Asia SUMMER SCHOOL 2019

For SDGs (Sustainable Development Goals)

A) COURSE-ORIENTED

July 3 -July 30 (4 weeks)

B) RESEARCH-ORIENTED

July 3 – Sept. 10 (10 weeks)

(For Tsinghua and KAIST)



12



Summer School & Summer Camp

Tokyo Tech CAMPUS Asia Summer School Calendar 2019 [Course-Oriented]

Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat	Sun
1-14 1.2 3.4 5.5 7.8	Moving-in	Moving-in	10:00-12:00 Orientation Welcome Lunch Campus Tour Orientation Slide Session	Survival Japanese①② <Optional> (Yanaguchi)	Survival Japanese③④ <Optional> (Yoshizawa)	Kamakura (Modern Japan (1-2) (Kamakura))
1.2 3.4 5.5 7.8	Survival Japanese⑤⑥ <Optional> (Yanaguchi)	Survival Japanese⑦⑧ <Optional> (Yanaguchi)	CSES ① (Yanaguchi)	CSES ② (Yanaguchi)	CSES ③ (Yanaguchi)	
5.6 7.8 9.10	Earth & Life Science ① (Cross) Earth & Life Science ② (Takahashi)	Earth & Life Science ③ (Cross) Earth & Life Science ④ (House)	EdB-1 ① (Takemoto) EdB-1 ② (Takemoto) EdB-1 ③ (Takemoto) EdB-1 ④ (Cross) EdB-1 ⑤ (Cross) EdB-1 ⑥ (Cross) EdB-1 ⑦ (Cross) EdB-1 ⑧ (Cross) EdB-1 ⑨ (Cross)	Earth & Life Science ⑤ (Cross) Earth & Life Science ⑥ (Cross) Earth & Life Science ⑦ (Cross) Earth & Life Science ⑧ (Cross) Earth & Life Science ⑨ (Cross)	EdB-1 ⑩ Site Visit Meeting place West Building 9	EdB-1 ⑪ Site Visit Meeting place West Building 9
5.6 7.8 9.10	Earth & Life Science ⑩ (Cross) Earth & Life Science ⑪ (Cross)	Earth & Life Science ⑫ (House)	Earth & Life Science ⑬ (House)	Earth & Life Science ⑭ (House)	Earth & Life Science ⑮ (House)	Earth & Life Science ⑯ (House)
1.2 3.4 5.5 7.8 9.10	Modern Japan ①②③ (Kamakura)	Modern Japan ④⑤⑥ (Kamakura)	Modern Japan ⑦⑧⑨ (Kamakura)	Modern Japan ⑩⑪⑫⑬⑭⑯ (Earthquake)	Modern Japan ⑪⑫⑬⑭⑯ (Earthquake)	Modern Japan ⑯ (Earthquake)
1.2 3.4 5.5 7.8 9.10	Engineering Design (Shimada)	Advanced Materials (Shimada)	Engineering Design (Shimada)	Engineering Design (Shimada)	Engineering Design (Shimada)	Engineering Design (Shimada)
1.2 3.4 5.5 7.8 9.10	12:00 pm Submission Deadline - Presentation Slides - Presentation Abstract - Presentation Abstract	10:45-12:15 Final Presentation - Presentation followed by - Confer of Certificate	Moving-out			
Compulsory Must take all courses.	Course Title Number of Credit Instructor Institution					
Choose two of the following four courses.	International Business and Engineering in Society 1 credit Hiroki Yamaguchi, Clotilde Kothiyal Management in 21st Century 1 credit Hiroki Yamaguchi					
Optional	International Engineering Design Experience 2 credits Makoto Shioya Engineering Design 1 credit Hiroki Yamaguchi, Clotilde Kothiyal, Tomohiro Yamada Earth & Life Science 1 credit Ryuhei Nakamura, Shigen Miyanaga and more Advanced Materials Science & Engineering 1 credit Takayuki Takemoto, Shigen Miyanaga and more					

Tokyo Tech CAMPUS Asia Summer School Calendar 2019 [Research-Oriented]

Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat	Sun
1.2 3.4 5.5 7.8 9.10	Moving-in	Moving-in	9:30-12:00 Orientation Survival Japanese⑩⑪ <Optional> (Yoshizawa)	Survival Japanese⑫⑬⑭ <Optional> (Yoshizawa)	Survival Japanese⑯ <Optional> (Yoshizawa)	Kamakura (Modern Japan (1-2) (Kamakura))
1.2 3.4 5.5 7.8 9.10	Survival Japanese⑩⑪ <Optional> (Yoshizawa)	Survival Japanese⑫⑬⑭ <Optional> (Yoshizawa)	CSES ⑩ (Yanaguchi)	CSES ⑪ (Yanaguchi)	CSES ⑫ (Yanaguchi)	
1.2 3.4 5.5 7.8 9.10	Earth & Life Science ① (Cross) Earth & Life Science ② (Takemoto)	Earth & Life Science ③ (Cross) Earth & Life Science ④ (Takemoto)	EdB-1 ① (Takemoto) EdB-1 ② (Takemoto) EdB-1 ③ (Takemoto) EdB-1 ④ (Cross) EdB-1 ⑤ (Cross) EdB-1 ⑥ (Cross) EdB-1 ⑦ (Cross) EdB-1 ⑧ (Cross)	EdB-1 ⑨ Site Visit Meeting place West Building 9	EdB-1 ⑩ Site Visit Meeting place West Building 9	EdB-1 ⑪ Site Visit Meeting place West Building 9
1.2 3.4 5.5 7.8 9.10	Earth & Life Science ⑩ (Cross) Earth & Life Science ⑪ (Cross)	Earth & Life Science ⑫ (House)	Earth & Life Science ⑬ (House)	Earth & Life Science ⑭ (House)	Earth & Life Science ⑯ (House)	Earth & Life Science ⑯ (House)
1.2 3.4 5.5 7.8 9.10	Modern Japan ①②③ (Kamakura)	Modern Japan ④⑤⑥ (Kamakura)	Modern Japan ⑦⑧⑨ (Kamakura)	Modern Japan ⑩⑪⑫⑬⑭⑯ (Earthquake)	Modern Japan ⑪⑫⑬⑭⑯ (Earthquake)	Modern Japan ⑯ (Earthquake)
1.2 3.4 5.5 7.8 9.10	Engineering Design (Shimada)	Advanced Materials (Shimada)	Engineering Design (Shimada)	Engineering Design (Shimada)	Engineering Design (Shimada)	Engineering Design (Shimada)
1.2 3.4 5.5 7.8 9.10	12:00 pm Submission Deadline - Presentation Slides - Presentation Abstract - Presentation Abstract	10:45-12:15 Final Presentation - Presentation followed by - Confer of Certificate	Moving-out			
Compulsory Must take all courses.	Course Title Number of Credit Instructor Institution					
Choose two of the following four courses.	International Business and Engineering in Society 1 credit Hiroki Yamaguchi, Clotilde Kothiyal Management in 21st Century 1 credit Hiroki Yamaguchi					
Optional	International Engineering Design Experience 2 credits Makoto Shioya Engineering Design 1 credit Hiroki Yamaguchi, Clotilde Kothiyal, Tomohiro Yamada Earth & Life Science 1 credit Ryuhei Nakamura, Shigen Miyanaga and more Advanced Materials Science & Engineering 1 credit Takayuki Takemoto, Shigen Miyanaga and more					

13



Summer School & Summer Camp



14

派遣プログラム



清华大学
Tsinghua University

サマースクール【テーマ研究型】2名 2019年7月11日～7月24日
セメスタープログラム【授業受講／研究型】計5名 下記期間の3ヶ月以上
◇秋：2019年9月4日～2020年1月14日 ◇春：2020年2月17日～6月22日

KAIST

サマースクール【授業型】【研究型】計5名

◆【授業型】2019年7月1日～7月26日（4週間）

◇【研究型】①2019年7月1日～7月26日 ②2019年8月12日～9月6日

研究プログラム（秋セメスタープログラムと合わせて計4名）

◆ 2019年6月1日～2020年2月28日のうち、1か月以上の希望する期間

秋セメスター プログラム 【授業型】 【授業+研究型】 【研究型】

◆ 2019年8月31日～2020年12月18日

超短期派遣 KAIST／ソウル大学／POSTECH(浦項工科大学)／梨花女子大学 6名

◆ 2019年3月12日～3月19日、派遣期間以外に事前学習会、事後報告会を実施

15

On-Line Summer & Winter Camp



TKT CAMPUS Asia Online Winter Camp

* January 18-20, 2021 *



On-Line Alumni Assembly

5 【同窓会】TKT CA Online Alumni Assemblyポスター・アジェンダ

TKT CAMPUS Asia

Online Alumni Assembly

Student presentations, Free communication time

Date: January 20, 2021 (Wed.)
Time: 15:30-17:00 (KST/JST)
14:30-16:00 (CST)

Registration deadline: December 15, 2020
Please click the link below and complete the form.
<https://reas3.ouj.ac.jp/reas/q/68313>

Organizer: Tokyo Institute of Technology
Co-organizers: Tsinghua University, KAIST

TKT CAMPUS Asia

Online Alumni Assembly

Agenda

Date: 15:30-17:00 (KST/JST) 14:30-16:00 (CST) <by Zoom>
Participants : CAMPUS Asia Alumni students, TKT Project leaders, TKT Program staff

15:00-15:30 Registration

15:30 Opening Remarks

Project Leaders of Advanced TKT CAMPUS Asia Consortium
Prof. Meng Li (Tsinghua University, China)
Prof. Shin-Hyun KIM (KAIST, Republic of Korea)
Prof. Masahiko HARA (Tokyo Institute of Technology, Japan)

15:40-16:15 Student Presentations (5 min: 6 students)

<Presenters>
From THU to TIT: Xiao HE (Tokyo Tech Summer Program 2017) *pre-recorded
From TIT to KAIST: Maoko TAKENOSHITA (KAIST Fall Research-Oriented Program 2017)
From KAIST to THU/TIT: Taehyeong NOH (Tsinghua Semester Program 2018 / Tokyo Tech JEP 2017)
From THU to KAIST: Dandan SHEN (KAIST Summer Program 2018)
From TIT to THU: Hiroshi HARA (Tsinghua Semester Program 2014-2015)
From KAIST to TIT and DD: Woo Seok JUNG (Tokyo Tech Summer School 2018, DD 2019)

16:15-16:55 Free Communication Time

16:55 Closing Remarks
Prof. Masahiko HARA (Tokyo Institute of Technology, Japan)

Group Photo

17:00 End of the Assembly

Organizer: Tokyo Institute of Technology
Co-organizers: Tsinghua University, KAIST

19



On-Line Symposium & Meetings

2020
TKT CAMPUS ASIA
RESEARCH SYMPOSIUM

December 4-5, 2020

CALL FOR PRESENTATIONS!

Interested in sharing your research at the upcoming virtual TKT CAMPUS Asia Research Symposium?

Submit your application by November 15, 2020

Every student from Tsinghua University, KAIST and Tokyo Institute of Technology is welcome to join!

Top 5 presentations will receive a prize!

Question | campusasia@kaist.ac.kr



20



21st Century Skills Seminar

21



採択校連絡会(幹事校業務)

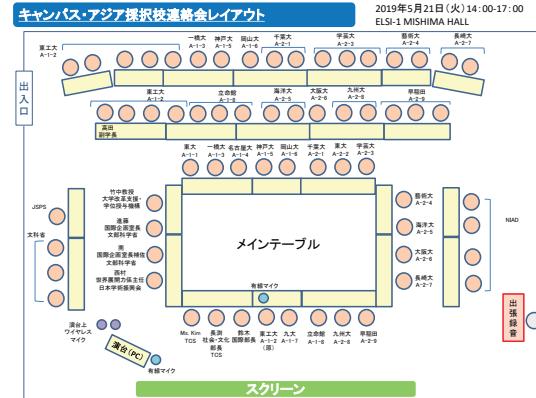
大学の世界展開力強化事業（キャンパス・アジアプログラム）2019年度採択校連絡会 開催概要次第		2020年度 大学の世界展開力強化事業 キャンパス・アジアプログラム採択校連絡会 開催概要次第	
○日 時	2019年5月21日（火）14:00～17:00（意見交換交流会 17:00～18:00）	○日 時	2020年11月6日（金）13:30～15:30
○場 所	東京工業大学 大岡山キャンパス 地球生命研究所（ELSI-1（石川台7号館））1階ホール（三島ホール）	○開催方法	Zoom（ホスト：東京工業大学）
○参加機関	文部科学省、Trilateral Cooperation Secretariat (TCS) 大学改革支援・学位授与機構、日本学術振興会 平成28年度大学の世界展開力強化事業採択校： (A-1) 東京工業大学、一橋大学、名古屋大学、神戸大学、岡山大学、九州大学、立命館大学、東京工業大学 (A-2) トヨタ大学、東京大学、東京学芸大学、東京藝術大学、東京海洋大学、大阪大学、長崎大学、九州大学、早稲田大学	○参加機関	文部科学省、日中韓三国協力事務局（Trilateral Cooperation Secretariat: TCS） 大学改革支援・学位授与機構 平成28年度大学の世界展開力強化事業採択校： (A-1) 東京工業大学、一橋大学、名古屋大学、神戸大学、岡山大学、九州大学、立命館大学、東京工業大学 (A-2) トヨタ大学、東京大学、東京学芸大学、東京藝術大学、東京海洋大学、大阪大学、長崎大学、九州大学、早稲田大学
○司会進行	原 正彦 東京工業大学物質理工学院 教授	○司会進行	原 正彦 東京工業大学物質理工学院 教授
○議事次第	開会の挨拶 (1) 14:00～14:10 ・高田 潤一 東京工業大学副学長（国際担当） ・進藤 和澄 文部科学省高等教育局高等教育企画課国際企画室長 (2) 14:10～14:20 本連絡会開催趣旨について（10分） ・進藤 和澄 文部科学省高等教育局高等教育企画課国際企画室長 (3) 14:20～14:35 キャンパス・アジアに対する日中韓三国協力事務局（TCS）の取組み （説明10分、質疑応答5分） ・長瀬 恵二 Trilateral Cooperation Secretariat (TCS) 社会・文化部長 (4) 14:35～15:10 キャンパス・アジアの今後の方向性：モード3に向けた 採択17プログラムによる意見共有（各大学2分程度×17回 約35分）	開会の挨拶 (1) 13:30～13:35 ・高田 潤一 東京工業大学副学長（国際連携担当） (2) 13:35～13:45 コロナ禍における国際交流の影響と第3モードに向けた動きについて（10分） ・佐藤邦明 文部科学省高等教育局主任大学改革室・国際企画室長 (3) 13:45～13:55 TCS: Role in Trilateral Education Cooperation and CAMPUS Asia Program (10分) ・KIM Min-jeong 日本韓三国協力事務局（TCS）社会・文化部長 (4) 13:55～13:57 キャンパス・アジアモニタリング開催刊行物及び 高等教育政策の情報収集センター（NIC-Japan）の案内 ・村上社一 大学改革支援・学位授与機構評議会事務部国際課長 (5) 13:57～14:07 情報共有シートからのお尋ねの課題について（10分） (6) 14:07～14:47 コロナ禍での国際交流・留学についてモード2について：意見交換（40分） (7) 14:47～15:27 モード3に向けた：意見交換（40分） (8) 15:27～15:30 閉会の挨拶 ・鈴木 規子 東京工業大学国際部長	
○10) 17:00～18:00 意見交換交流会	以上		

以



採択校連絡会(幹事校業務)

キャンパス・アジア採択校連絡会レイアウト



2019年5月21日(火)14:00-17:00
ELSI 1 MISHIMA HALL

大学の世界競争力強化プログラム連絡会開催

今後のキャンパス・アジアについて

- 今後のアフターアクションは実施組織の成績評定と、会中の改進・実施組織・大学の改進・実施組織と連携を保つこととする。
- 日本側は「大学世界競争力強化事業」として実施し、平成31年度実施を予定する。
- 企画の実施、大学、実施組織、及び世界から成る幹事会員による日本大学院連携・連携実施組織の実績と経験、日中韓幹事会員による世界連携実績。

第2回会議開催

第3回会議開催

第4回会議開催

第5回会議開催

第6回会議開催

第7回会議開催

第8回会議開催

第9回会議開催

第10回会議開催

第11回会議開催

第12回会議開催

第13回会議開催

第14回会議開催

第15回会議開催

第16回会議開催

第17回会議開催

第18回会議開催

第19回会議開催

第20回会議開催

第21回会議開催

第22回会議開催

第23回会議開催

第24回会議開催

第25回会議開催

第26回会議開催

第27回会議開催

第28回会議開催

第29回会議開催

第30回会議開催

第31回会議開催

第32回会議開催

第33回会議開催

第34回会議開催

第35回会議開催

第36回会議開催

第37回会議開催

第38回会議開催

第39回会議開催

第40回会議開催

第41回会議開催

第42回会議開催

第43回会議開催

第44回会議開催

第45回会議開催

第46回会議開催

第47回会議開催

第48回会議開催

第49回会議開催

第50回会議開催

第51回会議開催

第52回会議開催

第53回会議開催

第54回会議開催

第55回会議開催

第56回会議開催

第57回会議開催

第58回会議開催

第59回会議開催

第60回会議開催

第61回会議開催

第62回会議開催

第63回会議開催

第64回会議開催

第65回会議開催

第66回会議開催

第67回会議開催

第68回会議開催

第69回会議開催

第70回会議開催

第71回会議開催

第72回会議開催

第73回会議開催

第74回会議開催

第75回会議開催

第76回会議開催

第77回会議開催

第78回会議開催

第79回会議開催

第80回会議開催

第81回会議開催

第82回会議開催

第83回会議開催

第84回会議開催

第85回会議開催

第86回会議開催

第87回会議開催

第88回会議開催

第89回会議開催

第90回会議開催

第91回会議開催

第92回会議開催

第93回会議開催

第94回会議開催

第95回会議開催

第96回会議開催

第97回会議開催

第98回会議開催

第99回会議開催

第100回会議開催

第101回会議開催

第102回会議開催

第103回会議開催

第104回会議開催

第105回会議開催

第106回会議開催

第107回会議開催

第108回会議開催

第109回会議開催

第110回会議開催

第111回会議開催

第112回会議開催

第113回会議開催

第114回会議開催

第115回会議開催

第116回会議開催

第117回会議開催

第118回会議開催

第119回会議開催

第120回会議開催

第121回会議開催

第122回会議開催

第123回会議開催

第124回会議開催

第125回会議開催

第126回会議開催

第127回会議開催

第128回会議開催

第129回会議開催

第130回会議開催

第131回会議開催

第132回会議開催

第133回会議開催

第134回会議開催

第135回会議開催

第136回会議開催

第137回会議開催

第138回会議開催

第139回会議開催

第140回会議開催

第141回会議開催

第142回会議開催

第143回会議開催

第144回会議開催

第145回会議開催

第146回会議開催

第147回会議開催

第148回会議開催

第149回会議開催

第150回会議開催

第151回会議開催

第152回会議開催

第153回会議開催

第154回会議開催

第155回会議開催

第156回会議開催

第157回会議開催

第158回会議開催

第159回会議開催

第160回会議開催

第161回会議開催

第162回会議開催

第163回会議開催

第164回会議開催

第165回会議開催

第166回会議開催

第167回会議開催

第168回会議開催

第169回会議開催

第170回会議開催

第171回会議開催

第172回会議開催

第173回会議開催

第174回会議開催

第175回会議開催

第176回会議開催

第177回会議開催

第178回会議開催

第179回会議開催

第180回会議開催

第181回会議開催

第182回会議開催

第183回会議開催

第184回会議開催

第185回会議開催

第186回会議開催

第187回会議開催

第188回会議開催

第189回会議開催

第190回会議開催

第191回会議開催

第192回会議開催

第193回会議開催

第194回会議開催

第195回会議開催

第196回会議開催

第197回会議開催

第198回会議開催

第199回会議開催

第200回会議開催

第201回会議開催

第202回会議開催

第203回会議開催

第204回会議開催

第205回会議開催

第206回会議開催

第207回会議開催

第208回会議開催

第209回会議開催

第210回会議開催

第211回会議開催

第212回会議開催

第213回会議開催

第214回会議開催

第215回会議開催

第216回会議開催

第217回会議開催

第218回会議開催

第219回会議開催

第220回会議開催

第221回会議開催

第222回会議開催

第223回会議開催

第224回会議開催

第225回会議開催

第226回会議開催

第227回会議開催

第228回会議開催

第229回会議開催

第230回会議開催

第231回会議開催

第232回会議開催

第233回会議開催

第234回会議開催

第235回会議開催

第236回会議開催

第237回会議開催

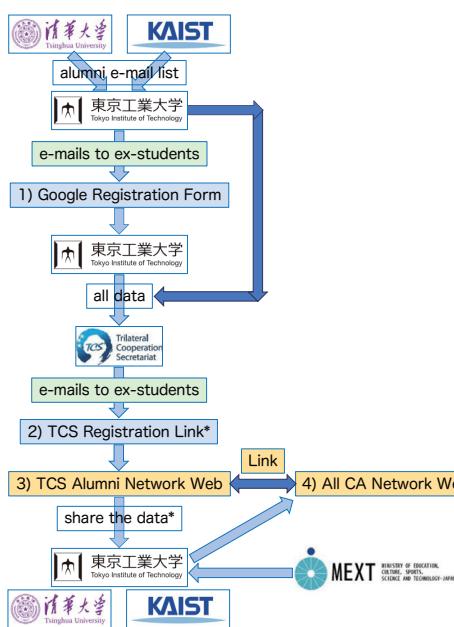
第238回会議開催

第239回会議開催

第240回会議開催

第241回会議開催

</



Trilateral
Cooperation
Secretariat

25



Implementation Guidelines 2020

Implementation Guidelines of TKT CAMPUS Asia Consortium

Academic Year 2020

Last revised: August, 2020

17

8. Credit system/Credit transfer system

8-2. Definition of credit

Question: Whether the credit is defined based on hours of lecture, lab work and seminars (only contact hours), or based on students' overall workload (including homework, self-study and preparation for exams)? Are there any differences in definition between undergraduate and graduate programs?



- Credit for undergrad. is recognized based on **hours of lecture and seminar** (both 16 hours a credit), **lab work** (32 hours a credit).
- For graduates, **16 hours of lecture** is a credit and **10 times of seminar** with a summary earns one credit.



- Credit is recognized based on **hours of lecture, lab work and seminars** (meeting times). There is no difference between undergraduates and graduates.



- Credit is recognized based on **hours of lecture, lab work and seminars** (contact hours). There are no difference between undergraduates and graduates. (MEXT guidance stipulates 45 hours of students' overall workload equals one credit)

Table of Contents

Part 1. Organization and Outline of the Program	Part 2. Educational Systems
1. Project Leaders and other personnel	7. Semester system/Requirements for graduation
1-1. Project Leaders and Coordinators...4	7-1. Semester system.....13
1-2. Faculty members and administrative staff in charge.....5	7-2. Number of academic years for graduation.....14
2. Forms of exchanges.....6	7-3. Number of credits for graduation.....15
3. Academic calendar.....7	8. Credit system/ Credit transfer system
4. Status of exchange students.....8	8-1. Number of credits per class.....16
5. Financial support.....9	8-2. Definition of credit.....17
6. Recognition of the credits obtained at partner universities	8-3. Calculation of credit.....18
6-1. Coursework.....10	8-4. Recognition of credit transfer.....19
6-2. Research activities.....11	8-5. Regulations on credit recognition.....20
	8-6. Formula of credit recognition.....21
	9. Grading system
	9-1. Form of Grades.....22
	9-2. GPA system.....23

2

8. Credit system/Credit transfer system

8-3. Calculation of credit

Question: What is the basis of calculation of the credit? [For example, One credit is given for a lecture of one hour per week for a semester (16 hours lecture in total) or for a lab work of two hours per week for a semester (32 hours lab work in total)]



- For undergraduates, 1 credit is given for a lecture /seminar of one hour per week for a semester (16 hours lecture in total) or for a lab work of two hours per week for a semester (32 hours lab work in total)
- For graduates, 1 credit is given for 16 lectures of one hour per week for a semester (16 hours lecture in total), or for attending seminar 10 times.



- 1 credit is given for a lecture /seminar of one hour per week for a semester (14 hours lecture in total plus two exams such as midterm and final) or for a lab work of two hours per week for a semester (32 hours lab work in total)
- 1 credit is given for a lecture /seminar of one hour per week for a semester (15 hours lecture in total) plus exam or for a lab work of two hours per week for a semester (30 hours lab work in total) plus exam.

18

26



2015年度国際評価パネル指摘・提案事項から

カテゴリー	指摘・提案事項	対処状況	対処内容
カリキュラム	1 学部生向けに将来の日本留学のための準備を目的としたものと、大学院生向けの研究プロジェクトを中心とした共同研究へつながるような内容のものははっきりと分けたほうが良い。	夏期○	第2期より、サマースクールを主に学部生向けの「授業中心型教育」プログラムと大学院生向けの「研究重視型教育」プログラムに分けて実施し、目的の明確な枠組みを持つプログラムとした。
	2 最近の学生は講義から得られるものを低く評価する傾向があるため、短期間のコースであるという制限を考慮したうえで、学習効果の良い講義方法を検討すると良い。	次期CA 制度設計	サマースクールでは、環境エネルギー、工学デザイン、材料工学、Earth-Life Science、などの専門講義を増やし、学生が専門に応じて選択できるようにした。しかし、集中授業としての科目整備には限界もあり、制度設計の改善も必要と考える。
	3 Survival Japanese等のクラスでの講義が多いように見受けられる。ある程度のSurvival Japaneseのクラスを外国人学生が日本渡航する前に受けられるシステムを構築するなど工夫が必要。	次期CA 制度設計	派遣元での日本語講師確保は難しく、また、インターネットでの講義も一般化しておいため、コマ数を減らして從来どおり渡航後に実施した。2020年度以降、コロナの影響によりオンライン講義が普及したため、次期CAでは制度設計を考えていく。
	4 短期滞在での文化体験について、もう少し真剣に内容を決めるといい。	○	文化体験を含めた学生交流の機会として、2018年度より受入・派遣学生が参加する箱根・鎌倉への研修旅行を実施した。また、希望者には、民間団体が実施するホームステイに参加し、日本家庭を体験できる機会を提供した。
	5 留学生を二つのキャンパスに分散して配置するのは短い期間を考えれば非常に良くない。可能であれば一つのキャンパスにした方が良い。	夏期△	「研究重視型教育」プログラムの学生は、所属を希望する教員の研究室によってキャンパス・アジアが分散することは避けられなかった。その場合も、全員が参加する授業やアクティビティを設け、定期的に同じキャンパスに集まる機会を作った。
プログラム内容	1 留学というのは、本来であれば空港から学校までの道のりも自分で探し、部屋探しも、学校での慣れも自分の努力で得るものと思う。すべてをあふれるほど提供する必要はない。	次期CA 制度設計	第2期は、2018年度以降、空港でのピックアップサービスを中止するなど、すべてをプログラムから提供しないこととした。
	2 学生が主体的に参加でき、とくに学部学生向けには日本人学生と交流する時間を充実させつつ、自発的な学習を促す仕組みを検討すると良い。また、研究プロジェクト方式はホスト研究室にプログラムの趣旨を周知徹底することが最重要。	○	日本人学生との交流については、プログラム冒頭の研修旅行を実施することで、留学生と日本人学生の交流が深まり、その後もよい交流ができるきっかけとなった。自発的な学習という意味では、まだ仕組みを検討する必要がある。「研究重視型教育」でのホスト研究室には、留学生受入前に説明会を開き、プログラムの趣旨を周知している。
	3 日本人学生も含めて参加学生に対して大学が完璧なサービスを提供するよりも、学生とともにプログラムを作るような姿勢があつても良い。	次期CA 制度設計	選択科目準備や希望制のサイトビットなど、学生の興味に応じて選択できる幅を用意したが、とくに「授業中心型教育」プログラムの科目については課題も残る。事前に学生のニーズヒアリングし、プログラムの企画に生かすことも考えていく。



2015年度国際評価パネル指摘・提案事項から

カテゴリー	指摘・提案事項	対処状況	対処内容
自立したプログラムにするための方策	4 学生選抜の基準については、成績だけではなく多様性があると良い。	○	受入学生選抜では、成績だけでなく、派遣元大学による優先順位を基準としている。派遣学生については、面接審査で本人の志望理由や熱意を聞いた上で選抜を行っている。
	5 サマープログラムの参加人数を増やし、仕組みを再検討すること。	○	サマースクールでパートナー大学以外の学生受入を開始し、参加人数は2018年度は28人、2019年度は21人と增加了。継続には、仕組みの改善も必要である。
自立したプログラムにするための方策	1 一部若しくは全額学生負担にしないと続かないと思う。そのため学生にとって魅力あるプログラムをもつて用意する必要がある。	次期CA 制度設計	パートナー大学以外の学生からは参加費を徴収し、宿舎費も学生負担とした。一方、参加費の一部をパートナー大学の学生に負担させることは、パートナー大学が懸念を示し、実現しなかった。
	2 独立プログラムとして展開する際、東アジアで共通して関心のある問題、例えば環境エネルギー問題、高齢化問題などについて、ワークショップをアレンジすれば、より多くの学生を取り込み、深く交流できる。	夏期○	環境エネルギーについて、講義とサイトビットを実施した。また、必修講義の中で、SDGsをテーマとし、本学学生や高校生とのワークショップを行った。
	3 グローバルな世の中では、日本の企業にも働きかけ、出資してもらう方法もある。	次期CA 制度設計	本学の中でのお金の流れも含め、検討中である。
	4 日本の他の大学も国際化に向けて似たようなプログラムを計画または実施しており、海外の学生はコース選択に迷うかもしれない。プログラムを独立するには、当然何か特徴を出すことが必要になる。	○	理工系大学の場合、希望する分野の研究室に所属し、研究を行えることが大きな魅力かつ特徴となっている。
	5 自費でも参加するに値する付加価値がどこにあるかについて、学生へのきめ細かいヒアリングで分析を深めると良い。	△	2020年度内に実施予定である。
	6 独立したプログラムに展開していくために、「学生が真に付加価値としてとらえる成果は何か?」をさらに分析すること、および、最終的にジョイントディグリーを実現していくための諸課題を、3大学が連携して継続的に前進することを期待。	○	今年度は、6回の三大学Zoomミーティングを実施し、合同でのオンラインプログラムを企画するなど、連携を強めた。また、ダブルディグリー/ジョイントディグリーに替わる新しい形として、「コチュル」の実現性についても協議を進めている。



カテゴリー	指摘・提案事項	対処状況	対処内容
環境整備	1 留学生と日本人学生の交流を促進する仕組みをもっと取り入れる。	○	サマースクールでは、プログラム冒頭の研修旅行を実施することで、留学生と日本人学生の交流が深まり、その後もよい交流ができるきっかけになった。夏以外にも、派遣学生と受入学生が参加してのラシチ交流会を実施し、交流機会を増やした。また、International Communication Space (ICS) を整備し、開放している。
	3 留学というのは研究と勉強だけではないので日本社会と、特に理工系の場合製造業の仕組みなどが分かるようなものがあると良い。	○	他プログラムとも連携し、理研、火力発電所、資源循環局、鉄道総研等、多様な現場を見られる機会を提供した。
	4 一番の問題は宿泊施設。最適な状態は大岡山キャンパス内に学生寮があること。そこにある程度の日本人学生を住ませ、いくつかの部屋を外国人学生用に解放すると、双方の交流が深まる。	△	寮の完備は、全学レベルの懸案事項でもある。現在、シェアハウス式の宿舎を提供しているが、同宿舎には日本人居住者もいて、交流する機会がある。
その他	1 海外の他校の学生にも東工大での短期留学を受け入れる体制を整えるのも独立プログラムへ展開していくに欠かせない。その場合、東工大での受け入れの審査体制を整える必要がある。さらにメール、ネット等を使い、東工大のサマープログラムを知らせる事が必要。	○	サマースクールでは、パートナー大学以外からも学生を受け入れた。審査は、すでに他プログラムで世界各国から短期留学生を受け入れており、それに倣った。当プログラムHPでの公募に加えて、過去の受入実績に沿って提携大学担当者にメールでも周知した。
	2 東工大学生の海外留学意識をさらに高める事。その為には大胆な改革も考慮すべき。	次期CA制度設計	本学の教育改革（2016年4月）によりクオーター制が導入されたことで、学部3年生の2クオーターに必修科目が無くなり、留学をしやすい環境となった。また、プログラムとしては、留学につながる一歩として、韓国への「超短期派遣」を実施した。それでも、派遣学生の大幅な増加にはつながっておらず、さらなる改革が必要である。
	3 費用対効果の面で上でも述べたが、このプログラムを受けた学生の単なるアンケート調査だけではなく、実際の追跡調査を実施して効果を確認するべき。	△	参加学生の卒業後の進路追跡は行っているが、留学経験が卒業後にどれくらい役立っているか等は、追跡調査ができていない。



1. プログラムの円滑な実施体制、並びに三大学間の交流活動が進んでいるか？
2. 今後3カ国以外へも公開する際に魅力的なプログラムが用意されているか？
3. 事前情報ならびに修了前後のフォローアップ体制の整備が進んでいるか？
4. webならびに配布物などの広報体制の整備が進んでいるか？
5. サマースクール、サマーキャンプ、ウインターリンクスなどのカリキュラムの整備について
6. 留学生に配慮した環境の整備について
7. 優れている点
8. 改善すべき点
9. 今後、第3期に向けたASEANへの展開、ならびに自立したプログラムへ展開する際のアドバイスをお願いします

1. 事業概要
2. 運営体制、予算
3. 学生の受入
4. 学生の派遣
5. コロナ禍での
オンライン交流プログラム
6. 受入学生・派遣学生の交流
7. 21世紀型スキル教育への取組
8. 幹事校としての取り組み
9. 評価

10. フォトギャラリー

フォトギャラリー

2016



Winter Program オリエンテーション



2016 Winter Program 参加学生



Winter Program 参加学生と
チューター学生



スタッフ向け21世紀型スキル教育セミナー



学生向け21世紀型スキル教育セミナー

2017



Summer School サイトビズット



Summer School授業風景



Summer School 修了式（研究重視型教育）



Summer School文化体験（茶道）



Summer School文化体験（アカペラ）

2017



Winter Program 交流ランチ



学生向け21世紀型スキル教育セミナー



スタッフ向け21世紀型スキル教育セミナー



三大学ミーティング@東工大

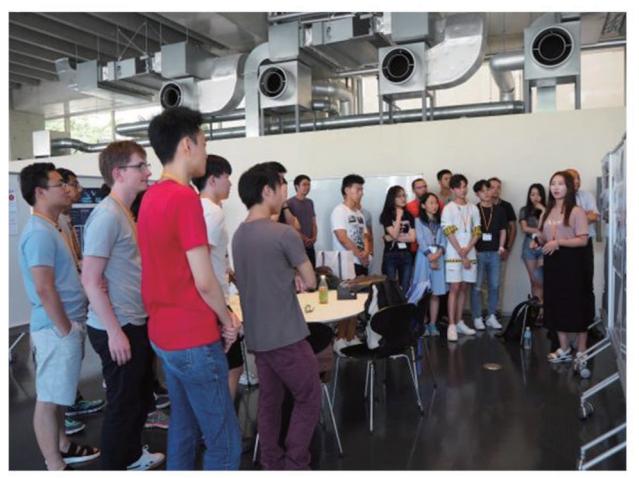


Global Competence Workshop@清華大学

2018



Summer School サバイバルジャパンーズ授業



Summer School ポスターセッション



Summer School チームプレゼンテーション



Summer School 箱根研修



Summer School 成果発表会



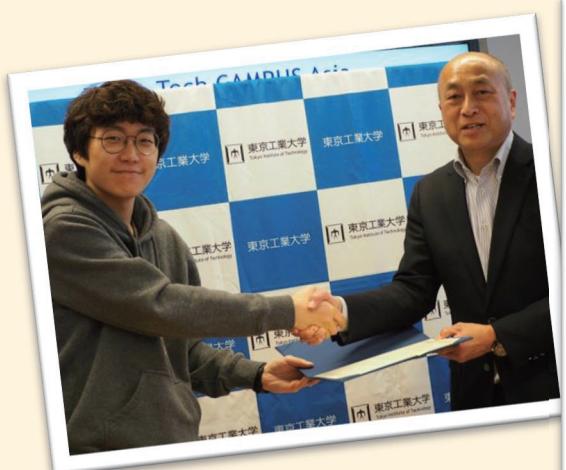
2018



Winter Program 交流ランチ



学生向け21世紀型スキル教育セミナー



Winter Program 成果発表会

2019



Summer School 鎌倉研修旅行



Summer School サイトビズット（理研）



Summer School 授業（CSES）



Summer School 成果発表会

2019



キャンパス・アジア採択校連絡会



「日中韓大学間交流・連携推進会議」委員 本学訪問



高校生向け21世紀型スキル教育セミナー

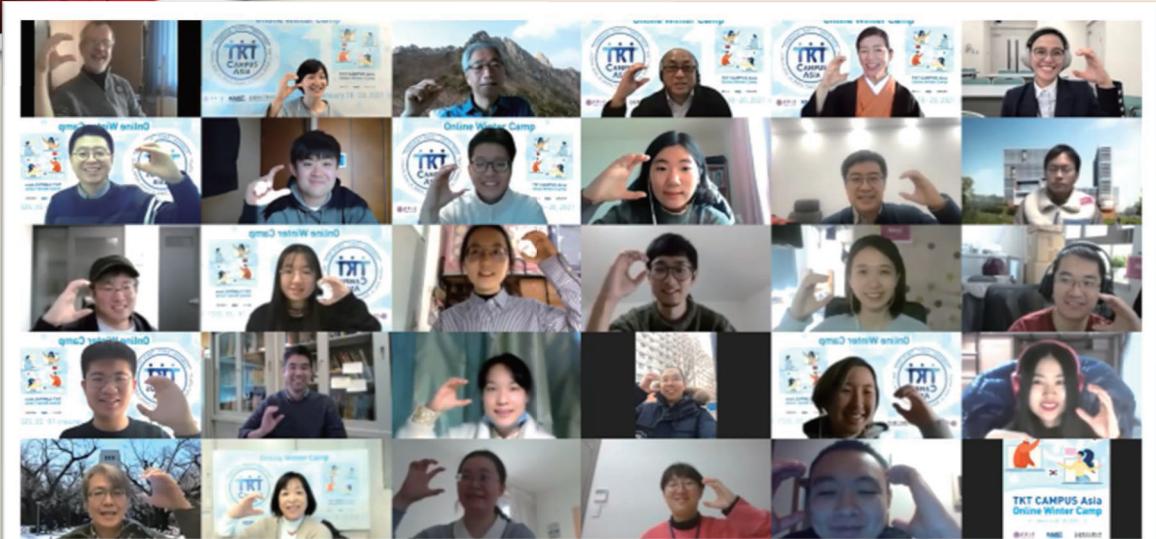
2020



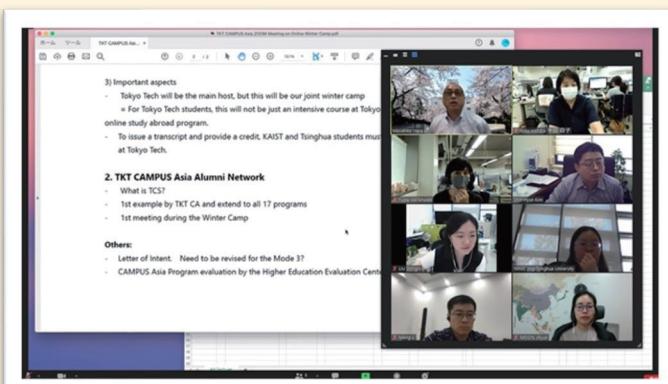
TKT CAMPUS Asia Online Summer Camp



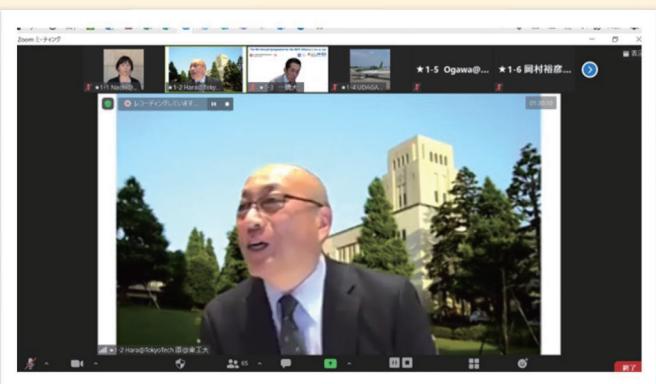
Winter Camp 表彰式



TKT CAMPUS Asia Online Winter Camp



三大学オンラインミーティング



キャンパス・アジア採択校連絡会
(オンライン)

派遣学生向けイベント・勉強会



留学フェア



留学報告会



KAIST生によるKAIST説明会



韓国超短期派遣事前学習

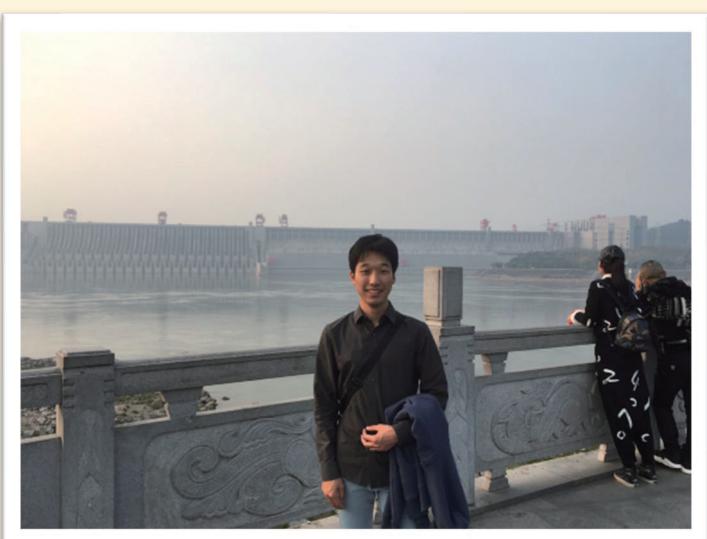
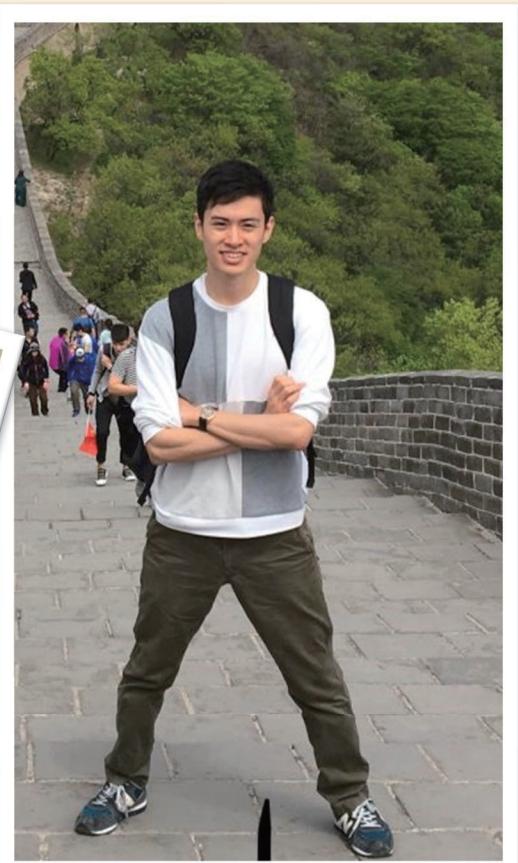


派遣学生向け事前学習

派遣学生の留学生活 (KAIST)



派遣学生の留学生活（清華大学）



大学の世界展開力強化事業
(キャンパス・アジア (CA) 事業の推進 (タイプ A-1))
日中韓先進科学技術大学教育環高度化プログラム
第 2 期事業報告書

発行日 令和 3 年 3 月 31 日
編集者 原 正彦 (物質理工学院教授・構想責任者)
牧野 崇行 (学務部留学生交流課)
下園 健一 (学務部留学生交流課)
渡辺 幸恵 (学務部留学生交流課)
半田 容子 (学務部留学生交流課)

発行者 東京工業大学 学務部留学生交流課
〒152-8550 東京都目黒区大岡山 2-12-1
電話 03-5734-2984
Email: campusasia@jim.titech.ac.jp

